

閱

昭和十一年度北部東邊道秋季討伐綜合報告

軍政部最高顧問佐々木到一

陸軍省 陸滿密受第六一〇

陸軍省 12.5.17 掃 軍務課

陸軍省 12.5.18 軍務課

1915

次官



昭和十二年四月二十日

昭和十一年度  
滿軍獨力ヲ以テスル  
北部東邊道秋冬季討伐綜合報告

軍政部最高顧問 佐々木 到 一



		配布區分表											
		配布先				配布先							
		部數	部數	部數	部數	部數	部數	部數	部數				
調製部數 四五部	計	關東軍司令部	一〇	江防艦隊顧問部	一	關東憲兵隊司令部	三	第一、二軍管區司令部	各一	飛行集團司令部	一	靖安軍司令部	一
		關東局警務部	一	第一憲兵隊本部	一	第一軍管區顧問部	四	第一獨立自動車隊	一	關東局警務部	一	第一憲兵隊本部	一
		第二、三、四、五、六軍管區顧問部	各一	通信本處	一	興安各警備軍顧問部	各一	軍事調查部	一	興安各警備軍顧問部	各一	軍事調查部	一
		中訓、憲訓、興學各顧問部	各一			中訓、憲訓、興學各顧問部	各一			中訓、憲訓、興學各顧問部	各一		
殘部數	六部	三九											

目 録

其一、北部東邊道討伐開始前ニ於ケル匪勢ノ概要  
其二、滿軍獨力ヲ以テスル北部東邊道秋冬季大討伐

第一、作戰準備

第二集 中

第三、討伐初期ニ於ケル基礎的軍隊區分、配置及増道方針

第四、秋季討伐 (自十月一日  
至十一月卅日)

第五、冬季討伐 (自十一月一日  
至翌年三月末日)

第六、王鳳閣匪ノ討滅

第七、治本工作

第八、討伐ノ成果



其三所 見

附 錄

- 第一 討伐開始直前ニ於ケル北部東邊道方面匪賊分布圖
- 第二 昭和十一年度第二期肅正工作ニ伴フ滿軍驗決計畫一覽表
- 第三 其ノ一 北部東邊道秋季討伐職員表
- 其ノ二 北部東邊道秋季討伐重險區分
- 第四 北部東邊道討伐部隊配備要圖
- 第五 北部東邊道秋季討伐末期ニ於ケル匪勢要圖
- 第六 北部東邊道冬季討伐重險區分
- 第七 北部東邊道冬季討伐末期ニ於ケル匪賊分布圖
- 第八 北部東邊道討伐效果一覽表

616T

第 〇 號

證

陸軍省

昭和十一年年度滿軍獨力ヲ以テスル  
東巴道秋季討伐綜合報告

右 受 領 候 也

昭和 年 月 日

關東軍司令部

(本受領證ハ記名捺印ノ上折返シ返送セラルヘシ)

第一課

## 其一、北部東邊道討伐開始前ニ於ケル匪勢ノ概要

東邊道方面ノ最後の治安ノ確立ヲ期スル爲昭和十一年春以來關東軍ノ方針（關作命第七七八號別冊第三昭和十一年度關東軍治安肅正計畫要綱）ニ基キ紅軍主力匪團ヲ徹底的ニ勦滅センカ爲數個ノ日滿混成特設游撃隊ヲ編成シ又別ニ滿軍ノミヲ以テスル特選游撃隊ヲ編成シ獨立シテ自由不羈ノ行動ヲ以テ勦討ヲ敢行セシ結果從來ノ匪勢ハ漸次凋落ノ途ヲ辿ルニ至レリ

然レトモ隣省吉林、間島方面治安肅正ノ進捗ニ伴ヒ該方面ニ存在セシ

紅軍匪ハ草木繁茂期以來遂次南下シテ撫松、長白、臨江方面ニ潛入シ  
警備網ノ稀薄ト天然ノ地勢トニ乘シ熾ニ跳梁ス又一方東邊道土着ノ王  
鳳閣匪ハ依然舊根據地ニ在リテ横行シ治安ヲ擾亂スルノ外通化縣東北  
部方面ニ紅軍匪第五、第六團拾頭シ爲メニ一時小康ヲ見タル東邊道ノ  
治安ハ再ヒ不良トナルニ至レリ

茲ニ於テ關東軍司令官ハ昭和十一年度關東軍治安肅正要綱ニ示ス第二  
期以降北部東邊道ノ九縣ヲ滿軍獨力討伐地域トシテ指定シ軍政部最高  
顧問ヲシテ直接滿軍討伐ノ指導ニ當ラシメラル

1922

滿軍獨力討伐開始直前ニ於ケル北部東邊道方面匪勢ノ大要附録第一ノ  
如シ

其二、滿軍獨力ヲ以テスル北部東邊道秋冬季  
(自昭和十一年八月一日 至昭和十二年三月末日) 大討伐

第一作 戰 進 備

一、北部東邊道治安肅正ニ關スル内命

昭和十一年七月十日關參一發第一五六二號通牒ヲ以テ軍參謀長ヨリ

左記要旨ノ内命ノ傳達ヲ受ク

内 命 要 旨

貴官ハ第二期間成ルヘク多クノ滿軍ヲ指揮シ主トシテ北部東邊道  
 (輯安、通化、柳河、輝南、金川、濛江、臨江、撫松、長白ノ各  
 縣及盤石縣ノ東部並樺甸、安圖兩縣下ノ南部)ノ治安肅正ヲ滿軍  
 獨力ヲ以テ徹底セシメラルル豫定ニシテ七月二十四日作戰主任者  
 會同席上會同者ヲシテ之カ治安肅正計畫ノ腹案及治安情況ヲ開陳  
 セシメラル等

最高顧問ハ右内命ニ據シ直ニ討伐計畫腹案ヲ樹ツルト共ニ七月二十  
 日第一、第二、第三、第四、第五軍管區主任顧問及關係顧問ヲ新京ニ招集シ

該腹案ヲ示シ各廳間ヲシテ極秘裡ニ其進備ヲナサシム

昭和十一年度（康徳三年度）滿軍秋季討伐計畫腹案

第一、方針

一、滿軍ハ成シ得ル限リノ兵力ヲ東部東邊道ニ集結シ十月中旬ヨリ越冬獨立シテ討伐ヲ實施シ地域的ニ區分セシメル皇軍討伐ト協力シ東邊道ノ徹底的治安肅正ヲ期ス

二、右地域以外ノ滿軍ハ皇軍防衛司令官ノ區處ノ下ニ討伐ニ從事セシム

第二、指導要領

一、準備

ノ軍政部ニ於テハ七月下旬ヨリ準備ニ着手ス其主ナル事項左ノ如

シ

- (イ) 他軍管區ヨリ集中スヘキ兵力並其輸送期間ニ關スル件
- (ロ) 通信交通機關ノ増加施設ニ關スル件
- (ハ) 情報蒐集機關設置ニ關スル件
- (ニ) 彈藥及糧秣補充準備ニ關スル件



(外) 討伐費追加豫算ニ關スル件

2. 第一軍管區司令部ノ準備

(イ) 討伐方針ニ基キ極秘裡ニ諸準備ニ着手セシム其主ナル事項左ノ如シ

(ロ) 隸下各部隊ヲシテ整茂期間ヨリ一部ヲ以テ游動討伐ヲ實施セシムルノ外努メテ集結シ休養訓練ヲ實施ス

(ハ) 速ニ通化ニ第一軍管區顧問部辦事所ヲ開設シ情報ノ蒐集其他討伐準備ニ着手セシム

(二) 八月下旬迄ニ軍管區顧問部ニ於テ討伐計畫ヲ提出セシム

### ニ 實施要領

#### ノ 要 旨

第一軍管區司令官ヲシテ計畫實施セシメ第二軍管區司令官ヲシ

テ其境界附近ノ討伐ニ關シ第一軍管區討伐ニ協力セシム

軍政部等ヨリ所要ノ職員ヲ第一軍管區司令部ニ臨時配屬又ハ派

遣シ討伐指導ヲ容易ナラシム

#### ニ 伸用兵力

第一軍管區部隊主力

靖安軍

第三第五軍管區ヨリ約混成一旅

第一憲兵隊、獨立自動車隊ノ若干

其他第二軍管區部隊ノ一部及騎兵第一旅ノ主力ヲ以テ兩軍管區

境界方面ニ於テ協力セシム

3. 討伐地域別圖ノ如シ

4. 討伐期間

十月中旬ヨリ約五ヶ月

但シ他軍管區ヨリ増加スルモノハ約二ヶ月

三 部外トノ連絡協同

ノ皇軍トノ關係

本討伐ハ關東軍司令官ノ全滿秋季討伐計畫ニ基キ指示地域内ニ

於テハ滿軍獨立シテ討伐ニ任ス

本地域内ニ在ル皇軍ハ討伐間滿軍ニ協力ス

西部東邊道ニ於テハ皇軍約十六大隊集中シテ討伐ヲ實施ス

皇軍討伐地域内ノ一部殘置滿軍（治安隊ヲ含ム）ハ皇軍ノ區處  
ノ下ニ討伐ニ從事セシム

2. 滿軍討伐地域内警察（森林警察隊ヲ含ム）ハ所要ニ應ジ滿軍區  
處ノ下ニ協力セシム

尙省及縣當局ヲシテ十分協力セシム

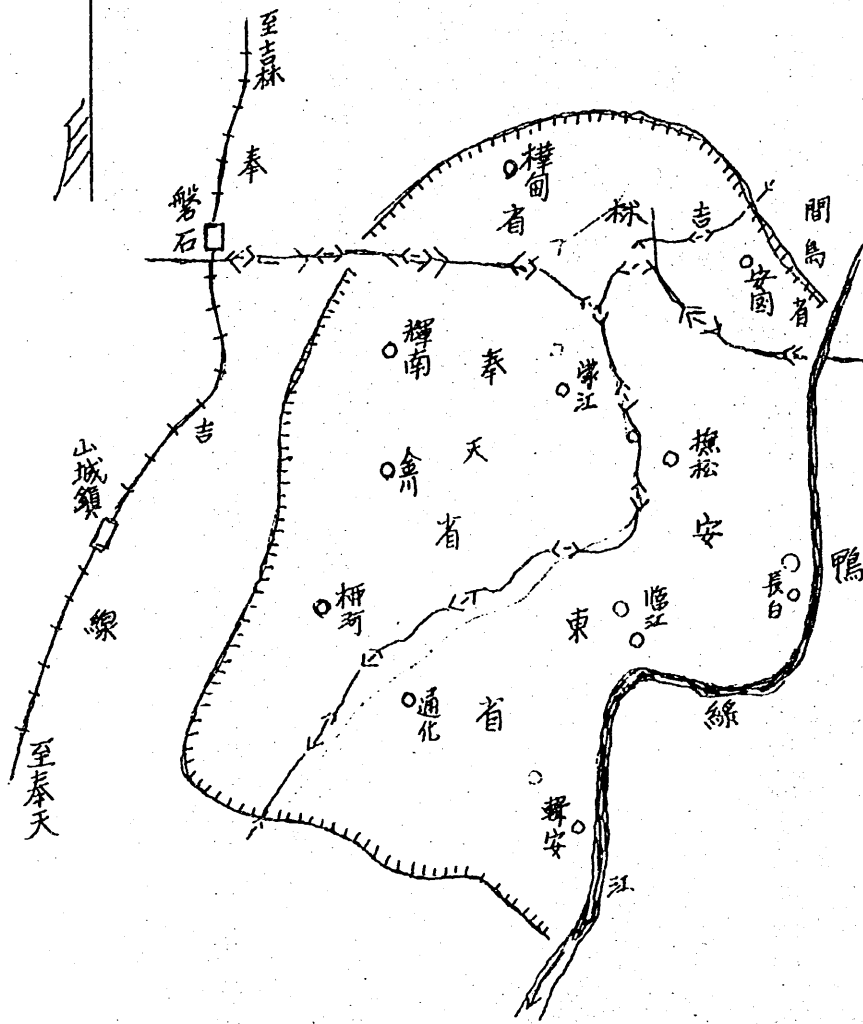
#### 四 治本工作

討伐ニ併行シ皇軍ニ準シ宣撫工作班ヲ編成シ宣傳官撫工作ヲ實施

ス

1931

圖域地伐討道邊東部北



二、關東軍命令受領並軍政部命令ノ下達

七月二十四日關作命第八五三號關東軍命令同別冊昭和十一年度第二

期關東軍治安肅正要領ヲ受領シ八月二十六日左記滿作命第一號、軍

政部命令ヲ下達セリ

滿作命第一號  
命 令  
於 八月二十六日午前九時  
新 京 軍 政 部

一、東滿一帶共匪ノ勢尙猖獗ナリ

關東軍ハ本秋季以後其重點ヲ北部東邊道方面ニ指向シ共匪ノ勦滅

ヲ期ス

右期間ニ於ケル關東軍ノ治安肅正要領別冊ノ通り

ニ軍ハ其重點ヲ奉天、安東兩省東北部地方ニ指向シ前記關東軍ノ行

動ニ密ニ協力シテ共匪ヲ殄滅シ以テ獨力治安確保ノ歩武ヲ准メン

トス

ニ第一軍管區司令官ハ軍政部最高顧問ノ直接指道ニ進據シ其隸下及

指揮下部隊ヲ以テ獨立シテ別紙要圖ニ示ス地域ニ於ケル共匪ヲ掃

蕩シ之ヲ安東、吉林、問島各省境方面無人地帯ニ壓迫殲滅スヘシ

右地域ニ於ケル關東軍ノ部隊ハ軍ノ作戰ニ協力ス



但シ治標工作以外ノ諸工作並前項地域以外ノ軍管區内ニ於ケル諸  
工作ニ關シテハ從來ノ通りトス

本討伐期間左記部隊ヲ第一軍管區司令官ノ指揮ニ入ラシム

軍政部大臣直屬部隊

靖安軍主力、國都憲兵隊約一連、無線及鴿部隊  
獨立第一自動車隊ノ主力

第三軍管區司令官  
部下 部隊

混成教導旅及  
混成第十四旅

概ネ十月上旬ヨリ十二月中旬頃迄

第五軍管區司令官  
部下 部隊

索混成旅  
第五憲兵隊ノ約一連

四 第二軍管區司令官ハ前項ノ行動ニ密ニ策應シ遲クモ九月下旬迄ニ  
其隸下及指揮下部隊中所要ノ兵力ヲ以テ嚴ニ軍管區西南境ヲ封鎖

シ奉天、安東兩省方面ヨリスル匪ノ脱逸ヲ阻止シ且所要ニ應シ撫  
松、長白兩縣方面ニ對シ徹底的ニ游撃行動ヲ實施スヘシ

本討伐間左記部隊ヲ第二軍管區司令官ノ指揮ニ入ラシム

憲兵訓練處學兵隊約二連 九月中旬ヨリ十月下旬迄

五、第四軍管區司令官ハ其管區ニ作戰スル關東軍防衛司令官ト協定シ

其隸下及指揮下部隊ヲシテ同司令官ノ區處下ニ入ラシメ主トシテ松

花江北地方ニ於ケル共匪ヲ掃蕩スヘシ

本討伐期間左記部隊ヲ第四軍管區司令官ノ指揮ニ入ラシム

第二軍管區司令官  
隸下部隊

歩騎兵計約四連

概ネ九月中旬ヨリ明年三月末頃迄

第三軍管區司令官  
隸下部隊

歩兵約一營  
騎兵約一團

同 右  
概ネ九月中旬ヨリ十二月中旬迄

六 江防艦隊司令官ハ主トシテ第四軍管區司令官ノ行フ討伐ニ協力ス

ヘシ

七 第三、第五、第六軍管區司令官、興安東、西及南各省警備軍司令

官ハ各其管區ニ於ケル關東軍防衛司令官ノ區處スル所ニ準據シ徹

底的討伐ヲ遂行スヘシ

八 本命令ニ基ク討伐期間ハ特ニ示スモノノ外概ネ十月上旬ヨリ明年

三月末ニ亘ルモノトス

六本命令ニ基キ一時他ニ轉屬セシメラルル部隊ハ被配屬軍管區ニ入

ル時期(當初ヨリ被配屬軍管區ニ在リテハ追テ示ス時期)ヲ以テ新ナル指挿關係ニ轉移ス

ルモノトス

右移動ニ伴フ輸送ハ各部隊自ラ實施スルヲ本則トス

十通信、補給、經理、衛生、航空機等ニ關スル事項ハ別ニ指示ス

軍政部大臣 于 芷 山

軍政部最高顧問 佐々木 到 一

1938

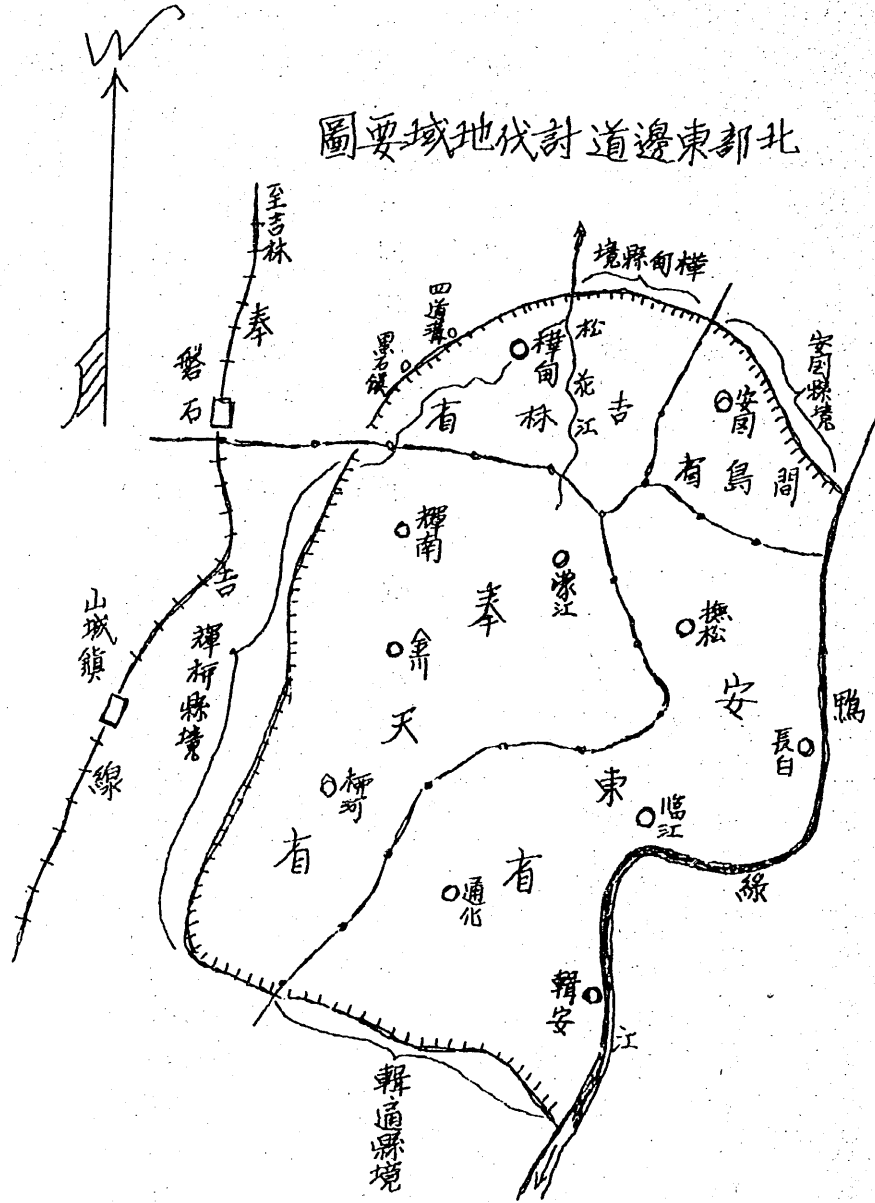
下達法

印刷セルモノヲ各軍管區司令官、各警備軍司令官及江防艦隊

司令官及軍政部直轄部隊長ニ交付ス

通報先 關東軍及各防衛司令官

圖要域地代討道邊東部北



1940

三、討伐指導部ノ設置

討伐諸準備ノ進捗ニ伴ヒ第一、第二軍管區司令官指揮下及隸下部隊ノ作戰ヲ指導スル爲滿作命第七號軍政部顧問部命令ヲ以テ九月三十日以降通化ニ討伐指導部ヲ設置セリ

滿作命第七號

命 令

昭和十一年九月十八日正午  
於新京軍政部顧問部

一、本秋季以降討伐ノ爲第一、第二軍管區司令官指揮下及隸下部隊ノ作戰ヲ指導スル爲十月一日ヨリ通化ニ討伐指導部ヲ設置ス

ニ指導部所屬ノ人員ハ九月三十日中ニ通化ニ集合シ河崎大佐ノ指示

ヲ受クルモノトス

討伐指導部ノ編成別表ノ通り

ニ指導部ハ主トシテ第一軍管區司令部ノ行フ作戦ヲ直接指導シ第二

軍管區顧問部ニ對シテハ而シテ軍管區司令部ノ協同上必要ナル指導

ヲナスニ止ム

第一軍管區司令部ニ對スル指導ノ要領ハ從來ニ於ケル軍管區顧問部ノ指導要領ニ準ス但シ日滿軍ノ協同宣撫情報ノ蒐集等ニ關シテ



ハ指導部直接之ヲ處理ス

四 討伐間航空機ノ使用ニ關シ左ノ通り定ム

ノ本討伐期間航空機ノ使用ニ關シテハ不時急速ニ大匪團ノ襲撃ヲ受ケ或ハ匪團ノ脱逸ヲ來セル等ノ場合即時出動シテ爆撃ニ依リ友軍或ハ村落等ノ危急ヲ救ヒ又ハ適時諜記目的ノ爲情報獲得ヲ

圖ルニアリ

各部隊ハ其所屬ニ應シ軍管區司令部ヲ經テ通化指導部（第一軍管區顧問部）或ハ新京軍政部顧問部ニ要求シ指導部（軍政部顧問

問部、軍管區顧問部ヲ含ム以下同シハ之ヲ關東軍參謀長ニ具

申シ滿洲航空會社ハ其命令ニ依リ必要ノ航空兵力ヲ出動スルモ

ノトス

之カ爲關東軍ハ奉天滿洲航空會社ニ命シ當時武裝機三ヲ待機セ

シメアルモノトス

2. 右出動ニ要スル經費ハ關東軍及軍政部之ヲ分擔シ其細部ハ別ニ

定ム

3. 航空機ノ協力ヲ得タル部隊ハ其成果ニ關シ速ニ司令部ヲ經テ指

1944

導部ニ報告スルモノトス

軍政部最高顧問 佐々木 到 一

下達法一印刷セルモノヲ交付ス

配布先一第一、第二軍管區顧問部、各指導部部員

通報先一關東軍



第二集 中

諸隊ハ滿作命第一號軍政部命令ニ基キ概ネ九月初旬其編成竝出動準備ヲ完結セルヲ以テ九月盡日迄ニ左記ノ如ク集中（細部ハ附録第二參照）ヲ完了セリ

混成第三旅歩兵第三團ヲ九月十一日 朝陽嶺ニ

混成第四旅（司令部及歩兵第四團）ヲ九月十六日 朝陽嶺ニ

騎兵第三旅主力ヲ九月二十一日 梅河口ニ

混成第五旅司令部

1946

第一教道隊主力

ヲ九月二十一日 山城鎮ニ

靖安軍司令部

靖安軍歩騎各一團

ヲ九月二十四日 山城鎮ニ

第一憲兵隊本部及二連

第五軍管區委混成旅及第五憲兵隊ノ一連ヲ九月二十五日 山城鎮ニ

第三軍管區混成第十四旅ヲ九月二十六日 朝陽鎮ニ

國都憲兵隊ノ一連ヲ九月二十六日 山城鎮ニ

第三軍管區混成教道隊ヲ九月三十日 山城鎮ニ

今次滿軍ノ集中輸送ハ熱河作戰以來始メテノ大輸送ナリシモ關東軍線區司令部以下各輸送機關ノ絶大ナル援助ト滿軍指揮官ノ輸送訓練ノ向上ニ依リ全ク圓滑ニ實施シ得タルハ將來作戰ノ爲意ヲ強クスルトコロナリ

### 第三 討伐初期ニ於ケル基礎的軍隊區分配置並指導方針

#### 一 基礎的軍隊區分配置

左ノ軍隊區分配置ヲ以テ討伐ヲ開始セリ

討伐指導部

第一軍管區行營司令部

通化

臨撫地區司令部

臨江(西部一部除く)

撫松三縣下

長白

混成第三旅

混成第四旅

無線隊

鴿第四分隊

輯安地區司令部

輯安縣

通化縣東南部一

部

混成第一旅

混成第二旅

無線隊

鴿第二分隊



濛輝地區司令部

濛江縣  
輝南縣

混成第五旅  
混成第十四旅  
無線隊  
鴿第三分隊

金柳地區司令部

金川縣  
柳河縣

混成第六旅  
騎兵第三旅  
第三混成教導旅  
無線隊

通化地區司令部

通化縣東南部一部除  
及臨江縣ノ西部一  
部含ム

靖安軍  
第一教導隊  
索混成旅  
無線隊  
鴿第一分隊

患者收容班

補給機關

山城鎮野戰倉庫  
朝陽鎮野戰倉庫  
第一、第二彈藥交付所

總豫備隊  
— 教導騎兵第一團

直轄部隊

步兵第七團  
國都衛兵連  
第一衛兵連  
第五衛兵連  
獨立第一自動車隊  
奉天無線隊本部

以上ノ細部ニ關シテハ附錄第三其一、其二及附錄第四ノ如シ

二、指導方針

當初策定セル指導方針左ノ如シ

(一) 秋季討伐

(1) 十月下旬迄ハ集團部落ノ結成、道路建設及收穫ノ援護、補給ノ

進備、現地ニ即スル訓練ニ重點ヲ置キ其間匪情ノ徹底的蒐集ニ

努ム

但シ本期間ト雖遊撃隊ヲ控置シ匪ノ現出ニ應シ部分的撃滅ヲ圖

ル

(2) 十月下旬ヨ十一月下旬迄先ツ王鳳閣匪ノ撃滅ニ重點ヲ置ク

之カ爲遂次兵力ノ移動ヲ行フ

(二) 冬季討伐

十二月中旬ヨリ越冬シテ吳義成匪ヲ撃滅ス此ノ時期ニ至レハ要ス

レハ指道部ヲ撫松ニ移ス

情況ニ依リ十月中旬ヨリ直ニ吳義成匪ヲ攻撃スルコトアリ

注 音

(1) 國道局ヲ督促シ朝陽鎮―濛江―撫松道ノ改修ヲ急成セシム

(2) 樺松ニ着陸場ヲ急設ス

(3) 掠奪、不拂、其他非違ニ對シテハ特ニ嚴罰ヲ以テ臨ミ軍紀ヲ確立ス

第四秋季討伐 (自十月一日至十一月三十日)

一、準備行動

(一) 討伐指道方針第一項第一號ノ諸事項ハ諸險ノ努力ニ依リ豫定ノ如ク迅速ニ進歩スヘキ狀況ニアルヲ以テ十月七日左記指道部命令ヲ下達シ愈々討伐開始ノ準備ヲナサシメタリ

## 滿作命第八號

討伐指道部命令

十月七日午前十時  
於通化指道部

一、紅匪第五第六團及王鳳閣匪ハ通化輯安及臨江縣境方面ニ集合シツ  
ツアルモノノ如シ

二、討伐指道部ハ十月下旬ヨリ十一月下旬ニ百リ先ツ紅匪第五第六團  
及王鳳閣匪ノ徹底的肅正ヲ企圖ス

三、通化地冏部隊ハ主トシテ通化縣東北及臨江縣西北地區ニ於ケル紅  
匪第五第六團ニ對シ游撃ヲ準備スヘシ

別ニ靖安軍ヨリ歩（騎）兵二連ヲ基幹トスル指導部直轄游撃隊ヲ  
編成シ十月十八日迄ニ之ヲ通化ニ集合セシムヘシ

四 輯安地區部隊ハ主トシテ輯安通化縣境方面ニ於ケル王風閣匪ニ對  
シ游撃ヲ準備スヘシ

特ニ速ニ有力ナル各一部ヲ以テ岷安以北二道溝（含ム）以南輯安、  
臨江縣境ニ至ル鴨綠江右岸ノ要點ヲ占據セシメ匪ノ糧道ヲ絶ツニ  
努ムルヲ要ス

五 臨撫地區部隊ハ一部ヲ鴨綠江岸臨江輯安縣境方面ニ派遣シ匪ノ糧

道ヲ紹ツニ努ムヘシ

六 金柳地區及濛輝地區部隊ハ當該地區内ニ於ケル匪ノ洩竄ヲ防止シ  
隨所ニ之ヲ擊滅スルノ準備ニ在ルヘシ

七 各地區部隊ハ配備完了セハ前各項ニ基ク地區游擊部隊ノ編成一通  
化地區部隊ニ在リテハ直轄部隊ヲ含ム一及其行動決定ノ概要ヲ計畫シ十月  
十五日迄ニ指遣部ニ電報報告スヘシ

八 現ニ各地區部隊ノ實施シツツアル游擊行動中本命令ノ實施ニ支障  
ヲ來ササルモノハ之ヲ續行セシメ其他ハ暫ク之ヲ控制スルモノト



1958

ス

下達法

討伐指導部長 佐々木 少將

通化靖安軍司令、輯安望月中佐、臨樺田中顧問、金柳駒井中佐  
濛輝永田中佐ニ電報シタル後印刷セルモノヲ送付ス

通報先

軍司令部、軍政部顧問部、第一軍管區顧問部、指導南韓部隊  
一獨司、二獨司、鈴木部隊、越江部隊、通憲

滿作命第九號

第一壽兵隊長ニ與フル命令

十月八日午後六時  
於通化指導部

一、通化輯安及臨江縣境方面ニハ紅匪第五第六團及王鳳閣匪集合シツ  
ツアルモノノ如ク特ニ八道江及六道溝門附近ヲ中心トスル地方ハ  
通匪者多ク肅清ヲ要スルモノ甚大ナリ

二、軍八十月下旬ヨリ先ツ紅匪第五第六團及王鳳閣匪ノ徹底的肅清ヲ

企圖ス

三、貴官ハ在通化滿軍需兵諸部隊ヲ統一指揮シ富田需兵少佐ノ指導ニ

準據シ地方警察官憲ヲ區處シ主力ヲ以テ六道溝門一部ヲ以テ八道江ヲ各中心トスル地域ノ肅清ニ任スヘシ

四 隸屬系統ヲ異ニスル各部隊所屬兵員相互ノ融和並地方官民ニ對シ軍民一致ノ良風ヲ養成スヘキ點ニ關シテハ特ニ指導上注意ヲ要ス  
 五 特別諜報費トシテ 圓ヲ支給ス

第一軍管區主任顧問 河崎大佐

下達法―要旨ヲ口達シタル後印刷セルモノヲ交付ス

通報先―各地區顧問及指導官、靖安軍司令、直轄部隊、軍司令部、軍政部顧問部  
 滿憲司、二三五軍顧問、日憲司、奉憲、通憲、一獨司、二獨司、鈴木部隊

1961

（一）秋季討伐ニ於ケル重點目標ヲ王鳳閣匪ノ擊滅ニ指向セル爲討伐開

始前十分ナル相互連絡協定ノ要アルニ鑑ミ十月二十二日第一線各

軍事教官ヲ通化ニ招集シ其管内ノ匪勢、部隊ノ配備、討伐實施要

領竝將來ノ方策、情報蒐集ノ手段及其景況、補給、通信、交通、

治本工作等ニ關シ報告セシムルト共ニ左ノ指導部命令及所要ノ指

示ヲ與ヘタリ

滿作命第十一號

討伐指導部命令

十月二十一日下午  
於通化指導部

一 輯安地區部隊ノ勇戰ニ依リ王鳳閣匪ノ主要ナル根據地ハ之ヲ覆滅シ得タルモ主匪ヲ逸セリ、討伐地域内有力ナル紅匪ヲ見ス

二 指道部ハ十月二十五日ヲ期シ一齊ニ各方面ヨリ臨江西北地區ニ向ヒ輯安、通化、濛輝及臨撫各地區部隊ヨリ選拔セル游擊部隊ノ總游擊ヲ開始セシメ王鳳閣匪ノ徹底的掃滅ヲ企圖ス

游擊終期ハ概ネ十一月二十日トス

三 第一直轄游擊隊（靖安歩兵第二團第二營長ノ指權スル約二連）及第二直轄游擊隊（歩兵第七團主力）ハ各々概ネ附圖所定ノ經路若

ハ地域ヲ經テ王鳳閣匪ヲ追躡撃滅スヘシ

四 龍安、通化及濛輝ノ各地區部隊ハ其準備セル游擊部隊及其他爲シ  
得ル限りノ兵力ヲ以テ概ネ附圖所定ノ地域内ヨリ王鳳閣匪ヲ窮追  
殲滅スヘシ

但シ十一月十五日迄ニ附圖所定ノ線ニ進出シ概ネ一日間該線ニ停  
止シテ比隣部隊トノ連繫協同ヲ調整スルモノトス

通化地區部隊ハ別ニ有力ナル一部ヲ以テ孫委員匪ヲ捕捉殲滅スヘ  
シ又十一月十日迄有力ナル一部ヲ以テ龍安地區部隊ノ六道溝門西

南方山地帯ノ掃蕩ニ協力セシムヘシ

輯安地區部隊ハ輯安以北地區内鴨綠江沿岸ノ要地ヲ占メ匪ノ鮮内  
 逃逸ヲ阻止スヘシ肅丘一排ヲ十月盡日迄ニ輯安ニ於テ其指揮ニ入  
 ラシム

五 各地區部隊ハ前項ノ外當該地區内ニ於ケル重要ナル目標ニ對シ所  
 要ノ游撃行動ヲナスト共ニ地區境界附近ニ於ケル警備ヲ爲シ得ル  
 限リ勝ナラシメ隨時脱出匪ヲ撃滅スヘシ

六 前各項ニ關聯シ各地區部隊ハ地區内主要地ニ於ケル檢索搜查ヲ勵

行シ通匪者ヲ徹底的ニ檢舉スヘシ

七混成第一需兵隊長ハ現任務ヲ續行スルノ外速ニ輯安地區鴨綠江岸

ニ於ケル檢索ニ協力スヘシ

八作戰指導ノ要領、補給、通信及經理、衛生等ニ關シテハ主任部員

ヲシテ別ニ指示セシム

九予ハ通化ニ在リ

討伐指導部長 佐々木 少 將

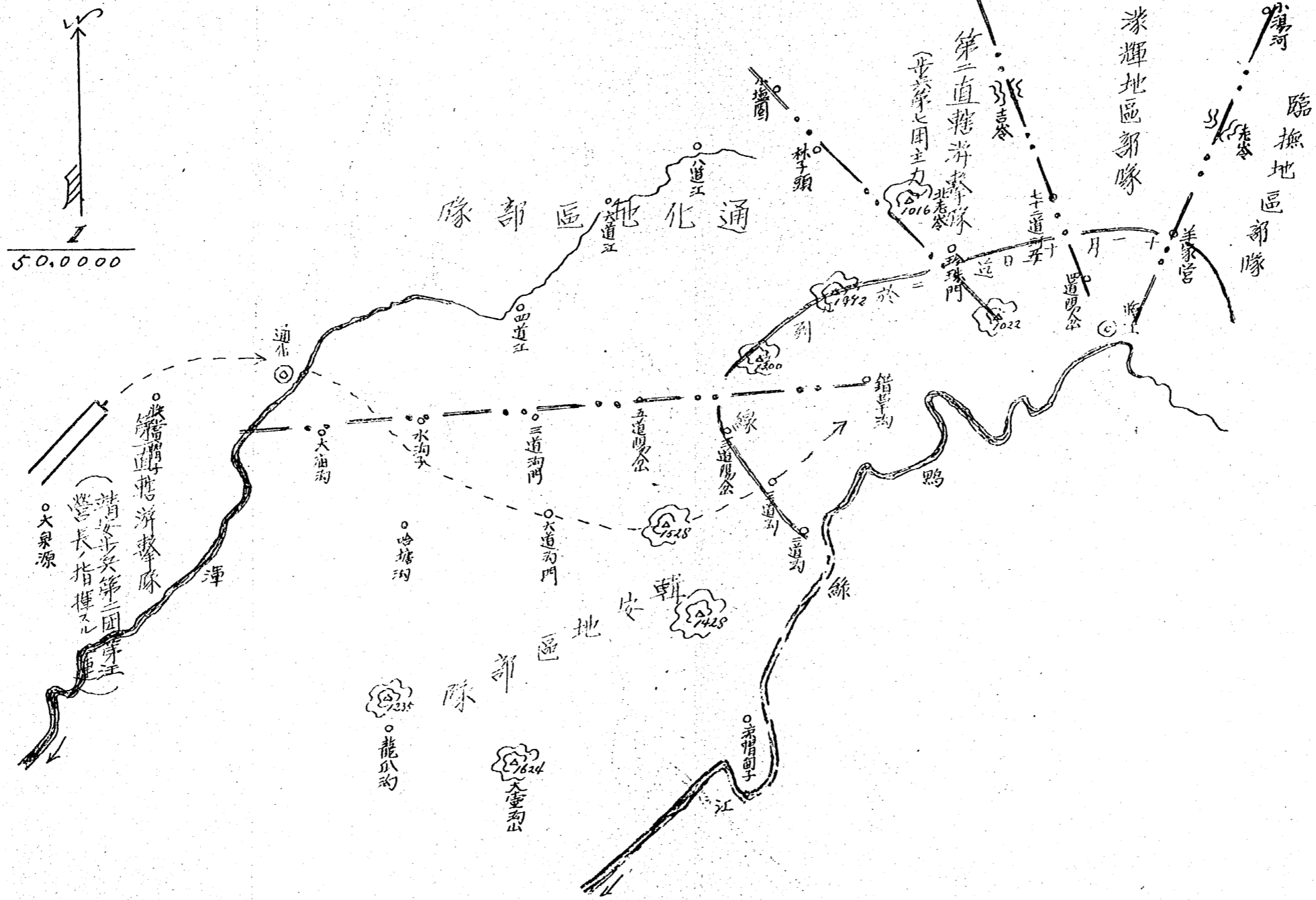
下達法―印刷セルモノヲ各軍事教官及靖安重參謀長、混成第一需兵隊長ニ交付ス



1966

通判先、軍政願、一軍願、二軍願、關軍、關壽司、一獨司、二獨司  
江界守、通壽

# 王鳳閣匪掃滅行動地域要圖



## 作戰主任者指示事項

(下 山 大 佐)

唯今ヨリ指示スル所ハ來ル二十五日以後開始セララルル第一期作戰ニ必要ナル事項ニシテ第二期作戰ノ爲所要ノ事項ハ追テ指示ス各部隊ノ任務及行動ノ要領ハ別紙滯作命第十一號ニ依リ明ナルモ尙所要ノ説明ヲ加ヘントス

一 今次作戰ノ目標ハ王風閑トス其首級ニ五千圓ヲ賭ク

二 作戰指道一般ノ要領ハ臨江附近ヲ到達目標トシ輯安、通化、濛嶺

臨撫各地區ヨリ選拔セル遊擊隊及直轄遊擊隊ヲシテ苟モ人ノ通過  
49

シ得ヘキ山稜ハ悉ク之ヲ踏破シ集中的ニ前進セシム

三 臨江到達迄ノ期間ヲ約四週間ト豫定シ十一月二十日ヲ以テ第一次

討伐終期トス

途中十一月十五日迄ニ別紙命令附圖ノ線ニ到達セシメ所要ノ規整  
ヲ行フ

四 各地區海陸陸行動地域ノ境界別紙命令附圖ノ通り但シ通化地區部  
隊ハ十一月十日迄有力ナル一部ヲ輯安地區部隊行動地域ニ派遣シ  
六道溝門西南方山地帯ノ掃蕩ニ協力セシムルモノトス

- 五 各部隊ハ敵ニ遭遇セハ前項ノ期日要圖ノ境界如何ニ拘ラス之ヲ追  
 躡ス而シテ之カ爲生スル前進下面ノ間隙ハ期ヲ失セス之ヲ補填ス  
 ルモノトス又各縦隊ノ孤立暴進ヲ勝ニ戒ムルヲ要ス  
 六 各部隊ハ所定ノ期日内ニ擔當地域内ヲ縱橫剩ス所ナク掃蕩スルモ  
 ノトス  
 七 補給ハ各部隊自ラ計畫實施スルモノトシ特ニ必要ナルモノハ速ニ  
 指道部ニ處置ヲ要求スルモノトス  
 八 通信ハ鴿及無線ヲ主トシ可能ノ地域ハ電話ニ依ル

各地區部隊ハ擔當地域内ニ少クモ一ノ通信餘線ヲ設備スル如ク考案スルモノトス

九、各地區部隊ハ前各項討伐行動間地區内他方面ノ警備ヲ怠ラス特ニ前記討伐地域内ヨリ脱出スル匪ノ搜索撃滅ニ努ムルモノトス

十、軍隊、憲兵及警察ハ右討伐間間斷ナク主要各街村ノ搜索ヲ續行ス  
 特ニ六道溝門峪地兩側ノ小谷地内及八道江東方及東北方内峪地雖安臨江間各村落等ニ重點ヲ置クモノトス

十一、右ノ討伐大ナル效果ヲ奏セサル時ハ擧ネ嚴密附近ヲ到達目標トシ

輯安及通化地區部隊ノミヲ以テ反轉シテ前各項ノ要領ニ準シ集中的ニ討伐行動ヲ復行ス

終ニ臨ミ勦匪ニ關スル若干ノ鄙見ヲ附加セントス

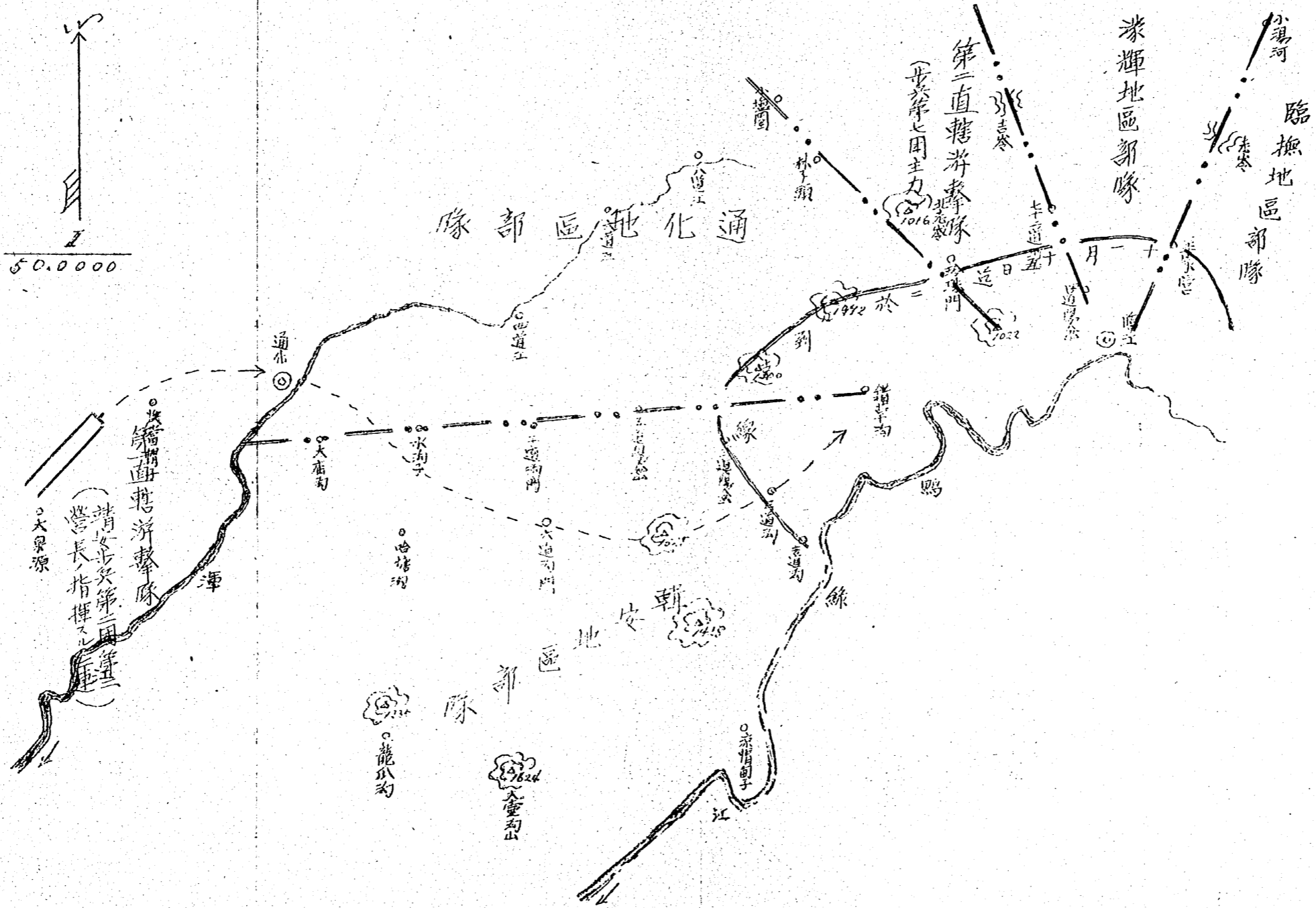
近時匪團ノ益々分散逃避スルニ鑑ミ之カ捕捉就中匪首ノ捕獲ニハ一段ノ工夫努力ヲ要ス之カ爲已ニ各部隊ニ於テ相當苦心ヲ拂ハレアルヲ諒知スルモ尙晝間一日行程以内ヲ示威行軍的ニ比較的大ナル部隊ヲ以テ移動スル等ノモノアルハ遺憾ナリ此ノ如キハ殆ント其效果ナキヲ以テ一層匪情ニ即應セル各種手段ノ彼此併用ニ依リ

速ニ匪若ハ其連類者ヲ捕ヘ的確ナル匪ノ動靜ヲ偵知シ以テ匪首若  
ハ其直接護衛者等ノ存在スル地域ヲ夾叉的ニ判斷決定シ且極力其  
豫想潜在地域ヲ縮少シテ之ヲ包圍シ少數選抜ノ勇敢ナル決死隊的  
小集團ヲ放ツテ一舉急襲的ニ匪ノ本據ヲ衝ク等ノ着意ヲ以テ指導  
セラレ特ニ其實行ヲ嚴ニ督勵セラレンコトヲ切望ス

匪ノ山寨中要點ニ存在シ將來我掃蕩ノ據點トシテ利用シ得ルカ如  
キモノハ必要ノ期間之ヲ存置スルヲ却テ有利トスヘキヲ以テ指導  
上留意アリ度



# 王鳳閣匪掃滅行動地域要圖



討伐指導部第一次謀報計畫

昭和十一年十月十日  
討伐指導部

考	備	編成並實施要領			要	概	施	實	針	方
		班三第	班二第	班一第						
<p>四軍事教官ノ區處ヲ受クヘキ各機關ハ滿軍ニ於テ利用セルモノヲ其儘使用スルモノトシ之ニ要スル經費ハ旅ノ討伐費ノ支給トスルモ特ニ必要ナルモノニ限リ別ニ詮議ス</p> <p>兵古岳中校ノ指導スル壽兵隊ニ對スル經費ハ別途支給ス</p> <p>六特別工作班ヨリ差出ス班員ニ對スル經費ハ討伐指導部ニ於テ別途支給ス</p>	<p>一堤顧問ハ壽兵隊ノ直接指導ニ任ス</p> <p>二富田壽兵少佐ハ討伐指導部ニ在リテ石井顧問ヲ輔佐スルノ外主トシテ壽兵隊ノ指導ニ任ス</p> <p>三混成壽兵一ヶ排ハ直接日本壽兵隊指導ノ許ニ通化ニ在リテ豫備隊トシ通化縣城ノ搜索ニ任ス</p>	<p>石井 特別工作班一若千名、壽兵一第五連</p> <p>佐藤 特別工作班一若千名</p> <p>栗原 特別工作班一若千名</p> <p>中野 特別工作班一若千名</p> <p>古岳 特別工作班一若千名</p> <p>古校 第一壽兵隊</p>	<p>石井 特別工作班一若千名、壽兵一第五連</p> <p>佐藤 特別工作班一若千名</p> <p>栗原 特別工作班一若千名</p> <p>中野 特別工作班一若千名</p> <p>古岳 特別工作班一若千名</p> <p>古校 第一壽兵隊</p>	<p>石井 特別工作班一若千名、壽兵一第五連</p> <p>佐藤 特別工作班一若千名</p> <p>栗原 特別工作班一若千名</p> <p>中野 特別工作班一若千名</p> <p>古岳 特別工作班一若千名</p> <p>古校 第一壽兵隊</p>	<p>一關係警察署長以下ヲ指導シ平時ニ於ケル謀報網ノ強化徹底ヲ圖リ優良ナル常備密偵網ヲ配置ス</p> <p>二地區内保甲長ヲ利用シ積極的ニ通匪者ノ檢索、匪情ノ蒐集ニ努メシムルノ外地形及道路ノ案内者ヲ各甲二名宛選定セシメ討伐部隊ト連繫シ之カ利用ニ努ム</p> <p>三特別工作班員ヲ密偵トシテ使用シ特ニ鮮人ニ對シ工作セシム</p> <p>四壽兵隊ハ不良分子ノ檢索ニ努ムルノ外特ニ便衣隊ヲ編成シ搜匪工作ヲ行ヒ且密偵網ノ監視ヲ實施ス</p>	<p>一謀報網ノ實施ハ討伐行動ニ連繫セシムルモ先ツ十月中旬迄ヲ準備期トシ各機關トノ連繫組織網ノ構成教育等ヲ實施シ十月中旬ヨリ第一次工作ヲ實施ス第二次工作開始ノ時期ハ情況ニ依リ別ニ指示スルモ概ネ十二月上旬ト豫想ス</p> <p>二謀報網第一次工作地域要圖ノ如ク其成果ノ進展ニ伴ヒ第二次工作地域ニ推進ス</p> <p>三對象目標ハ第一班紅軍匪第六團、第二班紅軍匪第五團、第三班王鳳閣匪トシ匪團ノ系統組織、潜伏地點(特ニ匪首ノ所在地)行動地域、經路、補給路ノ探知地下組織ノ破壞ヲ主要任務トシ謀報機關獨力ヲ以テ之ニ任スルノ外特ニ直轄游擊隊及討伐部隊トノ連繫ヲ周密ナラシメ其獲得セル謀報ノ適切ナル利用ニ努ム</p> <p>四各班ノ實施スル情報ノ蒐集ニハ特ニ日本軍及壽兵隊ノ實施スルモノト連繫協同スル着意ヲ要ス</p>	<p>一討伐指導部ノ實施スル謀報網ハ日本軍及壽兵隊ノ治本工作ニ連繫協力シツツ實施スルモ滿軍討伐行動地域廣大ナルニ鑑ミ地區ニ依リテハ本謀報機關主動トナリ活動スヘキ場合多キヲ豫期ス</p> <p>二謀報ノ實施ハ討伐行動ニ連繫セシムルモ先ツ十月中旬迄ヲ準備期トシ各機關トノ連繫組織網ノ構成教育等ヲ實施シ十月中旬ヨリ第一次工作ヲ實施ス第二次工作開始ノ時期ハ情況ニ依リ別ニ指示スルモ概ネ十二月上旬ト豫想ス</p> <p>三對象目標ハ第一班紅軍匪第六團、第二班紅軍匪第五團、第三班王鳳閣匪トシ匪團ノ系統組織、潜伏地點(特ニ匪首ノ所在地)行動地域、經路、補給路ノ探知地下組織ノ破壞ヲ主要任務トシ謀報機關獨力ヲ以テ之ニ任スルノ外特ニ直轄游擊隊及討伐部隊トノ連繫ヲ周密ナラシメ其獲得セル謀報ノ適切ナル利用ニ努ム</p> <p>四各班ノ實施スル情報ノ蒐集ニハ特ニ日本軍及壽兵隊ノ實施スルモノト連繫協同スル着意ヲ要ス</p>	<p>一各地區部隊ニ於ケル謀報網ハ各地區司令官ヲシテ各種機關ヲ統一指導ノ許ニ實施セシムルモ討伐軍ノ重點ヲ指向スヘキ地域ニ對シテハ別ニ指導部直轄ノ謀報網ヲ組織シ機ニ投スル適確ナル情報ヲ蒐集シ直轄游擊隊ノ討伐行動ヲ適切ナラシムルト共ニ各地區討伐隊ニ有利ナル情報ヲ與ヘ以テ其討伐成果ヲ十分ニ發揮セシム</p> <p>二討伐指導部ノ實施スル謀報網ハ日本軍及壽兵隊ノ治本工作ニ連繫協力シツツ實施スルモ滿軍討伐行動地域廣大ナルニ鑑ミ地區ニ依リテハ本謀報機關主動トナリ活動スヘキ場合多キヲ豫期ス</p> <p>三謀報ノ實施ハ討伐行動ニ連繫セシムルモ先ツ十月中旬迄ヲ準備期トシ各機關トノ連繫組織網ノ構成教育等ヲ實施シ十月中旬ヨリ第一次工作ヲ實施ス第二次工作開始ノ時期ハ情況ニ依リ別ニ指示スルモ概ネ十二月上旬ト豫想ス</p> <p>四對象目標ハ第一班紅軍匪第六團、第二班紅軍匪第五團、第三班王鳳閣匪トシ匪團ノ系統組織、潜伏地點(特ニ匪首ノ所在地)行動地域、經路、補給路ノ探知地下組織ノ破壞ヲ主要任務トシ謀報機關獨力ヲ以テ之ニ任スルノ外特ニ直轄游擊隊及討伐部隊トノ連繫ヲ周密ナラシメ其獲得セル謀報ノ適切ナル利用ニ努ム</p> <p>五各班ノ實施スル情報ノ蒐集ニハ特ニ日本軍及壽兵隊ノ實施スルモノト連繫協同スル着意ヲ要ス</p>	<p>一各地區部隊ニ於ケル謀報網ハ各地區司令官ヲシテ各種機關ヲ統一指導ノ許ニ實施セシムルモ討伐軍ノ重點ヲ指向スヘキ地域ニ對シテハ別ニ指導部直轄ノ謀報網ヲ組織シ機ニ投スル適確ナル情報ヲ蒐集シ直轄游擊隊ノ討伐行動ヲ適切ナラシムルト共ニ各地區討伐隊ニ有利ナル情報ヲ與ヘ以テ其討伐成果ヲ十分ニ發揮セシム</p> <p>二討伐指導部ノ實施スル謀報網ハ日本軍及壽兵隊ノ治本工作ニ連繫協力シツツ實施スルモ滿軍討伐行動地域廣大ナルニ鑑ミ地區ニ依リテハ本謀報機關主動トナリ活動スヘキ場合多キヲ豫期ス</p> <p>三謀報ノ實施ハ討伐行動ニ連繫セシムルモ先ツ十月中旬迄ヲ準備期トシ各機關トノ連繫組織網ノ構成教育等ヲ實施シ十月中旬ヨリ第一次工作ヲ實施ス第二次工作開始ノ時期ハ情況ニ依リ別ニ指示スルモ概ネ十二月上旬ト豫想ス</p> <p>四對象目標ハ第一班紅軍匪第六團、第二班紅軍匪第五團、第三班王鳳閣匪トシ匪團ノ系統組織、潜伏地點(特ニ匪首ノ所在地)行動地域、經路、補給路ノ探知地下組織ノ破壞ヲ主要任務トシ謀報機關獨力ヲ以テ之ニ任スルノ外特ニ直轄游擊隊及討伐部隊トノ連繫ヲ周密ナラシメ其獲得セル謀報ノ適切ナル利用ニ努ム</p> <p>五各班ノ實施スル情報ノ蒐集ニハ特ニ日本軍及壽兵隊ノ實施スルモノト連繫協同スル着意ヲ要ス</p>	
		<p>閣鳳王 閣三第化通 閣三第化通 閣三第化通 閣三第化通 閣三第化通</p> <p>區安輯及部半南 區八第及部北 區六第江臨 區五第軍紅 區四第軍紅 區三第軍紅</p>	<p>閣鳳王 閣三第化通 閣三第化通 閣三第化通 閣三第化通 閣三第化通</p> <p>區安輯及部半南 區八第及部北 區六第江臨 區五第軍紅 區四第軍紅 區三第軍紅</p>	<p>閣鳳王 閣三第化通 閣三第化通 閣三第化通 閣三第化通 閣三第化通</p> <p>區安輯及部半南 區八第及部北 區六第江臨 區五第軍紅 區四第軍紅 區三第軍紅</p>	<p>閣鳳王 閣三第化通 閣三第化通 閣三第化通 閣三第化通 閣三第化通</p> <p>區安輯及部半南 區八第及部北 區六第江臨 區五第軍紅 區四第軍紅 區三第軍紅</p>	<p>閣鳳王 閣三第化通 閣三第化通 閣三第化通 閣三第化通 閣三第化通</p> <p>區安輯及部半南 區八第及部北 區六第江臨 區五第軍紅 區四第軍紅 區三第軍紅</p>	<p>閣鳳王 閣三第化通 閣三第化通 閣三第化通 閣三第化通 閣三第化通</p> <p>區安輯及部半南 區八第及部北 區六第江臨 區五第軍紅 區四第軍紅 區三第軍紅</p>	<p>閣鳳王 閣三第化通 閣三第化通 閣三第化通 閣三第化通 閣三第化通</p> <p>區安輯及部半南 區八第及部北 區六第江臨 區五第軍紅 區四第軍紅 區三第軍紅</p>	<p>閣鳳王 閣三第化通 閣三第化通 閣三第化通 閣三第化通 閣三第化通</p> <p>區安輯及部半南 區八第及部北 區六第江臨 區五第軍紅 區四第軍紅 區三第軍紅</p>	<p>閣鳳王 閣三第化通 閣三第化通 閣三第化通 閣三第化通 閣三第化通</p> <p>區安輯及部半南 區八第及部北 區六第江臨 區五第軍紅 區四第軍紅 區三第軍紅</p>

## 滿洲國憲兵指導計畫

(富田 憲兵少佐)

## 方 針

滿洲國軍隊ノ行フ討匪ニ併行シ之カ討伐行動區域内ニ於ケル潛入逃  
 避等散逸匪賊ノ索出檢舉特ニ共產黨團ノ地下組織破壊ノ思想工作及  
 便衣ヲ以テスル暗殺決死ノ變裝隊ノ編成兼ネテ討伐行動ニ策應シ之  
 カ勦匪ノ爲有效ナル資料提供ノ目的ヲ以テ諜報網ノ構成併セテ士兵  
 員其他非行暴違ヲ監察警戒シ協和ノ順道ニ理セシメ保安勤務遂行上  
 ノ他ノ警察務ハ逐次分示擔當セシメ以テ部隊配屬又ハ隨伴若クハ獨

立シテ治安肅正ノ重要勤務ニ服シ得ル如ク指導ス

指導概要

一若干日準備教育ヲ實施シ憲兵勤務ニ必要ナル素地ヲ與ヘ應用能力

ヲ助成シ一貫セル方針ノ下ニ勇敢進取ノ氣性ヲ長成自信力ヲ得セシ

ム（教育實施豫定表別紙ノ通り）

二部隊ノ使用

、獨立シテ行動スル部隊ハ努メテ建制ヲ保持セシム

三東邊道中心地ニシテ且地方物産ノ補給地タル通化附近ニ於ケル徹

底的檢問檢索ヲ實施シ潛入逃匪ヲ索出シ匪民分離ヲ明カニシ匪化地帯ノ中心ヲ淨化シ之ヲ周圍ニ波及セシムル爲一部ヲ以テ所在地警務機關ト協力保安ノ勤務ニ服セシム

四 部隊配屬又ハ討伐隊ニ隨伴スル憲兵ニ對シテハ諜報蒐集ト共ニ共匪横行地附近ノ地下組織共產黨團ノ剷除破壞ニ任セシム

一部ヲ以テ便衣隊ヲ編成セシメ匪首捕獲又ハ暗殺ヲ企畫セシム

五 滿蒙勤務ハ滿軍討伐ニ協應スヘキモノニシテ功ニ急キ討伐部隊ノ行動ニ妨害アル行爲ヲ戒メ斷順取扱小討匪等ノ行爲ニ就テハ所在

部隊ト十二分ノ連絡ヲ爲シ彼此齟齬ナキ様戒心セシム

六 滿軍部隊ト民衆ノ軍民一致ノ實ヲ舉ケシムル爲士兵員其他ノ監察  
ヲ行ハシム

七 日鮮滿人ニ對スル滿濤ノ職務執行ハ奉天警務統制委員會幹事長兼  
奉天濤兵隊本部特高課長ノ指導下ニアリテ行フモノト看做ス

八 協和會特別工作班ト密接ナル連絡ヲ保持セシム

#### 實施要領

一 滿濤各部隊ヨリ小數宛ノ差出人員ヲ以テ混成ノ一箇排ヲ編成シ通

化市内ノ保安勤務ヲ實施セシメ日本憲兵隊長ノ區署下ニ置ク

ニ通化縣城内ヲ一區畫トシ縣城内日鮮滿人ニ住民之謫ヲ交付シ外部

ヨリノ潛入逃避其他散逸匪賊ト住民トヲ分離セシメ外部ヨリノ潛

入者ト區分鑑別シ一方縣城内ヲ肅正淨化匪民分離ヲ明徴ニシ兼テ

物資ノ匪賊ニ密送セラルルヲ防止ス

細部ニ關シテハ匪民鑑別ノ主旨竝住民之謫支給規定ニ於テ示ス

ニ其他通化市内淨化ノ補助手段別紙計畫第一ノ如シ

四 臨時編成ノ滿憲隊長ヲシテ作命ニヨリ兵力部署ヲ明示任務ヲ附與

1961

セシム之カ細部ノ指示ニ就テハ別紙第二ノ如シ

兵隨行ノ憲兵及所在地憲兵ヲシテ指導ノ補助ヲ爲サシム

六 各機關不良惡徳密偵ニ對シ取締ヲ行フ

別紙第一

通化市内淨化計畫

一 住民之證ヲ發給ス

二 市内四圍ニ固定檢問所四個ヲ設備ス

之カ編成左ノ通り



198T

三 游動檢問班二箇ヲ編成ス  
 編成左ノ通り

配備箇所ニ應シB、C、Dヲ適宜決定ス  
 満需ニ對シテハ需兵腕章ヲ使用セシム

D	C	B	A (船(渾江渡場))	場所
				區分
一	一	一	一	日需
		一	一	領警
二	二	二	二	満需
三	三	三	四	満警
二	二	二	三	白衛團
八	八	九	一一	計

五 匪報網ノ設置

臨時檢索及一齊檢束指定地檢索ヲ實施ス  
 之カ爲兵員不足ノ場合ハ滿軍ノ協援ヲ求ム

四 檢索

人員不足スルトキハ滿軍ニ憲兵勤務補助者ヲ請求（依頼）ス

R	A	場所 區分
一	一	日 憲
一	一	領 警
一	一	滿 憲
四	五	滿 警
一	一	自衛團
八	九	計

## 1. 鮮人狀況

## 2. 滿人狀況

六 諜報蒐集ノ爲直接滿書ヲ便衣特務ニ勤務セシム

七 日本憲兵ヲ主トシ滿書ヲ加ヘ通信ノ檢閲ヲ實施セシム

八 所在地警務機關ヲシテ戸口調査殊ニ主人不在ノ婦女ノ身元ニ付徹

底的偵査ヲナサシム

## 住民之證支給規定

第一條 通化縣城在住ノ日鮮滿（軍部關係者中私服着用ノ見込ナキ

モノヲ除ク）人中年齡十五歳以上ノ男女（特ニ不要ト認メタルモ  
ノヲ除ク）ニ對シ住民之證ヲ支給ス

第二條 前條在住ノ意義ハ住居又ハ住所ヲ有シ又ハ一定ノ期間滯留  
スルモノヲ言フ

一時滯留スルモノハ住民ト看做シ一定ノ期間滯留スルモノト共ニ  
住民之證ニ代フヘキ證憑ヲ交付シ又ハ交付スルコトアリ

第三條 通化縣城トハ別紙第一圖劃内ヲ指稱ス

但縣城ニ接近シ當時出入スル部落民ニハ縣城內居住民（之ト區別

ヲ設クニ準シ住民之證ヲ交付スルコトアリ

第四條 住民之證ノ様式及記載事項別紙第二ノ通り

第五條 縣城内在住者ニシテ縣城内外出ノ際ハ必ス之ヲ携行シ其他

日滿官證ヨリ提示ヲ求メラレタルトキハ提示身分ヲ立證スルモノ  
トス

第六條 縣城内ニ入城者ハ速ニ左記區分ニ依リ届出ヲ爲スモノトス

日本軍隊關係者及同家族  
通化憲兵分隊

滿洲國軍隊

滿洲國憲兵隊

日鮮人（憲分隊届出者ヲ除ク）

領事館警察署

滿

人

通化警察署

旅館宿泊者ハ旅館主ヨリ届出ヲ爲スモノトス

第七條 旅館宿泊者ニ對シテハ住民之證ニ代ルヘキ旅館宿泊之證ヲ

交付スルコトアリ

第八條 街頭歩行者ニシテ住民之證ヲ所持セサルモノハ歩行ヲ禁止

又ハ制限ス

第九條 縣城内出入者ニ對シテハ出入之證（當日限リトシ翌日以後

ニ百ルモノハ別ニ許可スルヲ交付ス

第十條 住民之證ハ無料支給ス

但紛失シタルモノニ對シテハ別ニ指示スル所ニ依ル、二回以上紛失シタルモノハ故意アルモノト看做シ制裁手段ヲ講スルコトアリ

第十一條 申告虚偽ナルコト判明セル場合於道示ニ應セサルモノハ適法ニ依リ處断スルコトアリ

第十二條 本規定ハ昭和十一年十月二十日ヨリ實施ス

奉天地方警務統制  
委員會 幹事長

陸軍 憲兵 少佐

富田 直澄

686T

通化憲兵分隊長

陸軍憲兵少尉

小林庄吉

混成第一憲兵隊長

陸軍憲兵中校

古岳新治

通化縣長

劉天成

通化領事館警察署長警部

原嘉市

別紙第二

部隊憲兵使用計畫

一 所在部落内ニ檢問所ヲ設備時々一齊檢索並指定區域ノ檢索ヲ實施

シ 潛入逃避ノ散逸匪賊ノ逮捕



066T

ニ 諜報網ノ設置及偵諜培養

三 便衣隊ヲ組織シ

ノ 決死ヲ以テ匪首捕獲及暗殺要スレハ謀略ニ依ル殺害（毒殺）

2. 情報蒐集

四 革命匪團陽性共產黨團ノ地下組織、救支援ノ檢舉破壊

五 小匪ノ討伐

六 報告提出ノ要領

急ヲ要スル報告ハ特報トシ其他ハ旬報トス

1991

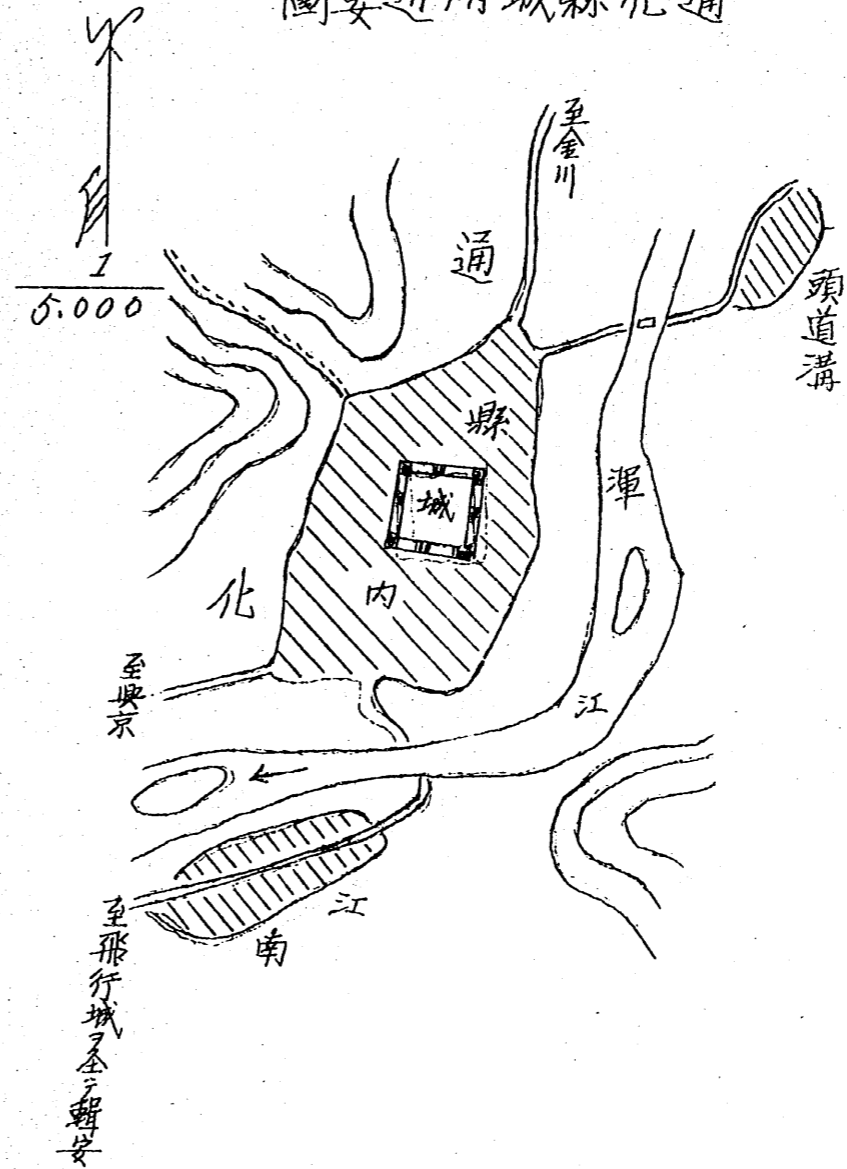
不良日鮮人取扱ニ就テハ上司ノ指示ヲ受ケシム  
セ各隊ノ計畫ヲ徹シ檢討ス

別紙第三

注意 一 他人ニ譲渡ヲ許サス 二 紛失シタルトキハ届出ノコト	身長	住民之籍 發行印	本籍 住所 職業	姓名 別名 年歳	折入線	相貌	特徵
	特徵						

通化縣城附近要圖

別紙第一



北部東邊道秋冬季討伐ニ伴フ宣傳實施計畫書

(堤 少 佐)

一 方針

討伐ノ全期ヲ通シ討伐部隊士氣振作、匪民分離工作ヲ實施ス  
 而シテ全期間ヲ二期ニ區分シ十月一日ヨリ十一月末日迄ヲ第一期  
 以後ヲ第二期トシ第一期ハ通化ニ本據ヲ置キ別ニ移動宣傳班ヲ編  
 成シ各處ヲ巡回シ主トシテ匪民分離工作ヲ實施シ第二期ハ討伐進  
 展ノ狀況ニヨルモ移動宣傳班ヲ取止メ濛江又ハ撫松ニ駐屯シ通化  
 宣傳班ト相俟テキトシテ討伐士氣鼓吹振作ニ當リ匪民分離工作ヲ

續行ス

尙宣傳班ノ行動ニ關シテハ討伐ノ推移ニ應シ好機ヲ利シ其全機能ヲ發揮シ得ル様常ニ留意スルモノトス

ニ一般要領

ノ通化ニ於テハ蒐集スル諸情報ニヨリ主トシテ文書ヲ以テ軍内外ニ對スル宣傳ヲ實施スルト共ニ各縣公署、協和會ヲ督勵シ相互ニ緊密ナル連繫ヲ保持シ統制アル宣傳ヲ實施スル如ク指導スルモノトス

1994

2. 文書宣傳（佈告、傳單、ポスター）ハ時宜ニ則シタルモノヲ作  
 製シ成可ク單簡ナル白話体ヲ以テ記述シ繪畫ヲ挿入スル等讀者  
 ヲシテ容易ニ理解シ得ルモノヲラシム
3. 國軍討伐ノ狀況殊ニ我軍ニ有利ナル狀況ハ奉天ヨリ日滿新聞ニ  
 發表ス
4. 宣傳文書ノ配布ニハ行動中ノ各部隊ヲ通シテ行フ外警察、協和  
 會、保甲ヲ通シ庶範圍ニ撒布ス
5. 移動宣傳班ハ活動寫眞、蓄音機、擴聲器ヲ携行シ軍隊及民衆ニ

對シ講演、映畫（解説）ヲ以テ國家國重現狀、滿洲國ノ世界的地位、日滿不可分ノ關係、匪賊ノ必滅等ニ就キ徹底的ニ理解セシム

6. 國內治安ノ肅正ハ軍警ノ討伐ニヨリテノミ完成セラレ可キモノナラスシテ之ヲ援助スル民衆ノ力ノ大ニシテ直ノ軍民協力ニ依リ始メテ之カ實現ヲ期待シ得ルモノナリトノ理ヲ徹底セシメ國民トシテノ覺醒ヲ促ス

7. 移動宣傳班ハ十二月一日以後輝南、濛江又ハ撫松ニ位留シキト

266T

シテ文書ニ依リ附近一帯ノ軍隊及民衆ニ對スル宣傳ニ任ス  
8. 移動宣傳班ノ行動豫定地附圖第一ノ如シ

三 器 材

宣傳ノタメ左記器材ヲ携行ス

輪轉謄寫器 二 臺

印刷紙（全） 三萬枚

鐵筆用原紙 五百枚

映寫器（無聲） 一 臺



866T

四 派遣人員

發 雷 器 一 臺

擴 聲 器 一 組

著 音 器 一 臺

ノ 通化ニ位措スルモノ

高中松、渡鳥、白雇員

2 移動宣傳班

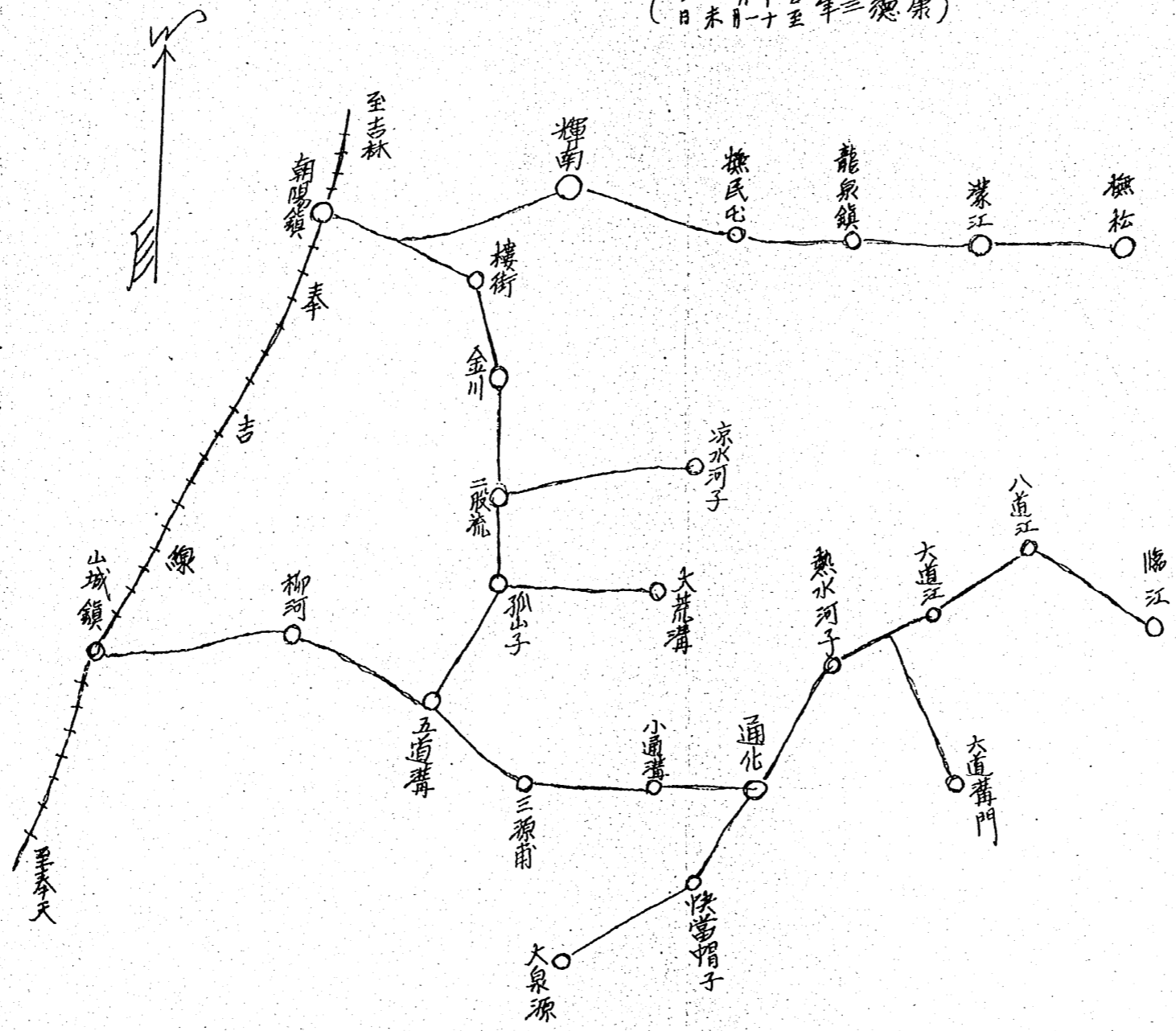
石嶋上尉、駱中士

# 移動宣傳班行勤要圖

(日一月十自年三德泰)  
(日未月一至)

## 備考

○印ノ講演映画會實施豫定地  
但ニ狀況ニ依リ変更スルコトアリ



講演ノタメ満系軍官一ヲ附ス

會根崎雇員(軍政部ヨリ派遣)行動ヲ共ニス

東邊道討伐ニ伴フ給養補給計畫

(稻富 主計少佐)

第一、方針

今季討伐間ニ於ケル第一軍管區軍及臨時配屬部隊ノ給養補給ハ現地物資ニ依リ各部隊毎ニ調辨セシメ努メテ追送ヲ輕減セシム

但物資ノ現況ヲ顧慮シ給養ヲ確保スル爲一部ヲ追送糧秣ニ依ラシム

第二、要領

一 給養兵額 (總兵額 人 一六二〇〇  
馬 六三〇〇)

(各縣治安隊員ヲ含マス)

區分	兵額		臨時配屬部隊		計	
	人	馬	人	馬	人	馬
臨撫地區	二、四〇〇	九〇〇			二、四〇〇	九〇〇
濛輝地區	一、五〇〇	五〇〇	一、三〇〇	五〇〇	二、八〇〇	一、〇〇〇
金柳地區	一、九〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	五〇〇	三、二〇〇	一、八〇〇
通化地區	八五〇	一〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	三、八五〇	一、一〇〇
輯安地區	二、五〇〇	一、〇〇〇			二、五〇〇	一、〇〇〇
直隸部隊	八五〇	一〇〇	一五〇		一、〇〇〇	一〇〇
總豫備隊	四五〇	四〇〇			四五〇	四〇〇
合計	一〇、四五〇	四、三〇〇	五、七五〇	二、〇〇〇	一六、二〇〇	六、三〇〇

三 野戰倉庫ノ開設

左ノ如ク野戰倉庫ヲ開設シ移駐行軍間竝討伐行動間第一線部隊ニ  
 兵器彈藥糧秣陣中事務用品及其他ノ軍需品ノ補給ニ任セシム  
 其開設日時、補給擔任區域、補給品種、集積量、要員ノ配當及補  
 給系統別紙第一、第二ノ通りトス

左記

- |            |             |      |
|------------|-------------|------|
| 1. 山城鎮野戰倉庫 | (同) 山城鎮野戰倉庫 | 通安支庫 |
| 2. 朝陽鎮野戰倉庫 | (同) 朝陽鎮野戰倉庫 | 濠江支庫 |

三 補給品種、定量及追送率

所辨地現	品 送 追	品 種	定 量	地 區	追送區分	摘 要
大豆 高粱 包米 大米	食鹽 鹽干魚	乾麵包	二百四十匁 (四五〇瓦) 一二〇匁 三〇匁	臨撫地區 濛輝地區	臨撫地區 濛輝地區	一 乾麵包ハ日本軍ヨリ若干ノ保管轉換ヲ受ケ利用ス交付ヲ了セハ小麥粉ヲ以テ代用ス 二 追送率ハ現存ノ狀況ニ依リ若干變更スルコトアリ
谷草			一〇斤 二斤 三斤	通化地區 金柳地區 濛輝地區 臨撫地區	通化地區 金柳地區 濛輝地區 臨撫地區	各部隊ノ現地調辨ニ委スルモ狀況ニ依リ倉庫地附近ニ於テ一括調辨ノ上一部ノ補給ヲ行フ

四 倉庫ノ充實要領

一 第一軍管區軍需處長及軍械處長ハ奉天附近ニ於テ所要ノ糧秣、

兵器彈藥及兵器用物品其他ノ軍需品ヲ誦達シ鐵道輪送ニ依リテ  
先ツ山城鎮及朝陽鎮野戰倉庫ヲ充實ス

2. 山城鎮野戰倉庫長及通化支庫長ハ陸路輪送ニ依リ通化支庫及輯  
安支庫ヲ夫々充實ス、但シ通化、輯安間ノ交通連絡不能ノ間軍  
需處長ハ朝鮮側ノ物資ヲ利用シ充實スルモノトス

3. 朝陽鎮野戰倉庫長及濛江支庫長ハ陸路輪送ニ依リ濛江支庫及撫  
松支庫ヲ夫々充實ス

4. 各野戰倉庫長及支庫長ハ努メテ現地物資ヲ蒐集充足シ第一線ノ

不足物資ヲ補足スルモノトス

5. 各倉庫ノ充實期ハ別表第一ノ區分ニ依ルモ開設初期ニ於テ充實

スヘキ數量ハ兵力移動要領ニ伴フ部隊ノ行動ニ支障ヲ生セサル

程度トシテ軍需處長適宜之ヲ定ム

### 兵補給要領

ノ各地區ニ於ケル討伐部隊ハ所屬大行李ヲ補給擔任倉庫ニ差遣シ

テ所要ノ兵器彈藥、糧秣其他ノ軍需品ノ補給ヲ受ケルヲ原則ト

ス



但各倉庫長ハ部隊ノ討匪行動、道路網、配屬自動車隊及運搬具等ノ状態ヲ顧慮シ補給點ヲ成シ得ル限り前方ニ進メ部隊大行李ノ行動ヲ輕減スル如ク努ムルモノトス

2. 補給品ノ受授ハ傳票（別紙様式）ニ依リ糧秣品ニアリテハ受授ノ都度代金ヲ倉庫長へ戻入スルモノトス

但萬已ムヲ得サル場合ニアリテハ月末ニ於テ決算シ一ヶ月間ノ補給品ヲ取纏メ戻入スルコトヲ得

#### 六 自動車隊ノ配屬

討伐間獨立第一自動車隊ヲ左ノ如ク配屬セラル

新配屬部隊	配屬數	配屬日時	配屬地	摘要
朝陽嶺倉庫	第二排第一班 (自動貨車五豫備二)	九月二十日	朝陽嶺	
同濛江支庫	第二排第二班 (自動貨車五)	九月二十日	同右	
山城嶺倉庫	第一排第二班 (自動貨車五豫備一)	九月二十日	山城嶺	
通化支庫	第一排第一班 (自動貨車五)	九月二十日	同右	

備考 配屬日時ハ情況ニ依リ若干變更スルコトアリ

七倉庫ノ警備及補給品ノ護衛

ノ野戦倉庫ノ警備竝驗送途中ニ於ケル補給品ノ護衛ハ管轄區域内

地高司令官ノ擔任トシ各倉庫長ハ所要ノ兵力ヲ該司令官ニ要求

スルモノトス

2. 警備竝護衛ニ任スル部隊ノ宿營給養ニ關シテハ各倉庫長之ヲ援

助スルモノトス

#### ハ 倉庫ノ管理

各倉庫ノ管理ハ別冊野戦倉庫業務要領ニ依ルモ各倉庫長ハ現地ノ

狀況ニ即シテ細部ノ要領ヲ定ムルモノトス



シム其配宿給養及行軍宿營間ニ於ケル監視警備ハ當該團長ノ擔  
任トシ馬夫及輓馬ノ給養ヲ官給スヘキヤ自辨セシムヘキヤハ狀  
況ニ依リ各團長ニ於テ定ムルモノトス

左記

地區司令部

大車 一臺

旅司令部

” 一臺

各團部營部歩騎兵機關銃、迫撃他連 ” 各一臺

3. 部隊糧秣集積所ノ開設

各部隊新移駐地ニ於ケル警戒配備ヲ了セハ匪情地形交通ノ便否  
ヲ顧慮シテ旅司令部又ハ歩騎兵團本部毎ニ宿營地附近ニ糧秣集  
積所ヲ開設シ追送品及現地調辨品ヲ以テ常該部隊ノ概ネ十日分  
ノ豫備糧秣ヲ常續集積シ第一線ノ給養ニ遺漏ナカラシム

附表第一

野戰倉庫開設要領

第一軍管區司令部

倉庫開設地	開設日時	補給擔任區域	補給品種	常時集積量	倉庫要員	山城鎮		庫通化		支輯安		朝陽鎮	
						九月十日	九月三十日	九月十日	十月十日	九月十日	九月十日		
金柳、通化	九月十日	輯安地區	人糧 小麥粉、食鹽 鹽鮭(鱈)包米	給養兵額ニ應スル	長中校 徐誠三 ①上(中尉)本圖又尖樂 中尉 趙成九 上尉 吳漢邦	通化、輯安	同	同	輯安地區	同	同	同	同
同	同	同	同	給養兵額ニ應スル	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	給養兵額ニ應スル	長少校又ハ上尉 ①中尉 阿部敬二 ①中尉	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	給養兵額ニ應スル	長少校又ハ上尉 上尉 劉慶堂 ①少尉 入江貫一 長中校 任承瑞	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	給養兵額ニ應スル	長中尉 徐誠三 上尉 張碩鏞 少尉 白効博	同	同	同	同	同	同	同	同

支		庫		給養兵額ニ應スル	倉庫要員
臨撫松	濛江	濛江	濛江		
五日	十月	二五日	九月	約一ヶ月分	長①中尉 高田 慈郎 上尉 齊振東 少尉 谷 琛
同	同	同	同	同	長①中尉 石村・晴雄 上尉 高英倫 上尉 于維賡

備考一、補給擔任區域ハ部隊行動ノ狀況ニ依リ變更スルコトアリ

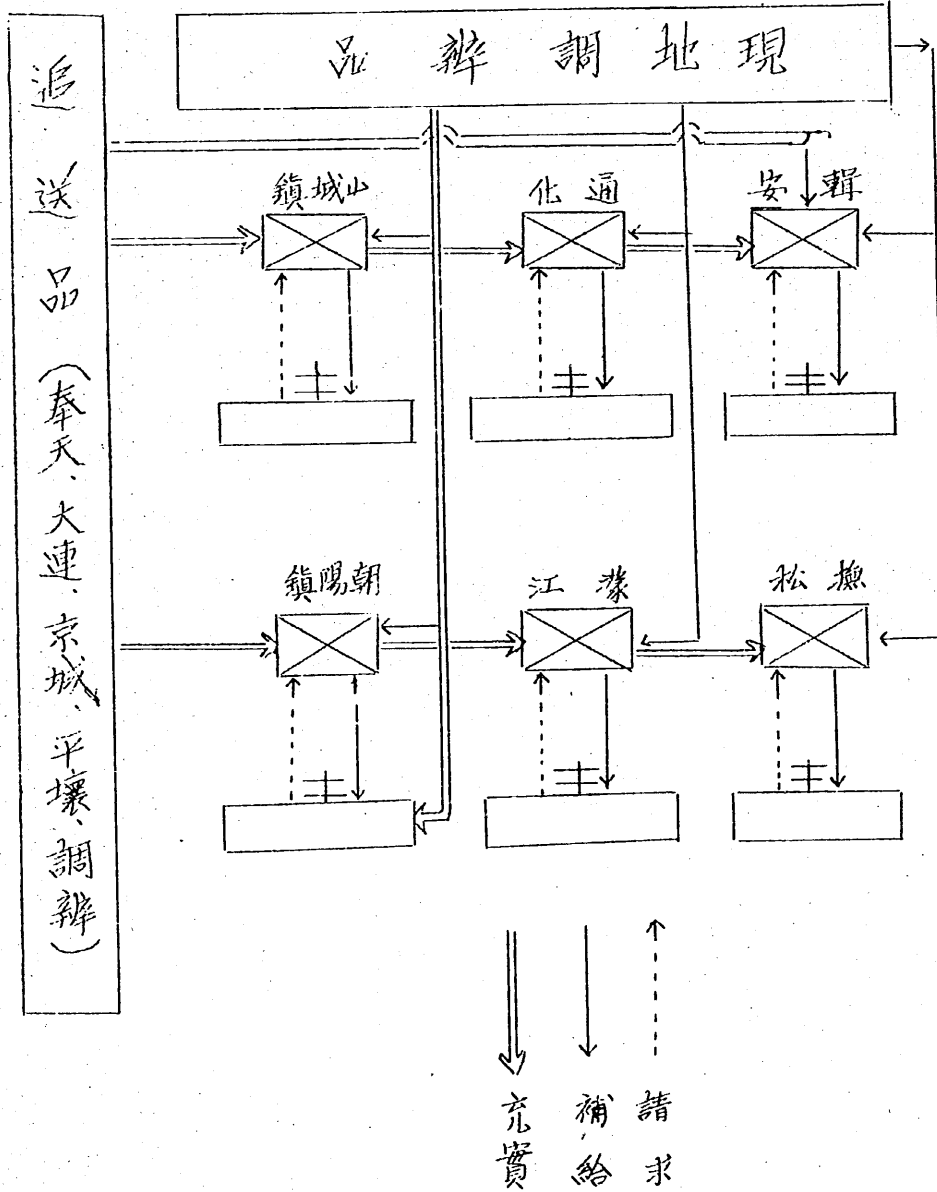
二、補給品種ハ現地資源ノ狀態ニ依リ品種ノ増減ヲナスコトヲ得

三、大米、包米、高粱、豆餅ハ現地調辨品トシ第一線ノ要求ニ依リ

一部ヲ補給スルモノトス

圖 統系實充給補求諸品需軍

附表第二







## 訓示

茲ニ親シク諸官ノ壯容ニ接シ該般ノ情況ヲ聽取シ將來ノ指導ニ有力ナル資料ヲ得タルハ本職ノ最欣快トスル所ナリ

已ニ聞ク所ニ依レハ今次ノ討伐ハ諸官ノ苦心努力漸ク酬イラレ滿軍ノ行動ハ概ネ適正ニシテ大ニ地方官民ノ信賴ヲ博シ滿洲國軍ニ對スル認識ヲ新ナラシメツツアルハ慶賀ニ堪ヘサル所ナリ然レトモ其一部ニ在リテハ依然舊軍閥的餘弊ヲ呈現シ官民ノ懸懸ヲ買ヘルモノナシトセス又討伐長期ニ亙ル時ハ動モスレハ上下ノ緊肅弛緩シ延テ惡

性ノ本質ヲ暴露シ來ルノ虞甚大ナルモノアルヲ以テ諸官ハ至誠愛護ノ真情ヲ徹底セシムル一方特ニ信賞必罰ヲ勵行シ惡質者ノ處罰ニ關シ苟モ姑息ニ流ルルカ如キコトナク秋霜烈日ノ概ヲ示シ至嚴ノ軍紀ヲ確保シ現在ノ良況ヲ益々擴充スルコト極メテ緊要ナリ

作戰、情報、宣撫、經理、衛生等各般ノ事項ニ對シテハ夫々主任者ヲシテ指示セシメ置キタルモ更ニ將來ノ爲若干ノ所懐ヲ研フル所アラントス

一士氣ノ振作ニ就テ

本期討伐ハ相當長期ニ百リ續行セラルヘク而モ匪勢消沈且寒氣ノ襲來將ニ目睫ノ間ニ在リ諸官ハ此間ニ在リテ宜シク自奮自勵シ軍隊ニ對シテハ刺激督勵緩急其機宜ニ適セシメ以テ士氣ノ頽廢ヲ防キ常ニ潑刺タル意氣ヲ以テ勦匪行動ニ從事シ以テ最終最善ノ成果ヲ獲得セサルヘカラス

ニ軍事教官及日系軍官ノ服務ニ就テ

本討伐間諸官ハ一面指導部ノ企圖ニ基キ滿軍ヲ指導シ其實行ヲ監督強要スルト共ニ他面常該滿系部隊長ノ最モ信頼スル輔佐官トシ

テ業務ヲ遂行セサルヘカラス

從來滿系部隊長ハ軍事教官ノ指道ヲ干涉ナリト場言シ之ニ箝口シテ自己ノ怠慢ヲ曲避シ或ハ其偷安的行動ヲ理由付ケントスルノ弊アリ諸官ハ此間ノ機微ヲ洞察シ儼トシテ指導的態度ヲ保持スルト共ニ眞ニ彼等ノ師父良友タルノ誠意ヲ披瀝シ以テ彼等ヲシテ寸毫モ箝口ノ辭無カラシムルト共ニ好ンテ積極的活動ヲ爲サシムル如ク十全ノ努力ヲ傾注セムコトヲ望ム又各部隊日系軍官ハ何レモ獻身的ニ努力シ其成績見ルヘキモノアルヲ聞クハ本職ノ甚々愉快ト

シ且深謝措ク能ハサル所ナリ

然レトモ尙滿軍統帥系統内ニ淳化セントスルノ自覺堅確ナラス恰  
モ軍事教官ノ分身者ナルカノ課レル矜恃ヲ以テ高踏的能度ヲ持シ  
爲ニ滿軍ヲ引摺リテ積極進取改革ノ一途ニ邁進セシメントスル熟  
ト意氣トニ缺クル者ナントセサルハ甚タ不可ナリ而シテ一部ノ軍  
事教官其人ニ對シテモ亦類似ノ苦言ヲ與ヘサルヲ得サルヲ遺憾ト  
ス

三 經費ノ運用ト作戰行動トニ就テ

經費ノ不足ニ籌口シテ作戰上當然ナササルヘカラサル處置ヲ回避  
若ハ差控フルカ如キモノアリトセハ由々シモ大事ナルヲ以テ該官  
ハ特ニ經費ノ合理的運用ニ全幅ノ注意ヲ拂フト同時ニ創意工夫積  
極的企圖心ヲ發揮シ正當ナル計畫ニ基クモ配當經費ニ不足ヲ來ス  
モノハ速ニ豫メ指道部ニ具申シ之カ貫徹遂行ヲ期スルヲ要ス  
終ニ臨ミ更ニ各官ノ偉闘ヲ祈ル

昭和十一年十月廿二日

討伐指道部長 佐々木 少 將

## 三 秋季討伐實施並其效果

各地區討伐部隊ハ滿作命第十一號命令ニ基キ十月下旬ヨリ一齊ニ討伐ヲ開始シ王鳳閣匪及紅軍匪第五、第六團ノ徹底的掃蕩ニ努メタリ此間各地區部隊ハ山岳重疊入跡未踏ノ天嶮ヲ踏破シ千古斧鉞ヲ入レサル大密林地帯ヲ掃蕩シ東走西避スル匪ヲ追躡ニ追躡ヲ重ヌルコト月餘ニ及ヒシモ將兵克ク困苦缺乏ニ耐ヘ戮力協心一意討匪ニ專念セル行動ハ眞ニ涙タクマシキモノアリテ其結果ハ前記匪團ノ活動地帯ヲ著シク減縮シ且徹底セル匪民分離、糧道遮斷工作ト併セ匪ヲシテ



窘窮其極ニ至ラシメ遂ニ小數匪團ニ分散シテ我銳鋒ヲ避クルニ汲々タルモノ或ハ力盡キテ降投スルモノ等續出スルノ情態ニ陥ラシメ討伐開始前五、六千ト稱セラレタル匪勢ハ約二千（附路第五參照）ニ激減セリ

即チ本期間ニ於ケル討伐成果ノ概況ヲ述フレハ

戰鬪回數ニシテ三百五十餘、討伐匪數累計八千六百九十餘、匪ノ死傷及捕獲數ハ一千餘、主要匪首ノ捕獲並射殺ハ紅軍重要匪首孫政治指導委員、安委員、金委員、王鳳閣系匪首溫外勤大隊長其他

匪首老表青ノ參謀長、保中華、九占、九江、青山、黑虎、雙山、  
 仁義、金龍、雙虎、鎮北軍等十數名ニ及ヒ埒降匪首ハ張科長、老  
 長青、趙明恩、寶龍、北來好、二虎、明山、得勝軍、雙勝、老東  
 山、雙紅、李尙德等ニシテ之等部下三百餘名モ亦投降シ又多數ノ  
 武器彈藥、糧秣、被服等ヲ函獲シ匪ノ山寨ヲ覆滅スルコト三百餘  
 ヲ數ヘタリ

之ニ對スル我軍ノ損害ハ戰死將校四、士兵三十餘名、戰傷將校八、  
 士兵約六十名ニシテ尙凍傷者若干ヲ出セリ

以上ノ如ク將兵ノ獻身の奮闘ニ依リ豫期以上ノ效果ヲ收メ得タリト  
雖本季討伐ノ主要目標タル東邊道匪賊ノ主魁王鳳閣ヲ捕獲シ得サリ  
シハ甚タ遺憾ナリキ國軍ハ尙之ニ對スル徹底的窮追ヲ續行中ナルヲ  
以テ其討滅ハ目睫ノ間ニ在ルモノト豫期シ之カ對策ヲ益々周密ナラ  
シメアリタリ

尙茲ニ特記スヘキハ討伐部隊ノ晝夜止マサル王鳳閣匪ノ勦討ニ依リ  
本年二月以來人質トシテ該匪ニ拘致セラレアリシ米人宣教師バ  
ズ（通化カトリック教會主）ヲ救出シテ國際的ニ國軍ノ名聲ヲ博シ

又本年二月熱水河子ニ於テ紅軍匪ノ襲撃ニ依リ拘致セラレ爾來該匪團ニ監禁セラレアリシ歩兵第七團代理團長歩兵中校楊泰武及人質數名ヲ收容監禁シアリシ山寨ヲ奇襲シ之ヲ救出（楊中校ハ救出後追撃戦ニ於テ戦死）セル等ハ大ニ滿軍ノ聲價ヲ發揚シタルモノト謂フヘシ

第五、冬季計伐（自十二月一日至翌年三月末日）

一、計伐準備

ノ秋季計伐ニ於テ其主要目標タル東邊ノ巨魁王鳳閣ヲ捕獲シ得サリ

シハ誠ニ遺憾トスル所ナルモ其根據ハ悉ク之ヲ覆滅シ該匪ノ再起  
 全ク不可能ナラシメタルニ依リ一部ヲ以テ王匪追窮ヲ續行セシメ  
 大部ハ冬季討伐ノ爲左記指道部命令ヲ下達シ以テ秋季討伐開始ノ  
 態勢ニ復歸セシメテ所要ノ休養並冬季討伐ノ準備ヲナサシメタリ  
 但シ一部配備ノ變更ヲ行ヘリ  
 滿作命第二一號

討伐指道部命令

一王風関匪ノ根據ハ覆滅セリ

十一月十二日午後四時  
 於通化討伐指道部

ニ軍ハ王鳳閣殘匪ニ對スル追窮ヲ繼續スルト共ニ爾後ノ作戰ヲ準備セントス

ニ各地區部隊ハ特ニ必要ナルモノノ外十一月十六日朝以後概ネ十月二十五日總海撃開始前ノ態勢ニ復歸ヲ開始シ所要ノ休養ヲ與フヘシ

右休養期間ハ復歸後約三日トス

前項ノ外蟻安及通化地區部隊ハ各々一部ヲ老虎山附近匪ノ潛伏地帯ヲ封鎖スル如ク配備シ適時該封鎖圈内ニ對シ海撃ヲ實施シ

殘匪ヲ徹底的ニ勦滅スルヲ要ス

兩地區ノ境界ヲ大恒路―南老嶺―古角―歡喜嶺―橫路―家楡

川附近ヲ連ヌル線ニ改ム線上ハ通化地區ニ屬ス

現ニ輯安地區司令官ノ指揮下ニ在ル第一敎道隊ノ諸部隊ハ別命

アル迄同司令官ニ屬ス

四 各地區部隊ハ復歸後ニ於ケル配置ノ概要ヲ十一月十七日中ニ報

告スヘシ

討伐指導部長

佐々木 少 將

2029

注 意

本命令ハ必要ナル直轄指揮官ニ對シ内報シ各部隊ニ對シテハ實  
施ノ直前ニ下命スルモノトス

下達法

要旨ヲ田中顧問及各軍專教官ニ電報シタル後印刷セルモノヲ

送付ス

通報先

軍政廳、一軍廳、二軍廳



2. 冬季討伐實施ノ爲速ニ長白縣ヲ確保スルノ必要ヲ感シ左記命令ヲ

下達シテ靖安軍ヨリ金澤少校ノ指揮スル歩兵一營ヲ長白縣城ニ急

派ス

滿作命第二二號

討伐指導部命令

十一月十三日午前十時  
於通化討伐指導部

通化地區部隊ヨリ靖安歩兵第二團ノ約一營ヲ十一月晝日迄ニ臨江

ニ派遣シ臨極地區司令官ノ指揮ニ入ラシムヘシ

討伐指導部長

佐々木 少 將

下達法

印刷セルモノヲ交付ス但臨撫地區ニハ要旨ヲ電報シタル後印刷セルモノヲ交付ス

通報先

軍政廳、一軍廳、二軍廳

又接壤地帯ニ作戰スル第二軍管區軍ノ兵備強化ノ必要上歩兵一團

(混成第十四旅歩兵第十九團)ヲ第二軍管區司令官ノ指揮ニ轉屬

セシメタリ

滿作命第二三號

討伐指導部命令

十一月十三日午後二時  
於通化討伐指導部

一 濛輝地區部隊ヨリ其輝南縣ニ於ケル混成第十四旅ノ歩兵一團ヲ  
十一月盡日迄ニ吉林ニ移動シ第二軍管區司令官ノ指揮ニ入ラシ

ム

二 濛輝地區部隊ハ右實施ニ伴フ兵力配置變更ノ計畫ヲ十一月十七

日迄ニ報告スヘシ

三 右移動ニ要スル經費ハ實費額ヲ軍政部申請スルモノトス

2033

討伐指道部長

佐々木 少 將

下達法

要旨ヲ關係部隊ニ電報後印刷セルモノヲ送付ス

通報先

軍政廳、一、二、三軍廳

尙討伐ニ伴フ捜査、檢索ノ威力ヲ増加スル爲需兵一連（國都需兵

隊寺尾連）ヲ撫松ニ派遣シ臨撫地區司令官ノ指揮ニ入ラシメタリ

滿作命第二七號

討伐指道部命令

十一月十五日午後三時三十分  
於 通 化 討 伐 指 道 部

混成第一憲兵隊長ハ十一月十五日迄ニ憲兵約一連ヲ撫松ニ派遣シ臨

撫地區司令官ノ指揮ニ入ラシム

討伐指道部長 佐々木 少 將

下達法

混一憲長及下元中佐ニ口達シタル後印刷セルモノヲ交付ス

通報先

軍政廳、一軍顧

3 他軍管區ヨリ臨時配屬中ノ各部隊ハ滿作命第一號命令ニ示ス如ク

概ネ秋季討伐終了後ヲ以テ夫々原所屬ニ復歸セシムル豫定ナリシ

モ冬季討伐ノ重要性ト秋季討伐地域内ノ治安ヲ確保センカ爲左記

命令ヲ下達シテ冬季討伐終了迄之ヲ引續キ配屬セシメタリ

但シ靖安軍（歩兵第一團及歩兵第二團第二營ヲ除ク）第三混成教

導旅司令部及教導歩兵第三團ハ教育ノ關係上原駐地ニ歸還セシメ

タリ

滿作命第一四號

命

令

十一月十五日正午  
於新京軍政部

一 本期計付間十二月中旬迄第一軍管區若ハ第四軍管區司令官ニ配  
 屬ノ他軍管區部隊中第三軍管區ノ歩兵第十六團第三憲兵隊、鶴  
 駿、混成第十四旅竝騎兵約一團、第五軍管區ノ歩混成旅ハ漸作  
 命第一號第三及第五項ニ拘ラス概ネ之ヲ明年三月末迄引續キ配  
 屬スルモノトシ其中混成第十四旅ノ歩兵一團ハ之ヲ第三軍管區  
 司令官ニ轉屬セシム

二 本命令實施ノ爲必要ナル細部ノ事項ハ關係軍管區司令官相互ニ

於テ協議決定スルモノトス

軍政部大臣 于 芷 山

軍政部最高顧問 佐々木 少 將

下達法

印刷セルモノヲ各軍管區主任顧問ニ送付ス

冬冬季討伐ノ爲左記命令並同命令第三項ニ基ク指示ヲ與フ

滿作命第二五號

討伐指導部命令

十一月十五日下午  
於通化討伐指導部



一 臨撫地區以西ニ於ケル匪團ハ潰裂シ匪首ハ遁竄是レ終メツツアリ  
120

臨撫地區内ニ於テハ尙若干ノ集團匪アルモ其活動漸ク沈衰ス

二 軍ハ十二月一日以降第二期作戰ニ移リ主トシテ臨撫地區内ニ於

ケル匪團ヲ撃滅スルト共ニ同以西地區内ニ於ケル肅清ヲ徹底セ

シメントス

三 臨撫地區部隊ハ別ニ指示スル所ニ據リ主トシテ吳義成匪及余日

成匪ニ對スル勦匪作戰ヲ準備スヘシ

準備完了ノ時期ハ十二月二十日トス

四 輯安地區部隊ハ一部ヲ以テ王匪舊根據地ノ封鎖及掃蕩ヲ繼續セ

シムルト共ニ主力ヲ以テ十二月五日ヨリ概ネ同十五日ニ百ル間

輯安一頭道崴子道以西ノ地區ニ於ケル徹底的掃蕩ヲ實施シ特ニ

尙團長匪ヲ追窮殲滅スヘシ

又適時有力ナル一游擊部隊ヲ桓仁及寬甸縣東部ニ派遣シ得ルノ

準備ニ在ルヘシ

五 通化地區部隊ハ更ニ地區内ニ殘存スル張科長其他匪首ノ捕獲ヲ

徹底的ニ遂行スルト共ニ金川、濛江兩縣境界附近ニ對スル紅匪ノ掃蕩ヲ繼續スヘシ

歩兵第七團ヲ十二月一日以後其指揮ニ屬ス

十二月五日以後隨時靖安歩兵第一團及同騎兵一連ヲ八道江附近

ヨリ臨江附近ニ向ヒ移動セシメ得ルノ準備ニ在ラシムヘシ

靖安歩兵第二團ノ約一營ノ移動ニ關シテハ滿作命第二二號ノ通

リ、

靖安軍司令部及前各項以外ノ靖安軍諸部隊ハ概ネ十二月二十日

以後奉天ニ歸還セシム

六 金柳地區部隊ハ益々其重點ヲ金川縣東南部ニ指向シ紅匪特ニ憑  
委員、老二哥等匪首ノ捕獲ニ勉ムヘシ

第三敎道混成旅司令部及同歩兵團ハ十二月二十五日以後山城鎮  
附近ヨリ原所屬ニ復歸スルノ準備ニ在ラシムヘシ

七 濛疆地區部隊ハ主トシテ通化、金柳兩地區トノ境界方面ニ對ス  
ル紅匪ノ掃蕩ニ努ムルト共ニ朝陽鎮方面ヨリ臨撫地區ニ向ツテ  
スル輸送、交通ノ掩護ヲ確實ナラシムヘシ

混成第十四旅ヨリ歩兵一團ヲ吉林方面ニ移動スルノ件ニ關シテ  
ハ滿作命第二四號ノ通り

ハ各地區部隊ハ兵力ノ抽出及移動ニ伴ヒ警備ニ缺陷ヲ生セシメサ  
ル如ク特ニ十全ノ努力ヲ傾注スルヲ要ス

討伐指導部長 佐々木 少 將

下達法一要旨ヲ下元、永田中佐ニ電報シタル後印刷セルモノヲ靖安軍及各軍事  
教官ニ送付ス

通報先一軍政廳、一、二、三軍廳

滿作命第二五號第三項ニ基ク指示

吳義成匪討伐計劃

第一、方針

一 吳義成匪、金日成匪及撫松縣東部地方ニ蟠踞スル雜匪ノ主力ヲ  
第二軍管區部隊ノ協力ヲ得テ撫松縣中部地域（所謂圖上白色地  
帶）ニ包圍殲滅ス

已ムヲ得サルモ匪團ヲ長白縣内無人地帯ニ封鎖シ自滅セシム

第二、指導要領

2044

三 軍隊區分及任務

軍隊區分

臨撫地區部隊

司令官少將

李

壽

山

靖安步兵第二團ノ一營

混成第三旅

混成第四旅

撫松、臨江、長白各縣治安隊

靖安支隊

長上校

赤

澤

三

六

2045

任  
務

靖安歩兵第一團

靖安騎兵一連

靖安山砲兵一分隊

裝甲自動車一分隊

自動車一小隊

臨撫地區部隊

一部ヲ以テ臨江一撫松道ニ沿フ各主要街村及撫松北方及東方

137



ニ於ケル各要點ヲ確保セシメ主力ヲ以テ樞松―北崗―馬鞍山  
 南麓ヲ連ヌル線（含ム）以南ノ地域ヨリ敵ヲ其北方圖上白色  
 地帯ニ逐出ス

別ニ靖安歩兵ノ約一營ヲ基幹トスル兵力ヲ以テ長白縣ヲ確保  
 シ機ニ應シ同縣内ニ逃入スル匪團ヲ擊滅ス

#### 靖安支隊

一部ヲ以テ兩江口西南方甫（岔）附近ヨリ頭道白河附近ニ亘  
 ル安圖縣境ヲ封鎖セシメキ力ヲ以テ三岔拉子河、昔泥河子、

北岡附近ノ各要地ヲ占メ臨撫地區部隊ノ逐出スル匪團ヲ白色  
地帯ニ迎撃シテ之ヲ殲滅ス

三 作戰各時期ニ於ケル指導要領

1 第一期集中（自十二月一日）及今日成匪ノ討滅  
至十二月二十日

靖安歩兵第二團ノ一營ハ十二月一日迄ニ臨江附近ニ集結シ爾  
後長白ニ向ツテスル前進ヲ準備ス

靖安支隊ハ主力ヲ以テ八道江方面、充員部隊及山砲小隊、自  
動車小隊ヲ以テ朝陽鎮方面ヨリ撫松ニ向ヒ前進シ概ネ十二月  
129

二十日迄ニ集中ヲ完了ス

但シ結氷ノ狀況ニ依リ多少ノ變更ヲ生ス又靖安支隊中所要ノ  
幹部ハ十一月下旬迄ニ撫松方面ニ先行シ所要ノ偵察ヲ行ハシ  
ム

第二軍管區ヨリハ此期間少クモ歩兵一團ヲ基幹トスル支隊ヲ  
頭道白河附近ニ出シ靖安支隊ノ集中ヲ掩護シ同支隊ノ爲約十  
日分ノ糧秣ヲ同地附近ニ集積ス長白方面今日成匪ニ對スル討  
伐ハ從來ノ企圖ヲ引續キ遂行ス靖安歩兵第二團ノ部隊ハ狀況

ニ依リ之ヲ吳義成匪逐出ノ方面ニ使用ス

2 第二期吳義成匪ノ逐出（自十二月二十日  
至十二月三十日）

臨撫地區部隊ハ少クモ三個（各約二連ヲ基幹トス）ノ游擊隊  
ヲ編成シ長白山西麓―西嶺ノ地區ヨリ北而シテ森林地帯内ヨ  
リ匪ヲ逐出ス此際外翼游擊隊ノ兵力及行動ヲ特ニ強大積極的  
ナラシメ匪ノ安圖縣内ニ對スル逃避ヲ遮斷ス

靖安支隊ハ主トシテ夜行軍ニ依リ所期ノ配置ニ就キ特ニ匪情  
ノ搜索ニ努力ヲ傾注シ機ヲ失セサル逃出匪ノ捕捉ヲ準備ス

又臨撫地區部隊ハ別ニ準備スル游撃部隊ニ依リ包圍圈内側ニ  
 溢出逃避スル匪ヲ機ヲ失セス捕捉ス

3 第三期吳義成匪ノ捕捉殲滅（自一月一日  
 至二月末日）

第二軍管區ノ部隊ハ吳義成匪ノ逐出ニ伴ヒ機ヲ失セス撫松縣  
 内ニ游撃シ臨撫地區部隊ノ游撃隊ト協力シテ隨應ニ之ヲ擊滅  
 ス

靖安支隊ハ萬寶嶺ヨリ細鱗河口附近ニ百ル線上ノ要點ニ隱蔽  
 分散配置シ匪ノ逐出ニ應シ機ヲ失セス其匪首ノ存在スル處

ニ嚮ヒ游撃シ之ヲ捕捉殲滅ス

第三、補給

別ニ定ム但シ結氷後約十日（概ネ十二月二十日ト豫定ス）間ニ婦

安支隊及臨極地區部隊游撃隊ノ爲約三週間分ノ糧秣及脂油ヲ極松

ニ集積ス

森林伐採用器具、雪上露營用資材及雪上行軍用資材竝雪中偽裝材

料ヲ準備ス其數ハ別ニ定ム

第四、通信

別ニ定ム但シ各游撃隊ニハ移動無電一個宛ヲ配當シ得ル如ク計劃

ス

第五、衛生

別ニ定ム但シ患者用輸送機一ヲ本討伐期間常時奉天ニ待機セシム

第六、雜

本討伐ハ集團匪撃滅ノ最後ノモノトシテ特ニ成果ノ甚大ヲ期ス之

カ爲我企圖ノ秘匿ニ關シ萬全ノ注意ヲ拂フヲ要ス其一手段トシ例

ヘハ官傳謀略ノ爲左ノ處置ヲ行フ

## 三軍隊區分及集中

撫松東方外周ノ北、東、西岡等各部落ニ在スル滿軍ハ逐次便衣ニ代ヘシメ屯墾ヲ實施シ軍隊ノ減少ヲ禁フ

滿軍ハ補給困難ノ爲逐次撤退セリトノ揚言ヲ流布ス

第二軍管區方面ノ軍隊ニ活潑ナル陽動ヲ行ハシメ且該方面ニ大ナル兵團移動セリトノ流説ヲ放ツ

ノ十一月末日以後ニ於ケル各地區部隊ノ編成ハ附録第六ノ如シ

2 冬季討伐ノ爲ノ集中ハ十二月一日ヨリ之ヲ開始シ十二月二十日ヲ



以テ完了スル如ク計劃中ナリシモ臨撫地區ニ於ケル匪團ハ逐次撫  
 松一臨江道ニ近ク進出スルノ形勢ニ鑑ミ靖安支隊（靖安歩兵第一  
 團）ヲ滿作命第二五號ニ拘ラス臨江一關枝子灌間ノ地區ニ急進セ  
 シメ分散進出スル匪團ヲ各個ニ擊破シ冬季討伐ノ準備ヲ全カラシ  
 ムヘク左ノ命令ヲ下達セリ

滿作命第三二號

## 討伐指導部命令

十一月二十七日午前十一時  
 於通化討伐指導部

一臨撫地區ニ於ケル匪團ハ逐次撫松一臨江道ニ近ク進出シツツア

リ

二、軍ハ兵力移動ヲ促進シ以テ機ニ投シ此等分散准出スル匪團ヲ各個ニ撃滅シ次期作戦ノ準備ヲ全カラシメントス

三、臨撫地區部隊ハ先ツ金日成、王徳泰匪ヲ包圍殲滅スヘシ

靖安軍工藤浦歩兵第五團及歩兵第十七團ヨリ派遣ノ游撃隊ハ臨撫地區内ニ於ケル本作戦間臨撫地區司令官ノ指揮ヲ受クルモノ

トス

四、靖安支隊（工藤浦及増加部隊ヲ缺ク）ハ滿作命第二五號ニ拘ラ

ス成ルヘク速ニ其警備ヲ歩丘第七團ト交代シ先ツ臨江一關枝子  
 溝間ノ地區ニ向ヒ前進シ臨撫地區部隊ト密ニ協力シテ萬順匪要  
 スレハ余日成、王德泰匪ヲ捕捉毀滅スヘシ  
 移動無線一ヲ配屬ス

歩丘第七團ハ右警備交代完了ト共ニ通化地區司令官ノ授權ニ入  
 ルモノトス

兵臨撫地區部隊ハ特ニ靖安支隊ノ補給及給養ヲ援助スルモノトス

討伐指導部長 佐々木 少 將

下達法一要旨ヲ關係部隊ニ電報シタル後印刷セルモノヲ送付ス  
 通報先一輯安地區、金柳地區、軍政廳、一、二軍廳

三金日成匪ノ掃蕩竝吳義成匪ノ逐出

ノ吳義成系匪團ハ十二月初旬以來樞松東南方約五十軒槽子河南方地  
 帯ニ於ケル山寨ニ其主力ヲ集結シツツアルノ確報ヲ得タルヲ以テ  
 國軍ハ速ニ之カ撃滅ヲ企圖シ左記命令ヲ下達シ諸隊ヲシテ攻撃開  
 始ノ準備ヲナサシム

討伐指導部命令

十二月十四日正午  
 於樞松討伐指導部

一 吳義成匪ハ槽子河南方地域ニ於ケル其山寨ニ主力ヲ集結シツツ  
アルモノノ如シ

二 軍ハ先ツ攻撃ノ重點ヲ吳義成匪ニ指向シ之ヲ殲滅セントス

第二軍管區ノ部隊ハ撫松―靛水河道（含マス）以北ノ地域ニ於  
テ主トシテ周太平殘匪ノ潰滅ニ任ス

別ニ第二軍管區特選剿討部隊ハ右道路（含マス）以南ノ地域  
ヨリ馬鞍山方面ニ向ヒ攻撃ス

三 靖安支隊（山砲部隊ヲ缺ク）ハ本十四日以後逐次集結地ヲ出發

シ一部ヲ以テ二十日拂曉馬鞍山ノ敵陣地ヲ急襲シ二十七、八日頃大城城附近ニ其主力ヲ集結シ榑子河南方吳義成匪山寨ニ對スル攻撃ヲ準備スヘシ

特ニ第二軍管區總計伐隊ト密接ニ連繫スルヲ要ス

四 臨概地區部隊ハ（靖安山砲丘分隊ヲ屬ス）爲シ得ル限り多數ノ

兵力ヲ以テ榑子河南方敵陣地ノ北、西、南部ヲ嚴密ニ包圍シ靖

安支隊ノ進出ニ伴ヒ機ヲ失セス之ヲ急襲シ特ニ匪首ヲ捕獲スル

ニ努ムヘシ

又匪ノ南走ヲ阻止スル爲萬全ノ手段ヲ講スヲ要ス

混成第四旅ハ前各項ニ即應シ速ニ萬順匪ヲ殲滅シタル後少クモ

三ヶ浦ヲ基幹トスル部隊ヲ以テ漫江ヲ確保セシメ匪ノ糧道ヲ絶

ツト共ニ匪ノ長白縣下遁入ヲ絶對ニ遮斷セシムヘシ更ニ配屬憲

兵ノ主力ヲ吉川中尉ニ指道セシメ速ニ槽子河附近匪ノ前進陣地

ヲ奪取シ情報ノ蒐集ニ當ラシムルヲ要ス

以上各部隊ノ槽子河南方敵陣地ニ對スル攻撃前進開始ノ時機ハ

後命ス

各部隊共企圖行動ノ秘匿、欺瞞ニ關シテハ周到細密ノ考慮ト手

段トヲ盡シ苟モ敵ニ致サルルノ因ヲ招來セサルヘシ

六月二十二月二十日再ヒ撫松ニ至ル

討伐指導部長

佐々木 少 將

然ルニ十二月十五日吳義成匪ノ有力ナル一部ハ東岡東北方約八軒

密林地帯ニ潛在シアルヲ偵知シ直ニ之ヲ殲滅スルニ決シ更ニ左ノ

命令ヲ下達シ靖安支隊ヲシテ十六日早朝之ヲ急襲セシメ該匪ニ一

大痛撃ヲ加ヘタリ



爾後支隊ハ一意之カ追窮ニ努メ二十一日夜鴻江附近ニ於テ同隊ノ  
 工藤浦ハ匪首王營長ノ指揮スル二〇〇ノ匪團ヲ急襲シ匪首王營長  
 以下多數ノ匪ヲ斃殺シテ潰滅セシメ又二十九日午前東岡（樺松東  
 南約三十軒）東方ニ於テ匪首万軍ノ率キル匪團ヲ捕拵攻撃シ匪首  
 万軍以下ヲ斃殺シテ之ヲ全滅セシム等討伐初期ニ於テ國軍ノ武威  
 ヲ官揚セルモ我亦相當ノ死傷者ヲ生シ且酷寒凜烈ノ爲凍傷患者續  
 出シ其數實ニ百名ヲ垂ントスルノ悲運ニ漕ヘリ

滿作命第四二號

## 討伐指道部命令

十二月十五日午後二時三十分  
於 撫 松 討 伐 指 道 部

一 吳匪ノ有力ナル一部ハ東崗北方約八軒附近ニアルモノノ如シ

二 軍ハ先ツ速ニ此ノ敵ヲ撃滅セントス

三 靖安支隊ハ本夜半ヨリ行動ヲ起シ小南崗（北崗方約八軒）附近

ヨリ錯草頂子附近ニ百リ存在ヲ豫察セラルル敵ヲ急襲スヘシ特

ニ匪ヲ東方ニ逸セシメサルニ努ムルヲ要ス

四 臨撫地區部隊ハ約二連ヲ速ニ東崗附近ニ派遣シ主トシテ槽子河

ノ線ヲ扼止シ匪ノ山寨方面ニ對スル交通ヲ遮斷セシムヘシ

吉川憲兵排ハ一時右部隊ノ區署下ニ置クモノトス

五 部隊ハ前各號ノ行動後別命ナク十四日正午ノ命令ニ基ク行動ヲ  
繼續スヘシ

但シ東崗附近ニ派遣セル部隊ハ爾後引續キ該地附近ニ在リテ山  
寨方面ニ對スル攻撃ヲ準備スルモノトス

討伐指道部長 佐々木 少 將

下達法一要旨ヲ製案シ隊及臨撫地區部隊ニ口達シ後印刷セルモ

ノヲ交付ス

2. 曩ニ長白縣確保ノ重任ヲ擔ヒテ縣軍長蛇長白ニ向ヘル金澤部隊ハ途中長白縣十三道溝裡附近ニ匪首曹國安ノ指揮スル有力ナル共匪跳梁シアルヲ探知シ掃蕩中十二月八日桃泉里附近ニ於テ其主力匪團ト遭遇シ積雪腰ヲ沒スル山地帯ニ於テ激戰正ニ數時間遂ニ彼等ニ大打撃ヲ與ヘテ北方ニ潰走セシメ更ニ之ヲ追撃スルモ積雪深キ爲匪跡ヲ失シタルヲ以テ一先ツ十三道溝ニ部隊ヲ集結シ爾後長白ニ向ヒ急進セリ

3. 本次討伐ノ當初ニ於テ各隊ノ勇戰ニ依リ敵匪ノ心膽ヲ寒カラシメ

爲ニ各匪團ハ漸次南下スルノ情勢ニ鑑ミ臨江東北蛟蟻河附近ニ在  
リテ掃蕩中ノ孫游擊隊（混成第三旅歩兵第三團）ヲ長白警備隊長  
タル金澤部隊長ノ指揮下ニ入ラシメ之ヲ孤山子（長白縣十二道溝  
北方）附近ニ進出セシメテ曹剛安匪ノ勦討ニ任セシメ又金澤部隊  
ハ長白縣城到着ト共ニ二道崗（長白北方約四十軒）附近ニ前進シ  
全日成匪團ノ殲滅ニ任シタリ  
而シテ長白方面ニ於ケル匪勢ハ遂次急迫ヲ告クルノ形勢ニアルヲ  
以テ靖安軍ヨリ橋高中校ヲ長白ニ派遣シ同官ヲシテ長白縣下ニ於

ケル諸隊ヲ統一指揮セシメテ勦匪ニ専念セシメタリ

々各地ニ於ケル討伐ハ逐次進展シアリト雖匪團ハ益々南走シテ臨江  
及長白縣下ニ遁入スルノ情勢ヲ看破セル指導部ハ機ヲ失セス曩ニ  
通化及金柳兩地區ニ於テ編成訓練中ノ特選隊ヲ臨江ニ急派シテ臨  
撫地區司令官ノ指揮下ニ入ラシメ匪首ノ捕殺竝索出ニ邁進セシメ  
タリ

滿作命第四三號

討伐指導部命令

十二月十八日午前十一時  
於通化討伐指導部

一 臨撫地區ニ於ケル討伐ハ豫定ノ如ク進展シツツアルモ匪團ハ長  
白、臨江兩縣ニ遁入ヲ豫想セラルル情況ニアリ

二 滿作命第三九號ニ依リ通化地區及金柳地區部隊ニ於テ編成セル  
特選隊ハ左記要領ニ依リ速ニ臨江ニ派遣シ臨撫地區司令官ノ指  
揮ニ入ラシムヘシ

通化地區特選隊 十二月二十日通化集結三十一日通化出發八道

江經由二十四日中ニ臨江到着、但通化八道江

間ハ自動車輸送トス

金柳地區特選隊 十二月二十二日三源浦集結二十三日三源浦出

發通化八道江ヲ經中二十六日中ニ臨江到着

但三源浦八道江間ハ自動車輸送トス

討伐指導部長 佐々木 少將

下達法一要旨ヲ口達竝電報後印刷交付ス

通報先一軍政廳、一軍廳、關係地區軍事敎官

5. 本期間前後二回ニ亘リ關東軍ヨリ空軍ノ一部ヲ派遣協力セシメラ

レ國軍ハ大ニ志氣ヲ昂揚セルモノアリタリ



2020

關作命第九四八號

關東軍命令

十二月五日午前九時  
於新京軍司令部

一 關東軍野戰航空廠長ハ十二月五日ヨリ約一週間偵察機一機ヲ以テ滿洲國軍政部最高顧問ノ實施スル臨江、樞松道方面ノ討伐ニ協力スヘシ

二 細部ニ關シテハ軍政部最高顧問ト直接協定スヘシ

關東軍司令官 植田大將

下達法一 要旨電報後印刷交付

通報先―軍政部、軍内各部課

四 吳義成匪ノ捕捉殲滅竝金日成匪ノ撃破

ノ匪團ノ主力ハ各隊猛撃ニ依リ漸次東南方無住地帯ニ壓迫シツツアリシカ匪ハ我銳鋒ヲ避ケントシテ更ニ西南下シ臨江東北部三道溝裡一帶ニ蝟集スルノ情勢ヲ呈シタルヲ以テ左記ノ如ク討伐ノ指導方針ヲ示シ以テ討伐諸隊ヲシテ逐次之カ包圍圈ヲ形成シ匪ノ逃走防止ニ努メシムルト共ニ該匪ノ殲滅ヲ期スル爲輯安地區ヨリ混成第二旅（騎兵第五團缺）混成第一旅騎兵第四團及濛輝地區ヨリ歩

兵第五團第二營（二連缺）並第二軍管區ヨリ歩兵第十二團ヲ該方  
面ニ増加セリ

滿作命第四八號

命

令

昭和十二年十二月卅一日  
於撫松討伐指道部

一月一日以後ニ於ケル臨撫地區方面討伐指道要領左記ノ如ク定ム

一、方針

第一集團匪ヲ臨江縣東北部ニ壓迫シ之ヲ包圍殲滅ス

但今日成匪ハ之ヲ長白ニ於テ擊滅ス

2202

二、指導要領

第二、長白縣警備隊ハ兵力ノ集結ニ伴ヒ其主力ヲ以テ今日成匪ヲ追及殲滅ス

此間一部ヲ以テ曹國安匪ヲ追撃シ已ムヲ得サルモ之ヲ臨江縣東北部ニ驅逐スルモノトス

又第三項ニ示ス靖安支隊ノ行動ニ策應シ匪ノ長白縣滯入ヲ嚴ニ遮斷ス

第三、靖安支隊（自動車隊ノ配屬ヲ解キ山砲排ヲ其指揮ニ復シ第三

雲兵隊ヲ屬スハ概ネ一月十日迄ニ其兵力ヲ西爾岔、關枝子  
 溝、蟻河等ノ各要點ニ集結シ臨江縣東北部ニ對スル討伐ヲ  
 準備シ一月二十日ヨリ行動ヲ開始ス

行動期間ヲ約二週間トス

第四 臨樞地區ハ一月二十日迄ニ擔任地域ノ掃蕩ヲ終リ各有力ナ  
 ル游擊隊ヲ馮江及小營子附近ニ集結シ第二及第三項ニ示ス長  
 白縣警備隊及靖安支隊ノ行動ニ策應シ其一部ヲ以テ長白縣内  
 ニ主力ヲ以テ臨江縣東北部ニ對シ游擊ヲ開始ス

但シ歩兵一連ヲ一月十日迄ニ東崗ニ派遣シ端安支隊ト其守備ヲ交代セシム

第五寺尾憲兵連ハ主力ヲ以テ樞松縣内殘匪ノ摘發特ニ逃走匪首ノ捕獲ニ任ス

第六自動車隊ハ主力ヲ以テ濛江―朝陽嶺間、一部ヲ以テ樞松―臨江間ノ輸送ニ任ス

其他補給、通信、衛生ニ關シテハ別ニ定ム

第七討伐指導部ハ一月十五日以後一部ヲ臨江ニ推淮ス

討伐指導部長 佐々木 少將

下達法一要旨ヲ雷報シタル後印刷セルモノヲ隸下各軍專致

官ニ送付ス

通報先一軍政廳、一、二軍廳

2. 前記増加部隊ハ一月中旬夫々所命ノ地點ニ准出シ之カ包圍ノ態勢

全ク完了セルヲ以テ左記命令ヲ下達シテ一月十六日ヲ期シ臨江南北

方三道溝裡大洋谷附近ヲ豫想作戰地域トシテ總游撃ヲ開始セリ

遊作命第五三號

## 討伐指導部命令

一月十四日午前九時  
於臨江討伐指導部

一 各部隊ノ勇戦ニ依リ匪團ハ逐次三道溝上流方面ニ逃避シツツアルモノノ如シ

二 軍ハ概ネ一月十六日ヲ期シ各方面旬圍圍ヲ收縮シ匪團ヲ大洋岔河谷ニ壓倒殲滅セントス

三 下元部隊（孫游擊隊及臨江縣治安隊ノ配屬如故）ハ十四日以後穩密ニ西柳樹河子附近ニ前進シ匪情及地形ノ搜索ニ任スルト共ニ黃游擊隊ノ進出ヲ掩護シ爾後同部隊ヲ併セ指揮シ大洋岔附近



ノ匪團ヲ求メテ之ヲ追窮撃滅スヘシ

特ニ西南岔方面ニ對スル匪ノ逃逸ヲ遮斷スルニ勉ムルト共ニ一部ヲ以テ黑河附近ヲ確保セシムヘシ

四騎兵第四團ハ速ニ四方頂子附近ヲ占領シ匪團ノ西北走ヲ遮斷スヘシ

特ニ高橋部隊ト連絡スルヲ要ス

五、高橋部隊（富田憲兵隊ヲ屬ス）ハ步兵第二團主力ノ蟻蟻河到着ト共ニ蟻蟻河河谷ヲ北進シ爾後東方ニ向ヒ一月十六日拂曉迄ニ

ニ大洋谷上流二道洋谷附近ニ淮出シテ匪團ヲ求メ之ヲ撃滅スヘシ  
 六 端安支隊（西島部隊ヲ復歸シ特選隊ヲ配屬スルコト如故）ハ直  
 轄大游撃隊トス

一部ヲ以テ東北谷（含マス）以東東小山（含マス）以西ノ森林  
 鐵道沿線ノ要點ヲ確保シ匪ノ南走ヲ遮斷セシメ主力ヲ以テ曹國  
 安匪ヲ追窮撃滅スヘシ

但行動ノ開始ハ下元部隊ノ西柳樹河子附近淮出ト相策應シ得ル  
 ヲ要ス

七混成第二旅長ハ歩兵第二團ヲ吳家營、東北岔、錯草頂子及馬蟻  
 河附近ニ配置シ附近ノ蕭清ニ當ラシムルト共ニ匪ノ鎗道線脇横  
 斷ヲ遮斷シ且樅ニ應シ謝家崗子、老黑河若ハ水洞溝、四方頂子  
 方面ニ對シ出撃セシムヘシ

討伐指導部長

佐々木 少 將

傳達法

下元、高橋中佐、赤澤支隊長ニハ電話、菅游撃隊長  
 榎松村顧問、通化ニハ電報、奥島中佐ニハ口達

滿作命第五五號

討伐指導部命令

一月十六日午前十時  
於臨江討伐指導部

一 困憑セル數百ノ匪團ハ大洋岔及半截子溝附近ニ蟠踞シ最後ノ抵抗ヲ決意シアルモノノ如シ

二 軍ハ十七日拂曉ヲ期シ各方面ヨリ豫定ノ合擊ヲ行ヒ一舉ニ敵ヲ殲滅セントス

三 各部隊ハ前命令ニ基キ敵ヲ大洋岔半截子溝間ノ地域ニ包圍殲滅スル如ク行動スヘシ

2081

特ニ奥島中佐ノ指導スル部隊ハ水洞溝方面ヨリ敵ヲ牽制スルト

共ニ其三道溝左岸ニ向ツテスル逸走ヲ遮断スルニ勉ムルヲ要ス

四 萬順及曹國安ノ首級ニ各々五千圓ヲ賭ス

五 各部隊彈藥補給地點ヲ左ノ如ク推進ス

下元部隊 東小山

赤澤部隊 趙家店

奥島部隊

鴨蟻河

高橋部隊

六 各部隊ハ嚴ニ友軍相撃ヲ戒ムルト共ニ戦闘永キニ百ル場合ヲ願

慮シ飽ク迄堅忍持久有終ノ戰果ヲ獲得スルニ毫モ遺憾ナカルヘ

シ

予ハ暫ク臨江ニ在リ

計伐指道部長 佐々木 少 將

傳達法―各軍事敎官及赤澤寺隊長ニ電報ス

第一線諸隊ハ逐次包圍圈ヲ縮少シツツ淮攻ニ努メ且有力ナル出隊

隊ヲ南方ニ控置シ又臨撫街道上ノ要點ニ所要ノ部隊ヲ配置シ各々

機動力ト彈力性トヲ附與シ以テ極力之カ勦滅ニ專念奮闘セシメタル結果紅匪ノ巨頭王德泰ハ騎兵第七團ニ於テ、同曹國安ハ歸安支隊ニ於テ之ヲ捕殺シ得タルモ殘匪ハ巧ニ包圍圈ヲ脱逸シ臨江北方松樹鎮方面ニ遁走セリ

依テ國軍ハ機ヲ失セス控置シアリシ各出擊隊ヲシテ之ヲ急追セシムルト共ニ第二線配備部隊ヲシテ之カ遁走ヲ阻止セシメ又歩兵第七團（邵本良部隊）主力ヲ北進セシメテ老嶺附近ニ濠嶺地區部隊ノ歩兵第五團主力ヲ南進セシメテ之ニ挾撃ヲ加ヘタル爲匪團ハ反

轉東方ニ分散敗走スルニ至レリ

3. 以上ノ如ク當面ノ敵匪ハ間斷ナキ我猛攻ニ遭ヒテ全ク其統制ヲ失  
 ヒ餘喘奄々纔ニ山林ニ逃避シ其所在亦不明トナリシヲ以テ一時諸  
 隊ニ掃蕩地域ヲ分配シ匪情ノ蒐集ニ努メシムルト共ニ舊正切迫ニ  
 備ハ徹底的の勘計ニ當ラシメタリ

滂作命第六一號

討伐指導部命令

一月二十三日午前九時  
 於臨江討伐指導部

一 東部臨江縣内ニ於ケル匪團ハ分散シ目下其踪跡ヲ絶ツ



二軍ハ東部臨江縣内ニ分散配置ヲ取り徹底的肅清ヲ遂行セントス  
 三各部隊ノ擔任地域ヲ左ノ通り定ム

高部隊（歩兵第二團ノ五連）

第三區中嘉魚河以南五道溝左岸地區、特ニ長白縣八道溝流域  
 ヲ搜索スルヲ要ス

靖安支隊（治安隊及孫部隊ヲ屬ス）

第三區ヨリ高部隊擔任地域ヲ除キタル地區、特ニ辛力ヲ以テ  
 隨時游撃ニ任シ得ルヲ要ス

下元部隊

第二區中吳家營、水洞港、西南岔ヲ連ヌル線以東ノ地區

奥島部隊（歩兵第二團ノ一連ヲ高部隊ニ轉屬シ騎兵第四團ヲ屬ス）

下元部隊擔任地域以西ノ第二區、但關枝溝東方谷地ヲ除ク

邵部隊（歩兵第七團ノ二連）

關枝溝東方谷地

特選隊

東北岔吳家營等鐵道線路上匪ノ往來箇所ノ遮斷

## 富田 憲兵隊

四方頂子附近ノ捜査ヲ終ラハ主力ヲ以テ臨江ニ歸還シ臨江及其四周ノ檢索ニ從事ス

四前項以外ノ諸部隊ハ在撫松顧問ノ指揮ヲ受ケ撫松縣内ノ警備ニ任ス但高橋部隊ハ關枝瀧ノ守備ヲ歩兵第七團ト交代セシメ又騎兵第七團ノ主力ハ松樹嶺ノ守備ニ當ラシムルモノトス

兵各部隊ハ特ニ指示スルモノノ外各々有力ナル游撃部隊ヲ以テ擔任地域内ヲ游撃シ潜在匪首ノ捕縛ニ努ムルト共ニ散在家屋ノ破

却ヲ徹底的ニ遂行スルモノトス

但河谷、道路ノ沿線等將來集家ノ基點トナリ或ハ軍險宿營上利用價值大ナルモノハ之ヲ存置スルコトニ注意スルヲ要ス

討伐指導部長 佐々木 少 將

訓 示

本期討伐ノ重點ヲ臨嶽地區ニ指向シテヨリ未タ二個月ニ滿タス此間地區司令官以下各部隊將兵並直轄諸部隊ノ將兵競ウテ險難ヲ踏破シ祁寒ヲ冒シ一度敵ニ當ルヤ晝夜ヲ問ハス之ヲ發進シテ

假借スル所ナシ此ヲ以テ撫松、臨江、長白ノ三縣千百ヲ以テ算  
 セシ匪團一呼シ潛敗シ今ヤ餘喘奄々纒ニ山林ニ逃避彷徨シ其自  
 滅ヲ待チツツアルノミ  
 就中紅匪ノ巨頭王德泰ハ驍丘第七團同曹國安ハ靖安支隊ノ爲何  
 レモ殆ト確實ニ射殺セラレ撫松縣反滿匪ノ巨頭萬軍モ亦靖安支  
 隊工礦通ノ捕殺スル所トナリ巨魁トシテハ紅匪今日成反滿匪萬  
 頭ヲ剩スニ過キス近時彼等匪團ノ行動全ク統制ヲ失シ陽聲ノ耳  
 ルヘキモノ臺モ之ナク分散逸走ヲ是レ事トスルニ至レルモノ宜

ナリト謂フヘシ然レモ窮餘ノ匪徒ノ趨ク所ハ悉ク強盜殺人ノ一途ニシテ從來ノ假面ヲ放擲シ殘忍兇暴良民ヲ凌虐スルノ暴ニ甚シカルヘキハ想察ニ難カラス舊正月ノ目睫ニ漏レルニ於テ亦特ニ然リ即チ軍民一體此等群小強盜ヲ殲滅スルト共ニ速ニ潜在匪首就中金日成萬順等ノ巨魁ヲ捕獲シ禍害ヲ一掃スル正ニ好期ニ會セリ

思フニ今次討伐ニ於テ軍隊ニ課シタル任務行動ノ重且難ナルハ到底從來ノ比ニ非ス天候、地形、季節ノ齟ラセル勞苦ニ至リテ

ハ殆ト人ノ相察ヲ許ササルモノアリ而モ諸士ハ筭ツテ此等絶大ノ苦難ニ堪ヘ臺モ聲譽ヲ人ニ求ムルナクシテ其任務ノ完遂セサランコトヲ之ヲ恐レタリ是レ誠ニ國軍ノ精華ニシテ建軍五年練成ノ成果ハ今ヤ遺憾ナク之ヲ發揮シ得タリトイフヘシ

輩ハクハ諸士更ニ緊禪一番從來ニ於ケル成果ヲ益々擴充スルト共ニ今ヤ遁竄舉措ニ迷ヘル匪團ニ最後ノ一撃ヲ加ヘテ之ヲ徹底的ニ勦滅シ以テ國軍將兵カ天下ノ樂ニ務レテ樂ムノ膏ヲ中外ニ宣示セムコトヲ望ム

諸士夫レ之ヲ勉メヨ

康徳四年一月廿八日

討伐指道部長

佐々木 到 一

然ルニ臨撫街道以東ノ地區ニ逃竄セル匪團ハ二月初旬以來各討伐  
隊ノ徹底的な攻撃行動ニ依リ再度警網下ヲ脱出シテ臨撫街道沿線ニ  
進出シ糧秣補給隊ヲ襲撃セントスルノ形勢ニアルヲ以テ直ニ其重  
點ヲ該方面ニ指向セリ

各隊ハ二月十八日以來匪團ヲ索メテ淮擊中端安軍武内支隊ハ二十



二日遂ニ擬松南方約二十軒夾皮溝口附近ニ於テ東北人民革命軍周  
僞師長ノ率キル約三百ノ匪團ヲ追躡捕捉シ先遣隊タル清野連長以  
下三十四名ハ決死奮闘該匪ハ一大痛撃ヲ與ヘタルモ匪團ハ裝備優  
秀且地ノ利ヲ占メ頑強ニ抵抗セル爲後續部隊ノ來着ニ先キタチ遂  
ニ連長以下全員壯烈無比ノ戦死ヲ遂ク

此ノ危急ヲ知レル同隊工藤連長ハ戦友ノ戦死無念骨髓ニ徹シ該匪  
ヲ全滅セシメテ戦友ノ靈ヲ慰メント決意シ敢然之ヲ急追撃々奮迅  
猛攻ヲ續ケタルモ激戦半ニシテ猛勇工藤連長亦惜クモ兇彈ニ撃ル

ルニ至ル本戰鬪ニ於ケル剛連長ノ行動ハ誠ニ國軍ノ龜鑑ニシテ勦  
匪史上ニ一大光彩ヲ放チタルモノト謂フヘシ

之カ爲常時撫松ニ増援ノ爲南下シアリシ討匪行軍ニ最モ巧ナル第  
二軍管區敘道隊ノ劉東坡部隊及歩兵第十九團ヲ之ニ急撈セシメ以  
テ該匪ヲ西方谷地ニ潰走セシメタリ

國軍ハ先ツ此敵ヲ大夾皮溝西チ約十二軒八二〇附近ニ包圍殲滅セ  
ンコトヲ企圖シ諸隊ヲシテ之ヲ包圍セシメタルモ匪ハ我包圍網櫻  
ネ成ラントスル時竒ニ之ヲ脱出シテ龍崗山脈ニ沿ヒ東走ヲ企テタ

リ依テ諸隊ハ機ヲ失セス競フテ追撃ヲ敢行シ西楊木頂子附近ニ於  
 テ捕提シ再ヒ大鐵槌ヲ加ヘテ潰亂セシメタリ  
 濱作命第六九號

## 討伐指導部命令

二月二十二日午後四時  
 於臨江指導部

一 靖安軍武内支隊ノ勇戦ニ依リ臨撫街道西側ノ紅匪團ハ大ナル損  
 害ヲ受ケ大夾皮溝西方谷地ニ散逃シアルモノノ如シ  
 二 敵ノ敗勢ニ乘シ該匪ヲ大夾皮溝西方約十二軒八二〇附近ニ包圍  
 殲滅セントス

三 下元部隊（歩兵第四團第四連及迫撃砲排ヲ屬ス）ハ明二十三日  
早朝小湯河附近ヨリ北進シ八二〇方向ニ前進シ敵ヲ索メテ之ヲ  
撃滅スヘシ

特ニ二道花園溝附近ヨリ南下中ノ濠輝地區部隊ト連絡スルヲ要ス  
四 嶺東坡部隊長ハ歩兵第十九團ヲ併セ指揮シ大夾皮溝西方河谷ヲ  
急進シ敗退スル紅匪ヲ捕捉撃滅スヘシ

五 臨撫地區及濠輝地區部隊中現ニ南下中ノ諸部隊ハ速ニ六八二（大  
夾皮溝西方約八軒）ヨリ八二〇ニ亘ル線ニ急進シ敵ヲ捕捉スヘシ

2098

シ

六 高橋部隊ハ大登附近ヨリ小湯河附近ニ亘ル間ノ臨撫街道上ノ各

要點ヲ確保シ敵匪ノ東北走ヲ阻止スヘシ

討伐指道部長 佐々木 少 將

通電先

軍政廳、通化指道部、二軍廳

裁下一般ニ下達ス

5. 一方長白縣下ニ於テハ混成第二旅主力ノ増援ヲ楔機トシテ金日

成匪ノ徹底的勦討ヲ敢行シ該匪ノ復慮タル雪嶺峰附近ノ據寨ヲ

悉ク覆滅シ爲ニ該匪ノ主力ハ竊々トシテ北走ニ努メアル状態ナ

リ

上流ノ如ク臨、撫、長三縣下ニ於ケル諸匪團ハ四ヶ月ノ久シキニ亘

リ寧日ナキ不斷ノ徹底的勦討ヲ蒙リ今ヤ全ク四離滅裂

困窮其極ニ達シ纔ニ討伐軍ノ間隙ヲ彷徨シテ遁竄是レ

努メ我警備網薄弱ナル樺松東北方地帯ニ移動シ匪勢挽

回ノ企圖ヲ有シアルカ如ク即チ吳義成系匪團ニ在リテハ樺ネ萬兩鎮

(樺松北方約二十軒)及葦泥河子(樺松東方約三十軒)東北方山地

帯ニ蝟集シ該方面ノ木廠ヲ襲ヒテ糧道ノ入手ニ努メ且萬兩鎮附近村

落ヲ窺ヒアルカ如シ

又長白下縣ニ在リシ余日成系匪及曹國安殘匪ノ合流匪團ハ白頭山南

麓ニ走り爾後其西南方約二十軒（長撫縣境）雪嶺峰附近ノ據寨ニ據  
 リシモ長白警備部隊（混成第二旅主力其他）ノ徹底的掃蕩ニ遭ヒ遂  
 ニ之ヲ覆滅セラレ爲ニ其主力ハ逐次北方ニ移動セルカ如キモ一部ハ  
 尙附近ニ潜在沈黙ノ情態ナリ

臨江縣東（北）部地帯ニ於ケル肅正狀況ハ概ネ良況ニ准ミツツアリ  
 ト雖未タ愉安ヲ許ササルノ狀況タリ

#### 第六王鳳閣匪ノ討滅

#### 一、王鳳閣匪第二次討伐方針



國軍ハ一月中旬以後臨撫地區ヲ除ク各地區部隊ヨリ成シ得ル限りノ

185

兵力ヲ抽出シテ王鳳閣ノ潜在ヲ豫想スル輯安縣第四區附近及臨濛縣  
境附近ニ勦討檢索ノ重點ヲ指向シ王鳳閣ノ索出逮捕ニ全力ヲ傾倒ス  
ルト共ニ殘存小匪團ノ徹底的肅正ヲ期センカ爲左記命令ヲ下達シテ  
中部東邊道ノ治安確立ニ邁進セシメタリ  
滿作命第五〇號

命

令

於 康徳四年一月六日  
新京軍政部

第一軍管區司令官ハ別冊討伐指導計畫（臨撫地區ヲ除ク）ニ基キ計

2102

伐ヲ實施スヘシ

軍政部大臣 于 上 將

軍政部最高顧問 佐々木 少 將

下達法一印刷セルモノヲ交付ス

第二次討伐計畫（臨撫地區ヲ除ク）

康徳四年一月六日  
軍政部討伐指導部

第一方針

軍ハ臨撫地區ヲ除ク各地區討伐隊ヨリ成シ得ル兵力ヲ抽出シテ王

鳳閣ノ潜在ヲ豫想スル輯安縣第四區附近臨江縣境及臨江、濛江縣

境附近ニ勦討檢索ノ重點ヲ指向シ匪首王鳳閣ノ索出逮捕ニ全力ヲ傾倒スルト共ニ小匪團ノ徹底的潰滅ヲ期ス

第二指道要領

一 軍隊區分

龍安南部地區（韓南地區ト略稱ス）

司令官

陸軍中將

張

益

三

安東地區司令部

混成第一旅

索混成旅

舊輯安地區司令部及各旅配屬部隊原ノ如シ

輯安北部地區（鐵北地區ト略稱ス）

司令官

陸軍少將

高

明

混成第二旅

歩兵第十六團

配屬部隊原ノ如シ

金柳地區

司令官

陸軍少將

董

國

華

混成第六旅 (歩兵第七團、歩兵第六團第一營本部及第一、第三連)  
騎兵第九團、移動無電臺ヲ缺ク)

騎兵第三旅 (騎兵第十六團ヲ缺ク)

第三教道騎兵團

配屬部隊原ノ如シ

濛輝地區

司令官

陸軍中將

廖

弼

宸

奉天地區司令部

混成第五旅 (騎兵第八團ヲ缺ク)

歩兵第六團第一營（第二連及第一機關銃連ヲ缺ク）

混成第十四旅（臨撫地區ニ配屬シアル部隊ヲ除ク）

配屬部隊原ノ如シ

直轄部隊

第一教導隊（移動無線一ヲ屬ス）

歩兵第七團

騎兵第九團（通化治安隊ヲ屬ス）

混成第一憲兵隊

總豫備隊

騎兵第十六團

ニ各地區部隊ノ配備要領竝ニ任務

ノ嶺南地區討伐隊

輯通兩縣境大壺溝山一將軍墳ヲ連ヌル線以西ノ龍安縣（歡喜

嶺ヲ含マス）内ヲ擔任地域トシ地區内勦匪檢索ノ重點ヲ尙團

長匪及舊王鳳閣根據地方向ニ指向シツツ特ニ憲兵隊ト協力シ

テ擔任地區内ノ雜匪ノ索出根絶ヲ期スルニ在リ

尙匪情ニ依リ桓仁縣、寬甸縣東部地區並通化縣西南部地區ニ  
出警セシム

特ニ索混成旅司令部ハ青濛子又ハ台上附近ニ位置スルヲ要ス

## 2. 輯北地區討伐隊

司令部ヲ輯安縣第四區三道溝附近ニ位置シ主トシテ輯安縣第

四區及通化縣第二、第三區中歡喜嶺、氷濛子、藍泥塘子溝門、

二道溝門、樹重嶺（含ム）ヲ通ヌル線以南ノ地區ヲ擔任地域

トシ兵力ノ重點ヲ輯安縣第四區（錯草溝ヲ含ム）ニ配置シ勦



匪、檢索ノ重點ヲ臨輯兩縣境ニ指向シ特ニ肅兵隊トノ協同ヲ  
193

密ナラシメ擔任地區間ノ潛在匪ノ徹底的消滅ヲ期ス

尙一部ヲ以テ王鳳閣匪舊根據地ノ檢索檢舉ヲ依然續行スルヲ

要ス

歩兵第十六團ハ主トシテ通化縣内ニ配置ス

### 3. 金柳地區討伐隊

擔任地域従前ノ通りトス

金川、柳河兩縣内ノ匪團ノ索出特ニ濛、臨縣境舊紅軍根據地

ノ搜索ニ任スルト共ニ清原、興京縣境附近ノ匪團侵入防止ニ  
努ムルノ外積極的ニ出撃セシム

尙梅通線建設掩護ノ爲メ特ニ留意セシム

混成第六旅配屬ノ移動無線一ヲ第一教道隊ニ轉屬セシム

々濛輝地區討伐隊

擔任地域ハ松樹嶺、頭道岔、老嶺（含ム）ヲ連ヌル線以北濛

江縣及輝南縣全部トス

司令部ヲ頭道花園附近ニ位置シ混成第五旅部隊ヲ努メテ二道

花園、白漿河以南ニ配置シ步兵第七團及第一教道隊ト密ニ協  
 カシテ勦討檢索ノ重點ヲ濛臨縣境ヨリ匪團ノ侵入ヲ防止スル  
 ト共ニ濛江―撫松道ノ掩護ニ任セシム  
 混成第十四旅（臨撫地區ニ配屬シアル部隊ヲ除ク）ハ一部ヲ  
 輝南縣内ニ殘置シ主力ヲ濛江縣第一、二、四區ニ配置シ步兵第六  
 團第一營部隊ト共ニ同地區及輝南縣ノ治安ニ任ス  
 特ニ吉林省境及撫松縣境ヨリスル匪團ノ逃入ヲ防止セシム尙  
 一部ヲ以テ朝陽鎮、輝南、濛江道ノ掩護ニ任セシム

## 5. 直隸部隊

## ◎ 第一教導隊

隊本部ヲ紅土崖附近ニ位置シ通化縣水溝子、蔭泥塘子溝門

二道溝門、掛重嶺（含マス）以北ノ第二三區、臨江縣第五

六七八區ヲ擔任地域トシ特ニ勦匪檢索ノ重點ヲ蟬、臨縣境

北方老嶺山脈及濛臨縣境ニ指向シ憲兵隊、歩兵第七團、混

成第五旅部隊ト密ニ連繫シ潛在匪ノ徹底的潰滅ヲ期ス

尙一部ヲ大板石溝、黑疇子溝ノ要點ニ配備シ混成第六旅部

隊ト連繫シ金、臨縣境ニ匪團ノ潛入ヲ防止ス

◎歩兵第七團

團本部ヲ臨江縣城若クハ三隊附近ニ位置セシメ臨江第一、四區及濛江縣灣口附近（松樹嶺、頭道岔、老嶺（含マス）ヲ連ヌル線以南ノ濛江縣）ヲ擔任地域トシ勦匪檢索ノ重點ヲ臨縣縣境及老嶺山中ニ指向シ第一級道險、混成第二旅及第五旅部隊ト密ニ連繫シ濬在匪ノ徹底的索出討伐ヲ實施ス

特ニ臨縣街道方面ヨリスル匪團ノ移動侵入ノ顯慮アルニ鑑

ミ之カ防遏迎撃ノ準備ニ遺憾ナカラシム

◎ 騎兵第九團

第二第三區ヲ除ク通化縣（縣城ヲ除ク）ヲ擔任地域トシ英  
 歌布、大泉源（含マス）ヲ連ヌル線以東ノ地區ニ兵力ヲ配  
 置シ縣内ノ治安ニ任ス特ニ一ヶ連ヲ于濛子、二密河附近ニ  
 配置シ梅通鐵道線ノ建設掩護ニ任セシム  
 又治安隊一ヶ連ヲ富爾江口ニ配置シ桓、輯、通、三縣境附  
 近ノ治安ニ任セシム

大泉源、三椏、楡樹ニ駐屯スル日軍トハ連繫ヲ密ニシ特ニ東京、桓仁縣境ヨリスル匪團ノ動靜ニ着意シ要スレハ積極的ニ出撃セシム

◎混成第一憲兵隊

部隊ノ配置ハ隊長計畫ノ下ニ統一使用シ依然王鳳閣匪ノ檢索ニ重點ヲ指向スルト共ニ特ニ各部隊トノ緊密ナル協調連繫ニ着意シ必要ニ應シ其一部ヲ配屬スルコトアルヲ豫期スルヲ要ス

◎總豫備隊

騎兵第十六團

通化縣城ニ駐在シ總司令部及指導部ノ警護ニ任スルト共ニ

各種機關ト協力縣城附近ノ警備ニ任ス

三 討伐實施要領

討伐實施ハ康德三年度務期討伐實施要領ニ進據スヘシ

三 王鳳閣逮捕ノ概況

一 王鳳閣ハ秋季討伐末期以來腹臣ノ部下數十名（一時八十數名ノコ



トアリシヲ率ヒテ我討匪陣ノ間隙ヲ巧ニ潛リ最近ニ於テハ紅軍匪  
ナリト宣傳シテ我搜索ノ銳鋒ヲ避ケ爲ニ其所在杳トシテ判明スル  
ニ至ラサリシカ二月初旬頃諸情報ヲ綜合スルニ彼ハ依然舊根據地  
帶ニ潛存シアルコト略確實トナリ討伐諸隊ハ大ニ活氣ヲ呈スルニ  
至リ

殊ニ八道瀋方面ニ在リテ約五ヶ月間王鳳閣ノ索出ニ奮闘セル橋本  
憲兵連ハ愈々至嚴ナル諜報網ヲ構成シ彼ノ所在確認ニ努力セリ

ス。斯クシテ三月十六日及二十二日ノ兩日ニ百り歩兵第十六團部隊ニ

於テ王鳳閣ノ部下二名及韃連長匪ノ妻二名ヲ逮捕シ調査セシ結果  
 王鳳閣ハ二月初旬以來腹臣ノ部下ト共ニ老虎山山寨ヲ脱出西走シ  
 目下關頭溝裡標高一一五〇又ハ九五三附近ノ山寨ニ潛伏シアルコ  
 ト確實トナルニ至レリ

依テ二十二日歩兵第十六團主力ハ關頭溝裡方面ヨリ、橋本齋兵連  
 ハ果松川溝裡方面ヨリ索混成旅ノ一部ハ歡喜嶺方面ヨリ、歩兵第  
 一團主力ハ南方ヨリ之カ包圍攻撃ヲ開始セルカ歩兵第十六團ハ同  
 夜關頭溝裡標高六六〇北方小流ノ線ニ於テ王匪ト遭遇激戦ノ後北

方一一二〇高地方向ニ撃退之ヲ追躡ス

同隊ハ翌二十三日一一二〇附近一帯ヲ嚴ニ搜索セルモ降雪著シキ  
爲一時匪跡ヲ失フニ至レリ

該匪ハ廿三日來咫尺ヲ辨セサル降雪ヲ奇貨ニ我警戒網ヲ濳リテ羊

群濼（八道溝北方）北側ヲ經テ東走再ヒ老虎山方面ニ遁走（橋本

壽兵連ニ隆賜セル王鳳閣部下ノ供述）セルヲ知り第十六團ハ極力

其匪跡ヲ追躡スルコト四晝夜遂ニ二十五日夜老虎山西北方十軒一

三一〇高地北側ニ於テ之ヲ捕捉シ激戰一晝夜ニ及ヒシカ匪ハ二十

十六日夜半密ニ脱逸北方ニ逃走セリ

々指導部ハ前記情勢ニ依リ機ヲ失セス左ノ如ク諜隊ヲ部署シテ彼匪ノ逮捕ニ努メシメタリ

(イ) 程游撃隊ヲ速ニ第十六團ノ戦鬪ニ参加セシム

(ロ) 紅土崖ニアリシ紮道歩兵第一團ノ各一部ヲ酋老嶺及其東西頭道

陽岔、小南岔ニ淮出セシメ匪ノ北走防止ニ當ラシム

(ハ) 騎兵第五團ヲ老虎山附近ニ急進セシメテ匪ノ同方面滲入ヲ阻止

セシム

(二) 索混成旅及歩兵第一團ヲシテ匪ノ西南走防止ニ努メシム

(六) 通化治安隊（相馬上尉ノ指導スル五〇名）ヲ戰鬪地ニ急派シ歩

兵第十六團長ノ指揮ニ入ラシム

(七) 古岳混成第一憲兵隊長ヲシテ匪ノ突出檢舉行動ニ遺憾ナカラシ

ム

5. 二十六日夜半北走セル王匪ハ我濃密至嚴ナル包圍網ニ依リ之ヲ突

破シ得スシテ更ニ反轉西走ス

諸隊ハ相互連絡ヲ密ニシ一意包圍網ヲ縮少急迫セルニ二十七日朝

來王鳳閣港（六道溝東方六軒）附近ニアリシ程游撃隊ノ山口連ハ  
午後一時半頃匪ノ退路遮斷之ヲ包圍攻撃シ其一部ハ敢然匪中ニ突  
入遂ニ首魁王鳳閣及其妻ヲ逮捕ス追撃隊モ亦二十數名ヲ捕殺シテ  
茲ニ全ク王鳳閣主力匪團ヲ討滅スルニ至レリ

建國以來東邊ノ地ニ獨立王國ノ夢ヲ結ビ暴戾餽クナキ鬼行ヲ續ケテ無  
辜ノ庶民ヲ塗炭ノ苦ニ呻吟セシメタル反滿抗日ノ巨魁王鳳閣モ上述ノ  
如ク國軍討伐開始以來約半歲之ヲ主要目標トシテ幾多將兵ノ犠牲ヲ顧  
ミス凡百ノ苦艱ヲ嘗メ銳意其捕獲殲滅ニ邁進セン結果關東軍年度肅正

計畫第三期ノ末終ニ於テ其目的ヲ達成シ茲ニ中部東邊道ニ帶狀的明朗  
地帶ヲ確立シ得タルハ國家ノ爲慶祝ニ堪ヘサルト共ニ今期討伐ニ參加  
シ陣没セル幾多ノ英靈竝戰傷者ニ對シ深甚ナル敬意ト哀悼ノ意ヲ被歷  
シ以テ益々東邊道治安確立ニ奮闘セシコトヲ期シツツアリ

#### 第七治 安 工 作

關作命第九三五號關東軍命令ニ基ク北部東邊道特殊治本工作ニ關シテ  
ハ別途之ヲ報告ス

#### 第八討伐ノ成果

2124

之ヲ要スルニ討伐初期ニ於テハ滿軍獨力ヲ以テスル討伐ノ成果ニ多少ノ疑念ヲ挾ムモノナキニアラサリシモ之ヲ實施ノ跡ニ徴スルニ既述ノ如ク建國以來營々トシテ改善整備シ來レル國軍ノ眞價ヲ遺憾ナク發揮シテ絶大ノ成果ヲ收メ内國家ノ負托ニ致ヘ外友邦ノ信賴ヲ厚フスルヲ得タリ

此成績ニ鑑ミ益々國軍ヲ淨化整備スルト共ニ之ヲ訓練強化シテ平戰兩時ヲ問ハス獨力國內ノ治安ヲ確保シ得ルニ至ラシメンコトヲ期ス  
 秋冬兩季討伐ノ綜合成果ヲ示セハ附録第七、第八ノ如シ



## 其三、所見

## 一、満軍ノ價值

約半歳ニ亘ル本次討伐ヲ通觀スルニ局所且一時的ニハ舊來ノ私弊ヲ尙繰返スモノ或ハ戰鬥意志薄弱ニシテ能力亦不十分ナルモノ等ナキニアラスト雖全体ヨリ云ヘハ極メテ小數ニシテ之ヲ數年前ノ満軍ト比較セハ其滯淨化セル點ニ於テモ其戰鬥能力ノ増大セル點ニ於テモ實ニ隔世ノ感アリテ建國以來關東軍カ現役將校ヲ顧問トシ孜孜營々トシテ改善ニ改善ヲ加ヘ來レル努力ハ報ハレタリト云フヘシ

之ヲ以テ之ヲ看ルニ滿洲國內治安ノ肅正維持ニ滿軍ノミヲ以テ足レ  
リトスルノ日亦決シテ遠キニアラス  
尙滿軍ノ價值判斷ニ關シテハ別ニ報告ス

### 二、日系指導者ノ必要

本次討伐ニ於テ豫期以上ノ成果ヲ收メ得タルハ滿軍自体ノ進歩セル  
ニ因ルコトハ勿論ナリト雖之ヲシテ十分其能力ヲ發揮セシムル原動  
力カ依然トシテ日系指導者ニアルハ忘ルルヘカラサル事ニ屬ス  
本次討伐ニ於テ現地ニ成シ得ル限り多クノ顧問ヲ配置シ且其補助者

トシテ軍事勲官及日系軍官ヲ多數參加セシメタリ

此指遣力ノ強化カ滿軍自体ノ進歩シアリシコトト相扶ケテ好成績ヲ收メタルモノナルハ現地ノ事情ニ詳シキモノノ一致セル意見ナリ

### 三 滿軍ニ對スル信賞必罰ノ效果

本次討伐ニ於テハ部隊及個人ノ行動ニ對スル査察ヲ嚴密ニシ苟ヒ表彰ニ値スルモノハ大臣、軍管區司令官其他ノ褒狀、賞詞ヲ與ヘ賞金ヲ授與スル外新ニ制定ナル武功章ノ現地即給ヲ勵行シテ士氣ノ高揚ニ努メ主要目標タル匪首ノ捕殺ニ賞金ヲ懸クル等將兵ノ心理ニ投ス

ル手段ハ擧ケテ之ヲ用ヒ大ニ效果ヲ收ムルコトヲ得タリ

此ノ如ク功アリテ賞セラレサルモノナカラシムル一方將兵ノ非違ニ對シテハ假借スルコトナク之ヲ罰セリ特ニ滿重下級者就中通譯ニシテ討伐ノ際通匪行爲ニヨリ利ヲ求ムルモノアルヲ舊來ノ習慣トスルニ鑑ミ討伐當初某部隊ニ此類犯行アルヤ直ニ之ヲ嚴重処分ニ附スルト共ニ急襲的ニ全軍ニ對シ兵器検査ヲ行ヒ其出納ヲ明確ナラシメ且滿重憲兵ヲ以テ監視セシメタル結果爾後通匪的行爲ノ跡ヲ絶ツニ至レリ

## 四給與ヲ適切ナラシムルノ必要

軍餉ハ過去ニ於テハ討伐ノ際掠奪、不拂等ノ非違行爲ヲ爲スモノ歟  
 カラサリシカ爲一般民衆ハ時トシテ軍餉ヲ恐レ反ツテ匪賊ニ頼シム  
 ノ風アリテ勦匪工作ニ不便多カリシニ鑑ミ本次討伐ニ於テハ討伐開  
 始ニ先タ子爵ニ之ヲ戒メ軍紀ノ確立ヲ圖リタルモ尙其原因タル給與  
 ノ補給ニ最大ノ注意ヲ拂ヒタル結果討伐抽帶内ノ土民ハ從來ノ軍給  
 ニ關スル觀念ヲ一變シ克ク滿軍ニ信賴スルニ至レリ  
 之レ治本工作ト相俟テ匪民ノ限界ヲ漸次田墾ニシ討伐ニ多大ノ便ヲ

與ヘタリ

五 討伐ト治本工作トノ密接ナル連鑿ノ必要

本次討伐ニ於テハ討伐ニ密接シテ治本工作ヲ實施シ兩者克ク緊密ニ連鑿セルヲ以テ獨リ匪民ヲ分離シテ討伐ヲ容易ナラシメサルノミナラス勦匪ノ效果ヲ大ナラシメ得タリ

六 滿軍憲兵ノ長所

本次討伐ニ於ケル軍民ノ淨化匪賊ノ檢索ニ滿軍憲兵ヲ使用セリ

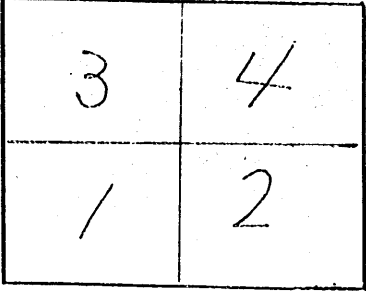

滿軍憲兵ハ言語風俗ノ關係上民衆ト何等ノ錯誤ヲモ發生スルコトナ

ク各種ノ工作ヲ實施スルコトヲ得テ大ナル效果ヲ擧ケタリ

七 日系者ノ犠牲的活動

日系者ノ犠牲的活動カ部隊ノ士氣ヲ作興シテ戰勝ノ端ヲ開キタル例  
 ハ本次討伐ニ於テ頗ル多シ誠ニ日系者ノ本分ヲ遺憾ナク發揮セルモ  
 ノト云フヘシ唯此等犠牲トナレル日系者ニ對スル日本側ノ待遇ハ日  
 滿不可分ノ關係ニ鑑ミ十分ナラス將來速ニ方法ヲ講スルヲ要ス

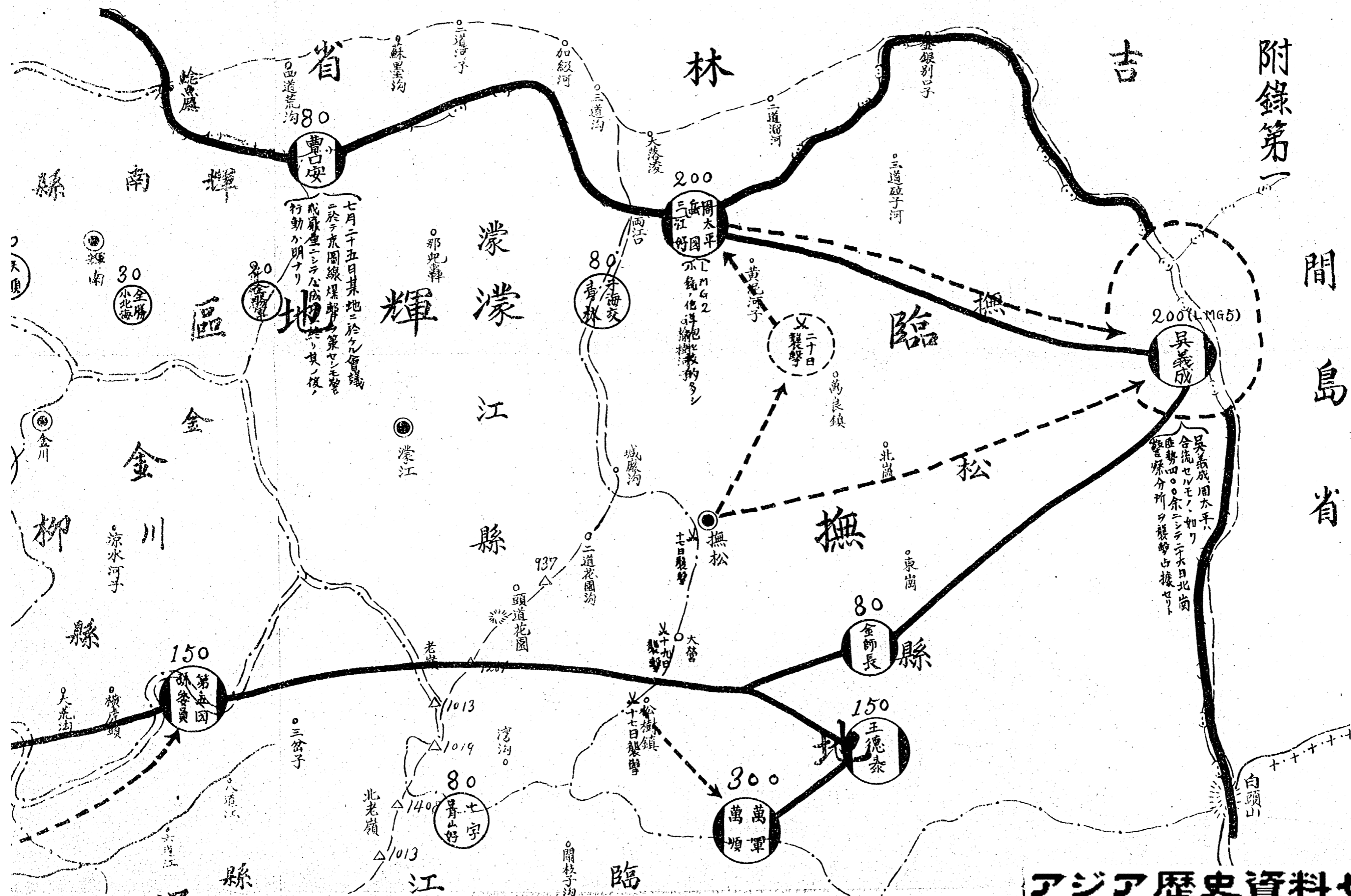
# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A 3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>8 年 10 月 15 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>	



# 北東部邊道方面匪賊分

昭和十一年八月下旬に於ける



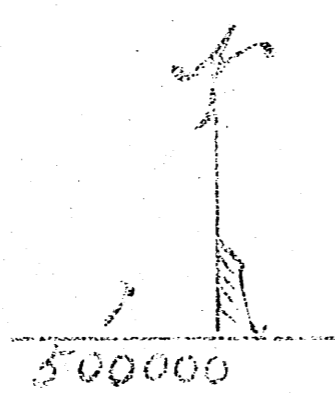
附錄第一

間島省

# 圖布分賊匪面方

八月下旬二日於

2133



80 成天保軍  
長海軍

60 德海交  
占

80 成天保軍  
長海軍

遼河源

海龍

海

沙河口

龍

縣

100 占東垣  
南北合

50 雙勝

50 天順  
海屯

30 全勝  
小北海

80 金川

七月二十五日某地ニ於ケル會議  
ニ於テ京圍線煤礦等ノ策ヤシモ整  
成蘇魯ニシテ成ニ其ノ後、  
行動ハ明ナリ

區

地

30 正明山

100 金山好

60 復山屯  
草山屯

40 順天軍  
牛里屯

60 振國

40 保口軍  
得林

南雜木

營盤

清原

20 金山

縣

原

清

70 海山

縣

40 老長青  
青山

柳

100 得勝軍  
謝老師  
常山好

金川

金川

金

凉水河子

柳

地

河

柳河

150 第五團  
孫委員

馬占元

浦

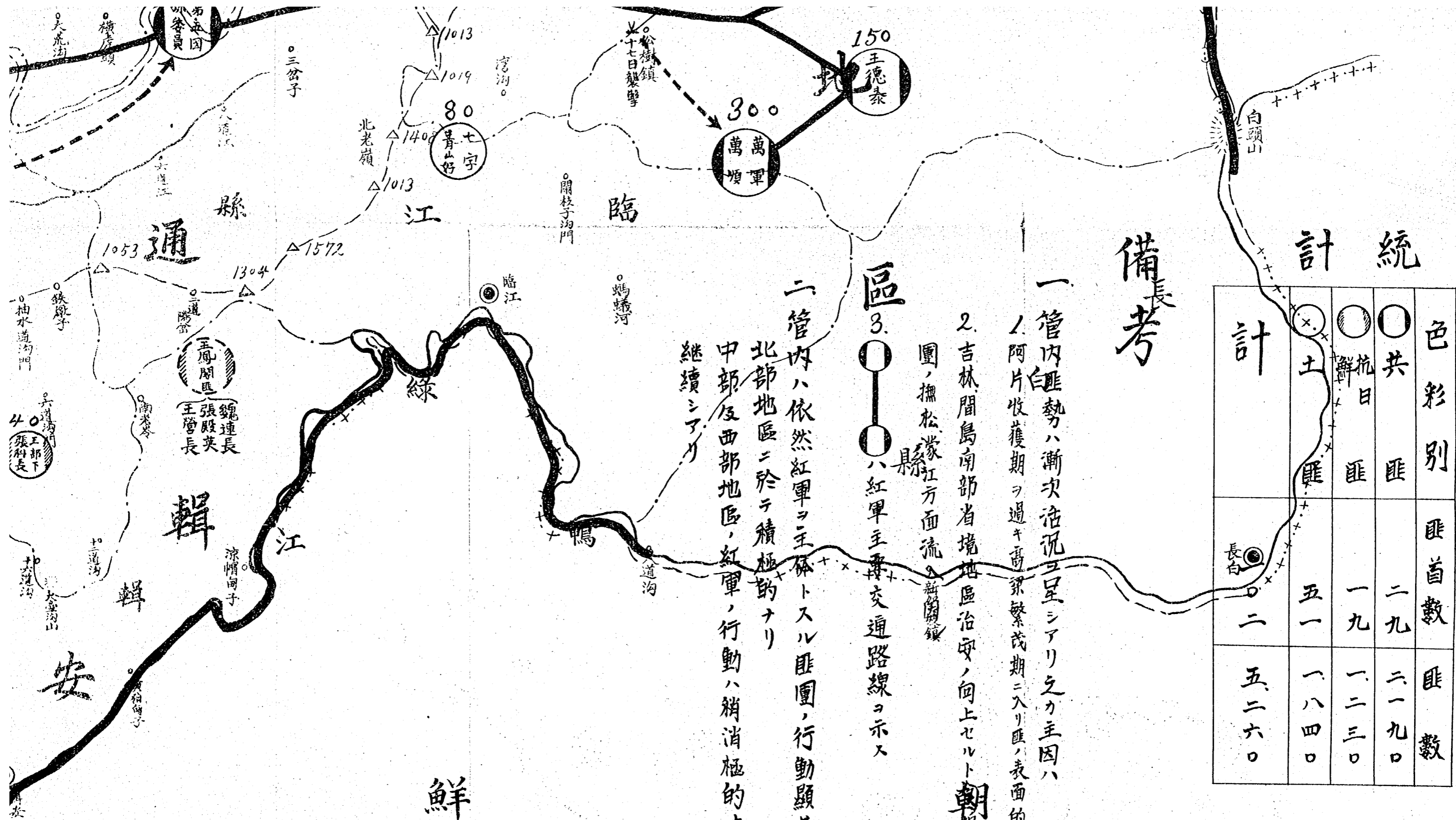
三岔子

北老嶺

100

興

40 興京



備考

統計

計	色彩別			匪首數	匪數
	○	●	×		
共匪	二九	一九	二	二九	二一六〇
抗日匪	一九	一八四〇	五	一九	一八四〇
土匪	二	一	五	二	五二六〇

一 管内匪勢ハ漸次活況ヲ呈シアリ之カ主因ハ

1. 阿片收穫期ヲ過キ高利貸繁茂期ニ入り匪ハ表面的活況活潑トナリタルコト

2. 吉林、閩島南部省境地區治安ノ向上セルト朝鮮糧欠乏ニ伴ヒ該地區匪

團、撫松、蒙江方面流シ延開鎮

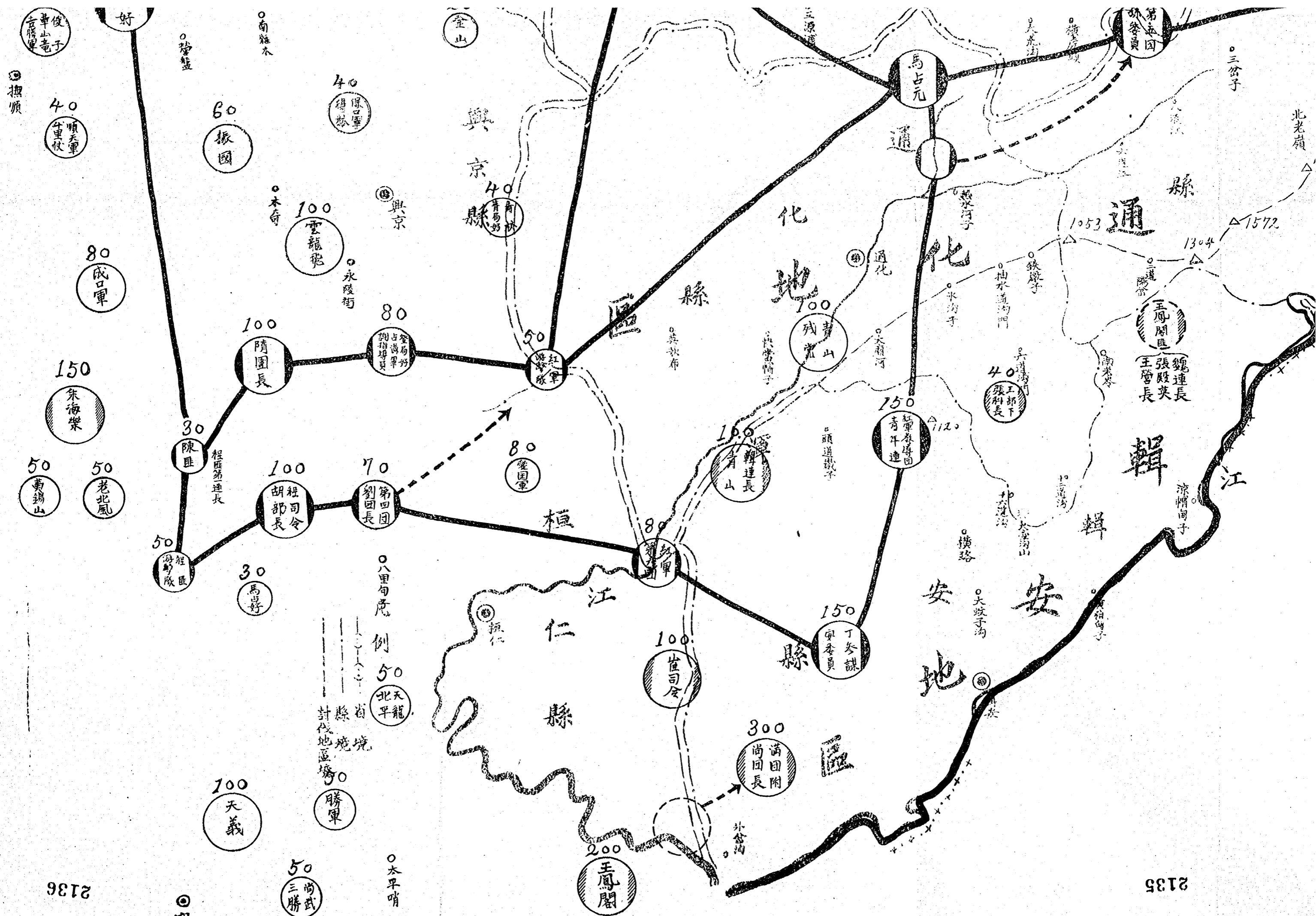
區 3. ○●ハ紅軍主導交通路線ヲ示ス

二 管内ハ依然紅軍ヲ主體トスル匪團、行動顯著ニシテ殊ニ東邊道東

北部地區ニ於テ積極的ナリ

中部及西部地區、紅軍、行動ハ稍消極的ナルモ地下工作ハ依然

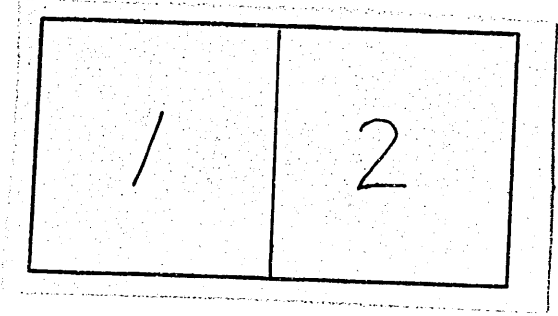

繼續シアリ



2136

2135

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>8 年 10 月 15 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>	

昭和十一年度第二期肅正工作ニ伴フ滿軍輸送計畫一覽表

昭和十一年八月卅一日  
軍政部顧問部

部 隊	區 分	目的地	發着驛	輸送數量	摘要	第一軍管區																	
						步兵第三團	混成司令部		旅第四團		騎兵司令部		第三騎兵旅		混成司令部		靖安軍						
		九月十一日	自鳳凰城 至朝陽鎮	人員 將校 下士以下 馬匹 約 五〇〇 材料 約 二車輛																			
		九月十六日	自營口 自海城 至朝陽鎮	人員 將校 下士以下 馬匹 約 五〇〇 材料 約 二車輛																			
		九月廿一日	自遼源 至梅河口	人員 將校 下士以下 馬匹 約 五〇〇 材料 約 一車輛																			
		九月廿一日	自新民 至梅河口	人員 將校 下士以下 馬匹 約 五〇〇 材料 約 一車輛																			
		九月廿一日	自滿陽 至山城鎮	人員 將校 下士以下 馬匹 約 五〇〇 材料 約 一車輛																			
		九月廿一日	同 右	人員 將校 下士以下 馬匹 約 五〇〇 材料 約 一車輛																			
		九月廿一日	同 右	人員 將校 下士以下 馬匹 約 五〇〇 材料 約 一車輛																			
		九月廿四日	同 右	人員 將校 下士以下 馬匹 約 五〇〇 材料 約 一車輛																			
		九月廿四日	同 右	人員 將校 下士以下 馬匹 約 五〇〇 材料 約 一車輛																			
		九月三十日	自齊齊哈爾 至山城鎮	人員 將校 下士以下 馬匹 約 五〇〇 材料 約 一車輛																			
		九月廿六日	自克山 至朝陽鎮	人員 將校 下士以下 馬匹 約 五〇〇 材料 約 一車輛																			
		九月廿五日	自錦州 至朝陽鎮	人員 將校 下士以下 馬匹 約 五〇〇 材料 約 一車輛																			



考 備	軍 政 部		第 五 軍 管 區		第 三 軍 管 區		靖 安 軍		第 一 軍 管 區		第 一 軍 管 區		第 一 軍 管 區			
	國 都 憲 兵 隊	一 連	索 混 成 旅	第 五 憲 兵 隊 一 連	混 成 第 十 四 旅	混 成 教 導 旅	第 一 憲 兵 隊 一 連	步 兵 一 團	騎 兵 一 團	第 一 教 導 隊	混 成 第 五 旅	第 三 旅	第 十 七 團 騎 兵	第 十 六 團 騎 兵	騎 兵 部	
一、本表ノ輸送數量ハ概數ナルヲ以テ實際輸送時ニハ多少ノ増減ハ免 レス	九月廿六日	九月廿五日	九月廿六日	九月三十日	九月廿四日	九月廿四日	九月廿一日	九月廿一日	九月廿一日	九月廿一日	九月廿一日	九月廿一日	九月廿一日	九月廿一日	九月廿一日	
	自新 京	自新 京	自承 州 德	自承 州 德	自克 山	自克 山	同 右	同 右	同 右	同 右	自潘 陽	自昌 圖	自新 民	自遼 源	自遼 源	
	至山城鎮	至山城鎮	至山城鎮	至山城鎮	至山城鎮	至山城鎮	同 右	同 右	同 右	同 右	至山城鎮	至梅河口	至梅河口	至梅河口	至朝陽鎮	
	馬匹 人員	馬匹 人員	馬匹 人員	馬匹 人員	馬匹 人員	馬匹 人員	馬匹 人員	馬匹 人員	馬匹 人員	馬匹 人員	馬匹 人員	馬匹 人員	馬匹 人員	馬匹 人員	馬匹 人員	
	將校 下士 以下	將校 下士 以下	將校 下士 以下	將校 下士 以下	將校 下士 以下	將校 下士 以下	將校 下士 以下	將校 下士 以下	將校 下士 以下	將校 下士 以下	將校 下士 以下	將校 下士 以下	將校 下士 以下	將校 下士 以下	將校 下士 以下	
	約五〇三	約五〇三	約五〇三	約五〇三	約五〇三	約五〇三	約五〇三	約五〇三	約五〇三	約五〇三	約五〇三	約五〇三	約五〇三	約五〇三	約五〇三	
	若干	若干	若干	若干	若干	若干	若干	若干	若干	若干	若干	若干	若干	若干	若干	

四平街ニテ全部連結  
スル如ク取計ハレ度  
シ

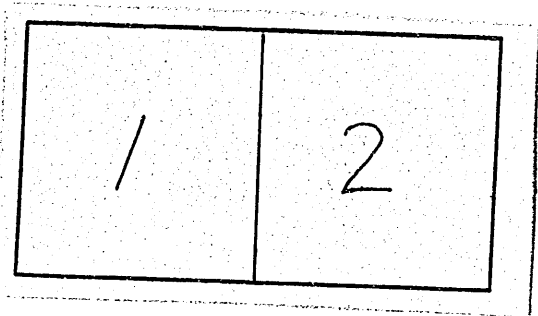

北部東邊道秋季討伐職員表

全	河崎大佐	石井少佐	田中(信)中佐	下山大佐	友浦上尉	三浦上尉	渡邊上尉	坂元上尉	井上上尉	星上尉	小田上尉	麻生上尉	相良囃託	漆原中佐	芳賀少佐	小山主計正	稻富主計正	嘉悦軍醫正	仲軍醫正	古岳中校	福島中校	信井崎中校	官撫驚崎事務官	
討伐指導部																								
第一軍管區行營司令部	于上將	司令官																						
參謀長	于上校	李少尉	王上尉	孟上尉	楊少尉	王(專屬)中尉	張鴻中尉	胡啓中尉	郭新元	成福綠	金伯堅	戴龜齡	劉萬育	吳自榮	韓奎遠	孫奎九	村田軍需上尉	池田軍醫少校	高島中尉	石島上尉	渡根中尉	會根中尉	白殿中尉	駱士邦
各隊	混合旅	混合旅	混合旅	混合旅	混合旅	混合旅	混合旅	混合旅	混合旅	混合旅	混合旅	混合旅	混合旅	混合旅	混合旅	混合旅	混合旅	混合旅	混合旅	混合旅	混合旅	混合旅	混合旅	混合旅
隊	下元中佐	高橋中佐	望月中佐	奧島中佐	秋山少佐	飯塚中佐	駒井中佐	兒玉中佐	龜田中佐	永田中佐	大木中佐	佐藤少佐												

昭和十一年十月一日調  
軍政部通化討伐指導部



# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A 3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>8 年 10 月 15 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>	

北東邊道秋季討伐軍區分

2140

討伐指導部

第一軍管區司令部

臨撫地區司令部

輯安地區司令部

通化地區司令部

金柳地區司令部

濛輝地區司令部

直轄部隊

混成第三旅

- 步兵第三團
  - 第一營 第一、二、三連機連
  - 第二營 第四、五、六連機連

混成第四旅

- 步兵第四團
  - 第一營 第一、三連機連
  - 第二營 第四、五、六連機連(第五連欠一排)
- 騎兵第七團
  - 第一、二、三連

混成第一旅

- 步兵第一團
  - 第一營 第一、二、三連機連
  - 第二營 第四、五、六連機連
- 騎兵第四團
  - 第一、三連機連

混成第二旅

- 步兵第二團
  - 第一營 第一、二、三連機連
  - 第二營 第四、五、六連機連
- 騎兵第五團
  - 第一、二、三連

靖安軍

- 步兵第一團
  - 第一營 第一、二、三連機連
  - 第二營 第四、五、六連機連
- 步兵第二團
  - 第一營 第一、二、三連機連
  - 第二營 第四、五、六連機連
- 騎兵團
  - 第一、二、三連機連

第一教導隊

- 步兵第一團
  - 第一營 第一、二、三連機連
  - 第二營 第四、五、六連機連
- 步兵第三十三團
  - 第一營 第一、二、三連機連
  - 第二營 第四、六連機連
- 步兵第三十一團
  - 第一營 第一、二、三連機連
  - 第二營 第四、六連機連
- 教導步兵第五團
  - 第一營 第一、二、三連機連
  - 第二營 第四、五、六連機連
- 教導騎兵隊
  - 第一、二連

混成第六旅

- 步兵第六團
  - 第一營 第一、二、三連機連
  - 第二營 第四、五、六連機連
- 騎兵第九團
  - 第一、二、三連
- 騎兵第十六團
  - 第一、三連機連(欠一排)連
- 騎兵第十七團
  - 第一、二、三連機連(欠一排)連

第三教導隊

- 步兵第十六團
  - 第一營 第一、二、三連機連
  - 第二營 第四、五、六連機連
- 教導騎兵第三團
  - 第一、二、三連

混成第五旅

- 步兵第五團
  - 第一營 第一、二、三連機連
  - 第二營 第四、五、六連機連
- 騎兵第八團
  - 第一營 第一、二、三連
- 步兵第十七團
  - 第一營 第一、二、三連
  - 第二營 第四、五、六連
- 步兵第十九團
  - 第一營 第一、二、三連機連
  - 第二營 第四、五、六連機連
- 騎兵第三分隊
  - 騎兵連

步兵第七團

- 第一營 第一、二、三連機連
- 第二營 第四、五、六連機連

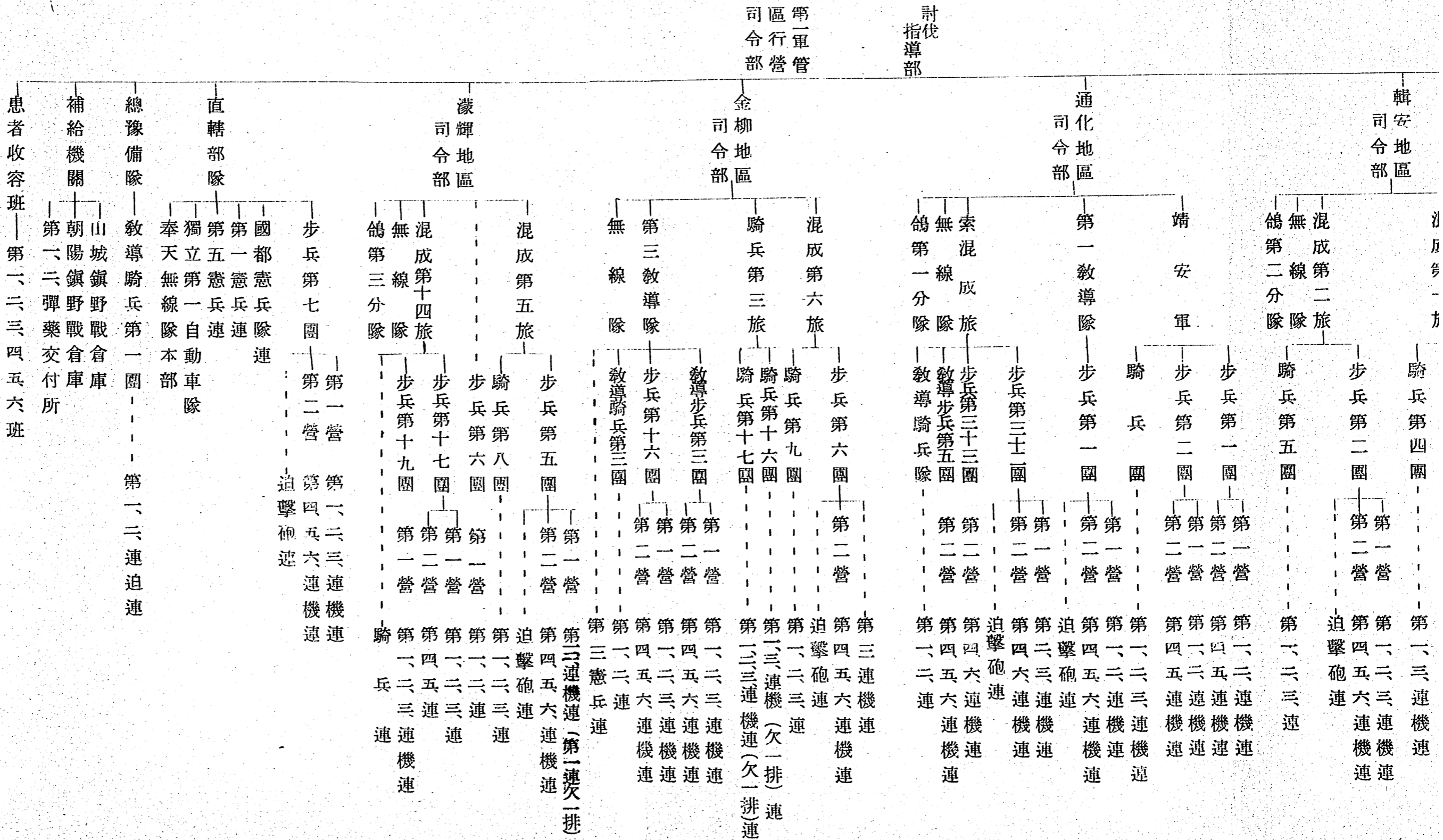
國都憲兵隊連

- 第一憲兵連
- 第二憲兵連
- 第五憲兵連

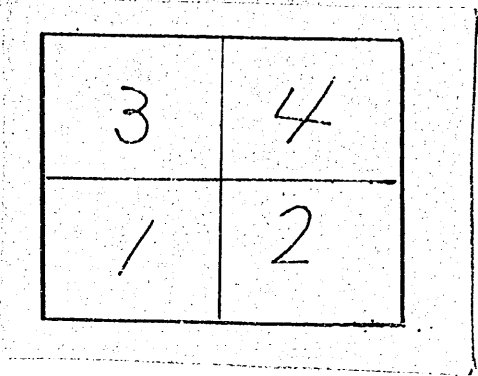

北東邊道秋季討伐軍區分

2140

2141

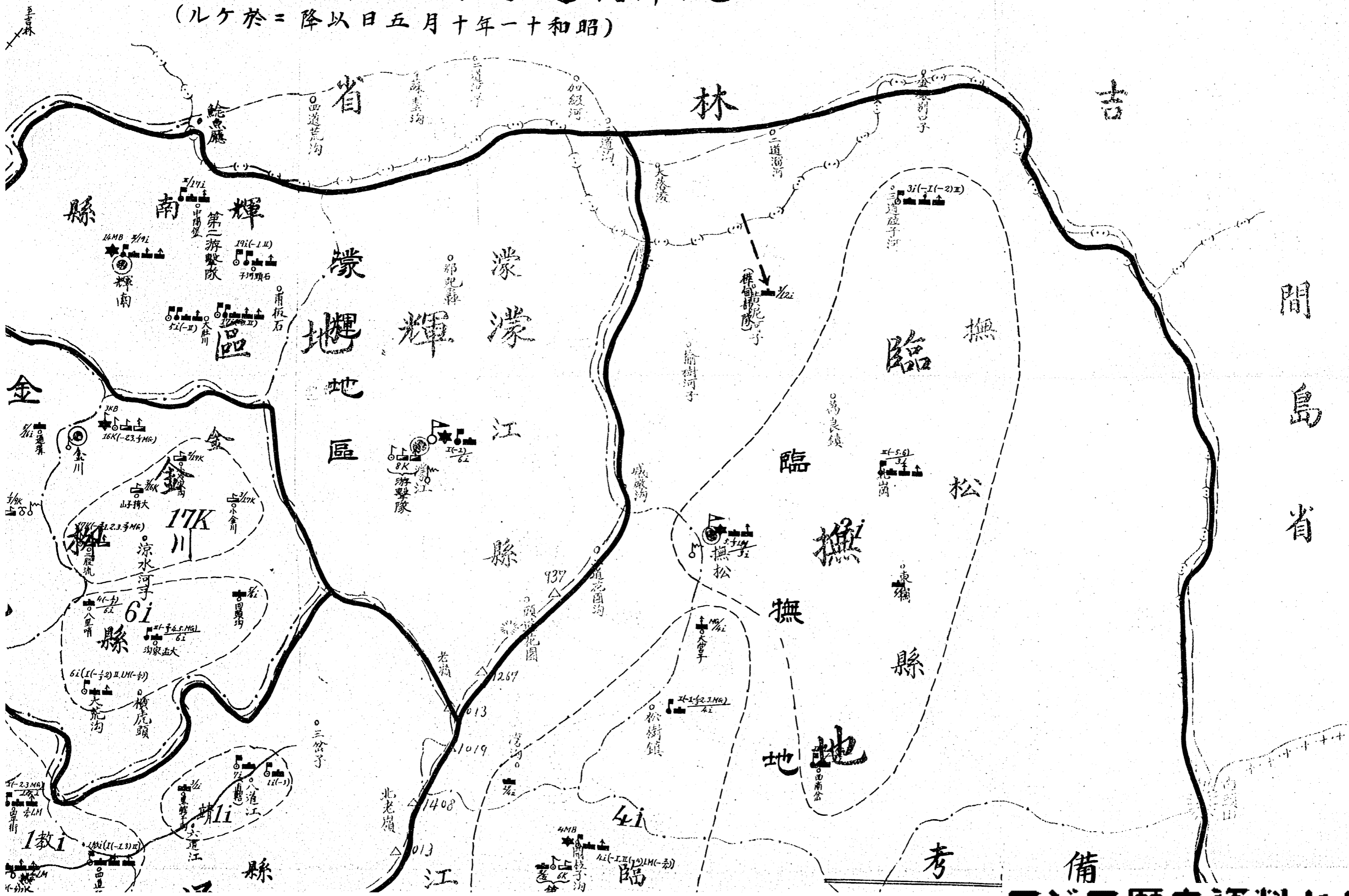


# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A 3判以上のため
上記のとおり分割撮影したことを 証明する  8 年 10 月 15 日  主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 	

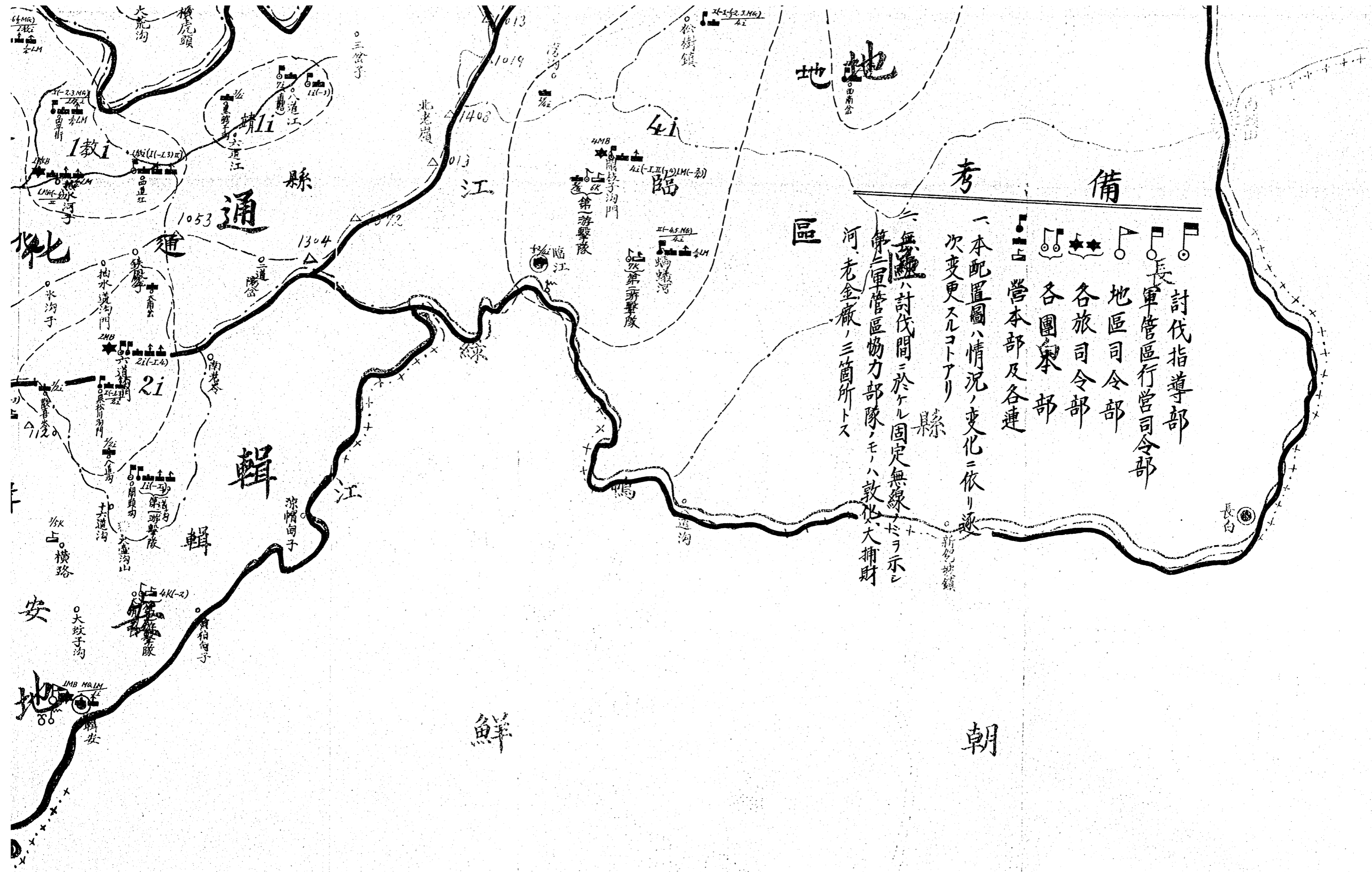
# 圖要置配隊部伐討道邊東部北

(ルケ於=降以日五月十年一十和昭)



附錄第四





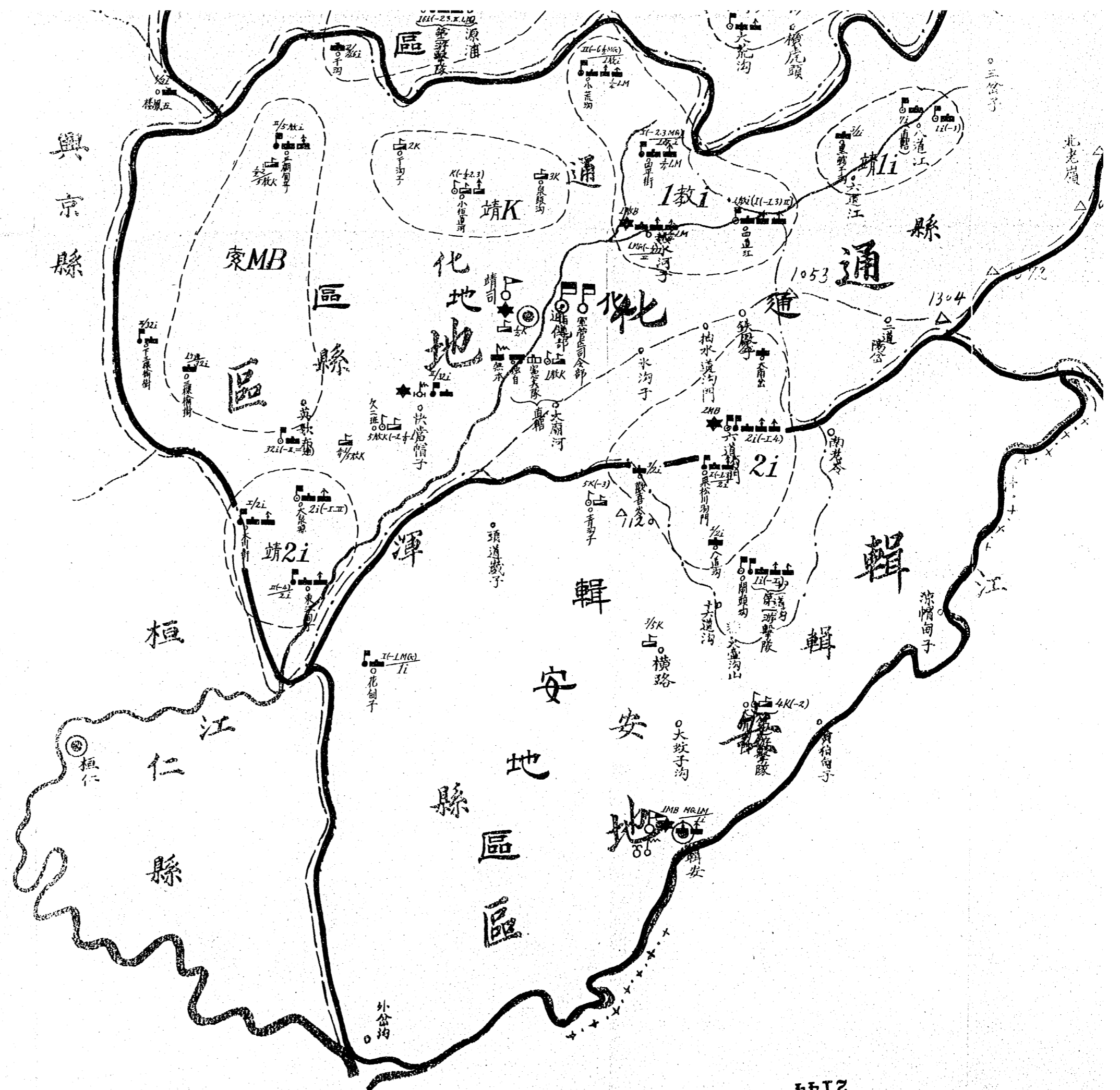
地地

考備

討伐指導部  
 長 軍管區行營司令部  
 地區司令部  
 各旅司令部  
 各團司令部  
 營本部及各連  
 一本配置圖ハ情況、變化ニ依リ逐次変更スルコトアリ  
 無線ハ討伐間ニ於ケル固定無線ノト示シ  
 第二軍管區協力部隊、モ、ハ敦化、大捕財  
 河、老金廠、三箇所トス

2144





興京

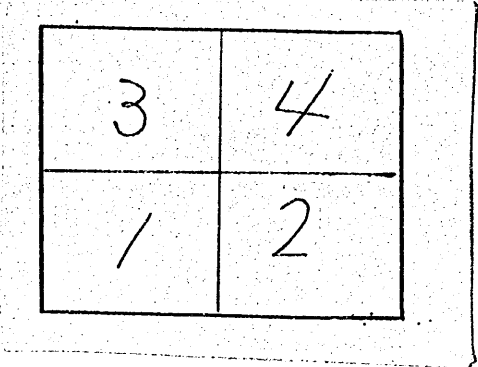

凡例  
 --- 省境  
 --- 縣境  
 --- 討伐地區境

2145

2144

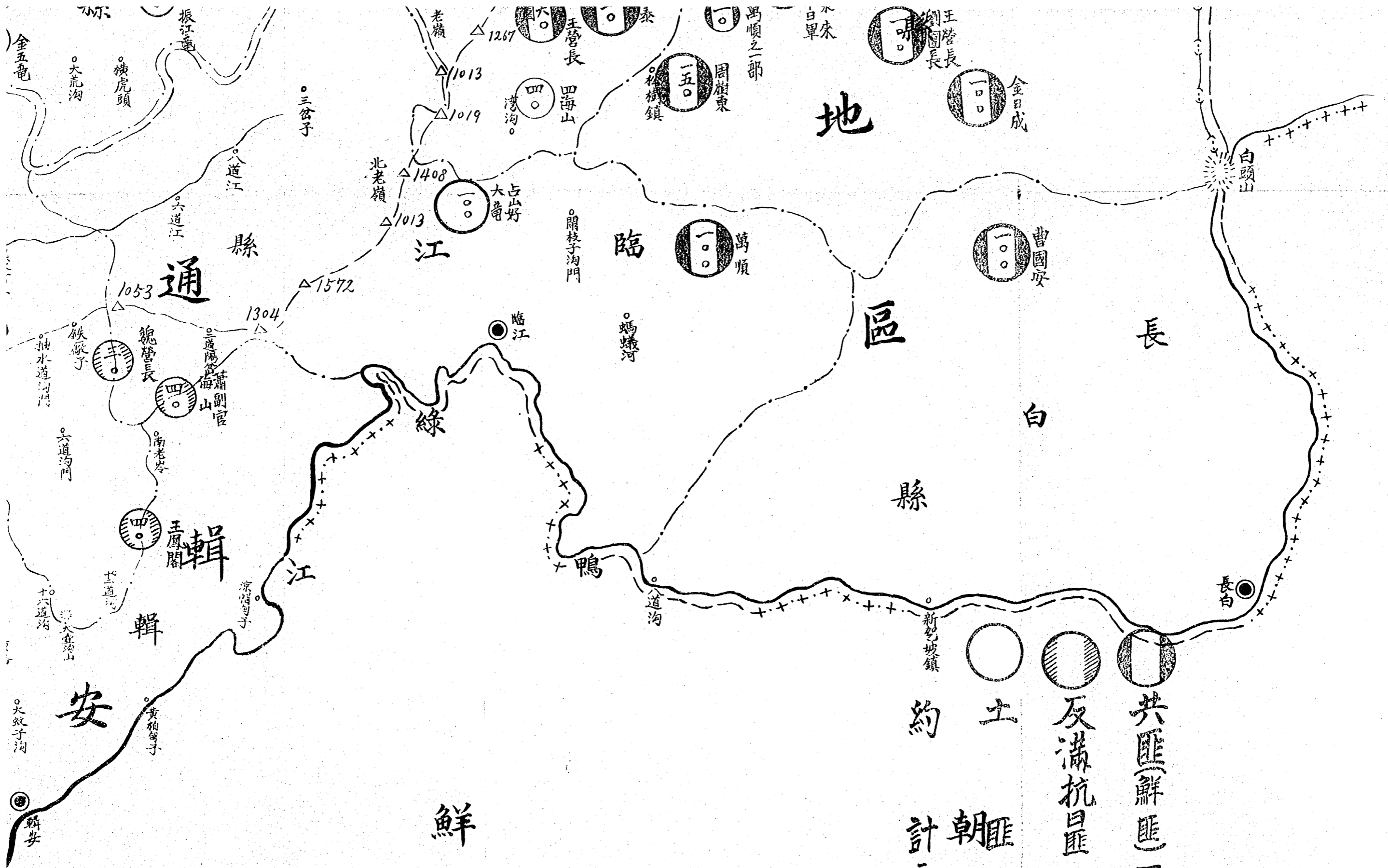


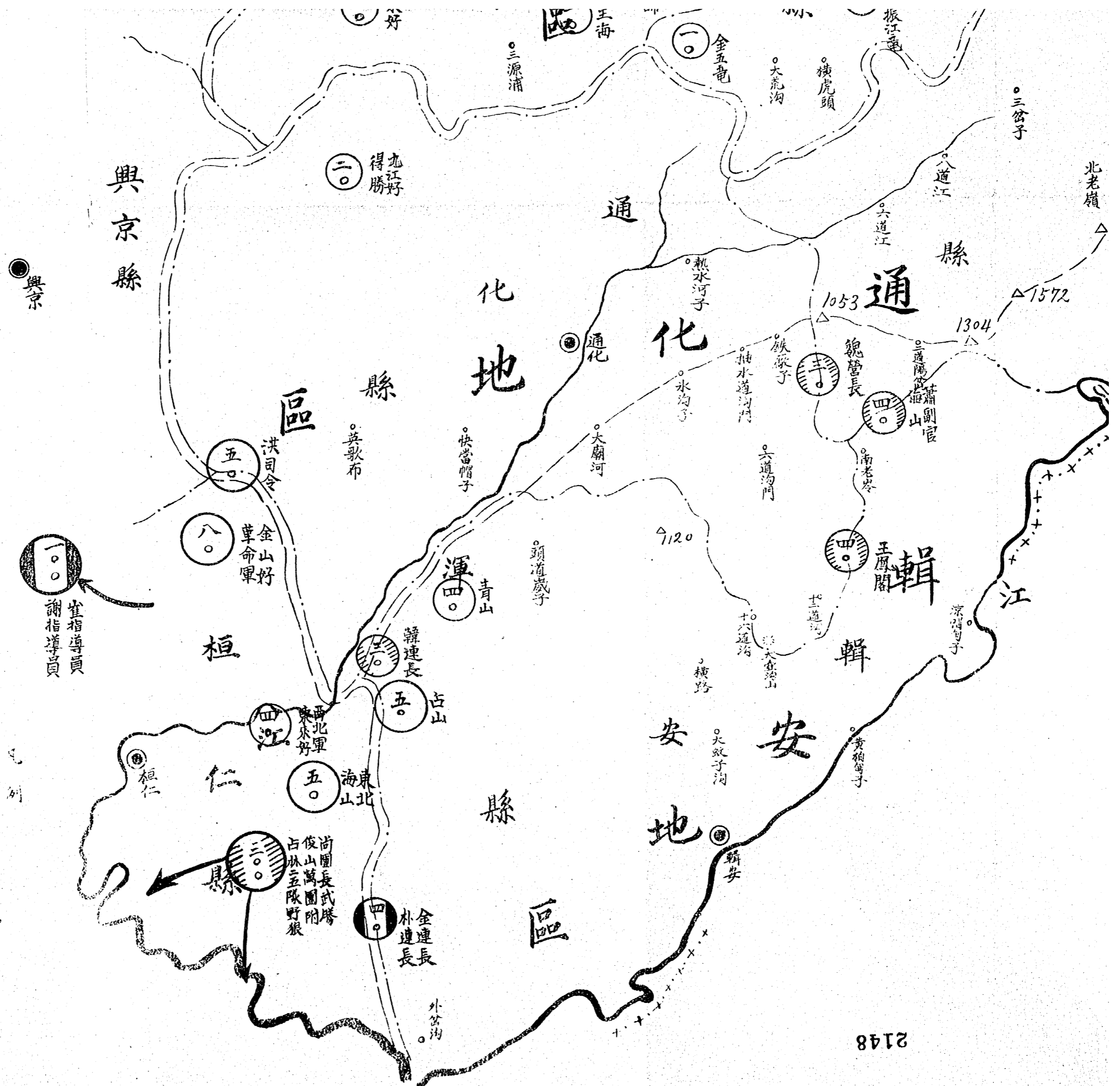
# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A 3判以上のため
上記のとおり分割撮影したことを 証明する  8 年 10 月 15 日  主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 	





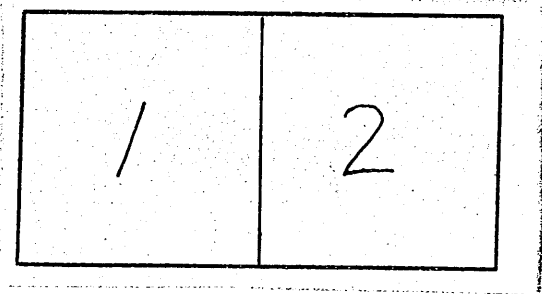





2149

2148

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A 3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>8 年 10 月 15 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>	

北東部邊道 冬季討伐軍區分

第一軍管區  
行營司令部  
2150

討伐指導部

臨撫地區  
司令部  
李少將  
下元中佐

- 混成第三旅 步兵第三團 第一營 第一、二、三連機連
- 李少將 第二營 第四、五、六連機連
- 下元中佐 迫擊砲連
- 駒井中佐 騎兵第六團 第一營 第一、二、三連
- 混成第四旅 步兵第四團 第一營 第一、三連機連
- 閻少將 第二營 第四、五、六連機連 (第五連欠一排)
- 高橋中佐 騎兵第七團 第一營 第一、二、三連
- 無線隊
- 鳩第四分隊

韓安地區  
司令部  
張中將  
望月中佐

- 混成第二旅 步兵第二團 第一營 第一、二、三連機連
- 高少將 第二營 第四、五、六連機連
- 奧島中佐 迫擊砲連
- 無線隊
- 鳩第二分隊
- 混成第一旅 步兵第一團 第一營 第一、二、三連機連
- 張中將 第二營 第四、五、六連機連
- 望月中佐 迫擊砲連

蒙輝地區  
司令部  
廖中將  
永田中佐

- 混成第五旅 步兵第五團 第一營 第一、二、三連機連
- 廖中將 第二營 第四、五、六連機連
- 永田中佐 迫擊砲連
- 無線隊
- 鳩第一分隊
- 混成第六旅 步兵第六團 第一營 第一、二、三連機連
- 董少將 第二營 第四、五、六連機連
- 趙少將 迫擊砲連
- 兒玉中佐 騎兵第十七團 第一營 第一、二、三連機連
- 兒玉中佐 第二營 第四、五、六連機連
- 騎導騎第三團 第一營 第一、二、三連
- 無線隊

金柳地區  
司令部  
董少將  
兼 兒玉中佐

- 混成第五旅 步兵第五團 第一營 第一、二、三連機連
- 廖中將 第二營 第四、五、六連機連
- 永田中佐 迫擊砲連
- 無線隊
- 鳩第一分隊
- 混成第六旅 步兵第六團 第一營 第一、二、三連機連
- 董少將 第二營 第四、五、六連機連
- 趙少將 迫擊砲連
- 兒玉中佐 騎兵第十七團 第一營 第一、二、三連機連
- 兒玉中佐 第二營 第四、五、六連機連
- 騎導騎第三團 第一營 第一、二、三連
- 無線隊

蒙輝地區  
司令部  
廖中將  
永田中佐

- 混成第五旅 步兵第五團 第一營 第一、二、三連機連
- 廖中將 第二營 第四、五、六連機連
- 永田中佐 迫擊砲連
- 無線隊
- 鳩第一分隊
- 混成第六旅 步兵第六團 第一營 第一、二、三連機連
- 董少將 第二營 第四、五、六連機連
- 趙少將 迫擊砲連
- 兒玉中佐 騎兵第十七團 第一營 第一、二、三連機連
- 兒玉中佐 第二營 第四、五、六連機連
- 騎導騎第三團 第一營 第一、二、三連
- 無線隊

北 東 部 邊 道 冬 季 討 伐 軍 隊 分 區

討伐指導部

第一軍管區  
行營司令部

2150

2151

韓安地區  
司令部  
張中將  
望月中佐

索混成旅  
索少將  
增山中佐

步兵第卅二團  
第一營 第二三連機連  
步兵第卅三團 第二營 第四六連機連  
教導步兵五團 第二營 第四五六連機連  
教導騎兵團 第一二連

無線隊

漆原中佐  
山崎中佐  
第一營 第一二三連機連  
第二營 第四五六連機連

鳩第一分隊

金柳地區  
司令部  
董少將  
兒玉中佐

混成第六旅  
董少將  
騎兵第三旅  
趙少將  
兒玉中佐

步兵第六團 第一二三連機連  
步兵第十七團 第一二三連機連  
騎導騎第三團 第一二連

無線隊

濛輝地區  
司令部  
廖中將  
永田中佐

混成第五旅  
廖中將  
永田中佐

步兵第五團 第一營 第二三連機連  
步兵第六團 第一營 第一二連  
步兵第十七團 第二營 第四五連  
騎兵連

無線隊

鳩第三分隊

直轄部隊

混成第一憲兵隊 (古岳中校) 王憲兵連 (通化) 橋本連 (八道溝) 萩野連 (台上) 川元連 (三道溝) 原岡連 (橫路) 大坪連 (紅土崖) 富田連 (臨江) 寺尾連 (撫松)  
步兵第七團 第一營 第一二三連機連  
邵少將 第二營 第四五六連機連  
佐藤少佐 第一營 第一二連機連  
第二營 第四五六連機連

豫備隊

騎兵第十六團 第一二三連機連  
山城鎮野戰倉庫。通化。韓安。臨江

補給機關

朝陽鎮野戰倉庫。濛江。撫松

患者收容班

第一二三四五六班 (山城鎮、撫松、通化、濛江、臨江、韓安)

備

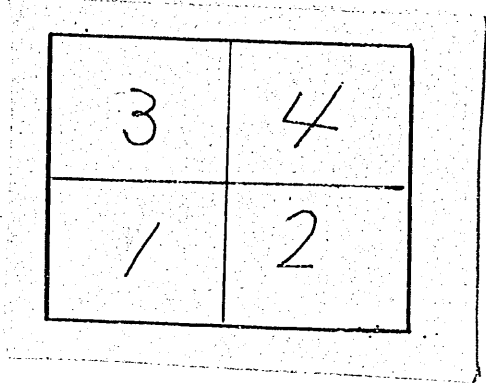

第二軍管區ヨリ臨撫地區ニ對シ增加部隊左ノ如シ

步兵第十二團 (營長以下二個連)  
步兵第十九團 (營長以下四個連)  
第二教導騎兵團 (團長以下二個連)

考

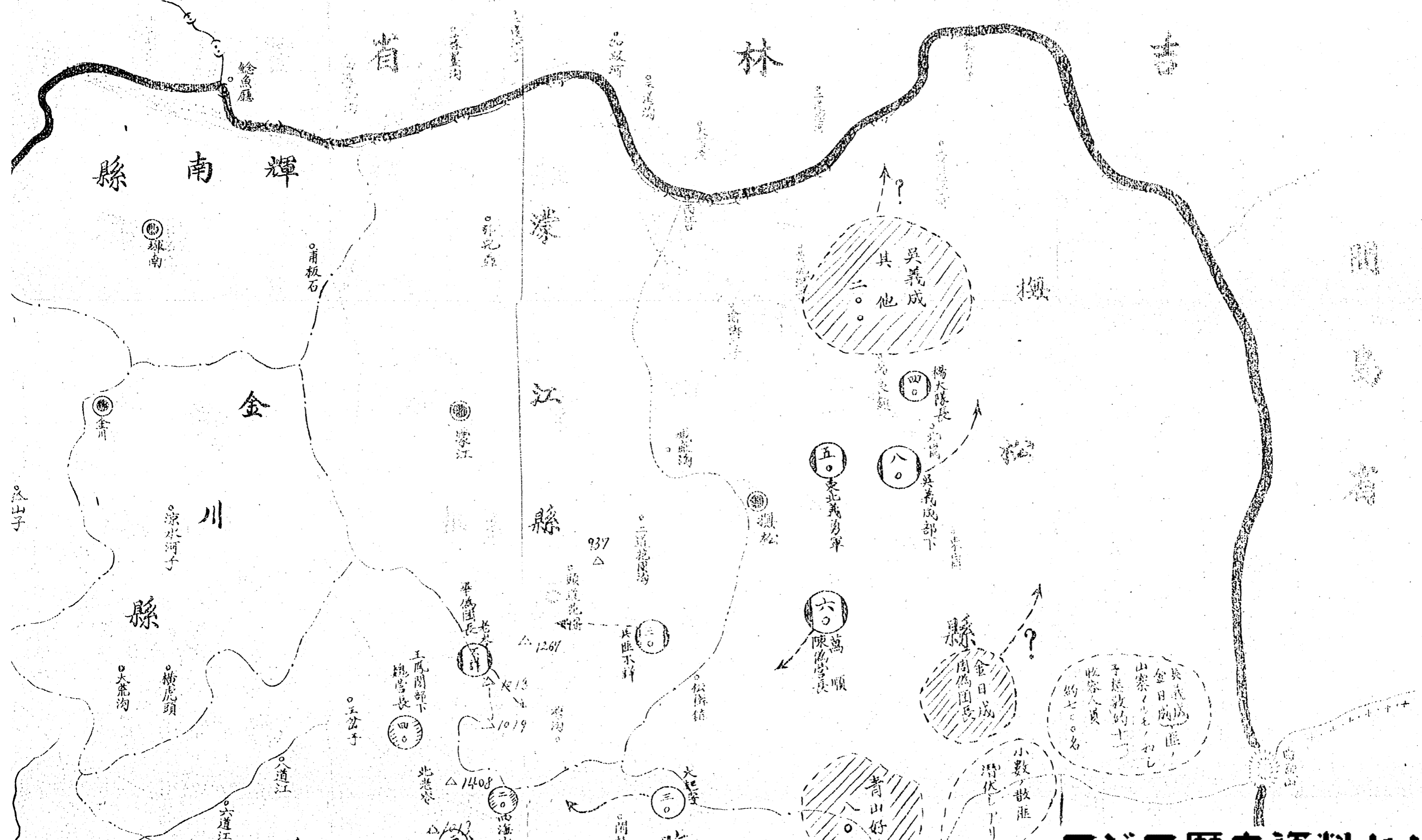


# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A 3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>8 年 10 月 15 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>	

# 北東部邊道匪賊分布要

(於康德四年三月下旬)

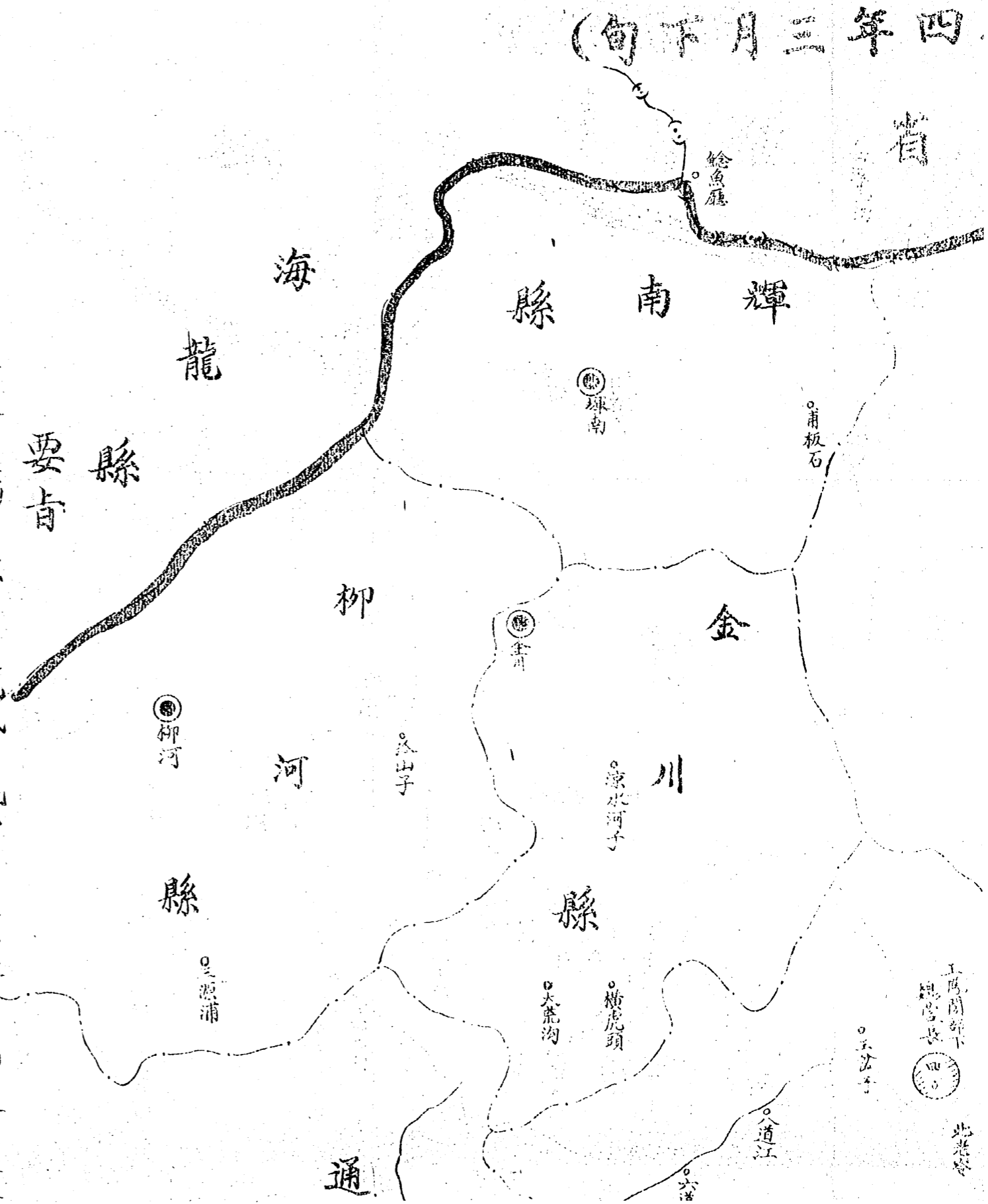
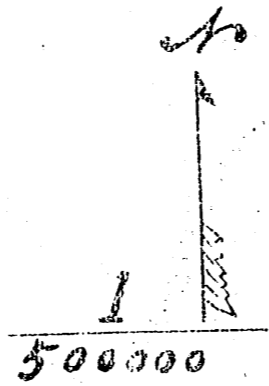


附錄第七

# 匪賊分布要圖

(四年三月下旬)

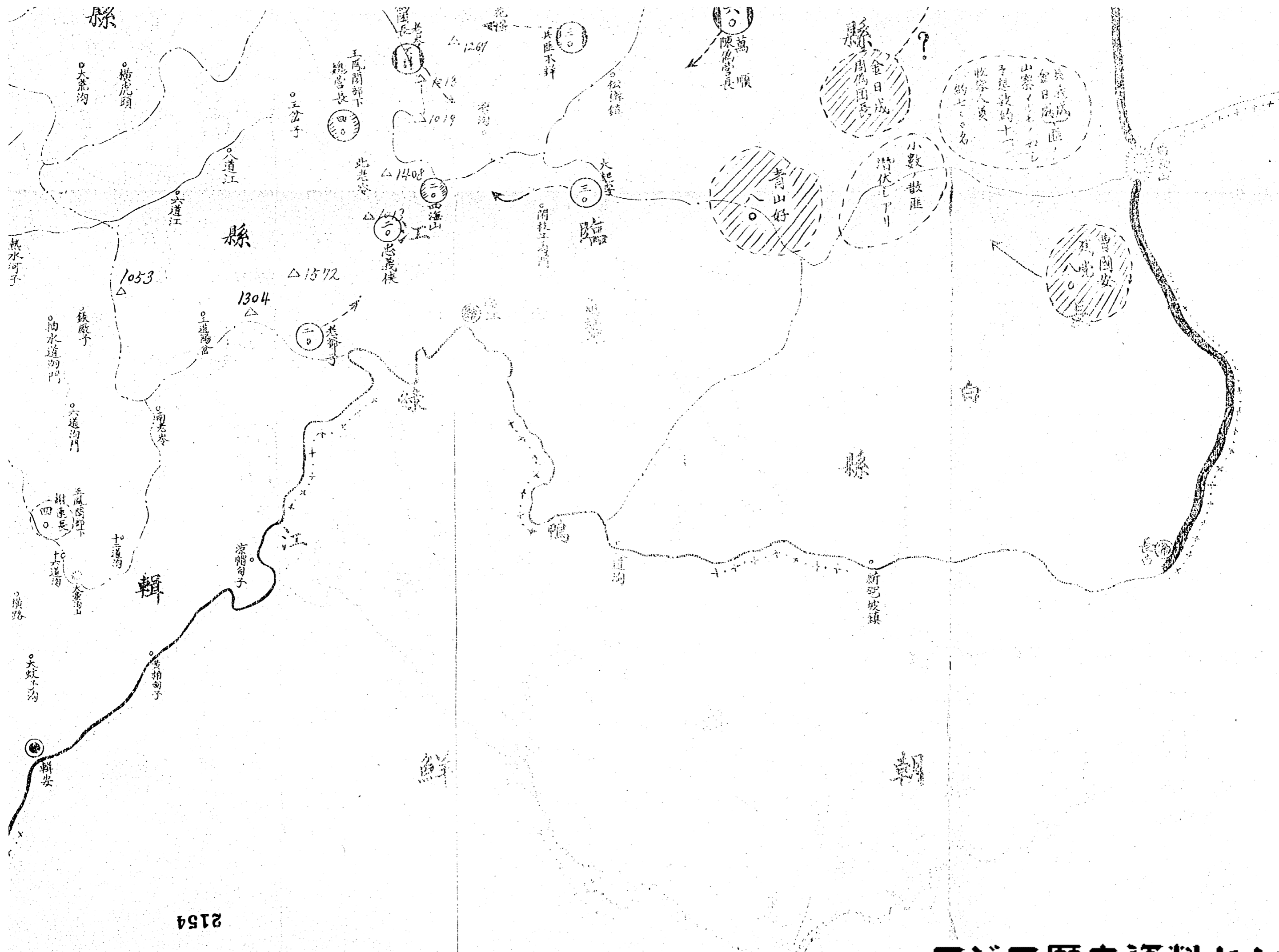
省



昨秋以來滿軍獨力ヲ以テスル本地域ノ匪賊掃蕩ハ各部隊ノ力戰ニ依リ從來東邊道ニ於ケル治安ノ最不良地帯ト目サレシ本地域七劃劃的肅清ヲ齎スニ到レリ

即チ先ツ通化東北方龍崗山脈地帯、共匪根據地ヲ掃討逐次全地域主要匪團一大半ヲ擊殺遂ニ三月下旬反滿抗日匪魁王鳳閣及其部下ヲ殲滅ス之ニ依リ通化ヲ中心トスル中部兼邊道ニ肅正ノ月興化縣現出セリ然レトモ輯安縣西南部ニ少數ノ共匪殘党アリ尚ホ撫松縣下ニ於ケル共匪ハ窮蹙窮ノ極ニアレドモ適宜之ヲ努ムル吳義成及金日成匪執拗ナルモアリ討伐隊ハ引續キ之ヲ潰滅ヲ期シ果敢ナル游撃ヲ續行中

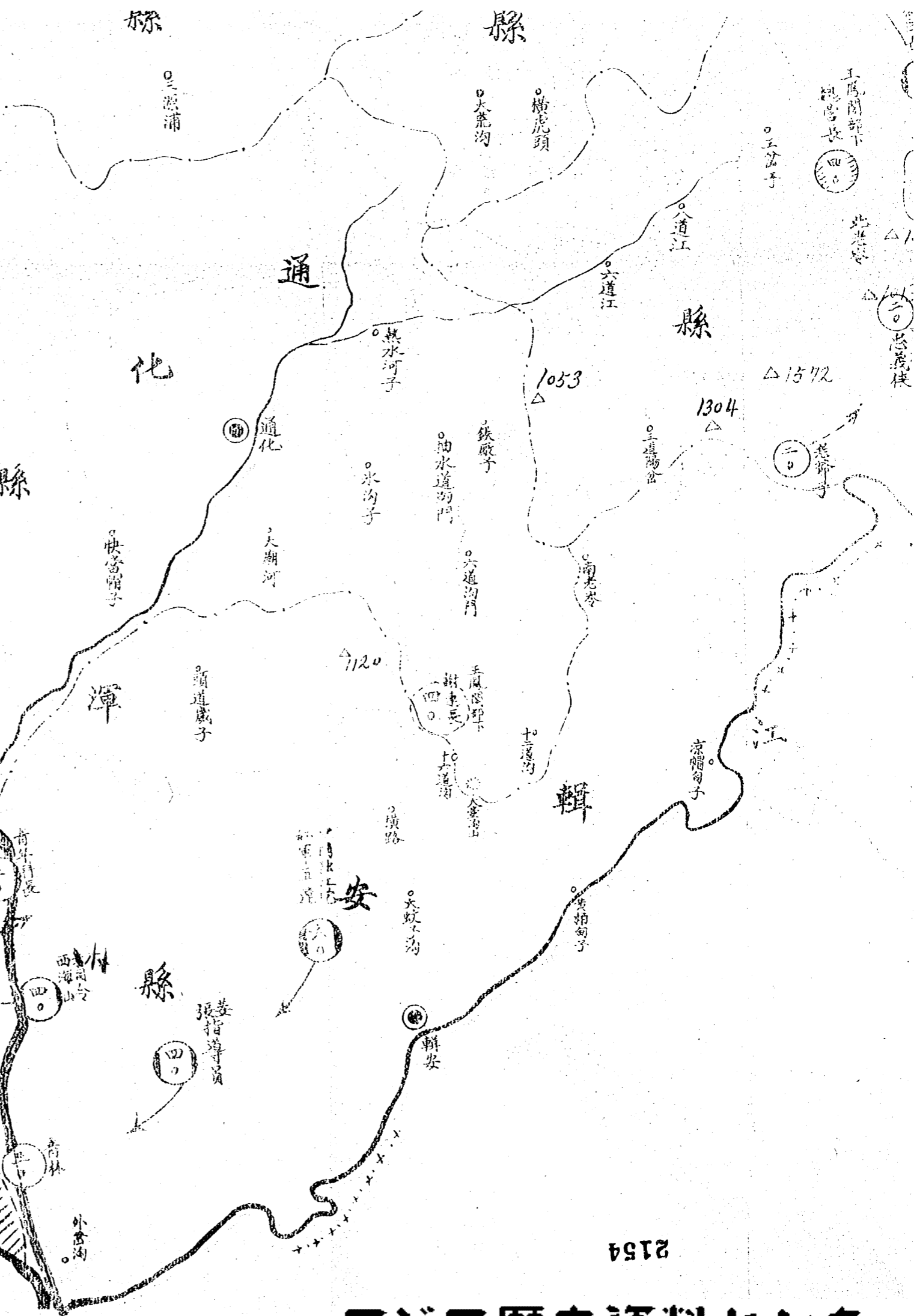
備考	色彩系統	
	共鮮反滿抗日匪	匪首數
ハ分散潛伏セルモノヲ示ス	匪	匪數
	計	匪數
	二五	九九〇
	四	一〇〇
	二一	八九〇



匪	數
九	〇
八	〇
九	〇
九	〇

米敢ナル游撃ヲ續行中

地ヲ掃テ逐次金地域主  
 匪巨魁王鳳閣及其部下  
 邊道三肅正、明興化涼縣  
 殘党アリ尚ホ撫松縣下ニ  
 ル吳義成及金日成匪ヲ執  
 興化涼縣



凡例  
 縣省境  
 縣境

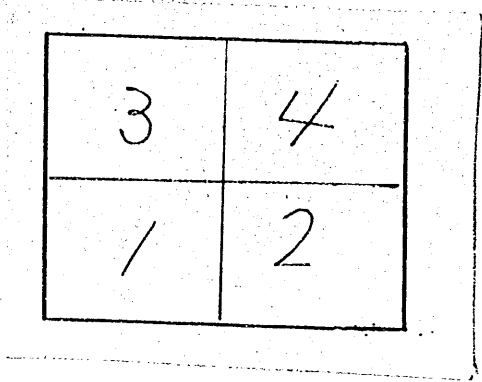

考 備	計	他 其	隊 部 轄 直	區 地 柳 金	區 地 輝 濛	區 地 撫 臨	區 地 化 通	區 地 安 靖	別 區 地 區		
									數 回 關 戰	計 累 數 匪 伐 討	死
四、我負傷	563	15	115	78	15	136	104	100	匪之損害	獲	品
三、我死	20,808	697	1,774	965	540	10,865	1,889	4,078	者 匪 通	死	我之損害
二、捕獲及斃匪首	1,243	60	99	201	37	453	104	217	官 兵 官 兵	傷	
一、鹵獲品	448	28	21	81	36	184	21	77	者 匪 通	傷	
尉那團長	499	14	218	46		56	64	103	獲 捕 降 投 回 奪 質 人 滅 覆 寨 山 銃 小 拳 彈 銃 小 拳 砲 洋 匹 馬		
尉中排長	596		160	155	2		199	80			
尉上軍醫	203	2	20	38	10	71	38	24			
尉任一上排長	646	81	169	51	21	88	80	156			
尉澤田中尉	553	40	100	90	13	100	51	159			
尉阿藤部中尉	363	9	138	71	2	46	41	56			
尉藤本治中尉	26,804	53	11,207	1,865	481	5,642	3,106	4,150			
尉川本中尉	3,151	6	771	1,467	24	235	345	303			
尉鈴木中尉	466	2	150	273	1	5	4	31			
尉胡少七	222	12	19	10	8	57	61	55			
尉董中	行李 14		被服 27			防寒靴 80組	靴 10組	行李 14			
	シン機 6	多 數	シン機 2	多 數		煙草 184箱	被服 39	軍服 多數	服 被		
	被服 56							シン機 2			
	麵 601裝		糧食 186.6石	糧食 6石	糧食 3石	麵 601裝	糧食 101石	糧食 145.5	秣 糧		
	糧食 649.5石	多 數				糧食 石 208.5	牛肉 200斤	牛肉 2430斤			
	牛肉 4630斤					牛肉 200斤					
	199	11	137	10		8	30	3			
	11		1			8	1	1			
	111	7	6	3		88	2	5			
	23	2	1		1	17		2			
	195	29	7	2		135	7	15			

附錄第八

北部東邊道討伐效果一覽表

自康德三年十月一日  
至同 四年三月末日

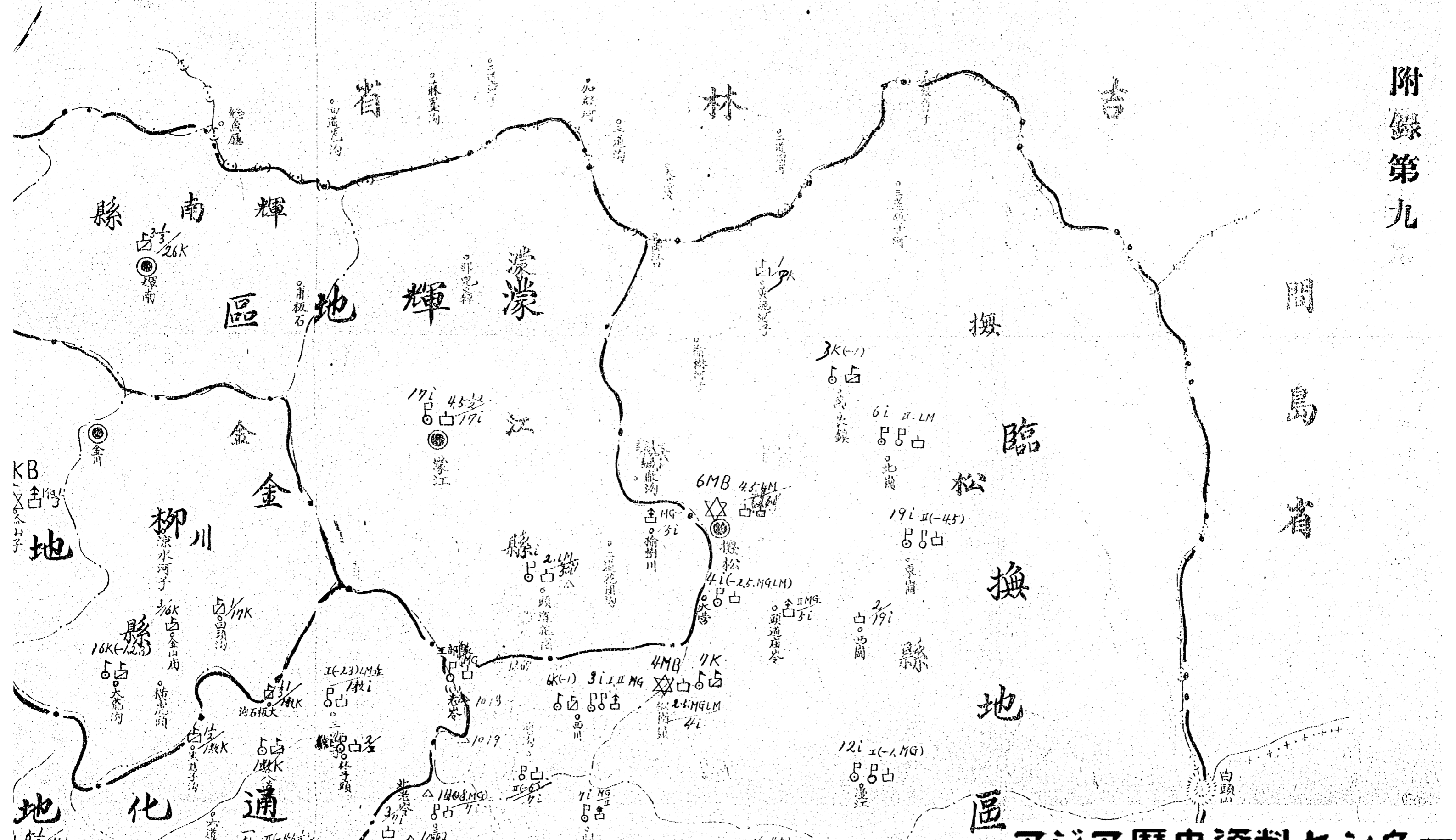
# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A 3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>8 年 10 月 15 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>	

# 北東邊道討伐滿軍部隊配置圖

(於康德四年三月下旬)

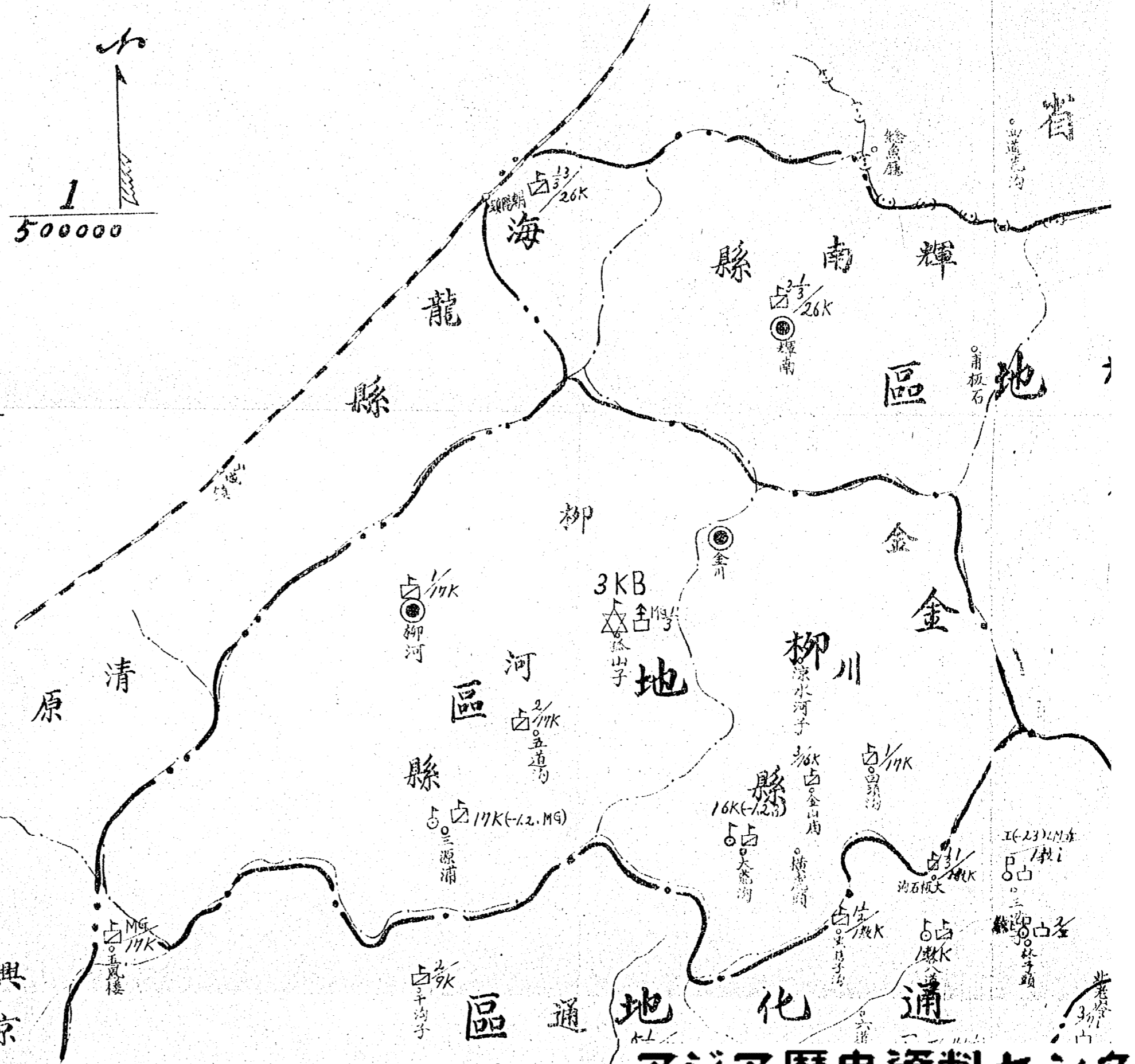
附錄第九





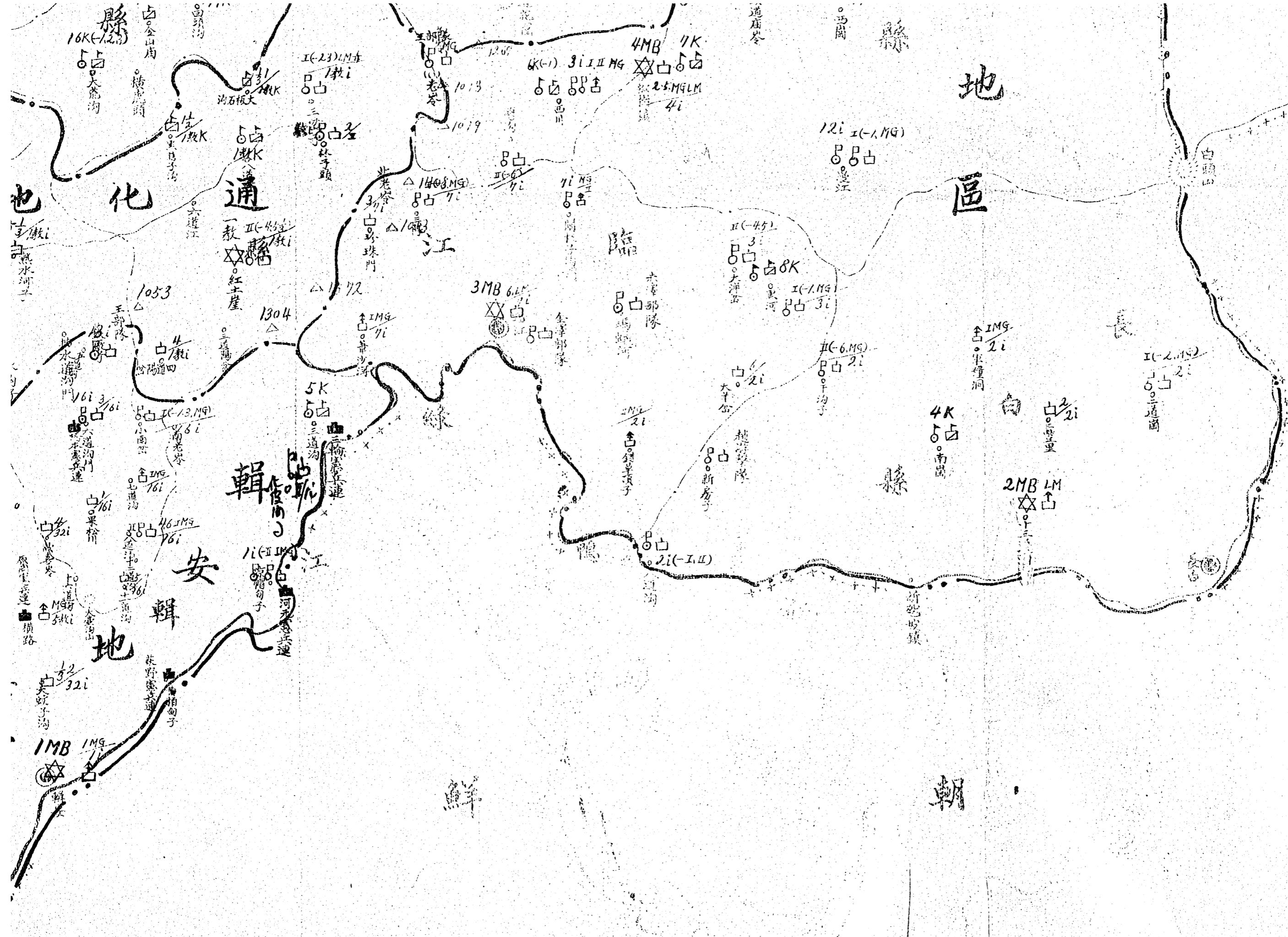
# 圖要置配隊部軍滿伐

(旬下月三年四德)

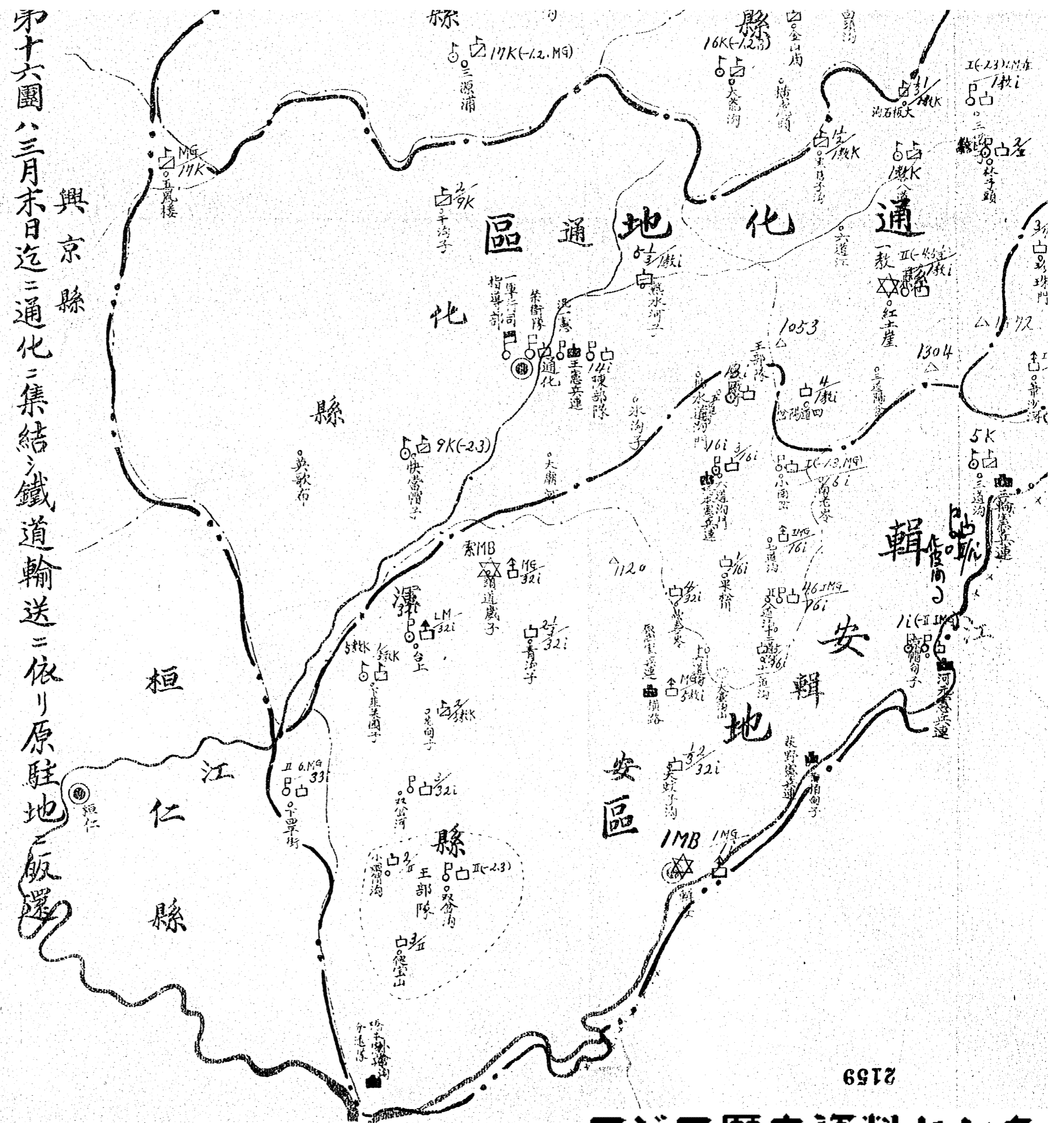


## 考 備

- 一、金澤部隊及步兵第十六團、三月底迄、興京
- 二、混成第一混兵隊、編成、八四月一日
- 三、第三憲兵隊宮原連、八四月上旬通
- 四、步兵第十四團第二營(陳部隊)、八本月下、代其任務ヲ繼承スルモノトス



興京縣  
 第十六團八三月末日迄ニ通化ニ集結シ鐵道輸送ニ依リ原駐地ニ飯還  
 編成八四月一日ヲ解除シ隊本部ハ奉天ニ飯還凡例  
 爾連八四月上旬通化ヨリ臨江ニ前進  
 營(陳部隊)ハ本月下旬六道沟門ニ前進シ步兵第十六團ト交  
 承スルモノトス



2161

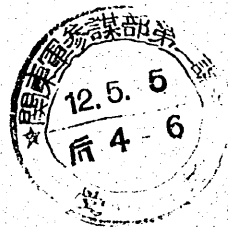
次官



昭和十二年四月二十日

昭和十一年度  
滿軍獨力ヲ以テスル  
北部東邊道秋冬季討伐綜合報告

軍政部最高顧問 佐々木 到一



目 録

其一、北部東邊道討伐開始前ニ於ケル匪勢ノ概要  
其二、滿軍獨力ヲ以テスル北部東邊道秋冬季大討伐

第一作戦準備

第二集 中

第三、討伐初期ニ於ケル基礎的軍線區分、配當及指導方針

第四、秋季討伐 (自十月一日  
至十一月卅日)

第五、冬季討伐 (自十二月一日  
至翌年三月末日)

第六、王鳳閣匪ノ討滅

第七、治本工作

第八、討伐ノ成果

其三所 見

附 録

- 第一 討伐開始直前ニ於ケル北部東邊道方面匪賊分布圖
- 第二 昭和十一年度第二期肅正工作ニ伴フ濶軍驗送計畫一覽表
- 第三 其ノ一 北部東邊道秋季討伐職員表
- 其ノ二 北部東邊道秋季討伐軍驗區分
- 第四 北部東邊道討伐部隊配備要圖
- 第五 北部東邊道秋季討伐末期ニ於ケル匪勢要圖
- 第六 北部東邊道冬季討伐軍驗區分
- 第七 北部東邊道冬季討伐末期ニ於ケル匪賊分布圖
- 第八 北部東邊道討伐效果一覽表

## 其一、北部東邊道討伐開始前ニ於ケル匪勢ノ概要

東邊道方面ノ最後の治安ノ確立ヲ期スル爲昭和十一年春以來關東軍ノ方針（關作命第七七八號別冊第三昭和十一年度關東軍治安肅正計畫要綱）ニ基キ紅軍主力匪團ヲ徹底的ニ勦滅センカ爲數個ノ日滿混成特設游撃隊ヲ編成シ又別ニ滿軍ノミヲ以テスル特選游撃隊ヲ編成シ獨立シテ自由不羈ノ行動ヲ以テ勦討ヲ敢行セシ結果從來ノ匪勢ハ漸次凋落ノ途ヲ辿ルニ至レリ

然レトモ隣省吉林、間島方面治安肅正ノ進捗ニ伴ヒ該方面ニ存在セシ

紅軍匪ハ草木繁茂期以來遂次南下シテ撫松、長白、臨江方面ニ潛入シ  
警備網ノ稀薄ト天然ノ地勢トニ乘シ熾ニ跳梁ス又一方東邊道土着ノ王  
風閑匪ハ依然舊根據地ニ在リテ横行シ治安ヲ擾亂スルノ外通化縣東北  
部方面ニ紅軍匪第五、第六團抬頭シ爲メニ一時小康ヲ見タル東邊道ノ  
治安ハ再ヒ不良トナルニ至レリ

茲ニ於テ關東軍司令官ハ昭和十一年度關東軍治安肅正要綱ニ示ス第二  
期以降北部東邊道ノ九縣ヲ滿軍獨力討伐地域トシテ指定シ軍政部最高  
顧問ヲシテ直接滿軍討伐ノ指導ニ當ラシメラル



滿軍獨力討伐開始直前ニ於ケル北部東邊道方面匪勢ノ大要附録第一ノ  
如シ

其二、滿軍獨力ヲ以テスル北部東邊道秋冬季

(自昭和十一年八月一日  
至昭和十二年三月末日) 大討伐

第一、作 戰 準 備

一、北部東邊道治安肅正ニ關スル内命

昭和十一年七月十日關參一發第一五六二號通牒ヲ以テ軍參謀長ヨリ

左記要旨ノ内命ノ傳達ヲ受ク

内 命 要 旨

貴官ハ第二期間成ルヘク多クノ滿軍ヲ指揮シ主トシテ北部東邊道  
 (輯安、通化、柳河、輝南、金川、濛江、臨江、撫松、長白ノ各  
 縣及磐石縣ノ東部並樺甸、安圖兩縣下ノ南部)ノ治安肅正ヲ滿軍  
 獨力ヲ以テ徹底セシメラルル豫定ニシテ七月二十四日作戰主任者  
 會同席上會同者ヲシテ之カ治安肅正計畫ノ腹案及治安情況ヲ開陳  
 セシメラル等

最高顧問ハ右内命ニ接シ直ニ討伐計畫腹案ヲ樹ツルト共ニ七月二十  
 日第一、第二、第三、第四、第五軍管區主任顧問及關係顧問ヲ新京ニ召集シ

該腹案ヲ示シ各顧問ヲシテ極秘裡ニ其進備ヲナサシム

昭和十一年度(康德三年度) 滿軍秋季討伐計畫腹案

### 第一、方針

一、滿軍ハ成シ得ル限リノ兵力ヲ東部東邊道ニ集結シ十月中旬ヨリ越

冬獨立シテ討伐ヲ實施シ地域的ニ區分セシメル皇軍討伐ト協力シ

東邊道ノ徹底的治安肅正ヲ期ス

二、右地域以外ノ滿軍ハ皇軍防衛司令官ノ區處ノ下ニ討伐ニ從事セシ

ム

## 第二、指導要領

## 一 準備

ノ軍政部ニ於テハ七月下旬ヨリ準備ニ着手ス其主ナル事項左ノ如シ

- (イ) 他軍管區ヨリ集中スヘキ兵力竝其輸送期間ニ關スル件
- (ロ) 通信交通機關ノ増加施設ニ關スル件
- (ハ) 情報蒐集機關設置ニ關スル件
- (ニ) 彈藥及糧秣補充準備ニ關スル件

(外) 討伐費追加豫算ニ關スル件

2. 第一軍管區司令部ノ進備

(イ) 討伐方針ニ基キ極秘裡ニ諸準備ニ着手セシム其主ナル事項左ノ如シ

(ロ) 隸下各部隊ヲシテ整茂期間ヨリ一部ヲ以テ游動討伐ヲ實施セシムルノ外努メテ集結シ休養訓練ヲ實施ス

(ハ) 速ニ通化ニ第一軍管區顧問部辦事所ヲ開設シ情報ノ蒐集其他討伐準備ニ着手セシム

(二) 八月下旬迄ニ軍管區顧問部ニ於テ討伐計畫ヲ提出セシム

### ニ 實施要領

#### ノ 要 旨

第一軍管區司令官ヲシテ計畫實施セシメ第二軍管區司令官ヲシテ其境界附近ノ討伐ニ關シ第一軍管區討伐ニ協力セシム  
軍政部等ヨリ所要ノ人員ヲ第一軍管區司令部ニ臨時配屬又ハ派遣シ討伐指導ヲ容易ナラシム

#### ニ 伸用兵力

第一軍管區部隊主力

靖安軍

第三第五軍管區ヨリ約混成一旅

第一壽兵隊、獨立自動車隊ノ若干

其他第二軍管區部隊ノ一部及騎兵第一旅ノ主力ヲ以テ兩軍管區

境界方面ニ於テ協力セシム

3. 討伐地域別圖ノ如シ

4. 討伐期間

十月中旬ヨリ約五ヶ月

但シ仰軍管區ヨリ増加スルモノハ約二ヶ月

三 部外トノ連絡協同

ノ皇軍トノ關係

本討伐ハ關東軍司令官ノ全滿秋季討伐計畫ニ基キ指示地域内ニ

於テハ滿軍獨立シテ討伐ニ任ス

本地域内ニ在ル皇軍ハ討伐間滿軍ニ協力ス

西部東邊道ニ於テハ皇軍約十六大隊集中シテ討伐ヲ實施ス



皇軍討伐地域内ノ一部殘置滿軍（治安隊ヲ含ム）ハ皇軍ノ隔處  
ノ下ニ討伐ニ從事セシム

2. 滿軍討伐地域内警察（森林警察隊ヲ含ム）ハ所要ニ應シ滿軍區  
處ノ下ニ協力セシム

尙省及縣當局ヲシテ十分協力セシム

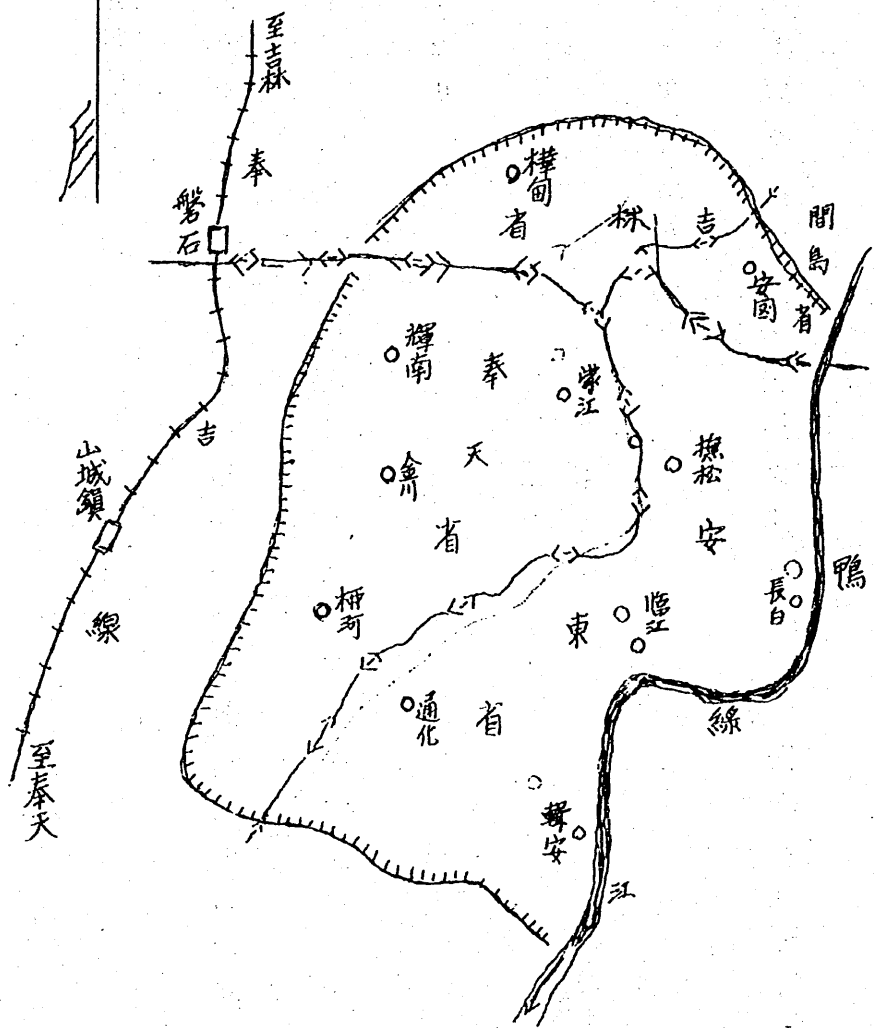
#### 四 治本工作

討伐ニ併行シ皇軍ニ準シ宣撫工作班ヲ編成シ宣傳官撫工作ヲ實施

ス

2175

圖域地代封道邊東部北



三、關東軍命令受領並軍政部命令ノ下達

七月二十四日關作命第八五三號關東軍命令同別冊昭和十一年度第二

期關東軍治安肅正要領ヲ受領シ八月二十六日左記滿作命第一號、軍

政部命令ヲ下達セリ

滿作命第一號

命

令

八月二十六日午前九時  
於 新京軍政部

一、東滿一帶共匪ノ勢尙猖獗ナリ

關東軍ハ本秋季以後其重點ヲ北部東邊道方面ニ指向シ共匪ノ勦滅

ヲ期ス

右期間ニ於ケル關東軍ノ治安肅正要領別冊ノ通り

ニ軍ハ其重點ヲ奉天、安東兩省東北部地方ニ指向シ前記關東軍ノ行動ニ密ニ協力シテ共匪ヲ殄滅シ以テ獨力治安確保ノ歩武ヲ進メントス

ニ第一軍管區司令官ハ軍政部最高顧問ノ直接指導ニ進據シ其轄下及指揮下部隊ヲ以テ獨立シテ別紙要圖ニ示ス地域ニ於ケル共匪ヲ掃蕩シ之ヲ安東、吉林、閩島各省境方面無人地帯ニ壓迫殄滅スヘシ右地域ニ於ケル關東軍ノ部隊ハ軍ノ作戰ニ協力ス

但シ治標工作以外ノ諸工作並前項地域以外ノ軍管區内ニ於ケル諸  
工作ニ關シテハ從來ノ通りトス

本討伐期間左記部隊ヲ第一軍管區司令官ノ指揮ニ入ラシム

軍政部大臣直屬部隊

靖安軍主力、國都憲兵隊約一連、無線及鴿部隊  
獨立第一自動車隊ノ主力

第三軍管區司令官  
部下 部隊

混成教導旅及  
混成第十四旅

第五軍管區司令官  
部下 部隊

索混成旅  
第五憲兵隊ノ約一連

概ネ十月上旬ヨリ十二月中旬頃迄

四 第二軍管區司令官ハ前項ノ行動ニ密ニ策應シ渾クモ九月下旬迄ニ

其隸下及指揮下部隊中所要ノ兵力ヲ以テ嚴ニ軍管區西南境ヲ封鎖

シ奉天、安東兩省方面ヨリスル匪ノ脱逸ヲ阻止シ且所要ニ應シ撫  
松、長白兩縣方面ニ對シ徹底的ニ游擊行動ヲ實施スヘシ

本討伐期間左記部隊ヲ第二軍管區司令官ノ指揮ニ入ラシム

憲兵訓練處學兵隊約二連 九月中旬ヨリ十月下旬迄

其第四軍管區司令官ハ其管區ニ作戰スル關東軍防衛司令官ト協定シ

其隸下及指揮下部隊ヲシテ同司令官ノ區處下ニ入ラシメ主トシテ松

花江北地方ニ於ケル共匪ヲ掃蕩スヘシ

本討伐期間左記部隊ヲ第四軍管區司令官ノ指揮ニ入ラシム

第二軍管區司令官  
隸下部隊

歩騎兵計約四連

概ネ九月中旬ヨリ明年三月末頃迄

第三軍管區司令官  
隸下部隊

歩兵約一營  
騎兵約一團

同 右  
概ネ九月中旬ヨリ十二月中旬迄

六 江防艦隊司令官ハ主トシテ第四軍管區司令官ノ行フ討伐ニ協力ス  
ヘシ

七 第三、第五、第六軍管區司令官、興安東、西及南各省警備軍司令官ハ各其管區ニ於ケル關東軍防衛司令官ノ區處スル所ニ進據シ徹底的討伐ヲ遂行スヘシ

八 本命令ニ基ク討伐期間ハ特ニ示スモノノ外概ネ十月上旬ヨリ明年

三月末ニ亘ルモノトス

六 本命令ニ基キ一時他ニ轉屬セシメラルル部隊ハ被配屬軍管區ニ入

ル時期（當初ヨリ被配屬軍管區ニ在リテハ追テ示ス時期）ヲ以テ新ナル指挿關係ニ轉移ス

ルモノトス

右移動ニ伴フ輸送ハ各部隊自ラ實施スルヲ本則トス

十 通信、補給、經理、衛生、航空機等ニ關スル事項ハ別ニ指示ス

軍政部大臣 于 芷 山

軍政部最高顧問 佐々木 到 一



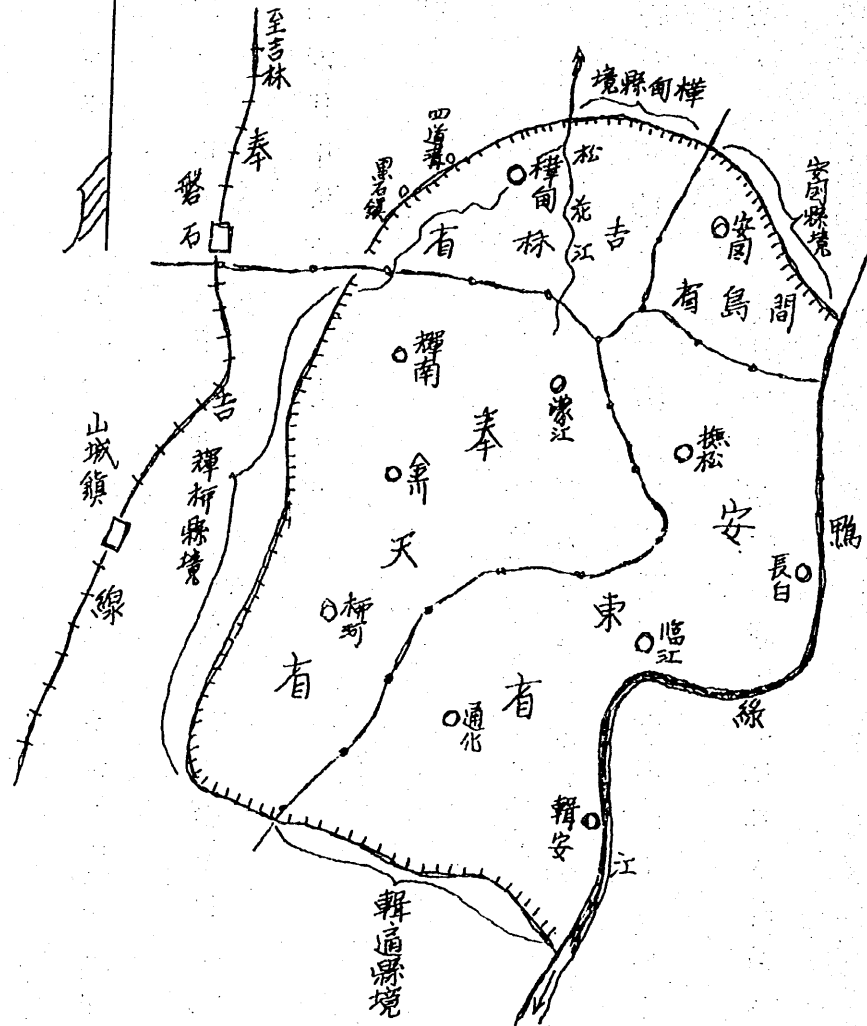
下達法

印刷セルモノヲ各軍管區司令官、各警備軍司令官及江防艦隊

司令官及軍政部直轄部隊長ニ交付ス

通報先 關東軍及各防衛司令官

圖要域地伐討道邊東部北



三 討伐指導部ノ設置

討伐諸準備ノ進捗ニ伴ヒ第一、第二軍管區司令官指揮下及隸下部隊ノ作戰ヲ指導スル爲滿作命第七號軍政部顧問部命令ヲ以テ九月三十日以降通化ニ討伐指導部ヲ設置セリ

滿作命第七號

命

令

昭和十一年九月十八日正午  
於新京軍政部顧問部

2184

一本秋季以降討伐ノ爲第一、第二軍管區司令官指揮下及隸下部隊ノ作戰ヲ指導スル爲十月一日ヨリ通化ニ討伐指導部ヲ設置ス

ニ指導部所屬ノ人員ハ九月三十日中ニ通化ニ集合シ河崎大佐ノ指示

ヲ受クルモノトス

討伐指導部ノ編成別表ノ通り

ニ指導部ハ主トシテ第一軍管區司令部ノ行フ作戰ヲ直接指導シ第二

軍管區顧問部ニ對シテハ而軍管區司令部ノ協同上必要ナル指導

ヲナスニ止ム

第一軍管區司令部ニ對スル指導ノ要領ハ從來ニ於ケル軍管區顧問部ノ指導要領ニ準ス但シ日滿軍ノ協同宣撫情報ノ蒐集等ニ關シテ

ハ指導部直接之ヲ處理ス

四 討伐間航空機ノ使用ニ關シ左ノ通り定ム

ノ本討伐期間航空機ノ使用ニ關シテハ不時急速ニ大匪團ノ襲撃ヲ受ケ或ハ匪團ノ脱逸ヲ來セル等ノ場合即時出動シテ爆撃ニ依リ友軍或ハ村落等ノ危急ヲ救ヒ又ハ適時諜記目的ノ爲情報獲得ヲ

圖ルニアリ

各部隊ハ其所屬ニ應シ軍管區司令部ヲ經テ通化指導部（第一軍管區顧問部）或ハ新京軍政部顧問部ニ要求シ指導部（軍政部顧

問部、軍管區顧問部ヲ含ム以下同シハ之ヲ關東軍參謀長ニ具

申シ滿洲航空會社ハ其命令ニ依リ必要ノ航空兵力ヲ出動スルモ

ノトス

之カ爲關東軍ハ奉天滿洲航空會社ニ命シ常時武装機三ヲ待機セ

シメアルモノトス

2. 右出動ニ要スル經費ハ關東軍及軍政部之ヲ分擔シ其細部ハ別ニ

定ム

3. 航空機ノ協力ヲ得タル部隊ハ其成果ニ關シ速ニ司令部ヲ經テ指

2188

導部ニ報告スルモノトス

軍政部最高顧問 佐々木 到

下達法一印刷セルモノヲ交付ス

配布先一第一第二軍管區顧問部、各指導部部員

通報先一關東軍

考 備		指導部長 佐々木少將											部 區 分				
一、本表中宣撫員八十月中旬頃通化指導部ニ至ルモノトス		宣 撫		通 信		衛 生		經 理		補 給	情 報、需 兵	情 報、航 空	作 戰		全 般	聯 務 區 分	官 氏 名
		協和會員 一	鷺崎事務官	軍事教官 二	井崎中校	福島中校	第一軍管區司令部 仲 正	嘉悦軍醫正	稻富主計正	小山主計正	芳賀少佐	堤少佐	石井少佐	田中(信)中佐	下山大佐	河崎大佐	附 屬 員
		附屬員三					附屬員五 内二ハ軍政部ヨリ										

秋季討伐指導部編成表

昭和十一年九月十七日  
軍政部顧問部



第二集 中

諸隊ハ滿作命第一號軍政部命令ニ基キ概ネ九月初旬其編成竝出動準備ヲ完結セルヲ以テ九月盡日迄ニ左記ノ如ク集中（細部ハ附錄第二參照）ヲ完了セリ

混成第三旅歩兵第三團ヲ九月十一日 朝陽鎮ニ

混成第四旅（司令部及歩兵第四團）ヲ九月十六日 朝陽鎮ニ

騎兵第三旅主力ヲ九月二十一日 梅河口ニ

混成第五旅司令部

第一教導隊主力

ヲ九月二十一日 山城鎮ニ

靖安軍司令部

靖安軍歩騎各一團

ヲ九月二十四日 山城鎮ニ

第一憲兵隊本部及連

第五軍管區索混成旅及第五憲兵隊ノ一連ヲ九月二十五日 山城鎮ニ

第三軍管區混成第十四旅ヲ九月二十六日 朝陽鎮ニ

國都憲兵隊ノ一連ヲ九月二十六日 山城鎮ニ

第三軍管區混成教導隊ヲ九月三十日 山城鎮ニ

今次滿軍ノ集中輸送ハ熱河作戰以來始メテノ大輸送ナリシモ關東軍線區司令部以下各輸送機關ノ絶大ナル援助ト滿軍指揮官ノ輸送訓練ノ向上ニ依リ全ク圓滑ニ實施シ得タルハ將來作戰ノ爲意ヲ強クスルトコロナリ

### 第三 討伐初期ニ於ケル基礎的軍險區分配置並指導方針

#### 一、基礎的軍險區分及配置

左ノ軍險區分及配置ヲ以テ討伐ヲ開始セリ

討伐指導部  
第一軍管區行營司令部

通化

臨撫地區司令部

臨江(西部一部除ク)

樞松三縣下

長白

混成第三旅

混成第四旅

無線隊

鴿第四分隊

輯安地區司令部

輯安縣

通化縣東南部

部

混成第一旅

混成第二旅

無線隊

鴿第二分隊



直轄部隊

步兵第七團  
國都憲兵連  
第一憲兵連  
第五憲兵連  
獨立第一自動車隊  
奉天無線隊本部

總豫備隊

教道騎兵第一團

補給機關

山城嶺野戰倉庫  
朝陽嶺野戰倉庫  
第一、第二彈藥交付所

患者收容班

以上ノ細部ニ關シテハ附録第三其一、其二及附録第四ノ如シ

## 二、指導方針

當初策定セル指導方針左ノ如シ

## (一) 秋季討伐

(1) 十月下旬迄ハ集團部落ノ結成、道路建設及收穫ノ援護、補給ノ準備、現地ニ即スル訓練ニ重點ヲ置キ其間匪情ノ徹底的蒐集ニ

努ム

但シ本期間ト雖遊撃隊ヲ控置シ匪ノ現出ニ應シ部分的撃滅ヲ圖

ル

(2) 十月下旬ヨ十一月下旬迄先ツ王鳳閣匪ノ撃滅ニ重點ヲ置ク  
 之カ爲遂次兵力ノ移動ヲ行フ

（二）冬季討伐

十二月中旬ヨリ越冬シテ吳義成匪ヲ撃滅ス此ノ時期ニ至レハ要ス  
 レハ指道部ヲ撫松ニ移ス

情況ニ依リ十月中旬ヨリ直ニ吳義成匪ヲ攻撃スルコトアリ

注 意

(1) 國道局ヲ督促シ朝陽鎮―濛江―撫松道ノ改修ヲ急成セシム



(2) 撫松ニ着陸場ヲ急設ス

(3) 掠奪、不拂、其他非違ニ對シテハ特ニ嚴罰ヲ以テ臨ミ軍紀ヲ確

立ス

第四秋季討伐（自十月一日  
至十一月三十日）

一、準備行動

(一) 討伐指道方針第一項第一號ノ諸事項ハ諸隊ノ努力ニ依リ豫定ノ如

ク迅速ニ進捗スヘキ狀況ニアルヲ以テ十月七日左記指道部命令ヲ

下達シ愈々討伐開始ノ準備ヲナサシメタリ

## 滿作命第八號

討伐指道部命令

十月七日午前十時  
於通化指道部

一、紅匪第五第六團及王鳳閣匪ハ通化輯安及臨江縣境方面ニ集合シツ  
ツアルモノノ如シ

二、討伐指道部ハ十月下旬ヨリ十一月下旬ニ百リ先ツ紅匪第五第六團  
及王鳳閣匪ノ徹底的肅正ヲ企圖ス

三、通化地區部隊ハ主トシテ通化縣東北及臨江縣西北地區ニ於ケル紅  
匪第五第六團ニ對シ遊撃ヲ準備スヘシ

別ニ靖安軍ヨリ歩（騎）兵二連ヲ基幹トスル指道部直轄游撃隊ヲ

編成シ十月十八日迄ニ之ヲ通化ニ集合セシムヘシ

四 輯安地區部隊ハ主トシテ輯安通化縣境方面ニ於ケル干風閑匪ニ對

シ游撃ヲ準備スヘシ

特ニ速ニ有力ナル各一部ヲ以テ輯安以北二道溝（含ム）以南輯安、

臨江縣境ニ至ル鴨綠江右岸ノ要地ヲ占據セシメ匪ノ糧道ヲ絶ツニ

努ムルヲ要ス

五 臨撫地區部隊ハ一部ヲ鴨綠江岸臨江輯安縣境方面ニ派遣シ匪ノ糧

道ヲ紹ツニ努ムヘシ

六 金柳地區及濛輝地區部隊ハ當該地區内ニ於ケル匪ノ逃竄ヲ防止シ  
隨所ニ之ヲ擊滅スルノ準備ニ在ルヘシ

七 各地區部隊ハ配備完了セハ前各項ニ基ク地區游擊部隊ノ編成(通  
化地區部隊ニ在リテハ直轄部隊ヲ含ム)及其行動決定ノ概要ヲ計畫シ十月  
十五日迄ニ指道部ニ電報報告スヘシ

八 現ニ各地區部隊ノ實施シツツアル游擊行動中本命令ノ實施ニ支障  
ヲ來ササルモノハ之ヲ續行セシメ其他ハ暫ク之ヲ控留スルモノト

ス

討 伐 指 導 部 長 佐々木 少 將

下 達 法

通化靖安軍司令、輯安望月中佐、臨撫田中顧問、金柳駒井中佐  
濛輝永田中佐ニ電報シタル後印刷セルモノヲ送付ス

通 報 先

軍司令部、軍政部顧問部、第一軍管區顧問部、指導直轄部隊  
一獨司、二獨司、鈴木部隊、越江部隊、通書

滿作命第九號

第一壽兵隊長ニ與フル命令

十月八日午後六時  
於通化指道部

一、通化輯安及臨江縣境方面ニハ紅匪第五第六團及王鳳閣匪集合シツ  
ツアルモノノ如ク特ニ八道江及六道溝門附近ヲ中心トスル地方ハ  
通匪者多ク肅清ヲ要スルモノ甚大ナリ

二、軍八十月下旬ヨリ先ツ紅匪第五第六團及王鳳閣匪ノ徹底的肅清ヲ

企圖ス

三、貴官ハ在通化滿軍需兵諸部隊ヲ統一指揮シ富田需兵少佐ノ指道ニ

準據シ地方警察官憲ヲ區處シ主力ヲ以テ六道溝門一部ヲ以テ八道江ヲ各中心トスル地域ノ肅清ニ任スヘシ

四 隸屬系統ヲ異ニスル各部隊所屬兵員相互ノ融和竝地方官民ニ對シ軍民一致ノ良風ヲ養成スヘキ點ニ關シテハ特ニ指導上注意ヲ要ス  
 五 特別諜報費トシテ 圓ヲ支給ス

第一軍管區主任顧問 河崎大佐

下達法 一 要旨ヲ口達シタル後印刷セルモノヲ交付ス

通報先 一 各地區顧問及指導官、靖安軍司令、直轄部隊、軍司令部、軍政部顧問部  
 滿憲司、二、三、五軍顧問、日憲司、奉憲、通憲、一獨司、二獨司、鈴木部隊

(一) 秋季討伐ニ於ケル重點目標ヲ王鳳閣匪ノ擊滅ニ指向セル爲討伐開

始前十分ナル相互連絡協定ノ要アルニ鑑ミ十月二十二日第一線各

軍事教官ヲ通化ニ招集シ其管内ノ匪勢、部隊ノ配備、討伐實施要

領竝將來ノ方策、情報蒐集ノ手段及其景況、補給、通信、交通、

治本工作等ニ關シ報告セシムルト共ニ左ノ指道部命令及所要ノ指

示ヲ與ヘタリ

滿作命第十一號

討伐指道部命令

十月二十一日正午  
於通化指道部



一 輯安地區部隊ノ勇戰ニ依リ王鳳閣匪ノ主要ナル根據地ハ之ヲ覆滅

シ得タルモ主匪ヲ逸セリ、討伐地域内有力ナル紅匪ヲ見ス

二 指道部ハ十月二十五日ヲ期シ一齊ニ各方面ヨリ臨江西北地區ニ向

ヒ輯安、通化、濛輝及臨撫各地區部隊ヨリ選拔セル游撃部隊ノ總

游撃ヲ開始セシメ王鳳閣匪ノ徹底的掃滅ヲ企圖ス

游撃終期ハ概ネ十一月二十日トス

三 第一直轄游撃隊（靖安歩兵第二團第二營長ノ指揮スル約二連）及

第二直轄游撃隊（歩兵第七團主力）ハ各々概ネ附圖所定ノ經路若

ハ地域ヲ經テ王鳳閣匪ヲ追躡撃滅スヘシ

四 輯安、通化及濛輝ノ各地區部隊ハ其準備セル游撃部隊及其他爲シ得ル限りノ兵力ヲ以テ概ネ附圖所定ノ地域内ヨリ王鳳閣匪ヲ窮追殲滅スヘシ

但シ十一月十五日迄ニ附圖所定ノ線ニ進出シ概ネ一日間該線ニ停止シテ比隣部隊トノ連繫協同ヲ調整スルモノトス

通化地區部隊ハ別ニ有力ナル一部ヲ以テ孫委員匪ヲ捕捉殲滅スヘシ又十一月十日迄有力ナル一部ヲ以テ輯安地區部隊ノ六道溝門西

南方山地帯ノ掃蕩ニ協力セシムヘシ

輯安地區部隊ハ輯安以北地區内鴨綠江沿岸ノ要地ヲ占メ匪ノ鮮内  
逃逸ヲ阻止スヘシ憲兵一排ヲ十月盡日迄ニ輯安ニ於テ其指揮ニ入  
ラシム

各地區部隊ハ前項ノ外當該地區内ニ於ケル重要ナル目標ニ對シ所  
要ノ游撃行動ヲナスト共ニ地區境界附近ニ於ケル警備ヲ爲シ得ル  
限り嚴ナラシメ隨時脱出匪ヲ撃滅スヘシ

六前各項ニ關聯シ各地區部隊ハ地區内主要地ニ於ケル檢索抑査ヲ勵

行シ通匪者ヲ徹底的ニ檢舉スヘシ

七混成第一憲兵隊長ハ現任務ヲ續行スルノ外速ニ輯安地區鴨綠江岸

ニ於ケル檢索ニ協カスヘシ

八作戰指導ノ要領、補給、通信及經理、衛生等ニ關シテハ主任部員

ヲシテ別ニ指示セシム

九予ハ通化ニ在リ

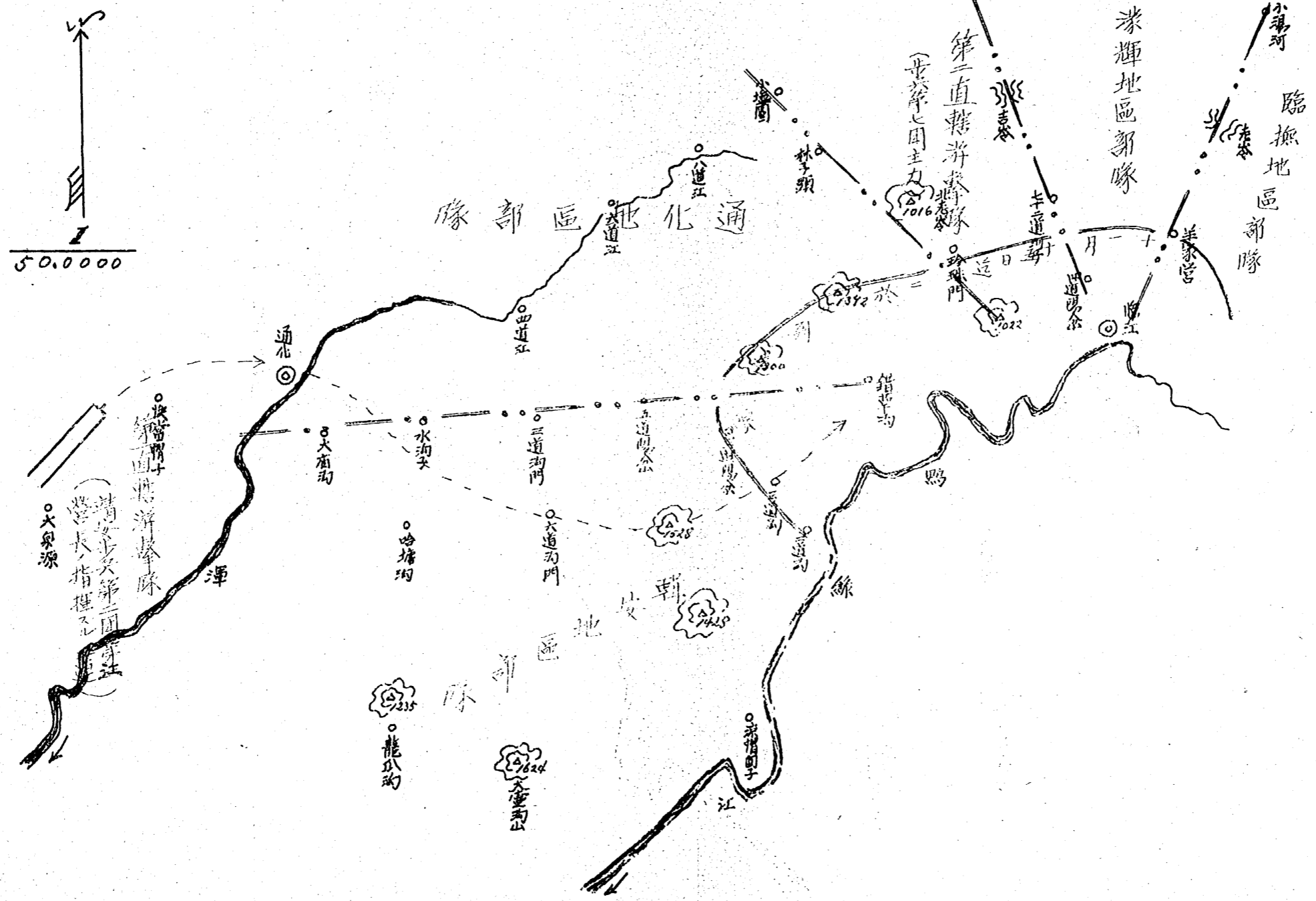
討伐指導部長 佐々木 少 將

下達法一印刷セルモノヲ各軍事教官及靖安軍參謀長、混成第一憲兵隊長ニ交付ス

2210

通報先、一軍政廳、一軍廳、二軍廳、關軍、關書司、一獨司、二獨司  
江界守、通書

# 王鳳閣匪掃蕩行動地域要圖



作戰主任者指示事項

(下 山 大 佐)

唯今ヨリ指示スル所ハ來ル二十五日以後開始セラルル第一期作戰ニ  
必要ナル事項ニシテ第二期作戰ノ爲所要ノ事項ハ追テ指示ス

各部隊ノ任務及行動ノ要領ハ別紙添作命第十一號ニ依リ明ナルモ尙  
所要ノ説明ヲ加ヘントス

一 今次作戰ノ目標ハ王鳳閣トス其首級ニ五千圓ヲ賭ク

二 作戰指道一般ノ要領ハ臨江附近ヲ到達目標トシ輯安、通化、濛輝

臨撫各地區ヨリ選拔セル如擊隊及直隸游擊隊ヲシテ苟モ人ノ通過  
49

シ得ヘキ山稜ハ悉ク之ヲ踏破シ集中的ニ前進セシム

三 臨江到達迄ノ期間ヲ約四週間ト豫定シ十一月二十日ヲ以テ第一次

討伐終期トス

途中十一月十五日迄ニ別紙命令附圖ノ線ニ到達セシメ所要ノ規整  
ヲ行フ

四 各地區海嶽險行動地域ノ境界別紙命令附圖ノ通り但シ通化地區部  
隊ハ十一月十日迄有力ナル一部ヲ輯安地區部隊行動地域ニ派遣シ  
六道溝門西南方山地帯ノ掃蕩ニ協力セシムルモノトス



五 各部隊ハ敵ニ遭遇セハ前項ノ期日要圖ノ境界如何ニ拘ラス之ヲ追躡ス而シテ之カ爲生スル前進正面ノ間隙ハ期ヲ失セス之ヲ補填スルモノトス又各縦隊ノ孤立暴進ヲ勝ニ戒ムルヲ要ス

六 各部隊ハ所定ノ期日内ニ擔當地域内ヲ縱橫剩ス所ナク掃蕩スルモノトス

七 補給ハ各部隊自ラ計畫實施スルモノトシ特ニ必要ナルモノハ速ニ指道部ニ處置ヲ要求スルモノトス

八 通信ハ鴿及無線ヲ主トシ可能ノ地域ハ電話ニ依ル

各地區部隊ハ擔當地域内ニ少クモ一ノ通信幹線ヲ設備スル如ク考案スルモノトス

九 各地區部隊ハ前各項討伐行動間地區内仲方面ノ警備ヲ怠ラス特ニ前記討伐地域内ヨリ脱出スル匪ノ捜査撃滅ニ努ムルモノトス

十、軍隊、憲兵及警察ハ右討伐間斷ナク主要各街村ノ捜索ヲ續行ス  
 特ニ六道瀧門峪地兩側ノ小谷地内及八道江東方及東北方内峪地並  
 安臨江間各村落等ニ重點ヲ置クモノトス

十一、右ノ討伐大ナル效果ヲ奏セサル時ハ抑ネ嚴密附近ヲ到達目標トシ

輯安及通化地區部隊ノミヲ以テ反轉シテ前各項ノ要領ニ準シ集中的ニ討伐行動ヲ復行ス

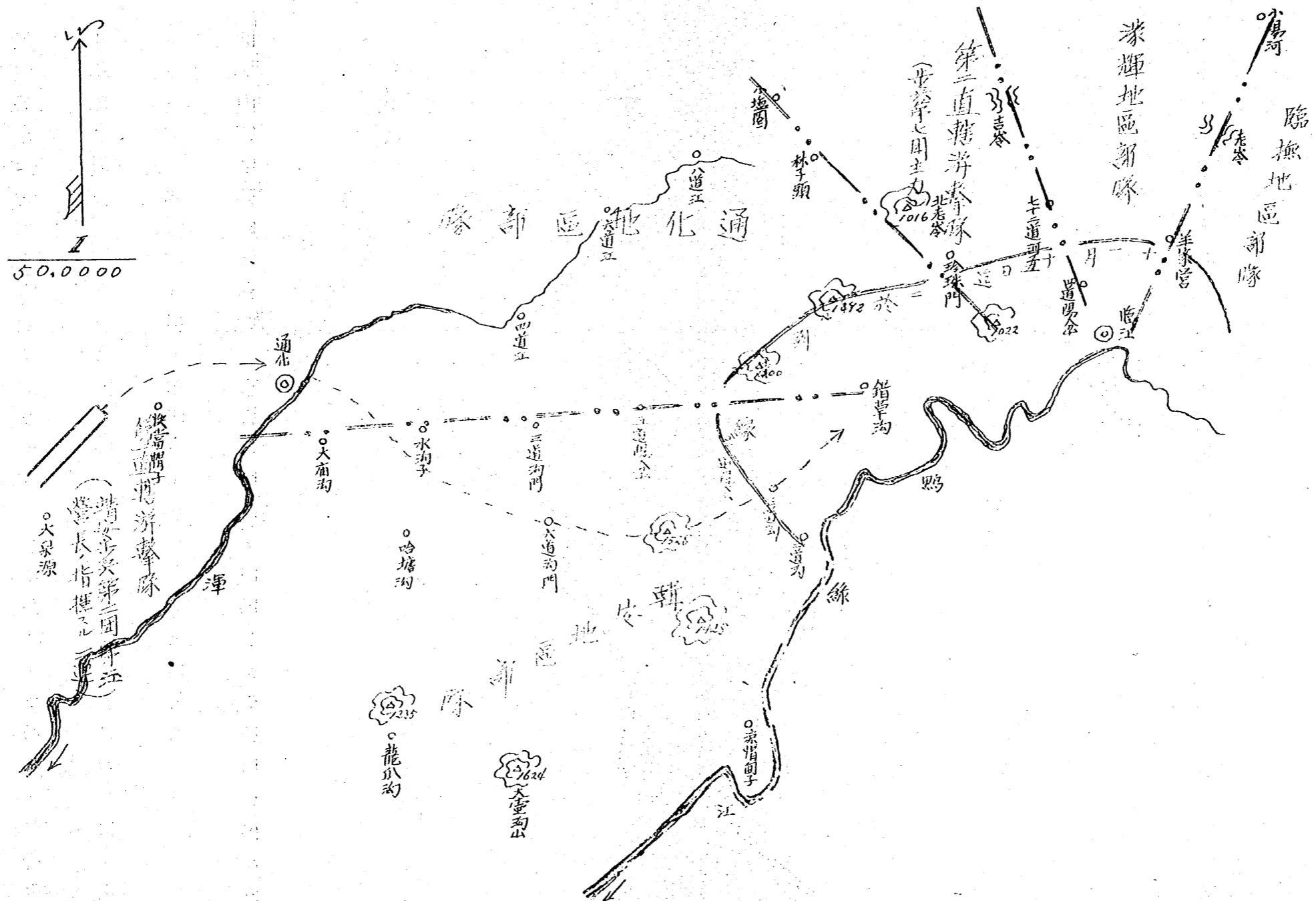
終ニ臨ミ勦匪ニ關スル若干ノ鄙見ヲ附加セントス

近時匪團ノ益々分散逃避スルニ鑑ミ之カ捕捉就中匪首ノ捕獲ニハ一段ノ工夫努力ヲ要ス之カ爲己ニ各部隊ニ於テ相當苦心ヲ拂ハレアルヲ諒知スルモ尙晝間一日行程以内ヲ示威行軍的ニ比較的大ナル部隊ヲ以テ移動スル等ノモノアルハ遺憾ナリ此ノ如キハ殆ント其效果ナキヲ以テ一層匪情ニ即應セル各種手段ノ彼此併用ニ依リ

速ニ匪若ハ其連類者ヲ捕ヘ的確ナル匪ノ動靜ヲ偵知シ以テ匪首若  
ハ其直接護衛者等ノ存在スル地域ヲ夾叉的ニ判斷決定シ且極力其  
豫想潜在地域ヲ縮少シテ之ヲ包圍シ少數選抜ノ勇敢ナル決死隊的  
小集團ヲ放ツテ一舉急襲的ニ匪ノ本據ヲ衝ク等ノ着意ヲ以テ指道  
セラレ特ニ其宵行ヲ嚴ニ督勵セラレンコトヲ切望ス

匪ノ山寨中要點ニ存在シ將來我掃蕩ノ據點トシテ利用シ得ルカ如  
キモノハ必要ノ期間之ヲ存置スルヲ却テ有利トスヘキヲ以テ指道  
上留意アリ度

# 王鳳閣匪掃滅行動地域要圖



討伐指導部第一次謀報計畫

昭和十一年十月十日  
討伐指導部

考	備	編成並實施要領			要	概	施	實	針	方
		班三第	班二第	班一第						
<p>四軍事教官ノ區處ヲ受クヘキ各機關ハ滿軍ニ於テ利用セルモノヲ其儘使用スルモノトシ之ニ要スル經費ハ旅ノ討伐費ノ支給トスルモ特ニ必要ナルモノニ限リ別ニ詮議ス</p> <p>五古岳中校ノ指道スル憲兵隊ニ對スル經費ハ別途支給ス</p> <p>六特別工作班ヨリ差出ス班員ニ對スル經費ハ討伐指導部ニ於テ別途支給ス</p>	<p>一堤顧問ハ憲兵隊ノ直接指道ニ任ス</p> <p>二富田憲兵少佐ハ討伐指導部ニ在リテ石井顧問ヲ輔佐スルノ外主トシテ憲兵隊ノ指道ニ任ス</p> <p>三混成憲兵一ヶ排ハ直接日本憲兵隊指道ノ許ニ通化ニ在リテ豫備隊トシ通化縣城ノ搜索ニ任ス</p>	<p>石井 特別工作班一若干名</p> <p>古中 特別工作班一若干名</p> <p>古中 第一憲兵隊</p>	<p>井 特別工作班一若干名</p> <p>古中 特別工作班一若干名</p> <p>古中 特別工作班一若干名</p> <p>古中 特別工作班一若干名</p>	<p>第一班 特別工作班一若干名</p> <p>第二班 特別工作班一若干名</p> <p>第三班 特別工作班一若干名</p> <p>第四班 特別工作班一若干名</p> <p>第五班 特別工作班一若干名</p> <p>第六班 特別工作班一若干名</p> <p>第七班 特別工作班一若干名</p> <p>第八班 特別工作班一若干名</p>	<p>系統及編成</p> <p>長</p> <p>臨江縣警察一林子頭、八道江、六道江</p> <p>江土崔各警察署</p> <p>保甲長一右各甲ヨリ密偵若干名</p> <p>特別工作班一若干名</p> <p>通化縣警察一第二第三區北半部、第八區警察署</p> <p>保甲長一右各甲ヨリ密偵</p> <p>特別工作班一若干名</p> <p>國都憲兵隊</p> <p>通化縣警察一第二三區南半部</p> <p>通安縣警察一第四區警察署</p> <p>保甲長一右各甲ヨリ密偵</p> <p>特別工作班一若干名</p>	<p>謀報網第一次工作地域要圖ノ如ク其成果ノ進展ニ伴ヒ第二次工作地域ニ推進ス</p> <p>對象目標ハ第一班紅軍匪第六團、第二班紅軍匪第五團、第三班王鳳閣匪トシ匪團ノ系統組織、潛伏地點(特ニ匪首ノ所在地)行動地域、經路、補給路ノ探知地下組織ノ破壞ヲ主要任務トシ謀報機關獨力ヲ以テ之ニ任スルノ外特ニ直轄游擊隊及討伐部隊ト連繫ヲ周密ナラシメ其獲得セル謀報ノ適切ナル利用ニ努ム</p> <p>各班ノ實施スル情報ノ蒐集ニハ特ニ日本軍及憲兵隊ノ實施スルモノト連繫協同スル着意ヲ要ス</p>	<p>一討伐指導部ノ實施スル謀報網ハ日本軍及憲兵隊ノ治本工作ニ連繫協力シツツ實施スルモ滿軍討伐行動地域廣大ナルニ鑑ミ地區ニ依リテハ本謀報機關主動トナリ活動スヘキ場合多キヲ豫期ス</p> <p>二謀報ノ實施ハ討伐行動ニ連繫セシムルモ先ツ十月中旬迄ヲ準備期トシ各機關ト連繫組織網ノ構成教育等ヲ實施シ十月中旬ヨリ第一次工作ヲ實施ス第二次工作開始ノ時期ハ情況ニ依リ別ニ指示スルモ概ネ十二月上旬ト豫想ス</p> <p>三謀報網第一次工作地域要圖ノ如ク其成果ノ進展ニ伴ヒ第二次工作地域ニ推進ス</p> <p>四對象目標ハ第一班紅軍匪第六團、第二班紅軍匪第五團、第三班王鳳閣匪トシ匪團ノ系統組織、潛伏地點(特ニ匪首ノ所在地)行動地域、經路、補給路ノ探知地下組織ノ破壞ヲ主要任務トシ謀報機關獨力ヲ以テ之ニ任スルノ外特ニ直轄游擊隊及討伐部隊ト連繫ヲ周密ナラシメ其獲得セル謀報ノ適切ナル利用ニ努ム</p>	<p>各地區部隊ニ於ケル謀報網ハ各地區司令官ヲシテ各種機關ヲ統一指道ノ許ニ實施セシムルモ討伐軍ノ重點ヲ指向スヘキ地域ニ對シテハ別ニ指道部直轄ノ謀報網ヲ組織シ機ニ投スル適確ナル情報ヲ蒐集シ直轄游擊隊ノ討伐行動ヲ適切ナラシムルト共ニ各地區討伐隊ニ有利ナル情報ヲ與ヘ以テ其討伐成果ヲ十分ニ發揮セシム</p>		
		<p>閣鳳王 團五第匪軍紅 團六第匪軍紅</p> <p>區三第化通 區三第化通 區六第江臨</p> <p>安縣及部南 八第及部北 五第江臨</p> <p>區四第 區八第 區七</p>	<p>一關係警察署長以下ヲ指道シ平時ニ於ケル謀報網ノ強化徹底ヲ圖リ優良ナル常備密偵網ヲ配備ス</p> <p>二地區内保甲長ヲ利用シ積極的ニ通匪者ノ檢索、匪情ノ蒐集ニ努メシムルノ外地形及道路ノ案内者ヲ各甲二名宛選定セシメ討伐部隊ト連繫シ之カ利用ニ努ム</p> <p>三特別工作班員ヲ密偵トシテ使用シ特ニ鮮人ニ對シ工作セシム</p> <p>四憲兵隊ハ不良分子ノ檢索ニ努ムルノ外特ニ便衣隊ヲ編成シ搜匪工作ヲ行ヒ且密偵網ノ監視ヲ實施ス</p>							

## 滿洲國憲兵指導計畫

(富田 憲兵少佐)

## 方 針

滿洲國軍隊ノ行フ討匪ニ併行シ之カ討伐行動區域内ニ於ケル滲入逃避等散逸匪賊ノ索出檢舉特ニ共產黨團ノ地下組織破壊ノ思想工作及便衣ヲ以テスル暗殺決死ノ變裝隊ノ編成兼ネテ討伐行動ニ策應シ之カ勦匪ノ爲有效ナル資料提供ノ目的ヲ以テ諜報網ノ構成併セテ士兵員其他非行暴違ヲ監察警戒シ協和ノ順道ニ理セシメ保安勤務遂行上ノ他ノ警察務ハ逐次分示擔當セシメ以テ部隊配屬又ハ隨伴若クハ獨

立シテ治安肅正ノ重要勤務ニ服シ得ル如ク指導ス

### 指導概要

一 若干日準備教育ヲ實施シ憲兵勤務ニ必要ナル素地ヲ與ヘ應用能力ヲ助成シ一貫セル方針ノ下ニ勇敢進取ノ氣性ヲ長成自信力ヲ得セシム（教育實施豫定表別紙ノ通り）

### 二 部隊ノ使用

獨立シテ行動スル部隊ハ努メテ建制ヲ保持セシム

三 東邊道中心地ニシテ且地方物産ノ補給地タル通化附近ニ於ケル徹



底的檢問檢索ヲ實施シ潛入逃匪ヲ索出シ匪民分離ヲ明カニシ匪化地帯ノ中心ヲ淨化シ之ヲ周圍ニ波及セシムル爲一部ヲ以テ所在地警務機關ト協力保安ノ勤務ニ服セシム

四 部隊配屬又ハ討伐隊ニ隨伴スル憲兵ニ對シテハ諜報蒐集ト共ニ共匪橫行地附近ノ地下組織共產黨團ノ剷扶破壞ニ任セシム

一部ヲ以テ便衣隊ヲ編成セシメ匪首捕獲又ハ暗殺ヲ企畫セシム

五 滿蒙勤務ハ滿軍討伐ニ協應スヘキモノニシテ功ニ急キ討伐部隊ノ行動ニ妨害アル行爲ヲ戒メ斷順取扱小討匪等ノ行爲ニ就テハ所在

部隊ト十二分ノ浦絡ヲ爲シ彼此齟齬ナキ様戒心セシム

六 滿軍部隊ト民衆ノ軍民一致ノ實ヲ舉ケシムル爲士兵員其他ノ監察

ヲ行ハシム

七 日鮮滿人ニ對スル滿膏ノ職務執行ハ奉天警務統制委員會幹事長兼

奉天膏兵隊本部特高課長ノ指導下ニアリテ行フモノト看做ス

八 協和會特別工作班ト密接ナル浦絡ヲ保持セシム

膏施要領

一 滿膏各部隊ヨリ小數宛ノ差出人員ヲ以テ混成ノ一箇排ヲ編成シ浦

化市内ノ保安勤務ヲ實施セシメ日本憲兵隊長ノ區署下ニ置ク

ニ通化縣城内ヲ一區畫トシ縣城内日鮮滿人ニ住民之證ヲ交付シ外部

ヨリノ潛入逃避其他散逸匪賊ト住民トヲ分離セシメ外部ヨリノ潛

入者ト區分鑑別シ一方縣城内ヲ肅正淨化匪民分離ヲ明徴ニシ兼テ

物資ノ匪賊ニ密送セララルヲ防止ス

細部ニ關シテハ匪民鑑別ノ主旨並住民之證支給規定ニ於テ示ス

ニ其他通化市内淨化ノ補助手段別紙計畫第一ノ如シ

四 臨時編成ノ滿憲隊長ヲシテ作命ニヨリ兵力部署ヲ明示任務ヲ附與

セシム之カ細部ノ指示ニ就テハ別紙第二ノ如シ

五 隨行ノ憲兵及所在地憲兵ヲシテ指導ノ補助ヲ爲サシム

六 各機關不良惡徳密偵ニ對シ取締ヲ行フ

別紙第一

通化市内淨化計畫

一 住民之證ヲ發給ス

二 市内四圍ニ固定檢問所四個ヲ設置ス

之カ編成左ノ通り

編成左ノ通り

≡ 海動検問班二箇ヲ編成ス

満需ニ對シテハ憲兵腕章ヲ使用セシム

配置箇所ニ應シB、C、Dヲ適宜決定ス

場所	區分	日需	領警	満需	満警	白衛團	計
D		一		二	三	二	八
C		一		二	三	二	八
B		一	一	二	三	二	九
A (渾江渡場)		一	一	二	四	三	一一

兵 諜 報 網 ノ 設 置

臨時檢索及一齊檢束指定地檢索ヲ實施ス  
 之カ爲兵員不足ノ場合ハ滿軍ノ協援ヲ求ム

四 檢 索

人員不足スルトキハ滿軍ニ憲兵勤務補助者ヲ請求（依頼）ス

R	A	場 所 / 區 分
一	一	日 憲
一	一	領 警
一	一	滿 憲
四	五	滿 警
一	一	自 衛 團
八	九	計

1. 鮮人狀況

2. 滿人狀況

六 諜報蒐集ノ爲直接滿需ヲ便衣特務ニ勤務セシム

七 日本憲兵ヲ主トシ滿需ヲ加ヘ通信ノ檢閲ヲ實施セシム

八 所在地警務機關ヲシテ戸口調査殊ニ主人不在ノ婦女ノ身元ニ付徹

底的偵査ヲナサシム

住民之證支給規定

第一條 通化縣城在住ノ日鮮滿（軍部關係者中私服着用ノ見込ナキ

モノヲ除ク）人中年齡十五歳以上ノ男女（特ニ不要ト認メタルモ  
ノヲ除ク）ニ對シ住民之證ヲ支給ス

第二條 前條在任ノ意義ハ住居又ハ住所ヲ有シ又ハ一定ノ期間滯留  
スルモノヲ言フ

一時滯留スルモノハ住民ト看做シ一定ノ期間滯留スルモノト共ニ  
住民之證ニ代フヘキ證憑ヲ交付シ又ハ交付スルコトアリ

第三條 通化縣城トハ別紙第一圖劃内ヲ指稱ス

但縣城ニ接近シ當時出入スル部落民ニハ縣城内居住民（之ト區別



ヲ設クニ準シ住民之證ヲ交付スルコトアリ

第四條 住民之證ノ様式及記載事項別紙第二ノ通り

第五條 縣城内在住者ニシテ縣城内外出ノ際ハ必ス之ヲ携行シ其他

日滿官需ヨリ提示ヲ求メラレタルトキハ提示身分ヲ立證スルモノ  
トス

第六條 縣城内ニ入城者ハ速ニ左記區分ニ依リ届出ヲ爲スモノトス

日本軍險關係者及同家族  
通化憲兵分隊

滿洲國軍隊

滿洲國憲兵隊

日鮮人（憲分隊届出者ヲ除ク） 領事館警察署

滿 人 通化警察署

旅館宿泊者ハ旅館主ヨリ届出ヲ爲スモノトス

第七條 旅館宿泊者ニ對シテハ住民之證ニ代ルヘキ旅館宿泊之證ヲ

交付スルコトアリ

第八條 街頭歩行者ニシテ住民之證ヲ所持セサルモノハ歩行ヲ禁止

又ハ制限ス

第九條 縣城内出入者ニ對シテハ出入之證（當日限リトシ翌日以後

ニ百ルモノハ別ニ許可スヲ交付ス

第十條 住民之證ハ無料支給ス

但紛失シタルモノニ對シテハ別ニ指示スル所ニ依ル、二回以上紛

失シタルモノハ故意アルモノト看做シ制裁手段ヲ講スルコトアリ

第十一條 申告虚偽ナルコト判明セル場合並道示ニ應セサルモノハ

適法ニ依リ處斷スルコトアリ

第十二條 本規定ハ昭和十一年十月二十日ヨリ實施ス

奉天地方警務統制  
委員會 會長

陸軍憲兵少佐

富田直澄

通化憲兵分隊長

陸軍憲兵少尉

小林庄吉

混成第一憲兵隊長

陸軍憲兵中校

古岳新治

通化縣長

劉天成

通化領事館警察署長警部

原嘉市

別紙第三

部隊憲兵使用計畫

一 所在部落内ニ檢問所ヲ設置時々一齊檢索竝指定區域ノ檢索ヲ實施

シ潛入逃避ノ散逸匪賊ノ逮捕

ニ 諜報網ノ設備及偵諜培養

三 便衣隊ヲ組織シ

ノ 決死ヲ以テ匪首捕獲及暗殺要スレハ謀略ニ依ル殺害（毒殺）

ニ 情報蒐集

四 革命匪團陽性共產黨團ノ地下組織、救支撥ノ檢舉破壊

五 小匪ノ討伐

六 報告提出ノ要領

急ヲ要スル報告ハ特報トシ其他ハ旬報トス

2235

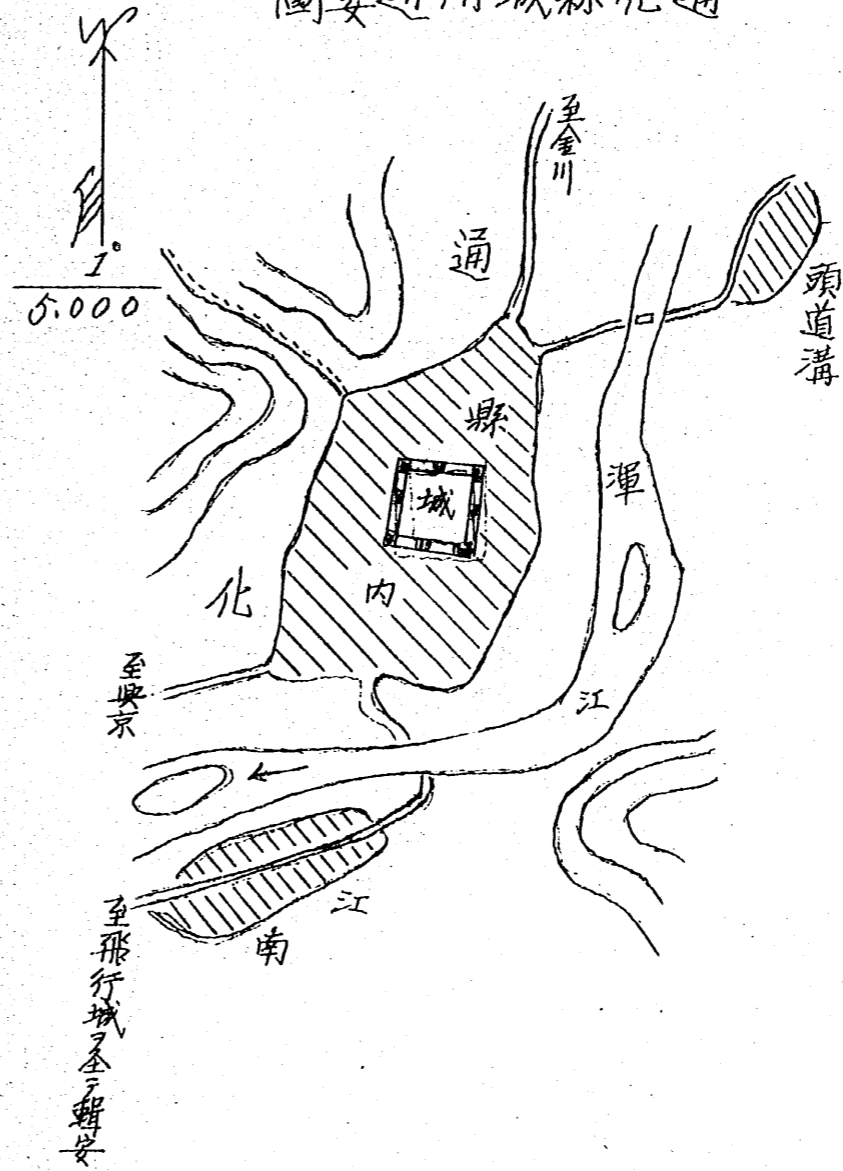
不良日鮮人取扱ニ就テハ上司ノ指示ヲ受ケシム  
各隊ノ計畫ヲ徹シ檢討ス

別紙第三

<p>一 他人ニ譲渡ヲ許サス ニ紛失シタルトキハ届出ノコト</p> <p style="text-align: center;">注意</p>	<p>身長</p>	<p>——折——込——線——</p>	<p>本籍</p>	<p>住民之籍</p>	<p>第 號</p>
	<p>相貌</p>				
		<p>姓名</p>	<p>被行印</p>		
		<p>別名</p>		<p>年 齢</p>	

通化縣城附近要圖

別紙第一



## 北部東邊道秋冬季討伐ニ伴フ宣傳實施計畫

(堤

少佐)

## 一 方針

討伐ノ全期ヲ通シ討伐部隊士氣振作、匪民分離工作ヲ實施ス  
 而シテ全期間ヲ二期ニ區分シ十月一日ヨリ十一月末日迄ヲ第一期  
 以後ヲ第二期トシ第一期ハ通化ニ本據ヲ置キ別ニ移動宣傳班ヲ編  
 成シ各處ヲ巡回シ主トシテ匪民分離工作ヲ實施シ第二期ハ討伐進  
 展ノ狀況ニヨルモ移動宣傳班ヲ取止メ濛江又ハ撫松ニ駐中シ通化  
 宣傳班ト相俟テキトシテ討伐士氣鼓吹振作ニ當リ匪民分離工作ヲ



續行ス

尙宣傳班ノ行動ニ關シテハ討伐ノ推移ニ應シ好機ヲ利シ其全機能ヲ發揮シ得ル様當ニ留意スルモノトス

ニ一般要領

ノ通化ニ於テハ蒐集スル諸情報ニヨリ主トシテ文書ヲ以テ軍内外ニ對スル宣傳ヲ實施スルト共ニ各縣公署、協和會ヲ督勵シ相互ニ緊密ナル連繫ヲ保持シ統制アル宣傳ヲ實施スル如ク指導スルモノトス

2. 文書宣傳（佈告、傳單、ポスター）ハ時宜ニ則シタルモノヲ作

製シ成可ク單簡ナル白話体ヲ以テ記述シ繪畫ヲ挿入スル等諳者

ヲシテ容易ニ理解シ得ルモノタラシム

3. 國軍討伐ノ狀況殊ニ我軍ニ有利ナル狀況ハ奉天ヨリ日滿新聞ニ

發表ス

4. 宣傳文書ノ配布ニハ行動中ノ各部隊ヲ通シテ行フ外警察、協和

會、保甲ヲ通シ廣範圍ニ配布ス

5. 移動宣傳班ハ活動寫眞、著音機、擴聲器ヲ携行シ軍隊及民衆ニ

對シ講演、映畫（解説）ヲ以テ國家國軍現狀、滿洲國ノ世界的

地位、日滿不可分ノ關係、匪賊ノ必滅等ニ就キ徹底的ニ理解セ

シム

6. 國內治安ノ肅正ハ軍警ノ討伐ニヨリテノミ完成セラル可キモノ

ニナラスシテ之ヲ援助スル民衆ノ力ノ大ニシテ直ノ軍民協力ニ

依リ始メテ之カ實現ヲ期待シ得ルモノナリトノ理ヲ徹底セシメ

國民トシテノ覺醒ヲ促ス

7. 移動宣傳班ハ十二月一日以後輝南、濛江又ハ撫松ニ位置シ主ト

シテ文書ニ依リ附近一帯ノ軍隊及民衆ニ對スル宣傳ニ任ス  
8. 移動宣傳班ノ行動豫定地附圖第一ノ如シ

器具 材

宣傳ノタメ左記器材ヲ携行ス

輪轉騰寫器 二 臺

印刷紙（全） 三萬枚

鐵筆用原紙 五百枚

映寫器（無聲） 一 臺

發 雷 器 一 臺

擴 聲 器 一 組

著 音 器 一 臺

四 派 遣 人 員

ノ 通 化 ニ 位 置 ス ル セ ノ

高 中 校 、 渡 鳥 雇 員 、 白 雇 員

2. 移 動 宣 傳 班

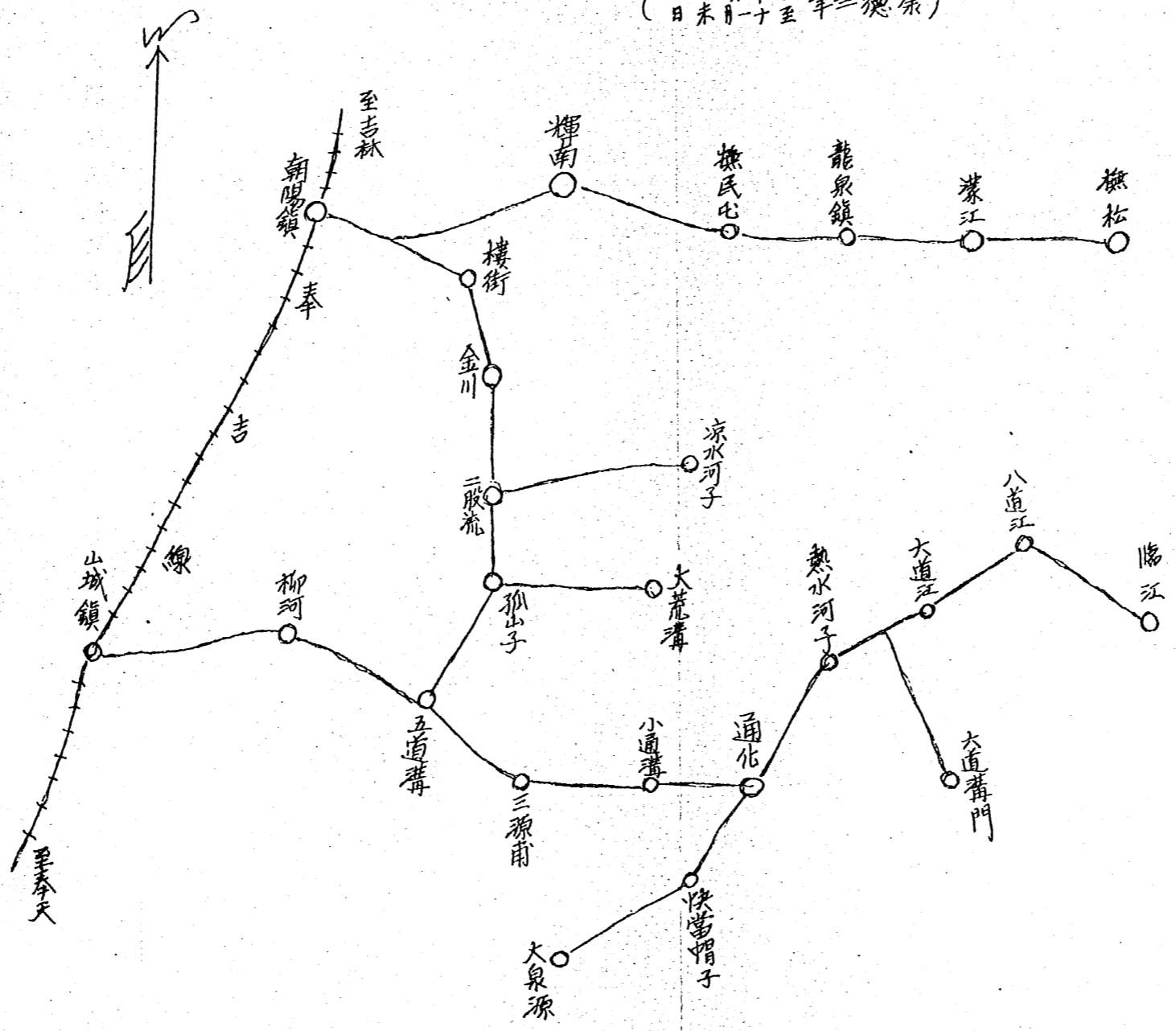
石 嶋 上 尉 、 駱 中 士

# 移動宣傳班行要圖

(大正十一年十一月一日至十一月十一日)

## 備考

○印講演映画會實施豫定地  
但此狀況ニ依リ変更スルコトアリ



講演ノタメ滿系軍官一ヲ附ス  
會根崎雇員(軍政部ヨリ派遣)行動ヲ共ニス

東邊道討伐ニ伴フ給養補給計畫書

(稻富主計少佐)

第一、方針

今季討伐間ニ於ケル第一軍管區軍及臨時配屬部隊ノ給養補給ハ現地物資ニ依リ各部隊毎ニ調辨セシメ努メテ追送ヲ輕減セシム  
但物資ノ現況ヲ顧慮シ給養ヲ確保スル爲一部ヲ追送糧秣ニ依ラシム

第二、要領

一 給養兵額 (總兵額 人 一六二〇〇  
馬 六三〇〇)

2244

(各縣治安隊員ヲ含マス)

區分	兵額		合計
	人	馬	
臨撫地區	二、四〇〇	九〇〇	三、三〇〇
濛輝地區	一、五〇〇	五〇〇	二、〇〇〇
金柳地區	一、九〇〇	一、三〇〇	三、二〇〇
通化地區	八五〇	一〇〇	九五〇
輯安地區	二、五〇〇	一、〇〇〇	三、五〇〇
直隸部隊	八五〇	一〇〇	九五〇
總豫備隊	四五〇	四〇〇	八五〇
合計	一〇、四五〇	四、三〇〇	一四、七五〇
			臨時配屬部隊
			人
			馬
			合計
			人
			馬



ニ野戰倉庫ノ開設

左ノ如ク野戰倉庫ヲ開設シ移駐行軍間並討伐行動間第一線部隊ニ

兵器彈藥糧秣陣中事務用品及其他ノ軍需品ノ補給ニ任セシム

其開設日時、補給擔任區域、補給品種、集積員、要員ノ配當及補

給系統別紙第一、第二ノ通りトス

左記

ノ山城鎮野戰倉庫 (イ) 同山城鎮野戰倉庫 右庫 通化支庫

2. 朝陽鎮野戰倉庫 (ロ) 同朝陽鎮野戰倉庫 右庫 濛江支庫

三 補給品種、定量及追送率

補給		追送區分		摘要
品種	定量	地區	率	
小麥粉	二百四十匁	臨撫地區	一	一、乾麵包ハ日本軍ヨリ若干ノ保管轉換ヲ受ケ利用ス交付ヲ了セハ小麥粉ヲ以テ代用ス 二、追送率ハ現存ノ狀況ニ依リ若干變更スルコトアリ
乾麵包	(四五〇瓦) 一二〇匁	濛輝地區	一	
鹽干魚	三〇匁	金柳地區	一	
食鹽	三匁	輯安地區	一	各部隊ノ現地調辨ニ委スルモ狀況ニ依リ倉庫地附近ニ於テ一括調辨ノ上一部ノ補給ヲ行フ
大米		臨撫地區	〇	
包米		濛輝地區	〇	
高粱	三斤	金柳地區	〇	
豆餅	二斤	通化地區	〇	
谷草	一〇斤	輯安地區	〇	

四 倉庫ノ充實要領

一、第一軍管區軍需處長及軍械處長ハ奉天附近ニ於テ所要ノ糧秣、

兵器彈藥及兵器用物品其他ノ軍需品ヲ調達シ鐵道輪送ニ依リテ

先ツ山城鎮及朝陽鎮野戰倉庫ヲ充實ス

2 山城鎮野戰倉庫長及通化支庫長ハ陸路輪送ニ依リ通化支庫及輯

安支庫ヲ夫々充實ス、但シ通化、輯安間ノ交通連絡不能ノ間軍

需處長ハ朝鮮側ノ物資ヲ利用シ充實スルモノトス

3 朝陽鎮野戰倉庫長及濛江支庫長ハ陸路輪送ニ依リ濛江支庫及撫

松支庫ヲ夫々充實ス

4 各野戰倉庫長及支庫長ハ努メテ現地物資ヲ蒐集充足シ第一線ノ

不足物資ヲ補足スルモノトス

5. 各倉庫ノ充實期ハ別表第一ノ區分ニ依ルモ開設初期ニ於テ充實スヘキ數量ハ兵力移動要領ニ伴フ部隊ノ行動ニ支障ヲ生セサル程度トシテ軍需處長適宜之ヲ定ム

### 兵補給要領

ノ各地區ニ於ケル討伐部隊ハ所屬大行李ヲ補給擔任倉庫ニ差遣シテ所要ノ兵器彈藥、糧秣其他ノ軍需品ノ補給ヲ受クルヲ原則ト

ス

但各倉庫長ハ部隊ノ討匪行動、道路網、配屬自動車隊及運搬具等ノ状態ヲ顧慮シ補給點ヲ成シ得ル限り前方ニ進メ部隊大行李ノ行動ヲ輕減スル如ク努ムルモノトス

2. 補給品ノ受授ハ傳票（別紙様式）ニ依リ糧秣品ニアリテハ受授ノ都度代金ヲ倉庫長へ戻入スルモノトス

但萬已ムヲ得サル場合ニアリテハ月末ニ於テ決算シ一ヶ月間ノ補給品ヲ取纏メ戻入スルコトヲ得

#### 六 自動車隊ノ配屬

2251

討伐間獨立第一自動車隊ヲ左ノ如ク配屬セラル

新配屬部隊	配屬數	配屬日時	配屬地	摘要
朝陽嶺倉庫	第二排第一班 (自動貨車五豫備二)	九月二十日	朝陽嶺	
同濛江支庫	第二排第二班 (自動貨車五)	九月二十日	同右	
山城嶺倉庫	第一排第二班 (自動貨車五豫備一)	九月二十日	山城嶺	
通化支庫	第一排第一班 (自動貨車五)	九月二十日	同右	

備考 配屬日時ハ情況ニ依リ若干變更スルコトアリ

七倉庫ノ警備及補給品ノ護衛

ノ野戰倉庫ノ警備竝驗送途中ニ於ケル補給品ノ護衛ハ管轄區域内

地區司令官ノ擔任トシ各倉庫長ハ所要ノ兵力ヲ該司令官ニ要求

スルモノトス

2. 警備竝護衛ニ任スル部隊ノ宿營給養ニ關シテハ各倉庫長之ヲ援

助スルモノトス

#### ハ 倉庫ノ管理

各倉庫ノ管理ハ別冊野戰倉庫業務要領ニ依ルモ各倉庫長ハ現地ノ

狀況ニ即シテ細部ノ要領ヲ定ムルモノトス

九部隊ニ於ケル給養裝備

1. 携帶糧秣

任務、行動ヲ基礎トシ各部隊毎ニ規定セシム

2. 大行李ノ編成

各部隊新移駐地ニ到着後野戰倉庫ノ補給品受領ノ爲移駐行軍間

携行糧秣ノ爲使用セル車輛又ハ現地傭役ニ依リ左記ヲ標準トシ

テ當時大行李ヲ編成シ歩騎兵各團毎ニ一團  
（地區司令部ノ大行李司令部）

本ハ最寄歩騎兵團ノ大行李ニ合セシムトナリ獨立シテ行動セ



シム其配宿給養及行軍宿營間ニ於ケル監視警備ハ當該團長ノ擔  
任トシ馬夫及輓馬ノ給養ヲ官給スヘキヤ自辨セシムヘキヤハ狀  
況ニ依リ各團長ニ於テ定ムルモノトス

左記

地區司令部 大車 一臺

旅司令部 " 一臺

各團部營部歩騎兵機關銃、迫撃砲連 " 各一臺

3. 部隊糧秣集積所ノ開設

各部隊新移駐地ニ於ケル警戒配備ヲ了セハ匪情地形交通ノ便否  
ヲ願慮シテ旅司令部又ハ歩騎兵團本部毎ニ宿營地附近ニ糧秣集  
積所ヲ開設シ追送品及現地調辨品ヲ以テ當該部隊ノ概ネ十日分  
ノ豫備糧秣ヲ常續集積シ第一線ノ給養ニ遺漏ナカラシム

附表第一

野戰倉庫開設要領

第一軍管區司令部

倉庫開設地	開設日時	補給擔任區域	補給品種	常時集積量	倉庫要員
山城鎮	九月十日	金柳、通化、輯安地區	人糧 小麥粉、食鹽 鹽鮭(鱒)包米	給養兵額ニ應スル 約二ヶ月分	長 中校 徐誠三 ④上(中尉)本圖又矢樂 中尉 趙成九 上尉 吳漢邦
通化	九月三十日	通化、輯安地區	右	給養兵額ニ應スル 約一ヶ月分	長 少校又ハ上尉 ④中尉 阿部敬二 ④中尉
輯安	十月十日	輯安地區	右	同 右	長 少校又ハ上尉 上尉 劉慶堂 ④少尉 入江貫一 長 中校 任承瑞
濛輝、臨撫	九月十日	濛輝、臨撫地區	右	給養兵額ニ應スル 約二ヶ月分	上尉(中尉)江畑又ハ近澤 少尉 張硯鏞 少校 白効博

支	庫	支	庫	給養兵額ニ應スル	長
臨撫地區	濛江	濛江	濛江	給養兵額ニ應スル 約一ヶ月分	長 ④中尉 高田 慈郎 上尉 齊振東 少尉 谷 琛
同	同	同	同	同	長 ④中尉 石村 晴雄 上尉 高英倫 上尉 于維賡

備考一、補給擔任區域ハ部隊行動ノ狀況ニ依リ變更スルコトアリ

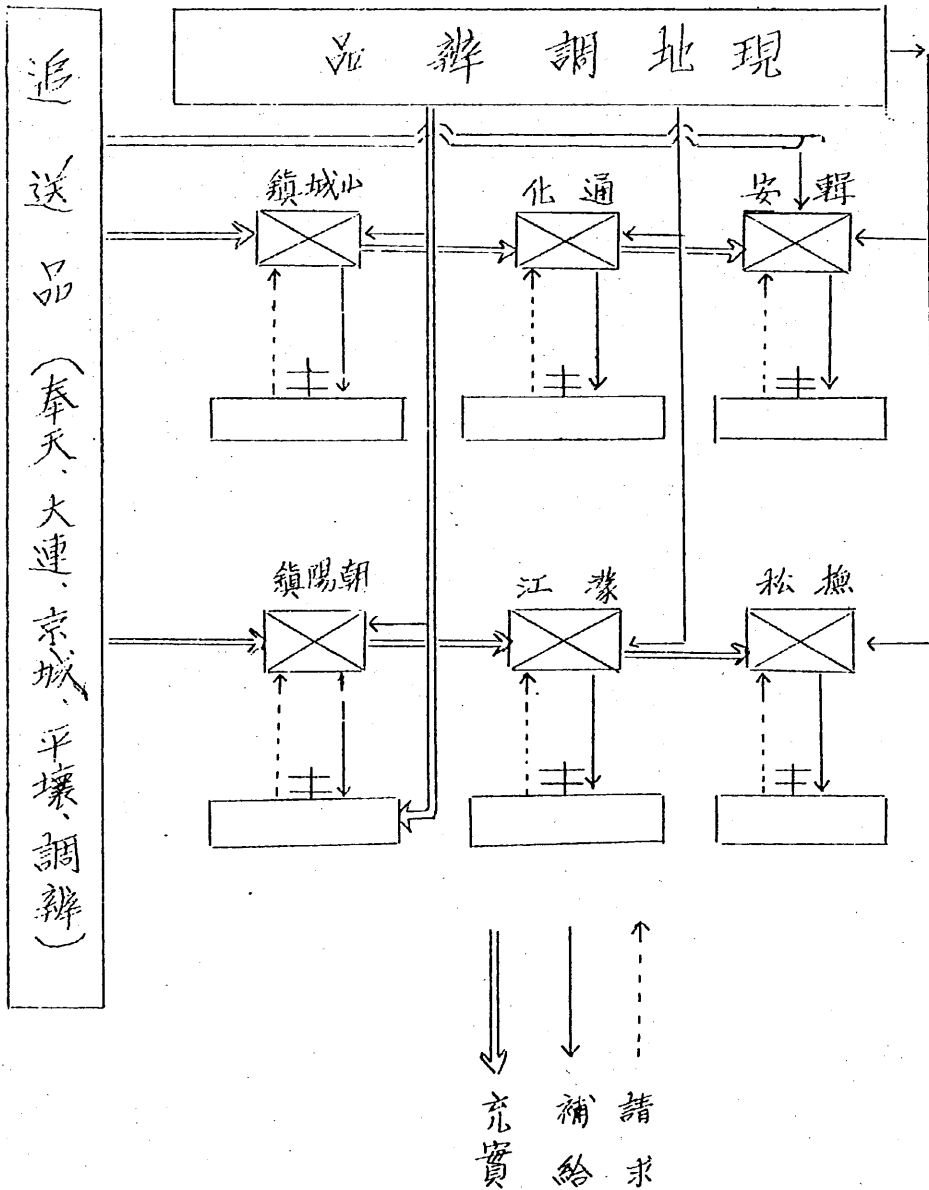
二、補給品種ハ現地資源ノ状態ニ依リ品種ノ増減ヲナスコトヲ得

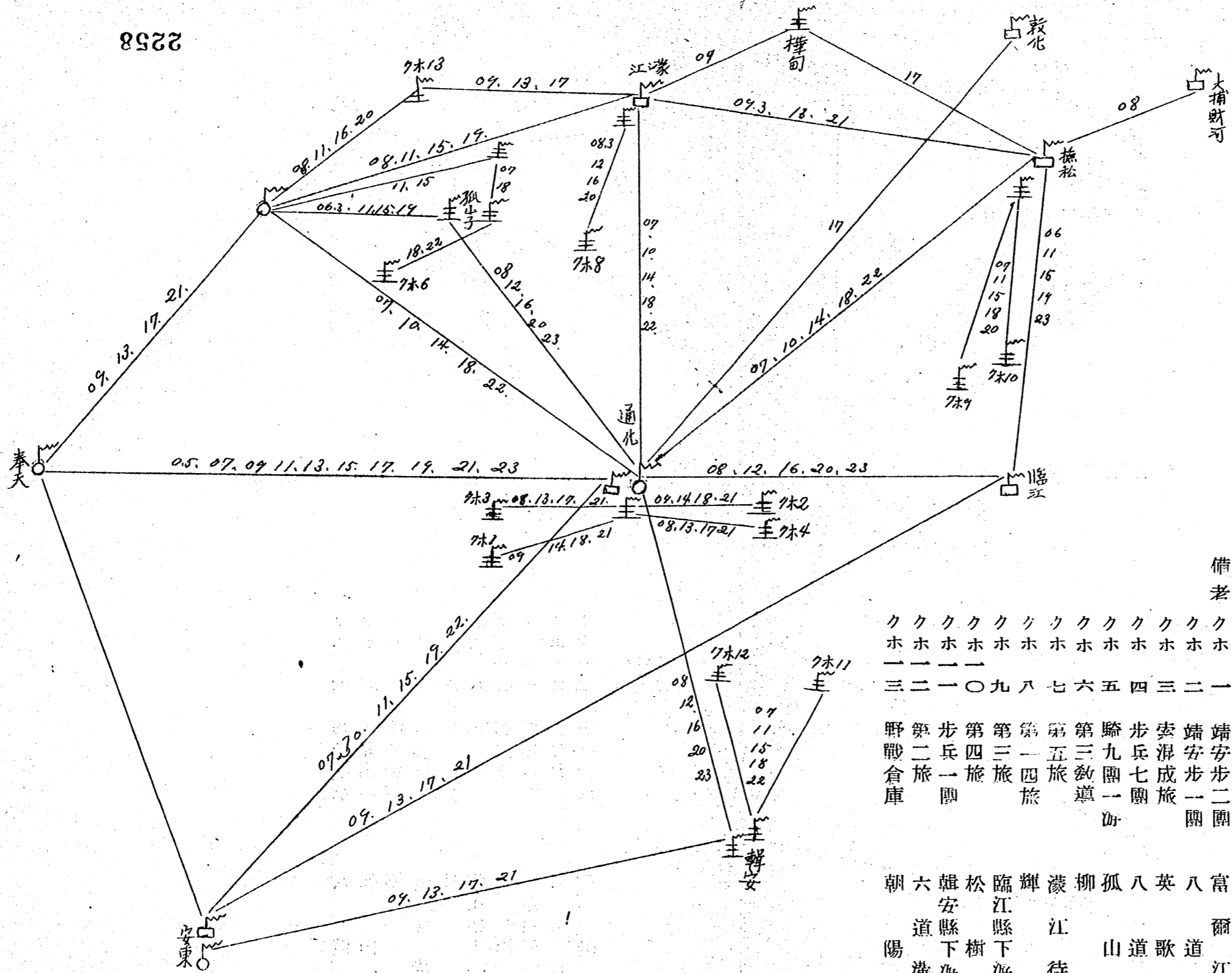
三、大米、句米、高粱、豆餅ハ現地調辨品トシ第一線ノ要求ニ依リ

一部ヲ補給スルモノトス

圖 統系實充給補求諸品需軍

附表第二





無線通信線交信系並交信時間表  
三一〇二〇現在

備考

ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	
ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
三	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三	二	
野	第	第	第	第	第	騎	步	安	靖	靖	靖	
戰	二	三	四	一	五	九	兵	混	安	安	安	
倉	旅	旅	旅	旅	旅	團	七	成	步	步	步	
庫	團	旅	旅	旅	道	一	團	旅	一	一	二	
						海			團	團	團	
朝	六	韓	松	臨	輝	濛	柳	孤	八	英	八	富
陽	道	安	江	江	江	江	山	山	道	歌	道	爾
鎮	溝	縣	縣	縣	縣	縣	道	道	道	道	道	江
門	下	下	下	下	下	下	待	待	待	待	待	口
	海	海	海	海	海	海	南	南	南	南	南	南
	鏡	鏡	鏡	鏡	鏡	鏡	鏡	鏡	鏡	鏡	鏡	鏡
	鎮	鎮	鎮	鎮	鎮	鎮	鎮	鎮	鎮	鎮	鎮	鎮

## 訓示

茲ニ親シク諸官ノ壯容ニ接シ該般ノ情況ヲ聽取シ將來ノ指導ニ有力ナル資料ヲ得タルハ本職ノ最欣快トスル所ナリ

已ニ聞ク所ニ依レハ今次ノ討伐ハ諸官ノ苦心努力漸ク酬イラレ滿軍ノ行動ハ概ネ適正ニシテ大ニ地方官民ノ信頼ヲ博シ滿洲國軍ニ對スル認識ヲ新ナラシメツツアルハ慶賀ニ堪ヘサル所ナリ然レトモ其一  
部ニ在リテハ依然舊軍閥的餘弊ヲ呈現シ官民ノ懸燈ヲ買ヘルモノナ  
シトセス又討伐長期ニ亙ル時ハ動モスレハ上下ノ緊肅弛緩シ延テ惡

性ノ本質ヲ暴露シ來ルノ虞甚大ナルモノアルヲ以テ諸官ハ至誠愛護ノ眞情ヲ徹底セシムル一方特ニ信賞必罰ヲ勵行シ惡質者ノ處罰ニ關シ苟モ姑息ニ流ルルカ如キコトナク秋霜烈日ノ櫛ヲ示シ至嚴ノ軍紀ヲ確保シ現在ノ良況ヲ益々擴充スルコト極メテ緊要ナリ

作戰、情報、宣撫、經理、衛生等各般ノ事項ニ對シテハ夫々主任者ヲシテ指示セシメ置キタルモ更ニ將來ノ爲若干ノ所懐ヲ陳フル所アラントス

一士氣ノ振作ニ就テ

本期討伐ハ相當長期ニ亘リ續行セラルヘク而モ昨熱消沈且寒氣ノ  
變來將ニ目睫ノ間ニ在リ諸官ハ此間ニ在リテ宜シク自奮自勵シ軍  
隊ニ對シテハ刺激督勵緩急其機宜ニ適セシメ以テ士氣ノ頽廢ヲ防  
キ常ニ潑刺タル意氣ヲ以テ勦匪行動ニ從事シ以テ最終最善ノ成果  
ヲ獲得セサルヘカラス

### 二 軍事教官及日系軍官ノ服務ニ就テ

本討伐間諸官ハ一面指導部ノ企圖ニ基キ滿軍ヲ指導シ其實行ヲ監  
督強要スルト共ニ他面常該滿系部隊長ノ最モ信頼スル輔佐官トシ



テ業務ヲ遂行セサルヘカラス

從來滿系部隊長ハ軍事教官ノ指道ヲ干涉ナリト場言シ之ニ箠口シテ自己ノ怠慢ヲ曲避シ或ハ其偷安的行動ヲ理由付ケントスルノ弊アリ諸官ハ此間ノ機微ヲ洞察シ儼トシテ指導的態度ヲ保持スルト共ニ眞ニ彼等ノ師父良友タルノ誠意ヲ披瀝シ以テ彼等ヲシテ寸毫モ箠口ノ辭無カラシムルト共ニ好ンテ積極的活動ヲ爲サシムル如ク十全ノ努力ヲ傾注セムコトヲ望ム又各部隊日系軍官ハ何レモ獻身的ニ努力シ其成績見ルヘキモノアルヲ聞クハ本職ノ甚タ愉快ト

シ且深謝措ク能ハサル所ナリ

然レトモ尙滿軍統帥系統内ニ淳化セントスルノ自覺堅確ナラス恰

モ軍事教官ノ分身者ナルカノ誤レル矜恃ヲ以テ高踏的能度ヲ持シ

爲ニ滿軍ヲ引摺リテ積極進取改善ノ一途ニ邁進セシメントスル熱

ト意氣トニ缺クル者ナシトセサルハ甚タ不可ナリ而シテ一部ノ軍

事教官其人ニ對シテモ亦類似ノ苦言ヲ與ヘサルヲ得サルヲ遺憾ト

ス

三 經費ノ運用ト作戰行動トニ就テ

經費ノ不足ニ籌口シテ作戰上當然ナササルヘカラサル處置ヲ回避  
若ハ差控フルカ如キモノアリトセハ由々シモ大事ナルヲ以テ諸官  
ハ特ニ經費ノ合理的運用ニ全幅ノ注意ヲ拂フト同時ニ創意工夫積  
極的企圖心ヲ發揮シ正當ナル計畫ニ基クモ配當經費ニ不足ヲ來ス  
モノハ速ニ豫メ指道部ニ具申シ之カ貫徹遂行ヲ期スルヲ要ス  
終ニ臨ミ更ニ各官ノ健闘ヲ祈ル

昭和十一年十月廿二日

討伐指道部長 佐々木 少 將

## 三 秋季討伐實施並其效果

各地區討伐部隊ハ滿作命第十一號命令ニ基キ十月下旬ヨリ一齊ニ討伐ヲ開始シ王鳳閣匪及紅軍匪第五、第六團ノ徹底的掃蕩ニ努メタリ此間各地區部隊ハ山岳重疊入跡未踏ノ天嶺ヲ踏破シ千古斧鉞ヲ入レサル大密林地帯ヲ掃蕩シ東走西避スル匪ヲ追躡ニ追躡ヲ重ヌルコト月餘ニ及ヒシモ將兵克ク困苦缺乏ニ耐ヘ戮力協心一意討匪ニ專念セル行動ハ眞ニ涙タクマシキモノアリテ其結果ハ前記匪團ノ活動地帯ヲ著シク減縮シ且徹底セル匪民分離、糧道遮斷工作ト併セ匪ヲシテ

窘窮其極ニ至ラシメ遂ニ小數匪團ニ分散シテ我銳鋒ヲ避クルニ汲々タルモノ或ハ力盡キテ降投スルモノ等續出スルノ情態ニ陥ラシメ討伐開始前五、六千ト稱セラレタル匪勢ハ約二千（附路第五參照）ニ激減セリ

即チ本期間ニ於ケル討伐成果ノ概況ヲ述フレハ

戦闘回数ニシテ三百五十餘、討伐匪數累計八千六百九十餘、匪ノ死傷及捕獲數ハ一千餘、主要匪首ノ捕獲並射殺ハ紅軍重要匪首孫政治指導委員、安委員、金委員、王鳳閣系匪首溫外勤大隊長其他

匪首老表青ノ參謀長、保中華、九占、九江、青山、黑虎、雙山、  
 仁義、金龍、雙虎、鎮北軍等十數名ニ及ヒ投降匪首ハ張科長、老  
 長青、趙明思、寶龍、北來好、二虎、明山、得勝軍、雙勝、老東  
 山、雙紅、李尙德等ニシテ之等部下三百餘名モ亦投降シ又多數ノ  
 武器彈藥、糧秣、被服等ヲ函獲シ匪ノ山寨ヲ覆滅スルコト三百餘  
 ヲ數ヘタリ

之ニ對スル我軍ノ損害ハ戰死將校四、士兵三十餘名、戰傷將校八、  
 士兵約六十名ニシテ尙凍傷者若干ヲ出セリ

以上ノ如ク將兵ノ獻身的奮闘ニ依リ豫期以上ノ效果ヲ收メ得タリト  
 雖本奎討伐ノ主要目標タル東邊道匪賊ノ主魁王鳳閣ヲ捕獲シ得サリ  
 シハ甚タ遺憾ナリキ國軍ハ尙之ニ對スル徹底的窮追ヲ續行中ナルヲ  
 以テ其討滅ハ目睫ノ間ニ在ルモノト豫期シ之カ對策ヲ益々周密ナラ  
 シメアリタリ

尙茲ニ特記スヘキハ討伐部隊ノ晝夜止マサル王鳳閣匪ノ勦討ニ依リ  
 本年二月以來人質トシテ該匪ニ拉致セラレアリシ米人宣教師バ  
 ーンズ（通化カトリック教會主）ヲ救出シテ國際的ニ國軍ノ名譽ヲ博シ

又本年二月熱水河子ニ於テ紅軍匪ノ襲撃ニ依リ拵致セラレ爾來該匪團ニ監禁セラレアリシ歩兵第七團代理團長歩兵中校楊泰武及人質數名ヲ收容監禁シアリシ山寨ヲ奇襲シ之ヲ救出（楊中校ハ救出後追撃戦ニ於テ戦死）セル等ハ大ニ滿軍ノ聲價ヲ發揚シタルモノト謂フヘシ

第五、冬季討伐

（自十二月一日  
至翌年三月末日）

一、討伐準備

ノ秋季討伐ニ於テ其主要目標タル東邊ノ巨魁王鳳閣ヲ捕獲シ得サリ



シハ誠ニ遺憾トスル所ナルモ其根據ハ悉ク之ヲ覆滅シ該匪ノ再起  
 全ク不可能ナラシメタルニ依リ一部ヲ以テ王匪追竊ヲ續行セシメ  
 大部ハ冬季討伐ノ爲左記指道部命令ヲ下達シ以テ秋季討伐開始ノ  
 態勢ニ復歸セシメテ所要ノ休養並冬季討伐ノ進備ヲナサシメタリ  
 但シ一部配備ノ變更ヲ行ヘリ

滿作命第二一號

討伐指道部命令

十一月十二日午後四時  
 於通化討伐指道部

一 王風関匪ノ根據ハ覆滅セリ

ニ軍ハ王鳳閣殘匪ニ對スル追窮ヲ繼續スルト共ニ爾後ノ作戰ヲ進  
備セントス

ニ各地區部隊ハ特ニ必要ナルモノノ外十一月十六日朝以後概ネ十  
月二十五日總游撃開始前ノ態勢ニ復歸ヲ開始シ所要ノ休養ヲ與  
フヘシ

右休養期間ハ復歸後約三日トス

前項ノ外蟬安及通化地區部隊ハ各々一部ヲ老虎山附近匪ノ潛伏  
地帯ヲ封鎖スル如ク配置シ適時該封鎖圈内ニ對シ游撃ヲ實施シ

残匪ヲ徹底的ニ勦滅スルヲ要ス

兩地區ノ境界ヲ大恒略―南老嶺―古角―歡喜嶺―橫路―家楡

川附近ヲ連ヌル線ニ改ム線上ハ通化地區ニ屬ス

現ニ輯安地區司令官ノ指擧下ニ在ル第一敎道隊ノ諸部隊ハ別命

アル迄同司令官ニ屬ス

四 各地區部隊ハ復歸後ニ於ケル配置ノ概要ヲ十一月十七日中ニ報

告スヘシ

討伐指道部長

佐々木 少 將

注 意

本命令ハ必要ナル直轄指揮官ニ對シ内報シ各部隊ニ對シテハ實  
施ノ直前ニ下命スルモノトス

下達法

要旨ヲ田中顧問及各軍專教官ニ電報シタル後印刷セルモノヲ

送付ス

通報先

軍政廳、一軍廳、二軍廳

2. 冬季討伐實施ノ爲速ニ長白縣ヲ確保スルノ必要ヲ感シ左記命令ヲ

下達シテ靖安軍ヨリ金澤少校ノ指揮スル歩兵一營ヲ長白縣城ニ急

派ス

滿作命第二二號

討伐指導部命令

十一月十三日午前十時  
於通化討伐指導部

通化地區部隊ヨリ靖安歩兵第二團ノ約一營ヲ十一月七日迄ニ臨江

ニ派遣シ臨撫地區司令官ノ指揮ニ入ラシムヘシ

討伐指導部長

佐々木 少 將

下達法

印刷セルモノヲ交付ス但臨撫地區ニハ要旨ヲ電報シタル後印

刷セルモノヲ交付ス

通報先

軍政廳、一軍廳、二軍廳

又接壤地帯ニ作戰スル第二軍管區軍ノ兵備強化ノ必要上歩兵一團

(混成第十四旅歩兵第十九團)ヲ第二軍管區司令官ノ指揮ニ轉屬

セシメタリ

滿作命第二三號

討伐指導部命令

十一月十三日午後二時  
於通化討伐指導部

一 濛輝地區部隊ヨリ其輝南縣ニ於ケル混成第十四旅ノ歩兵一團ヲ

十一月盡日迄ニ吉林ニ移動シ第二軍管區司令官ノ指揮ニ入ラシ

ム

二 濛輝地區部隊ハ右實施ニ伴フ兵力配置變更ノ計畫ヲ十一月十七

日迄ニ報告スヘシ

三 右移動ニ要スル經費ハ實費額ヲ軍政部申請スルモノトス

2277

討伐指道部長

佐々木 少 將

下達法

要旨ヲ關係部隊ニ電報後印刷セルモノヲ送付ス

通報先

軍政廳、一、二、三重廳

尙計伐ニ伴フ摺査、檢索ノ威力ヲ増加スル爲需兵一連（國都需兵  
隊寺尾連）ヲ撫松ニ派遣シ臨撫地區司令官ノ指揮ニ入ラシメタリ  
滿作命第二七號



2278

討伐指道部命令

十一月十五日午後三時三十分  
於通化討伐指道部

混成第一憲兵隊長八十一月肅日迄ニ憲兵約一連ヲ撫松ニ派遣シ臨

撫地區司令官ノ指揮ニ入ラシム

討伐指道部長 佐々木 少 將

下達法

混一憲長及下元中佐ニ口達シタル後印刷セルモノヲ交付ス

通報先

軍政廳、一軍廳

3 他軍管區ヨリ臨時配屬中ノ各部隊ハ滿作命第一號命令ニ示ス如ク

概ネ秋季討伐終了後ヲ以テ夫々原所屬ニ復歸セシムル豫定ナリシ

モ冬季討伐ノ重要性ト秋季討伐地域内ノ治安ヲ確保センカ爲左記

命令ヲ下達シテ冬季討伐終了迄之ヲ引續キ配屬セシメタリ

但シ靖安軍（歩兵第一團及歩兵第二團第二營ヲ除ク）第三混成教

導旅司令部及教導歩兵第三團ハ教育ノ關係上原駐地ニ歸還セシメ

タリ

滿作命第一二四號

命

令

十一月十五日正午  
於新京軍政部

一 本期計付間十二月中旬迄第一軍管區若ハ第四軍管區司令官ニ配  
 屬ノ他軍管區部隊中第三軍管區ノ歩兵第十六團第三憲兵隊、鶴  
 唖、混成第十四旅並騎兵約一團、第五軍管區ノ索混成旅ハ濹作  
 命第一號第三及第五項ニ拘ラス概ネ之ヲ明年三月末迄引續キ配  
 屬スルモノトシ其中混成第十四旅ノ歩兵一團ハ之ヲ第二軍管區  
 司令官ニ轉屬セシム

二 本命令實施ノ爲必要ナル細部ノ事項ハ關係軍管區司令官相互ニ

2281

於テ協議決定スルモノトス

軍政部大臣 于 芷 山

軍政部最高顧問 佐々木 少 將

下達法

印刷セルモノヲ各軍管區主任顧問ニ送付ス

々冬季討伐ノ爲左記命令並同命令第三項ニ基ク指示ヲ與フ

滿作命第二五號

討伐指導部命令

十一月十五日正午  
於通化討伐指導部

一 臨撫地區以西ニ於ケル匪團ハ潰裂シ匪首ハ遁竄是レ終メツツアリ  
120

臨撫地區内ニ於テハ尙若干ノ集團匪アルモ其活動漸ク沈衰ス

二 軍ハ十二月一日以降第二期作戰ニ移リ主トシテ臨撫地區内ニ於

ケル匪團ヲ擊滅スルト共ニ同以西地區内ニ於ケル肅清ヲ徹底セ

シメントス

三 臨撫地區部隊ハ別ニ指示スル所ニ據リ主トシテ吳義成匪及金日

成匪ニ對スル勦匪作戰ヲ準備スヘシ

準備完了ノ時期ハ十二月二十日トス

四 輯安地區部隊ハ一部ヲ以テ王匪舊根據地ノ封鎖及掃蕩ヲ繼續セ

シムルト共ニ主力ヲ以テ十二月五日ヨリ樞ネ同十五日ニ亘ル間

輯安一頭道崴子道以西ノ地區ニ於ケル徹底的掃蕩ヲ實施シ特ニ

尙團長匪ヲ追窮殲滅スヘシ

又適時有力ナル一游擊部隊ヲ桓仁及寬甸縣東部ニ派遣シ得ルノ

準備ニ在ルヘシ

五 通化地區部隊ハ更ニ地區内ニ殘存スル張科長其他匪首ノ捕獲ヲ

徹底的ニ遂行スルト共ニ金川、濛江兩縣境界附近ニ對スル紅匪ノ掃蕩ヲ繼續スヘシ

歩兵第七團ヲ十二月一日以後其指揮ニ屬ス

十二月五日以後隨時靖安歩兵第一團及同騎兵一連ヲ八道江附近

ヨリ臨江附近ニ向ヒ移動セシメ得ルノ進備ニ在ラシムヘシ

靖安歩兵第二團ノ約一營ノ移動ニ關シテハ滿作命第二二號ノ通

リ

靖安軍司令部及前各項以外ノ靖安軍諸部隊ハ概ネ十二月二十日

以後奉天ニ歸還セシム

六 金柳地區部隊ハ益々其重點ヲ金川縣東南部ニ指向シ紅匪特ニ憑  
委員、老二哥等匪首ノ捕獲ニ勉ムヘシ

第三教道混成旅司令部及同歩兵團ハ十二月二十五日以後山城鎮  
附近ヨリ原所屬ニ復歸スルノ準備ニ在ラシムヘシ

七 濛疆地區部隊ハ主トシテ通化、金柳兩地區トノ境界方面ニ對ス  
ル紅匪ノ掃蕩ニ努ムルト共ニ朝陽鎮方面ヨリ臨撫地區ニ向ツテ  
スル輸送、交通ノ掩護ヲ確實ナラシムヘシ



混成第十四旅ヨリ歩兵一團ヲ吉林方面ニ移動スルノ件ニ關シテ  
ハ滿作命第二四號ノ通り

ハ各地區部隊ハ兵力ノ抽出及移動ニ伴ヒ警備ニ缺陷ヲ生セシメサ  
ル如ク特ニ十全ノ努力ヲ傾注スルヲ要ス

討伐指導部長 佐々木 少 將

下達法一要旨ヲ下元、永田中佐ニ電報シタル後印刷セルモノヲ靖安軍及各軍事  
教官ニ送付ス

通報先一軍政廳、一、二、三軍廳

滿作命第二五號第三項ニ基ク指示

吳義成匪討伐計劃

第一、方針

一 吳義成匪、金日成匪及撫松縣東部地方ニ蟠踞スル雜匪ノ主力ヲ  
第二軍管區部隊ノ協力ヲ得テ撫松縣中部地域（所謂圍上白色地  
帶）ニ包圍殲滅ス

已ムヲ得サルモ匪團ヲ長白縣内無人地帯ニ封鎖シ自滅セシム

第二、指導要領

二 軍隊區分及任務

軍隊區分

臨撫地區部隊

司令官少將

李

壽

山

靖安步兵第二團ノ一營

混成第三旅

混成第四旅

撫松、臨江、長白各縣治安隊

靖安支隊

長上校

赤

澤

三

六

靖安歩兵第一團

靖安騎兵一連

靖安山砲兵一分隊

裝甲自動車一分隊

自動車一小隊

任務

臨撫地區部隊

一部ヲ以テ臨江一撫松道ニ沿フ各主要街村及撫松北方及東方

ニ於ケル各要點ヲ確保セシメ主力ヲ以テ樞松―北崗―馬鞍山  
 南麓ヲ連ヌル線（含ム）以南ノ地域ヨリ敵ヲ其北方圍上白色  
 地帯ニ逐出ス

別ニ靖安歩兵ノ約一營ヲ基幹トスル兵力ヲ以テ長白縣ヲ確保  
 シ機ニ應シ同縣内ニ逃入スル匪團ヲ殲滅ス

#### 靖安支隊

一部ヲ以テ兩江口西南方屯（岔）附近ヨリ頭道白河附近ニ亘  
 ル安圖縣境ヲ封鎖セシメキ力ヲ以テ三道拉子河、黃泥河子、

北岡附近ノ各要地ヲ占メ臨撫地區部隊ノ逐出スル匪團ヲ白色  
地帯ニ迎撃シテ之ヲ殲滅ス

三 作戰各時期ニ於ケル指導要領

1 第一期集中（自十二月一日）及今日成匪ノ討滅  
至十二月二十日

靖安歩兵第二團ノ一營ハ十二月一日迄ニ臨江附近ニ集結シ爾

後長白ニ向ツテスル前進ヲ準備ス

靖安支隊ハ主力ヲ以テ八道江方面、充昌部隊及山砲小隊、自

動車小隊ヲ以テ朝陽鎮方面ヨリ撫松ニ向ヒ前進シ概ネ十二月  
129

二十日迄ニ集中ヲ完了ス

但シ結氷ノ狀況ニ依リ多少ノ變更ヲ生ス又靖安支隊中所要ノ  
幹部ハ十一月下旬迄ニ撫松方面ニ先行シ所要ノ偵察ヲ行ハシ  
ム

第二軍管區ヨリハ此期間少クモ歩兵一團ヲ基幹トスル支隊ヲ  
頭道白河附近ニ出シ靖安支隊ノ集中ヲ掩護シ同支隊ノ爲約十  
日分ノ糧秣ヲ同地附近ニ準備ス長白方面今日成匪ニ對スル計  
伐ハ從來ノ企圖ヲ引續キ遂行ス靖安歩兵第二團ノ部隊ハ狀況

ニ依リ之ヲ吳善成匪逐出ノ方面ニ使用ス

2 第二期吳善成匪ノ逐出（自十二月二十日  
至十二月三十日）

臨撫地區部隊ハ少クモ三個（各約二連ヲ基幹トス）ノ游擊隊  
ヲ編成シ長白山西麓―西嶺ノ地區ヨリ北而シテ森林地帯内ヨ  
リ匪ヲ逐出ス此際外翼游擊隊ノ兵力及行動ヲ特ニ強大積極的  
ナラシメ匪ノ安圖縣内ニ對スル逃避ヲ遮斷ス

靖安支隊ハ主トシテ夜行軍ニ依リ所期ノ配置ニ就キ特ニ匪情  
ノ搜索ニ努力ヲ傾注シ機ヲ失セサル逃出匪ノ捕捉ヲ準備ス



又臨撫地區部隊ハ別ニ準備スル游撃部隊ニ依リ包圍網内側ニ  
 溢出逃避スル匪ヲ機ヲ失セス捕捉ス

3 第三期吳義成匪ノ捕捉殲滅（自一月一日  
 至二月末日）

第二軍管區ノ部隊ハ吳義成匪ノ逐出ニ伴ヒ機ヲ失セス撫松縣  
 内ニ游撃シ臨撫地區部隊ノ游撃隊ト協力シテ隨匪ニ之ヲ殲滅  
 ス

靖安支隊ハ萬寶嶺ヨリ細鱗河口附近ニ百ル線上ノ要點ニ隱蔽  
 分散配置シ匪ノ逐出ニ應ジ機ヲ失セス其匪首ノ存在スル處

ニ嚮ヒ游撃シ之ヲ捕捉殲滅ス

第三、補給

別ニ定ム但シ結氷後約十日（概ネ十二月二十日ト豫定ス）間ニ婦

安支隊及臨極地區部隊游撃隊ノ爲約三週間分ノ糧秣及脂油ヲ極松

ニ集積ス

森林伐採用器具、雪上露營用資材及雪上行軍用資材並雪中偽裝材

料ヲ準備ス其數ハ別ニ定ム

第四、通信

別ニ定ム但シ各游擊隊ニハ移動無電一個宛ヲ配當シ得ル如ク計劃  
ス

第五、衛生

別ニ定ム但シ患者用輸送機一ヲ本討伐期間常時奉天ニ待機セシム

第六、雜

本討伐ハ集團匪擊滅ノ最後ノモノトシテ特ニ成果ノ甚大ヲ期ス之  
カ爲我企圖ノ秘匿ニ關シ萬全ノ注意ヲ拂フヲ要ス其一手段トシ例  
ヘハ官德謀略ノ爲左ノ處置ヲ行フ

## 三軍隊區分及集中

撫松東方外周ノ北、東、西側等各部落ニ在スル滿軍ハ逐次便衣ニ代ヘシメ屯墾ヲ實施シ軍隊ノ減少ヲ禁フ

滿軍ハ補給困難ノ爲逐次撤退セリトノ揚言ヲ流布ス

第二軍管區方面ノ軍隊ニ活潑ナル陽動ヲ行ハシメ且該方面ニ大ナル兵團移動セリトノ流説ヲ放ツ

ノ十一月末日以後ニ於ケル各地區部隊ノ編成ハ附録第六ノ如シ

2 冬季討伐ノ爲ノ集中ハ十二月一日ヨリ之ヲ開始シ十二月二十日ヲ

以テ完了スル如ク計劃中ナリシモ臨撫地區ニ於ケル匪團ハ逐次極  
 松一臨江道ニ近ク進出スルノ形勢ニ鑑ミ靖安支隊（靖安歩兵第一  
 團）ヲ濞作命第二五號ニ拘ラス臨江一關枝子濞間ノ地區ニ急進セ  
 シメ分散進出スル匪團ヲ各個ニ擊破シ冬季討伐ノ濞傳ヲ全カラシ  
 ムヘク左ノ命令ヲ下達セリ

濞作命第三二號

討伐指導部命令

十一月二十七日午前十一時  
 於通化討伐指導部

一臨撫地區ニ於ケル匪團ハ逐次極松一臨江道ニ近ク進出シツツア

リ

二 軍ハ兵力移動ヲ促進シ以テ機ニ埒シ此等分散進出スル匪團ヲ各個ニ擊滅シ次期作戦ノ準備ヲ全カラシメントス

三 臨撫地區部隊ハ先ツ金日成、王德泰匪ヲ包圍殲滅スヘシ

靖安軍工藤連歩兵第五團及歩兵第十七團ヨリ派遣ノ游撃隊ハ臨

撫地區内ニ於ケル木作戡間臨撫地區司令官ノ指揮ヲ受クルモノ

トス

四 靖安支隊（工藤連及増加部隊ヲ缺ク）ハ滿作命第二五號ニ拘ラ

ス成ルヘク速ニ其警備ヲ歩兵第七團ト交代シ先ツ臨江一開綾子  
 溝間ノ地區ニ向ヒ前進シ臨撫地區部隊ト密ニ協力シテ萬順匪要  
 スレハ余日成、王德泰匪ヲ捕捉擊滅スヘシ  
 移動無線一ヲ配屬ス

歩兵第七團ハ右警備交代完了ト共ニ通化地區司令官ノ指揮ニ入  
 ルモノトス

兵臨撫地區部隊ハ特ニ靖安支隊ノ補給及給養ヲ援助スルモノトス

討伐指導部長 佐々木 少 將

下達法一要旨ヲ關係部隊ニ電報シタル後印刷セルモノヲ送付ス  
 通報先一輯安地區、金柳地區、軍政廳、一二軍廳  
 三金日成匪ノ掃蕩竝吳義成匪ノ逐出

ノ吳義成系匪團ハ十二月初旬以來樞松東南方約五十軒槽子河南方地  
 帯ニ於ケル山寨ニ其主力ヲ集結シツツアルノ確報ヲ得タルヲ以テ  
 國軍ハ速ニ之カ擊滅ヲ企圖シ左記命令ヲ下達シ諸隊ヲシテ攻撃開  
 始ノ準備ヲナサシム

討伐指導部命令

十二月十四日正午  
 於樞松討伐指導部



一 吳義成匪ハ槽子河南方地域ニ於ケル其山寨ニ主力ヲ集結シツツ  
アルモノノ如シ

二 軍ハ先ツ攻撃ノ重點ヲ吳義成匪ニ指向シ之ヲ殲滅セントス

第二軍管區ノ部隊ハ撫松—靛水河道（含マス）以北ノ地域ニ於  
テ主トシテ周太平殘匪ノ潰滅ニ任ス

別ニ第二軍管區特選剿討伐部隊ハ右道路（含マス）以南ノ地域  
ヨリ馬鞍山方面ニ向ヒ攻撃ス

三 靖安支隊（山砲部隊ヲ缺ク）ハ本十四日以後逐次集結地ヲ出發

シ一部ヲ以テ二十日拂曉馬鞍山ノ敵陣地ヲ急襲シ二十七、八日頃大城城附近ニ其主力ヲ集結シ柵子河南方吳義成匪山寨ニ對スル攻撃ヲ準備スヘシ

特ニ第二軍管區檢討隊ト密接ニ連繫スルヲ要ス

四 臨城地區部隊ハ（靖安山砲丘分隊ヲ廢ス）爲シ得ル限り多數ノ

兵力ヲ以テ柵子河南方敵陣地ノ北、西、南部ヲ嚴密ニ包圍シ

安支隊ノ進出ニ伴ヒ機ヲ失セス之ヲ急襲シ特ニ匪首ヲ捕獲スル

ニ努ムヘシ

又匪ノ南走ヲ阻止スル爲萬全ノ手段ヲ講スヲ要ス

混成第四旅ハ前各項ニ即應シ速ニ萬順匪ヲ撃滅シタル後少クモ

三ヶ浦ヲ基幹トスル部隊ヲ以テ漫江ヲ確保セシメ匪ノ糧道ヲ絶

ツト共ニ匪ノ長白縣下遁入ヲ絶對ニ遮斷セシムヘシ更ニ配屬憲

兵ノ主力ヲ吉川中尉ニ指遣セシメ速ニ樽子河附近匪ノ前進陣地

ヲ奪取シ情勢ノ蒐集ニ當ラシムルヲ要ス

兵以上各部隊ノ樽子河南方敵陣地ニ對スル攻撃前進開始ノ時機ハ

後命ス

各部隊共企圖行動ノ秘匿、欺瞞ニ關シテハ周到細密ノ考慮ト手  
段トヲ盡シ苟モ敵ニ致サルルノ因ヲ招來セサルヘシ

六月二十日再ヒ撫松ニ至ル

討伐指導部長 佐々木 少將

然ルニ十二月十五日吳義成匪ノ有力ナル一部ハ東岡東北方約八軒  
密林地帯ニ潜在シアルヲ偵知シ直ニ之ヲ撃滅スルニ決シ更ニ左ノ  
命令ヲ下達シ靖安支隊ヲシテ十六日早朝之ヲ急襲セシメ該匪ニ一  
大痛撃ヲ加ヘタリ

爾後支隊ハ一意之カ追窮ニ努メ二十一日夜鴻江附近ニ於テ同隊ノ  
 工藤連ハ匪首王營長ノ指揮スル二〇〇ノ匪團ヲ急襲シ匪首王營長  
 以下多數ノ匪ヲ斃殺シテ潰滅セシメ又二十九日午前東岡（樞松東  
 南約三十料）東方ニ於テ匪首万軍ノ率キル匪團ヲ捕捉攻撃シ匪首  
 万軍以下ヲ斃殺シテ之ヲ全滅セシム等討伐初期ニ於テ國軍ノ武威  
 ヲ宣揚セルモ我亦相當ノ死傷者ヲ生シ且酷寒凜烈ノ爲凍傷患者續  
 出シ其數實ニ百名ヲ垂ントスルノ悲運ニ漕ヘリ

滿作命第四二號

## 討伐指導部命令

十二月十五日午後二時三十分  
於 樺 松 討 伐 指 導 部

- 一 吳匪ノ有力ナル一部ハ東崗北方約八軒附近ニアルモノノ如シ
- 二 軍ハ先ツ速ニ此ノ敵ヲ撃滅セントス
- 三 靖安支隊ハ本夜半ヨリ行動ヲ起シ小南崗（北崗方約八軒）附近ヨリ錯草頂子附近ニ百リ存在ヲ豫察セラルル敵ヲ急襲スヘシ特ニ匪ヲ東方ニ逸セシメサルニ努ムルヲ要ス
- 四 臨撫地區部隊ハ約二連ヲ速ニ東崗附近ニ派遣シ主トシテ槽子河ノ線ヲ扼止シ匪ノ山寨方面ニ對スル交通ヲ遮斷セシムヘシ

吉川憲兵排ハ一時右部隊ノ區署下ニ置クモノトス

五部隊ハ前各號ノ行動後別命ナク十四日正午ノ命令ニ基ク行動ヲ  
繼續スヘシ

但シ東崗附近ニ派遣セル部隊ハ爾後引續キ該地附近ニ在リテ山  
寨方面ニ對スル攻撃ヲ準備スルモノトス

討伐指道部長 佐々木 少 將

下達法一要旨ヲ製案シ隊及臨撫地區部隊ニ口達シ後印刷セルモ

ノヲ交付ス

2. 曩ニ長白縣確保ノ重任ヲ擔ヒテ懸軍長蛇長白ニ向ヘル金澤部隊ハ  
途中長白縣十三道溝裡附近ニ匪首曹國安ノ指揮スル有力ナル共匪  
跳梁シアルヲ探知シ掃蕩中十二月八日桃泉里附近ニ於テ其主力匪  
團ト遭遇シ積雪腰ヲ没スル山地帯ニ於テ激戰正ニ數時間遂ニ彼等  
ニ大打撃ヲ與ヘテ北方ニ潰走セシメ更ニ之ヲ追撃スルモ積雪深キ  
爲匪跡ヲ失シタルヲ以テ一先ツ十三道溝ニ部隊ヲ集結シ爾後長白  
ニ向ヒ急進セリ

3. 本次討伐ノ當初ニ於テ各隊ノ勇戰ニ依リ敵匪ノ心膽ヲ寒カラシメ



爲ニ各匪團ハ漸次南下スルノ情勢ニ鑑ミ臨江東北蛟蟻河附近ニ在  
リテ掃蕩中ノ孫游擊隊（混成第三旅歩兵第三團）ヲ長白警備隊長  
タル金澤部隊長ノ指揮下ニ入ラシメ之ヲ孤山子（長白縣十二道溝  
北方）附近ニ進出セシメテ曹剛安匪ノ勦討ニ任セシメ又金澤部隊  
ハ長白縣城到着ト共ニ二道崗（長白北方約四十軒）附近ニ前進シ  
全日成匪團ノ殲滅ニ任シタリ

而シテ長白方面ニ於ケル匪勢ハ逐次急迫ヲ告クルノ形勢ニアルヲ  
以テ靖安軍ヨリ橋高中校ヲ長白ニ派遣シ同官ヲシテ長白縣下ニ於

ケル諸隊ヲ統一指揮セシメテ勦匪ニ専念セシメタリ

々各地ニ於ケル討伐ハ遂次進展シアリト雖匪團ハ益々南走シテ臨江  
及長白縣下ニ遁入スルノ情勢ヲ看破セル指道部ハ機ヲ失セス暴ニ  
通化及金柳兩地區ニ於テ編成訓練中ノ特選隊ヲ臨江ニ急派シテ臨  
撫地區司令官ノ指揮下ニ入ラシメ匪首ノ捕殺竝索出ニ邁進セシメ  
タリ

滿作命第四三號

討伐指道部命令

十二月十八日午前十一時  
於通化討伐指道部

一 臨撫地區ニ於ケル討伐ハ豫定ノ如ク進展シツツアルモ匪團ハ長  
白、臨江兩縣ニ遁入ヲ豫想セラルル情況ニアリ

二 滿作命第三九號ニ依リ通化地區及金柳地區部隊ニ於テ編成セル  
特選隊ハ左記要領ニ依リ速ニ臨江ニ派遣シ臨撫地區司令官ノ指  
揮ニ入ラシムヘシ

通化地區特選隊 十二月二十日通化集結二十一日通化出發八道  
江經由二十四日中ニ臨江到着、但通化八道江

間ハ自動車輸送トス

金柳地區特選隊 十二月二十二日三源浦集結二十三日三源浦出

發通化八道江ヲ經由二十六日中ニ臨江到着

但三源浦八道江間ハ自動車輸送トス

討伐指導部長 佐々木 少 將

下達法―要旨ヲ口達並電報後印刷交付ス

通報先―軍政廳、一軍廳、關係地區軍事敎官

5. 本期間前後二回ニ亘リ關東軍ヨリ空軍ノ一部ヲ派遣協力セシメラ

レ國軍ハ大ニ志氣ヲ昂揚セルモノアリタリ

關作命第九四八號

關東軍命令

十二月五日午前九時  
於新京軍司令部

一 關東軍野戰航空廠長ハ十二月五日ヨリ約一週間偵察機一機ヲ以テ滿洲國軍政部最高顧問ノ實施スル臨江、撫松道方面ノ討伐ニ協力スヘシ

二 細部ニ關シテハ軍政部最高顧問ト直接協定スヘシ

關東軍司令官 植田大將

下達法 一 要旨電報後印刷交付

2314

通報先一軍政部、軍内各部課

四吳義成匪ノ捕捉殲滅竝金日成匪ノ撃破

ノ匪團ノ主力ハ各隊猛撃ニ依リ漸次東南方無住地帯ニ壓迫シツツアリシカ匪ハ我銳鋒ヲ避ケントシテ更ニ西南下シ臨江東北部三道溝裡一帶ニ蝟集スルノ情勢ヲ呈シタルヲ以テ左記ノ如ク討伐ノ指導方針ヲ示シ以テ討伐諸隊ヲシテ遂次之カ包圍圈ヲ形成シ匪ノ逃走防止ニ努メシムルト共ニ該匪ノ殲滅ヲ期スル爲輯安地區ヨリ混成第二旅（騎兵第五團缺）混成第一旅騎兵第四團及濛輝地區ヨリ歩

兵第五團第二營（二連缺）並第二軍管區ヨリ歩兵第十二團ヲ該方面ニ増加セリ

滿作命第四八號

命 令

昭和十二年十二月卅一日  
於撫松討伐指導部

一月一日以後ニ於ケル臨撫地區方面討伐指導要領左記ノ如ク定ム

一、方針

第一、集團匪ヲ臨江縣東北部ニ壓迫シ之ヲ包圍殲滅ス

但今日成匪ハ之ヲ長白ニ於テ擊滅ス

## 二、指導要領

第三長白縣警備隊ハ兵力ノ集結ニ伴ヒ其主力ヲ以テ金日成匪ヲ追及殲滅ス

此間一部ヲ以テ曹國安匪ヲ追撃シ已ムヲ得サルモ之ヲ臨江縣東北部ニ驅逐スルモノトス

又第三項ニ示ス靖安支隊ノ行動ニ策應シ匪ノ長白縣遁入ヲ嚴ニ遮斷ス

第三靖安支隊（自動車隊ノ配屬ヲ解キ山砲排ヲ其指揮ニ復シ第三



憲兵隊ヲ屬スハ概ネ一月十日迄ニ其兵力ヲ西爾谷、關枝子  
溝、蟻河等ノ各要點ニ集結シ臨江縣東北部ニ對スル討伐ヲ  
準備シ一月二十日ヨリ行動ヲ開始ス  
行動期間ヲ約二週間トス

第四臨撫地區隊ハ一月二十日迄ニ擔任地域ノ掃蕩ヲ終リ各有力ナ  
ル游擊隊ヲ漫江及小營子附近ニ集結シ第二及第三班ニ示ス長  
白縣警備隊及靖安支隊ノ行動ニ策應シ其一部ヲ以テ長白縣内  
ニ主力ヲ以テ臨江縣東北部ニ對シ游擊ヲ開始ス

但シ歩兵一連ヲ一月十日迄ニ東崗ニ派遣シ端安支隊ト其守備ヲ交代セシム

第五寺尾憲兵連ハ主力ヲ以テ樞松縣内殘匪ノ摘發特ニ逃走匪首ノ捕獲ニ任ス

第六自動車隊ハ主力ヲ以テ濛江―朝陽嶺間、一部ヲ以テ樞松―臨江間ノ輸送ニ任ス

其他補給、通信、衛生ニ關シテハ別ニ定ム

第七討伐指導部ハ一月十五日以後一部ヲ臨江ニ推進ス

討伐指導部長 佐々木少將

下達法一要旨ヲ電報シタル後印刷セルモノヲ隸下各軍專教

官ニ送付ス

通報先一軍政廳、一、二軍廳

2. 前記増加部隊ハ一月中旬夫々所命ノ地點ニ准出シ之カ包圍ノ態勢

全ク完了セルヲ以テ左記命令ヲ下達シテ一月十六日ヲ期シ臨江東北

方三道溝裡大洋岔附近ヲ豫想作戰地域トシテ總游撃ヲ開始セリ

遊作命第五三號

討伐指道部命令

一月十四日午前九時  
於臨江討伐指道部

一 各部隊ノ勇戦ニ依リ匪團ハ逐次三道溝上流方面ニ逃避シツツアルモノノ如シ

二 軍ハ概ネ一月十六日ヲ期シ各方面旬圍圍ヲ收縮シ匪團ヲ大洋岔河谷ニ壓倒殲滅セントス

三 下元部隊（孫游擊隊及臨江縣治安隊ノ配屬如故）ハ十四日以後穩密ニ西柳樹河子附近ニ前淮シ匪情及地形ノ搜索ニ任スルト共ニ黃游擊隊ノ進出ヲ掩護シ爾後同部隊ヲ併セ指揮シ大洋岔附近

ノ匪團ヲ求メテ之ヲ追窮撃滅スヘシ

特ニ西南岔方面ニ對スル匪ノ逃逸ヲ遮斷スルニ勉ムルト共ニ一部ヲ以テ黑河附近ヲ確保セシムヘシ

四騎兵第四團ハ速ニ四方頂子附近ヲ占領シ匪團ノ西北走ヲ遮斷スヘシ

特ニ高橋部隊ト連絡スルヲ要ス

兵高橋部隊（富田壽兵隊ヲ屬ス）ハ步兵第二團主力ノ鴨蟻河到着

ト共ニ鴨蟻河河谷ヲ北進シ爾後東方ニ向ヒ一月十六日拂曉迄ニ

三 大洋谷 上流二道 洋谷附近ニ淮出シテ匪團ヲ求メ之ヲ撃滅スヘシ  
 六 端安支隊（西島部隊ヲ後歸シ特選隊ヲ配屬スルコト如故）ハ直

轄大游撃隊トス

一部ヲ以テ東北谷（含マス）以東東小山（含マス）以西ノ森林  
 鐵道沿線ノ要點ヲ確保シ匪ノ南走ヲ遮斷セシメ主力ヲ以テ曹國  
 安匪ヲ追窮撃滅スヘシ

但行動ノ開始ハ下元部隊ノ西柳樹河子附近淮出ト相策應シ待ル  
 ヲ要ス

七混成第二旅長ハ歩兵第二團ヲ吳家營、東北岔、錯草頂子及懸巖

河附近ニ配置シ附近ノ蕭清ニ當ラシムルト共ニ匪ノ鐵道線略横

斷ヲ遮斷シ且樅ニ應シ謝家殿子、老黑河若ハ水洞溝、四方頂子

方面ニ對シ出撃セシムヘシ

討伐指導部長 佐々木 少將

傳達法

下元、高橋中佐、赤澤支隊長ニハ電話、芑海擊隊長

樺松松村顧問、通化ニハ電報、奥島中佐ニハ口達

滿作命第五五號

討伐指導部命令

一月十六日午前十時  
於臨江討伐指導部

一 困憑セル數百ノ匪團ハ大洋岔及半截子溝附近ニ蟠踞シ最後ノ抵抗

ヲ決意シアルモノノ如シ

二 軍ハ十七日拂曉ヲ期シ各方面ヨリ豫定ノ合擊ヲ行ヒ一舉ニ敵ヲ

殲滅セントス

三 各部隊ハ前命令ニ基キ敵ヲ大洋岔半截子溝間ノ地域ニ包圍殲滅

スル如ク行動スヘシ



特ニ奥島中佐ノ指導スル部隊ハ水洞溝方面ヨリ敵ヲ牽制スルト

共ニ其三道溝左岸ニ向ツテスル逸走ヲ遮断スルニ勉ムルヲ要ス

四 萬順及曹國安ノ首級ニ各々五千圓ヲ賭ス

五 各部隊彈藥補給地點ヲ左ノ如ク推進ス

下元部隊 東小山

赤澤部隊 趙家店

奥島部隊

蟻河

高橋部隊

六 各部隊ハ嚴ニ友軍相撃ヲ戒ムルト共ニ戦闘永キニ百ル場合ヲ顧  
 慮シ飽ク迄堅忍持久有終ノ戰果ヲ獲得スルニ毫モ遺憾ナカルヘ

シ

予ハ暫ク臨江ニ在リ

討伐指導部長

佐々木

少

將

傳達法―各軍事敎官及赤澤寺隊長ニ電報ス

第一線諸隊ハ逐次包圍圈ヲ縮少シツツ進攻ニ努メ且有力ナル出陣

隊ヲ南方ニ控置シ又臨撫街道上ノ要點ニ所要ノ部隊ヲ配置シ各々

機動力ト彈力性トヲ附與シ以テ極力之カ勦滅ニ專念奮闘セシメタル結果紅匪ノ巨頭王德泰ハ騎兵第七團ニ於テ、同曹國安ハ歸安支隊ニ於テ之ヲ捕殺シ得タルモ殘匪ハ巧ニ包圍圈ヲ脫逸シ臨江北方松樹嶺方面ニ遁走セリ

依テ國軍ハ機ヲ失セス控置シアリシ各出撃隊ヲシテ之ヲ急追セシムルト共ニ第二線配備部隊ヲシテ之カ遁走ヲ阻止セシメ又歩兵第七團（邵本良部隊）主力ヲ北進セシメテ老嶺附近ニ濛轄地區部隊ノ歩兵第五團主力ヲ南進セシメテ之ニ挾撃ヲ加ヘタル爲匪團ハ反

轉東方ニ分散敗走スルニ至レリ

3. 以上ノ如ク當面ノ敵匪ハ間斷ナキ我猛攻ニ遭ヒテ全ク其統制ヲ失ヒ餘喘奄々纒ニ山林ニ逃避シ其所在亦不明トナリシヲ以テ一時諸隊ニ掃蕩地域ヲ分配シ匪情ノ蒐集ニ努メシムルト共ニ舊正切迫ニ備へ徹底的勦討ニ當ラシメタリ

渉作命第六一號

討伐指導部命令

一月二十三日午前九時  
於臨江討伐指導部

一 東部臨江縣内ニ於ケル匪團ハ分散シ目下其踪跡ヲ絶ツ

二軍ハ東部臨江縣内ニ分散配置ヲ取り徹底的肅清ヲ遂行セントス

三各部隊ノ擔任地域ヲ左ノ通り定ム

高部隊（歩兵第二團ノ五連）

第三區中嘉魚河以南五道溝左岸地區、特ニ長白縣八道溝流域

ヲ搜索スルヲ要ス

靖安支隊（治安隊及孫部隊ヲ屬ス）

第三區ヨリ高部隊擔任地域ヲ除キタル地區、特ニキカヲ以テ

隨時游撃ニ任シ得ルヲ要ス

下元部隊

第二區中吳家營、水洞濼、西南谷ヲ連ヌル線以東ノ地區

奥島部隊（歩兵第二團ノ一連ヲ高部隊ニ轉屬シ騎兵第四團ヲ屬ス）

下元部隊擔任地域以西ノ第二區、但關枝溝東方谷地ヲ除ク

邵部隊（歩兵第七團ノ二連）

關枝溝東方谷地

特選隊

東北岔吳家營等鐵道線路上匪ノ往來箇所ノ遮斷

富田 壽兵衛

四方頂子附近ノ捜査ヲ終ラハ主力ヲ以テ臨江ニ歸滯シ臨江及  
其四周ノ檢索ニ從事ス

四前項以外ノ諸部隊ハ在撫松顧問ノ指揮ヲ受ケ撫松縣内ノ警備ニ

任ス但高橋部隊ハ關枝溝ノ守備ヲ歩兵第七團ト交代セシメ又略

兵第七團ノ主力ハ松樹嶺ノ守備ニ當ラシムルモノトス

其各部隊ハ特ニ指示スルモノノ外各々有力ナル游撃部隊ヲ以テ擔

任地域内ヲ游撃シ潜在匪首ノ捕獲ニ努ムルト共ニ散在家屋ノ破

却ヲ徹底的ニ遂行スルモノトス

但河谷、道路ノ沿線等將來集家ノ基點トナリ或ハ軍隊宿營上利用價值大ナルモノハ之ヲ存儲スルコトニ注意スルヲ要ス

討伐指導部長 佐々木 少 將

訓 示

本期討伐ノ重點ヲ臨嶽地區ニ指向シテヨリ未タ二個月ニ滿タス此間地區司令官以下各部隊將兵並直轄諸部隊ノ將兵競ウテ險難ヲ踏破シ祁寒ヲ冒シ一度敵ニ當ルヤ晝夜ヲ問ハス之ヲ窮追シテ



假借スル所ナシ此ヲ以テ撫松、臨江、長白ノ三縣千百ヲ以テ算  
173

セシ匪團一呼シ潰敗シ今ヤ餘喘奄々纔ニ山林ニ逃避彷徨シ其自

滅ヲ待チツツアルノミ

就中紅匪ノ巨頭王德泰ハ驛丘第七團同曹國安ハ靖安支隊ノ爲何

レモ殆ト確實ニ射殺セラレ極松縣反滿匪ノ巨頭萬軍モ亦靖安支

隊工隊連ノ捕殺スル所トナリ巨魁トシテハ紅匪今日成反滿匪萬

順ヲ剩スニ過キス近時彼等匪團ノ行動全ク統制ヲ失シ匪首ノ見

ルヘキモノ臺モ之ナク分散逸走ヲ是レ事トスルニ至レルモノ宜

ナリト謂フヘシ然レモ窮餘ノ匪徒ノ趨ク所ハ悉ク弼盜殺人ノ一途ニシテ從來ノ假面ヲ放擲シ殘忍兇暴良民ヲ凌虐スルノ暴ニ甚シカルヘキハ想察ニ難カラス舊正月ノ目睫ニ漏レルニ於テ亦特ニ然リ即チ軍民一體此等群小弼盜ヲ懲滅スルト共ニ諷ニ潛在匪首就中金日成萬順等ノ巨魁ヲ捕獲シ禍害ヲ一掃スル正ニ好期ニ會セリ

思フニ今次討伐ニ於テ軍險ニ誤シタル任務行動ノ重且難ナルハ到底從來ノ比ニ非ス天候、地形、季節ノ齋ラセル勞苦ニ至リテ

ハ殆ト人ノ相察ヲ許ササルモノアリ而モ諸士ハ等ツテ此等絶大  
ノ苦難ニ堪ヘ臺モ聲譽ヲ人ニ求ムルナクシテ其任務ノ完遂セサ  
ランコトヲ之ヲ恐レタリ是レ誠ニ國軍ノ精華ニシテ建軍五年練  
成ノ成果ハ今ヤ遺憾ナク之ヲ發揮シ得タリトイフヘシ  
冀ハクハ諸士更ニ緊禪一番從來ニ於ケル成果ヲ益々擴充スルト  
共ニ今ヤ遁竄學措ニ迷ヘル匪團ニ最後ノ一撃ヲ加ヘテ之ヲ徹底  
的ニ勦滅シ以テ國軍將兵力天下ノ樂ニ務レテ樂ムノ實ヲ中外ニ  
宣示セムコトヲ望ム

諸士夫レ之ヲ勉メヨ

康徳四年一月廿八日

討伐指道部長

佐々木 到 一

然ルニ臨撫街道以東ノ地區ニ逃竄セル匪團ハ二月初旬以來各討伐  
 隊ノ徹底的遊撃行動ニ依リ再度警網下ヲ脱出シテ臨撫街道沿線ニ  
 進出シ糧秣補給隊ヲ襲撃セントスルノ形勢ニアルヲ以テ直ニ其重  
 點ヲ該方面ニ指向セリ

各隊ハ二月十八日以來匪團ヲ索メテ進撃中靖安軍武内支隊ハ二十

二日遂ニ撫松南方約二十軒夾皮溝口附近ニ於テ東北人民革命軍周  
 偽師長ノ率キル約三百ノ匪團ヲ追躡捕捉シ先遣隊タル清野連長以  
 下三十四名ハ決死奮闘該匪ハ一大痛撃ヲ與ヘタルモ匪團ハ恭備優  
 秀且地ノ利ヲ占メ頑強ニ抵抗ナル爲後續部隊ノ來着ニ先キタチ遂  
 ニ連長以下全員壯烈無比ノ戦死ヲ遂ク

此ノ危急ヲ知レル同隊工藤連長ハ戦友ノ戦死無念骨髄ニ徹シ該匪  
 ヲ全滅セシメテ戦友ノ靈ヲ慰メント決意シ敢然之ヲ急追撃々奮迅  
 猛攻ヲ續ケタルモ激戦半ニシテ猛勇工藤連長亦惜クモ兇彈ニ墜ル

ルニ至ル本戦闘ニ於ケル兩連長ノ行動ハ誠ニ國軍ノ龜鑑ニシテ勦  
匪史上ニ一大光彩ヲ放チタルモノト謂フヘシ

之カ爲常時撫松ニ増援ノ爲南下シアリシ討匪行動ニ最モ巧ナル第  
二軍管區斂道隊ノ劉東坡部隊及歩兵第十九團ヲ之ニ急撻セシメ以  
テ該匪ヲ西方谷地ニ潰走セシメタリ

國軍ハ先ツ此敵ヲ大夾皮溝西古約十二軒八二〇附近ニ包圍殲滅セ  
ンコトヲ企圖シ諸隊ヲシテ之ヲ包圍セシメタルモ匪ハ我包圍圈櫻  
ネ成ラントスル時竊ニ之ヲ脱出シテ龍崗山脈ニ沿ヒ東走ヲ企テタ

リ依テ諸隊ハ機ヲ失セス競フテ追撃ヲ敢行シ西楊木頂子附近ニ於

テ捕捉シ再ヒ大鐵槌ヲ加ヘテ潰亂セシメタリ

滿作命第六九號

討伐指導部命令

二月二十二日午後四時  
於臨江指導部

一 靖安軍武内支隊ノ勇戦ニ依リ臨撫街道西側ノ紅匪團ハ大ナル損

害ヲ受ケ大夾皮溝西方谷地ニ散逃シアルモノノ如シ

二 敵ノ敗勢ニ乘シ該匪ヲ大夾皮溝西方約十二軒八二〇附近ニ包圍

殲滅セントス

三 下元部隊（歩兵第四團第四連及迫撃砲排ヲ屬ス）ハ明二十三日  
 早朝小湯河附近ヨリ北進シ八二〇方向ニ前進シ敵ヲ索メテ之ヲ  
 撃滅スヘシ

特ニ二道花園嶺附近ヨリ南下中ノ濠輝地區部隊ト連絡スルヲ要ス  
 四 釜東坡部隊長ハ歩兵第十九團ヲ併セ指揮シ大夾皮嶺西方河谷ヲ  
 急進シ敗退スル紅匪ヲ捕捉撃滅スヘシ

五 臨嶺地區及濠輝地區部隊中現ニ南下中ノ諸部隊ハ速ニ六八二（大  
 夾皮溝西方約八軒）ヨリ八二〇ニ亘ル線ニ急進シ敵ヲ捕捉スヘシ



シ

六高橋部隊ハ大營附近ヨリ小湯河附近ニ亘ル間ノ臨撫街道上ノ各

要點ヲ確保シ敵匪ノ東北走ヲ阻止スヘシ

討伐指道部長 佐々木 少 將

通電先

軍政廳、通化指道部、二軍廳

隸下一般ニ下達ス

5. 一方長白縣下ニ於テハ混成第二旅主力ノ増援ヲ楔機トシテ金日

成匪ノ徹底的勦討ヲ敢行シ該匪ノ復原タル雪嶺峰附近ノ據寨ヲ

悉ク覆滅シ爲ニ該匪ノ主力ハ竊々トシテ北走ニ努メアル状態ナ

リ

上流ノ如ク臨、撫、長三縣下ニ於ケル諸匪團ハ四ヶ月ノ久シキニ亘

リ寧日ナキ不斷ノ徹底的勦討ヲ蒙リ今ヤ全ク四離滅裂

困窮其極ニ達シ纔ニ討伐軍ノ間隙ヲ彷徨シテ遁竄是レ

努メ我警備網薄弱ナル樞松東北方地帯ニ移動シ匪勢挽

回ノ企圖ヲ有シアルカ如ク即チ吳善成系匪團ニ在リテハ樞松東北方約三十軒

（樞松北方約二十軒）及葦泥河子（樞松東方約三十軒）東北方山地

帯ニ蝟集シ該方面ノ木廠ヲ襲ヒテ糧道ノ入手ニ努メ且萬兩嶺附近村

落ヲ竄ヒアルカ如シ

又長白下縣ニ在リシ今日成系匪及曹國安殘匪ノ合流匪團ハ白頭山南

麓ニ走り爾後其西南方約二十軒（長撫縣境）雪嶺峰附近ノ據寨ニ據  
 リシモ長白警備部隊（混成第二旅主力其他）ノ徹底的掃蕩ニ遭ヒ遂  
 ニ之ヲ覆滅セラレ爲ニ其主力ハ逐次北方ニ移動セルカ如キモ一部ハ  
 尙附近ニ潜在沈黙ノ情態ナリ

臨江縣東（北）部地帯ニ於ケル肅正狀況ハ概ネ良況ニ進ミツツアリ  
 ト雖未タ愉快ヲ許ササルノ狀況タリ

#### 第六 王鳳閣匪ノ討滅

#### 一、王鳳閣匪第二次討伐方針

國軍ハ一月中旬以後臨撫地區ヲ除ク各地區部隊ヨリ成シ得ル限りノ

185

兵力ヲ抽出シテ王鳳閣ノ潜在ヲ豫想スル輯安縣第四區附近及臨濛縣境附近ニ勦討檢索ノ重點ヲ指向シ王鳳閣ノ索出逮捕ニ全力ヲ傾倒スルト共ニ殘存小匪團ノ徹底的肅正ヲ期センカ爲左記命令ヲ下達シテ

中部東邊道ノ治安確立ニ邁進セシメタリ

滿作命第五〇號

命 令  
於 康 德 四 年 一 月 六 日  
新 京 軍 政 部

第一軍管區司令官ハ別冊討伐指道計畫（臨撫地區ヲ除ク）ニ基キ討

伐ヲ實施スヘシ

軍政部大臣 于 上 將

軍政部最高顧問 佐々木 少 將

下達法一印刷セルモノヲ交付ス

第二次討伐計畫（臨撫地區ヲ除ク）

昭和四年一月六日  
軍政部討伐指導部

第一方 針

軍ハ臨撫地區ヲ除ク各地區討伐後ヨリ成シ得ル兵力ヲ抽出シテ王  
鳳閣ノ潛在ヲ豫想スル嶺安縣第四區附近臨江縣境及臨江、濛江縣

境附近ニ勦討檢索ノ重點ヲ指向シ匪首王鳳閣ノ索出逮捕ニ全力ヲ  
傾倒スルト共ニ小匪團ノ徹底的潰滅ヲ期ス

第二指道要領

一 軍隊區分

龍安南部地區（龍南地區ト略稱ス）

司令官

陸軍中將

張

益

三

安東地區司令部

混成第一旅

2349

索混成旅

舊輯安地區司令部及各旅配屬部隊原ノ如シ

輯安北部地區（輯北地區ト略稱ス）

司令官

陸軍少將 高

明

混成第二旅

歩兵第十六團

配屬部隊原ノ如シ

金柳地區

司令官

陸軍少將 董 國 蕪



混成第六旅 (歩兵第七團、歩兵第六團第一營本部及第一、第三連、  
騎兵第九團、移動無電臺ヲ缺ク)

騎兵第三旅 (騎兵第十六團ヲ缺ク)

第三教道騎兵團

配屬部隊原ノ如シ

濃輝地區

司令官

陸軍中將

廖

弼

宸

奉天地區司令部

混成第五旅 (騎兵第八團ヲ缺ク)

歩兵第六團第一營（第二連及第一機關銃連ヲ缺ク）

混成第十四旅（臨撫地區ニ配屬シアル部隊ヲ除ク）

配屬部隊原ノ如シ

直轄部隊

第一教導隊（移動無線一ヲ屬ス）

歩兵第七團

騎兵第九團（通化治安隊ヲ屬ス）

混成第一憲兵隊

總豫備隊

騎兵第十六團

ニ各地區部隊ノ配備要領竝ニ任務

ノ韓南地區討伐隊

輯通兩縣境大壺溝山一將軍墳ヲ連ヌル線以西ノ鎭安縣（歡喜

嶺ヲ含マス）内ヲ擔任地域トシ地區内勦匪檢索ノ重點ヲ尙團

長匪及舊王鳳閣根據地方向ニ指向シツツ特ニ憲兵隊ト協力シ

テ擔任地區内ノ雜匪ノ索出根絶ヲ期スルニ在リ

尙匪情ニ依リ桓仁縣、寬甸縣東部地區並通化縣西南部地區ニ  
出警セシム

特ニ索混成旅司令部ハ青濞子又ハ台上附近ニ位置スルヲ要ス

## 2. 輯北地區討伐隊

司令部ヲ輯安縣第四區三道溝附近ニ位置シ主トシテ輯安縣第

四區及通化縣第二第三區中歡喜嶺、氷濞子、藍泥塘子溝門、

二道溝門、掛重嶺（含ム）ヲ通ヌル線以南ノ地區ヲ擔任地域

トシ兵力ノ重點ヲ輯安縣第四區（錯草溝ヲ含ム）ニ配置シ勦

匪、檢索ノ重點ヲ臨輯兩縣境ニ指向シ特ニ憲兵隊トノ協同ヲ

密ナラシメ擔任地區間ノ潛在匪ノ徹底的滑滅ヲ期ス

尙一部ヲ以テ王風閣匪舊根據地ノ檢索檢擧ヲ依然續行スルヲ

要ス

歩兵第十六團ハ主トシテ通化縣内ニ配置ス

### 3. 金柳地區討伐隊

擔任地域従前ノ通りトス

金川、柳河兩縣内ノ匪團ノ索出特ニ濛、臨縣境舊紅軍根據地

ノ搜索ニ任スルト共ニ清原、興京縣境附近ノ匪團侵入防止ニ  
努ムルノ外積極的ニ出撃セシム

尙梅通線建設掩護ノ爲メ特ニ留意セシム

混成第六旅配屬ノ移動無線一ヲ第一教道隊ニ轉屬セシム

#### 々濛輝地區討伐隊

擔任地域ハ松樹嶺、頭道岔、老嶺（含ム）ヲ連ヌル線以北濛

江縣及輝南縣全部トス

司令部ヲ頭道花園附近ニ位置シ混成第五旅部隊ヲ努メテ二道

花園、白漿河以南ニ配置シ歩兵第七團及第一教導隊ト密ニ協  
 カシテ勦討檢索ノ重點ヲ濛臨縣境ヨリ匪團ノ侵入ヲ防止スル  
 ト共ニ濛江―撫松道ノ掩護ニ任セシム  
 混成第十四旅（臨撫地區ニ配屬シアル部隊ヲ除ク）ハ一部ヲ  
 輝南縣内ニ殘置シ主力ヲ濛江縣第一、二、四區ニ配置シ歩兵第六  
 團第一營部隊ト共ニ同地區及輝南縣ノ治安ニ任ス  
 特ニ吉林省境及撫松縣境ヨリスル匪團ノ逃入ヲ防止セシム尙  
 一部ヲ以テ朝陽鎮、輝南、濛江道ノ掩護ニ任セシム

## 5. 直隸部隊

## ◎ 第一教導隊

隊本部ヲ紅土崖附近ニ位置シ通化縣水溝子、蔭泥塘子溝門  
 二道溝門、掛重嶺（含マス）以北ノ第二三區、臨江縣第五  
 六七八區ヲ擔任地域トシ特ニ勦匪檢索ノ重點ヲ蟬、臨縣境  
 北方老嶺山脈及濛臨縣境ニ指向シ憲兵隊、歩兵第七團、混  
 成第五旅部隊ト密ニ連繫シ潛在匪ノ徹底的潰滅ヲ期ス  
 尙一部ヲ大板石溝、黑瞎子溝ノ要點ニ配置シ混成第六旅部



際ト連繫シ金、臨縣境ニ匪團ノ潛入ヲ防止ス

◎歩兵第七團

關本部ヲ臨江縣城若クハ三險附近ニ位置セシメ臨江第一、四區及濠江縣灣口附近（松樹嶺、頭道岔、老嶺（含マス）ヲ連ヌル線以南ノ濠江縣）ヲ擔任地域トシ勦匪檢索ノ重點ヲ臨縣縣境及老嶺山中ニ指向シ第一綏道隊、混成第二旅及第五旅部隊ト密ニ連繫シ濠在匪ノ徹底的索出討伐ヲ實施ス

特ニ臨撫街道方面ヨリスル匪團ノ移動侵入ノ顧慮アルニ鑑

ミ之カ防遏迎撃ノ準備ニ遺憾ナカラシム

◎騎兵第九團

第三第三區ヲ除ク通化縣（縣城ヲ除ク）ヲ擔任地域トシ英

歌布、大泉源（含マス）ヲ連ヌル線以東ノ地區ニ兵力ヲ配

置シ縣内ノ治安ニ任ス特ニ一ヶ連ヲ干砦子、二密河附近ニ

配置シ梅通鐵道線ノ建設掩護ニ任セシム

又治安隊一ヶ連ヲ富爾江口ニ配置シ桓、輯、通、三縣境附

近ノ治安ニ任セシム

大泉源、三保楡樹ニ駐屯スル日軍トハ連繫ヲ密ニシ特ニ興  
 京、桓仁縣境ヨリスル匪團ノ動靜ニ着着シ要スレハ積極的  
 ニ出撃セシム

◎混成第一毒兵隊

部隊ノ配置ハ隊長計畫ノ下ニ統一使用シ依然王鳳閣匪ノ檢  
 索ニ重點ヲ指向スルト共ニ特ニ各部隊トノ緊密ナル協調連  
 繫ニ着着シ必要ニ應シ其一部ヲ配屬スルコトアルヲ豫期ス  
 ルヲ要ス

1932

◎總豫備隊

騎兵第十六團

通化縣城ニ駐在シ總司令部及指導部ノ警護ニ任スルト共ニ  
各種機關ト協力縣城附近ノ警備ニ任ス

≡討伐實施要領

討伐實施ハ康德三年度後期討伐實施要領ニ準據スヘシ

二王鳳閣逮捕ノ概況

ノ王鳳閣ハ秋季討伐末期以來腹臣ノ部下數十名（一時八十數名ノコ

トアリ一ヲ率ヒテ我討匪陣ノ間隙ヲ巧ニ潛リ最近ニ於テハ紅軍匪  
ナリト宣傳シテ我搜索ノ銳鋒ヲ避ケ爲ニ其所在杳トシテ判明スル  
ニ至ラサリシカ二月初旬頃諸情報ヲ綜合スルニ彼ハ依然舊根據地  
帶ニ潛存シアルコト略確實トナリ討伐諸隊ハ大ニ活氣ヲ呈スルニ  
至リ

殊ニ八道溝方面ニ在リテ約五ヶ月間王鳳閣ノ索出ニ奮闘セル橋本  
憲兵連ハ愈々至嚴ナル諜報網ヲ構成シ彼ノ所在確認ニ努力セリ

2. 斯クシテ三月十六日及二十二日ノ兩日ニ百リ歩兵第十六團部隊ニ

於テ王鳳閣ノ部下二名及韓連長匪ノ妻二名ヲ逮捕シ調査セシ結果  
王鳳閣ハ二月初旬以來腹臣ノ部下ト共ニ老虎山山寨ヲ脱出西走シ  
目下關頭溝裡標高一五〇又八九五三附近ノ山寨ニ潛伏シアルコ  
ト確實トナルニ至レリ

依テ二十二日歩兵第十六團主力ハ關頭溝裡方面ヨリ、橋本嶺兵連  
ハ果松川溝裡方面ヨリ索混成旅ノ一部ハ歡喜嶺方面ヨリ、歩兵第  
一團主力ハ南方ヨリ之カ包圍攻撃ヲ開始セルカ歩兵第十六團ハ同  
夜關頭溝裡標高六六〇北方小流ノ線ニ於テ王匪ト遭遇激戦ノ後北

方一一二〇高地方向ニ撃退之ヲ追躡ス

同隊ハ翌二十三日一一二〇附近一帯ヲ嚴ニ搜索セルモ降雪著シキ

爲一時匪跡ヲ失フニ至レリ

該匪ハ廿三日來咫尺ヲ辨セサル降雪ヲ奇貨ニ我警戒網ヲ濳リテ羊

群濫（八道溝北方）北側ヲ經テ東走再ヒ老虎山方面ニ遁走（橋本

壽兵浦ニ降賜セル王鳳閣部下ノ供流）セルヲ知り第十六團ハ極力

其匪跡ヲ追窮スルコト四晝夜遂ニ二十五日夜老虎山西北方十軒一

三一〇高地北側ニ於テ之ヲ捕捉シ激戰一晝夜ニ及ヒシカ匪ハ二十

十六日夜半密ニ脱逸北方ニ逃走セリ

々指導部ハ前記情勢ニ依リ機ヲ失セス左ノ如ク諜隊ヲ部署シテ彼匪ノ逮捕ニ努メシメタリ

(イ) 程游撃隊ヲ速ニ第十六團ノ戦闘ニ参加セシム

(ロ) 紅土崖ニアリシ約道歩兵第一團ノ各一部ヲ南老嶺及其東西頭道陽岔、小南岔ニ淮出セシメ匪ノ北走防止ニ當ラシム

(ハ) 騎兵第五團ヲ老虎山附近ニ急進セシメテ匪ノ同方面滲入ヲ阻止

セシム



(二) 索混成旅及歩兵第一團ヲシテ匪ノ西南走防止ニ努メシム

(三) 通化治安隊（相馬上尉ノ指道スル五〇名）ヲ戦闘地ニ急派シ歩

兵第十六團長ノ指揮ニ入ラシム

(四) 古岳混成第一憲兵隊長ヲシテ匪ノ索出檢舉行動ニ遺憾ナカラシ

ム

五 二十六日夜半北走セル王匪ハ我濃密至嚴ナル包圍網ニ依リ之ヲ突

破シ得スシテ更ニ反轉西走ス

諸隊ハ相互連絡ヲ密ニシ一意包圍網ヲ縮少急追セルニ二十七日朝

來王鳳閣嶺（六道溝東方六軒）附近ニアリシ程游撃隊ノ山口連ハ  
 午前一時半頃匪ノ退路遮斷之ヲ包圍攻撃シ其一部ハ敢然匪中ニ突  
 入遂ニ首魁王鳳閣及其妻ヲ逮捕ス追撃隊モ亦二十數名ヲ捕殺シテ  
 茲ニ全ク王鳳閣主力匪團ヲ討滅スルニ至レリ

建國以來東邊ノ地ニ獨立王國ノ夢ヲ結ヒ暴戾餽クナキ鬼行ヲ續ケテ無  
 辜ノ庶民ヲ塗炭ノ苦ニ呻吟セシメタル反滿抗日ノ巨魁王鳳閣モ上流ノ  
 如ク國軍討伐開始以來約半歲之ヲ主要目標トシテ幾多將兵ノ犠牲ヲ願  
 ミス凡百ノ苦艱ヲ嘗メ銳意其捕獲殲滅ニ邁進セシ結果關東軍年度肅正

計畫第三期ノ末終ニ於テ其目的ヲ達成シ茲ニ中部東邊道ニ帶狀的明朗地帶ヲ確立シ得タルハ國家ノ爲慶祝ニ堪ヘサルト共ニ今期討伐ニ參加シ陣没セル幾多ノ英靈竝戰傷者ニ對シ深甚ナル敬意ト哀悼ノ意ヲ被歴シ以テ益々東邊道治安確立ニ奮闘セシコトヲ期シツツアリ

#### 第七 治安工作

關作命第九三五號關東軍命令ニ基ク北部東邊道特殊治安工作ニ關シテハ別途之ヲ報告ス

#### 第八 討伐ノ成果

之ヲ要スルニ討伐初期ニ於テハ滿軍獨力ヲ以テスル討伐ノ成果ニ多少ノ疑念ヲ挾ムモノナキニアラサリシモ之ヲ實施ノ跡ニ徴スルニ既述ノ如ク建國以來營々トシテ改善整備シ來レル國軍ノ眞價ヲ遺憾ナク發揮シテ絶大ノ成果ヲ收メ内國家ノ負托ニ致ヘ外友邦ノ信賴ヲ厚フスルヲ得タリ

此成績ニ鑑ミ益々國軍ヲ淨化整備スルト共ニ之ヲ訓練強化シテ平戰兩時ヲ問ハス獨力國內ノ治安ヲ確保シ得ルニ至ラシメンコトヲ期ス

秋冬兩季討伐ノ綜合成果ヲ示セハ附録第七、第八ノ如シ

## 其三、所見

## 一、満軍ノ價值

約半歳ニ亘ル本次討伐ヲ通觀スルニ局所且一時的ニハ舊來ノ私弊ヲ尙繰返スモノ或ハ戰鬥意志薄弱ニシテ能力亦不十分ナルモノ等ナキニアラスト雖全体ヨリ云ヘハ極メテ小數ニシテ之ヲ數年前ノ満軍ト比較セハ其滯淨化セル點ニ於テモ其戰鬥能力ノ増大セル點ニ於テモ實ニ隔世ノ感アリテ建國以來關東軍カ現役將校ヲ顧問トシ孜孜營々トシテ改善ニ改善ヲ加ヘ來レル努力ハ報ハレタリト云フヘシ

之ヲ以テ之ヲ看ルニ滿洲國內治安ノ肅正維持ニ滿軍ノミヲ以テ足レ  
 リトスルノ日亦決シテ遠キニアラス

尙滿軍ノ價值判斷ニ關シテハ別ニ報告ス

### 二、日系指導者ノ必要

本次討伐ニ於テ豫期以上ノ成果ヲ收メ得タルハ滿軍自体ノ進歩セル  
 ニ因ルコトハ勿論ナリト雖之ヲシテ十分其能力ヲ發揮セシムル原動  
 力カ依然トシテ日系指導者ニアルハ忘ルルヘカラサル事ニ屬ス

本次討伐ニ於テ現地ニ成シ得ル限り多クノ顧問ヲ配置シ且其補助者

トシテ軍事敎官及日系軍官ヲ多數參加セシメタリ

此指導力ノ強化カ滿軍自体ノ進歩シアリシコトト相扶ケテ好成績ヲ

收メタルモノナルハ現地ノ事情ニ詳シキモノノ一致セル意見ナリ

### 三 滿軍ニ對スル信賞必罰ノ效果

本次討伐ニ於テハ部隊及個人ノ行動ニ對スル査察ヲ嚴密ニシ苟ヒ表

彰ニ値スルモノハ大臣、軍管區司令官其他ノ褒狀、賞詞ヲ與ヘ賞金

ヲ授與スル外新ニ制定セル武功章ノ現地即給ヲ勵行シテ士氣ノ高揚

ニ努メ主要目標タル匪首ノ捕殺ニ賞金ヲ懸クル等將兵ノ心理ニ投ス

ル手段ハ擧ケテ之ヲ用ヒ大ニ效果ヲ收ムルコトヲ得タリ  
此ノ如ク功アリテ賞セラレサルモノナカラシムル一方將兵ノ非違ニ  
對シテハ假借スルコトナク之ヲ罰セリ特ニ滿重下級者就中通譯ニシ  
テ討伐ノ際通匪行爲ニヨリ利ヲ求ムルモノアルヲ舊來ノ習慣トスル  
ニ鑑ミ討伐當初某部隊ニ此種犯行アルヤ直ニ之ヲ嚴重處分ニ附スル  
ト共ニ急襲的ニ全軍ニ對シ兵器検査ヲ行ヒ其出納ヲ明確ナラシメ且  
滿重憲兵ヲ以テ監視セシメタル結果爾後通匪的行爲ノ跡ヲ絶ツニ至  
レリ



## 四 給與ヲ適切ナラシムルノ必要

軍餉ハ過去ニ於テハ討伐ノ際掠奪、不拂等ノ非道行爲ヲ爲スモノ歟  
 カラサリシカ爲一般民衆ハ時トシテ軍餉ヲ恐レ反ツテ匪賊ニ頼シム  
 ノ風アリテ勦匪工作ニ不便多カリシニ鑑ミ本次討伐ニ於テハ討伐隊  
 始ニ先々子隊ニ之ヲ戒メ軍紀ノ確立ヲ圖リタルモ尙其原因タル給與  
 ノ補給ニ最大ノ注意ヲ拂ヒタル結果討伐地帯内ノ土民ハ從來ノ軍餉  
 ニ關スル觀念ヲ一變シ克ク満軍ニ信賴スルニ至レリ

之レ治本工作ト相俟テ匪民ノ限界ヲ漸次田墾ニシ討伐ニ多大ノ便ヲ

與へタリ

五 討伐ト治本工作トノ密接ナル連鑿ノ必要

本次討伐ニ於テハ討伐ニ密接シテ治本工作ヲ實施シ兩者克ク緊密ニ  
 連鑿セルヲ以テ獨リ匪民ヲ分離シテ討伐ヲ容易ナラシメサルノミナ  
 ラス勦匪ノ效果ヲ大ナラシメ得タリ

六 滿軍憲兵ノ長所

本次討伐ニ於ケル軍民ノ淨化匪賊ノ檢索ニ滿軍憲兵ヲ使用セリ  
 滿軍憲兵ハ言語風俗ノ關係上民衆ト何等ノ錯謬ヲモ發生スルコトナ

ク各種ノ工作ヲ實施スルコトヲ得テ大ナル效果ヲ擧ケタリ

七 日系者ノ犠牲的活動

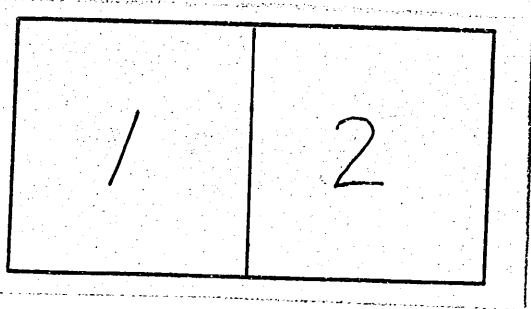

日系者ノ犠牲的活動カ部隊ノ士氣ヲ作興シテ戰勝ノ端ヲ歸キタル例

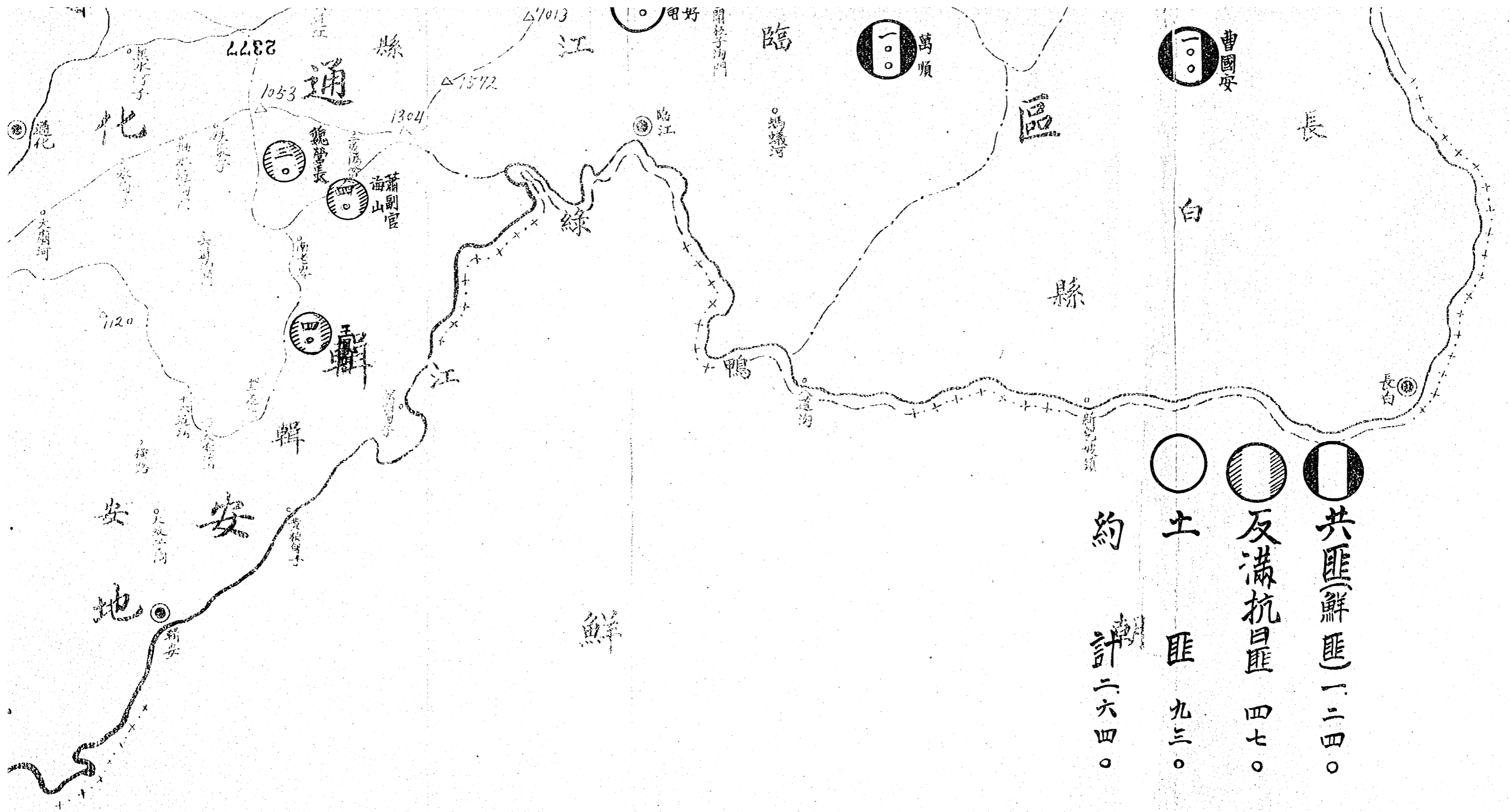
ハ本次討伐ニ於テ頗ル多シ誠ニ日系者ノ本分ヲ遺憾ナク發揮セルモ

ノト云フヘシ唯此等犠牲トナレル日系者ニ對スル日本側ノ待遇ハ日

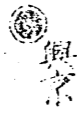
滿不可分ノ關係ニ鑑ミ十分ナラス將來速ニ方法ヲ講スルヲ要ス

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A 3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>8 年 10 月 15 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>	



2378



京縣

化地

2277

通

縣

1013

縣

區洪司令

五

八

金山好  
革命軍



崔指導員  
謝指導員

桓

四

青山

三  
韓連長

五  
占山

四  
西北軍  
東北好

五  
東北

仁

仁

縣

三  
尚團長武勝  
俊山萬團附  
占林五隊野狼

四  
金連長  
朴連長

外宮河

縣

區

安地

輯

四  
蕭副官

三  
魏營長

海山

1304

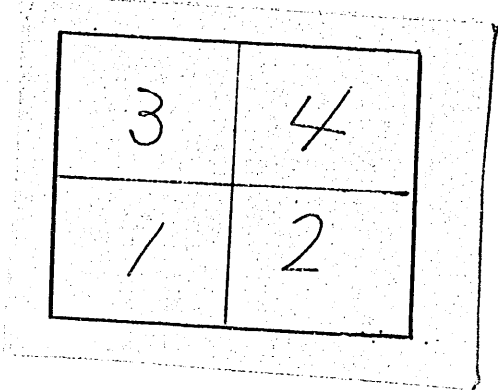

1572

江

凡例

● 縣境  
○ 區境  
○ 劃代地區境

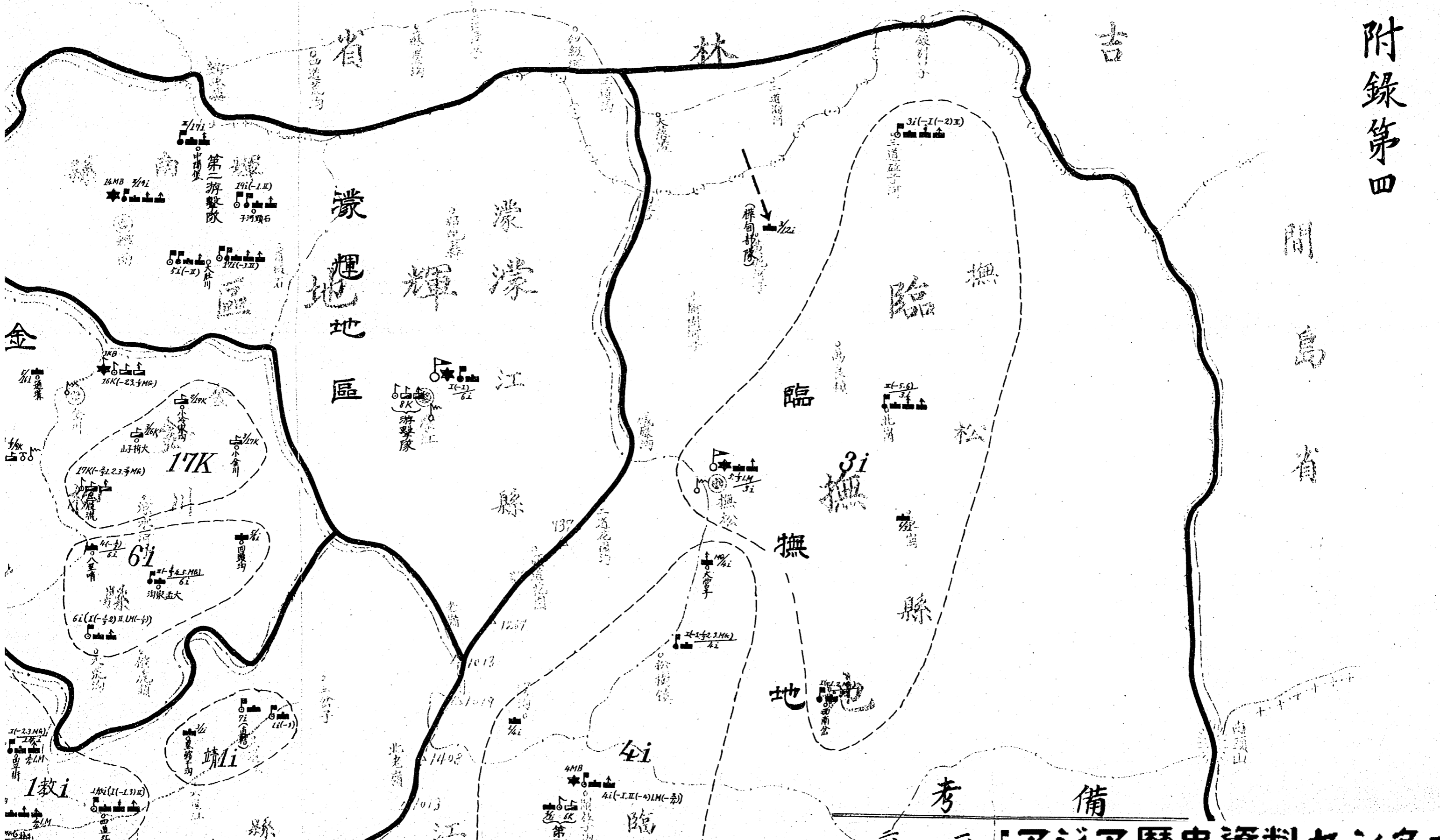
# 分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを証明する</p> <p>8 年 10 月 15 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>	

# 圖要置配隊部伐討道邊東部北

(ルケ於二降以日五月十年一十和昭)

附錄第四

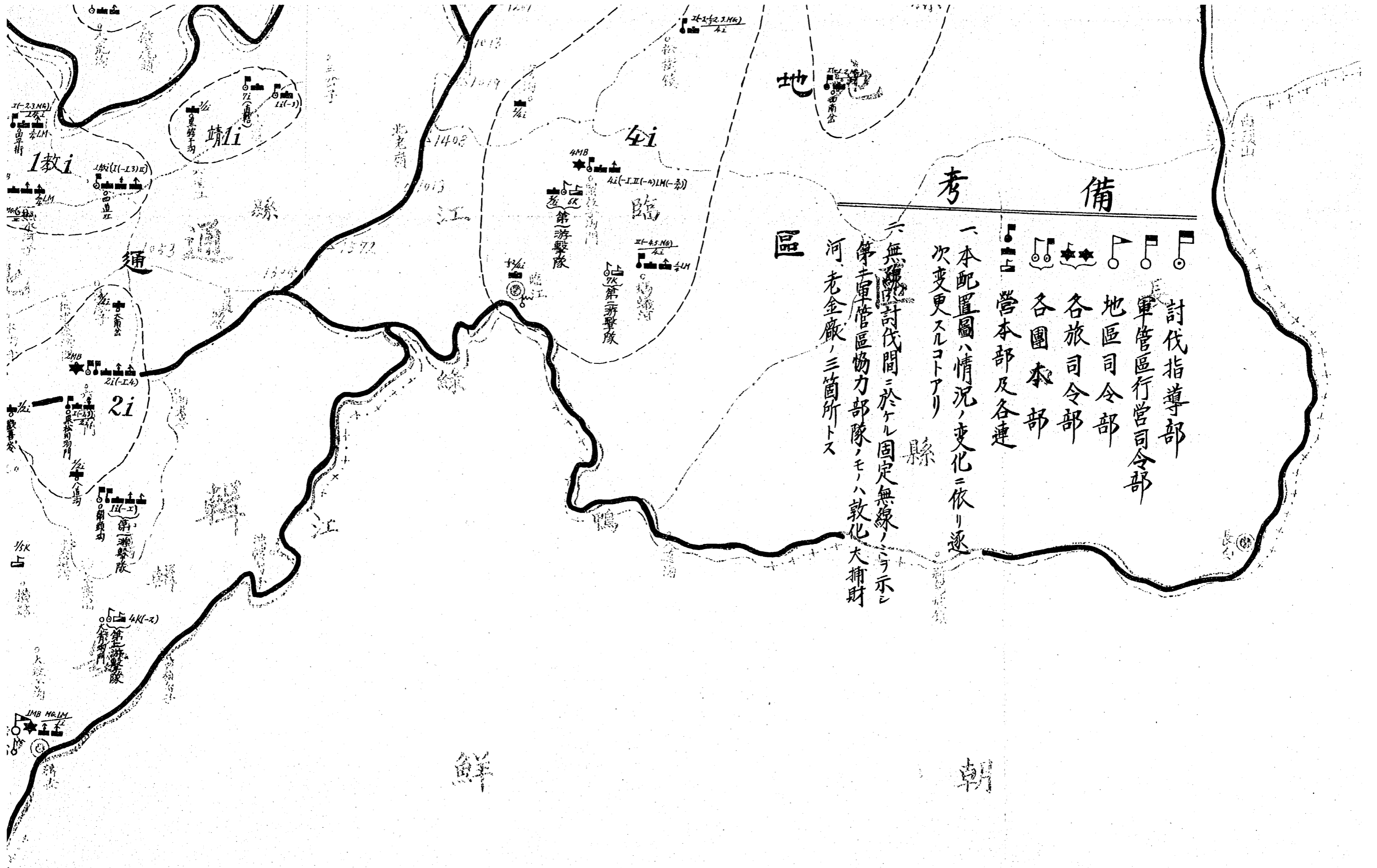




# 討伐部隊配置要圖

(十月五日以後に於ける)



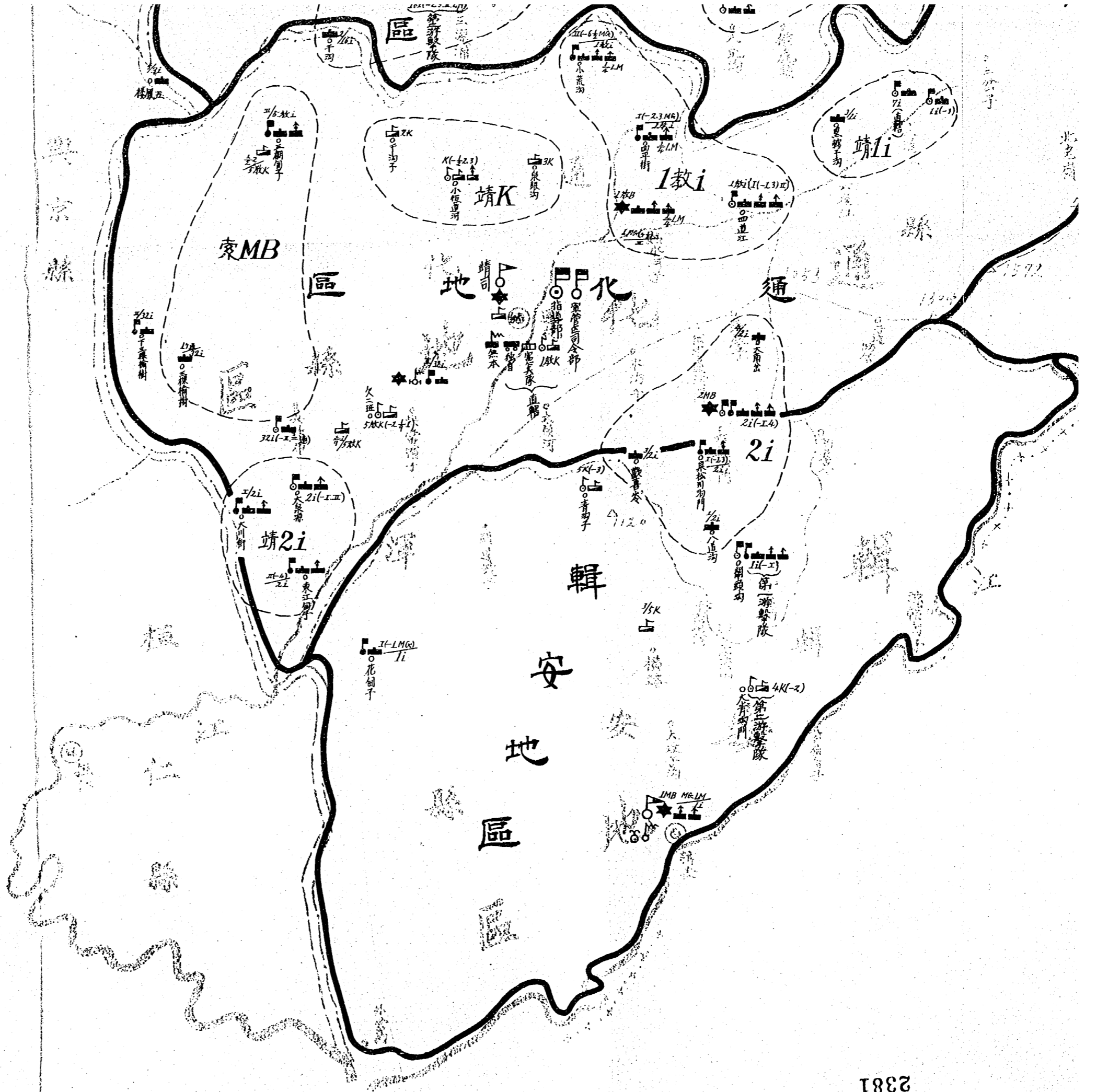


備考

- 討伐指導部
- 軍管區行營司令部
- 地區司令部
- 各旅司令部
- 各團本部
- 營本部及各連

一 本配置圖ハ情況ノ變化ニ依リ逐次變更スルコトアリ

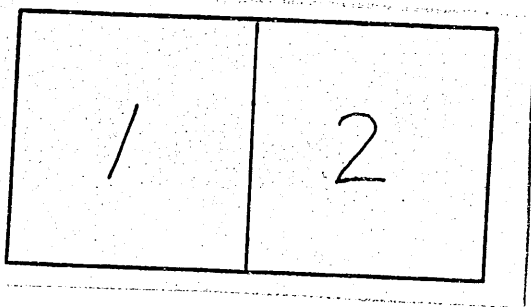

二 無線討伐間ニ於ケル固定無線ノシラ示シテ  
 第三軍管區協力部隊、モ、ハ教化大捕財  
 河老金廠、三箇所トス



興京

九制  
 一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A 3 判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>8 年 10 月 15 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>	

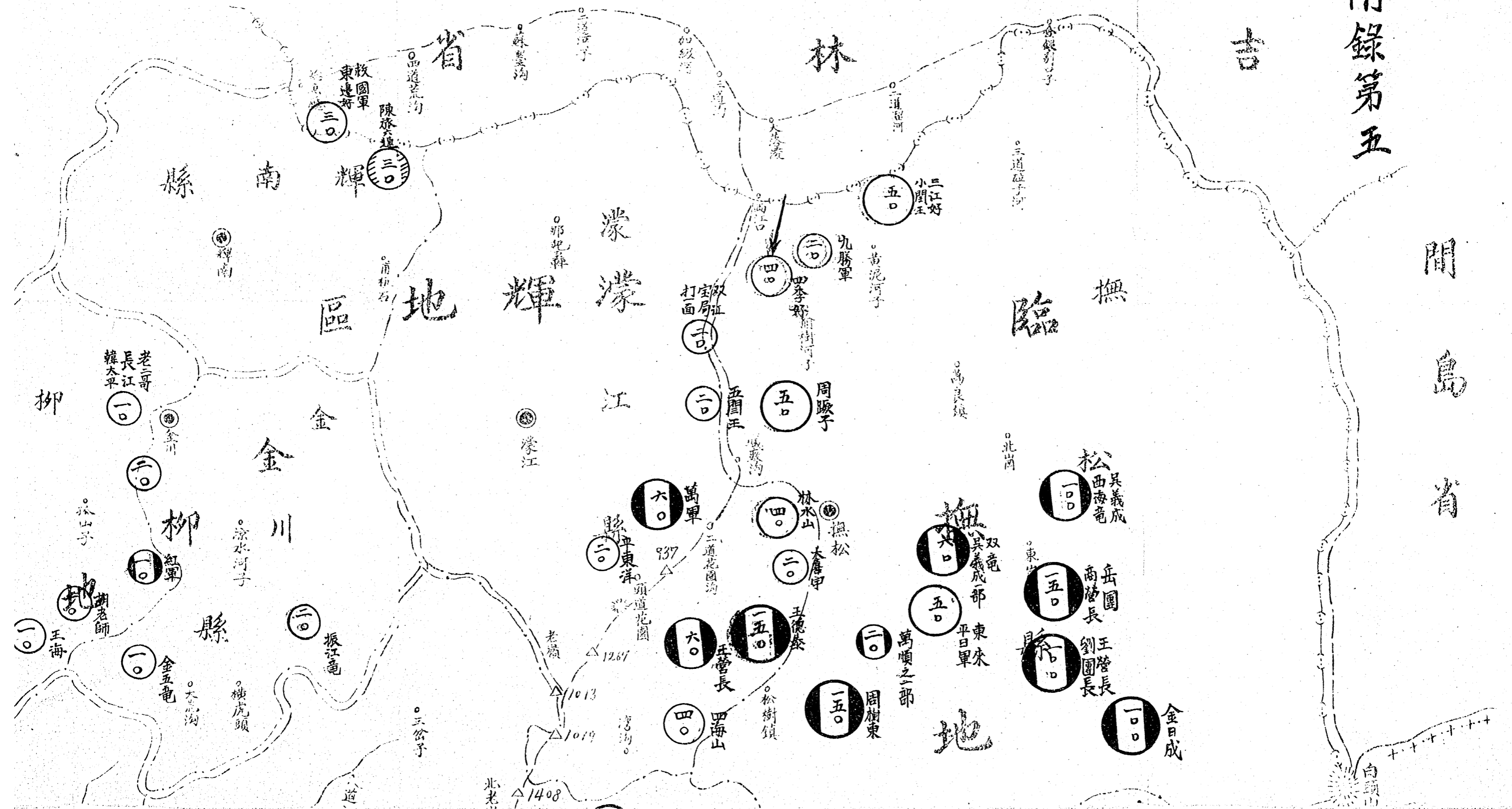
# 匪ル於二期末伐討季秋道邊東部北

末月一十年一十和昭

附録第五

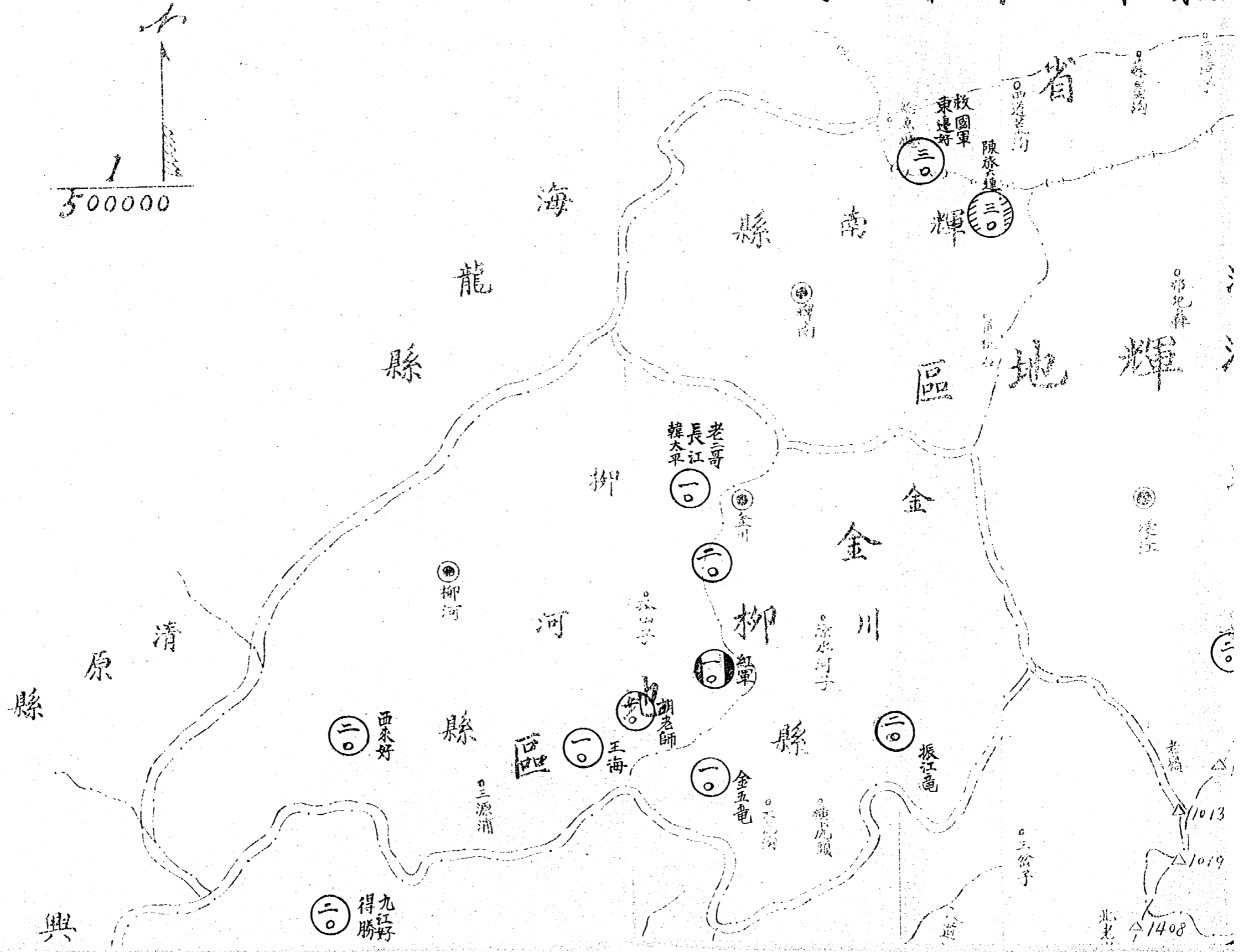
吉

間島省

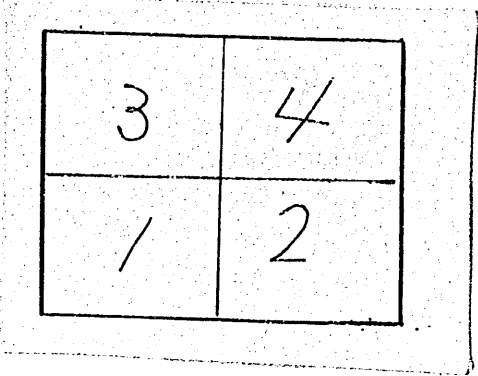



# 季季討伐末期之匪勢要圖

和十一年十一月末

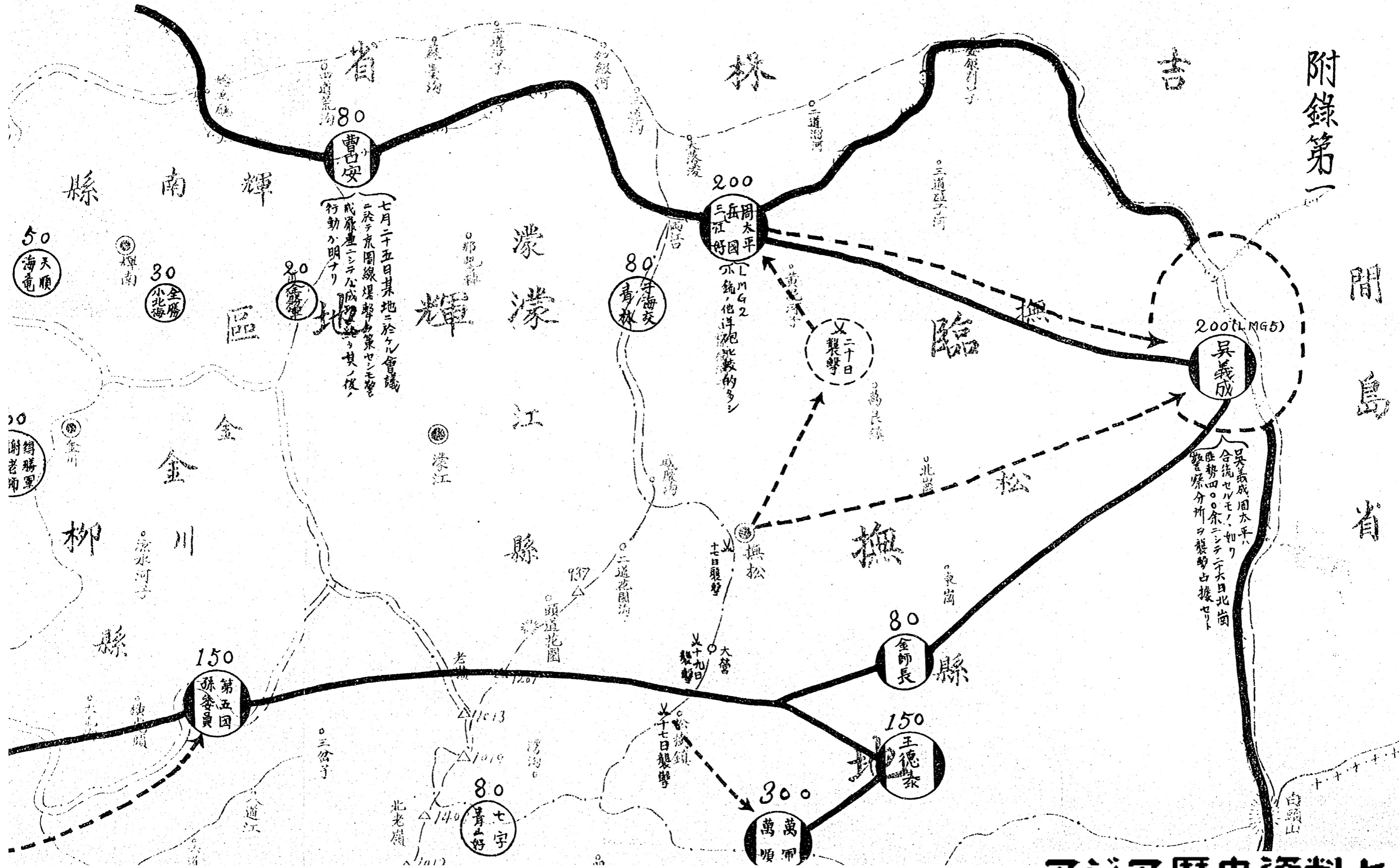


# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>8 年 10 月 15 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>	

# 北東邊道方匪面賊分

昭和十一年八月下旬於此



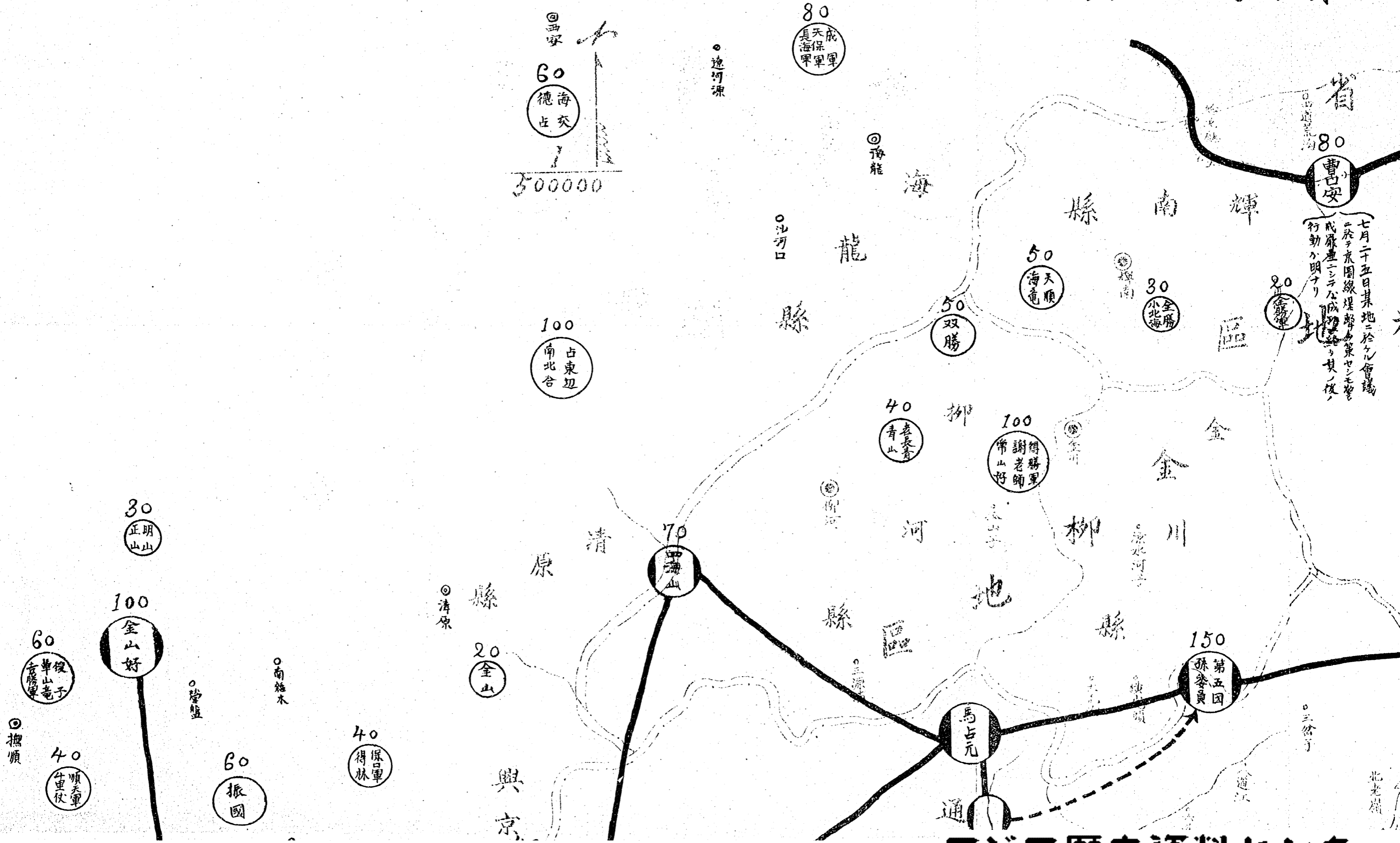
附錄第一

間島省

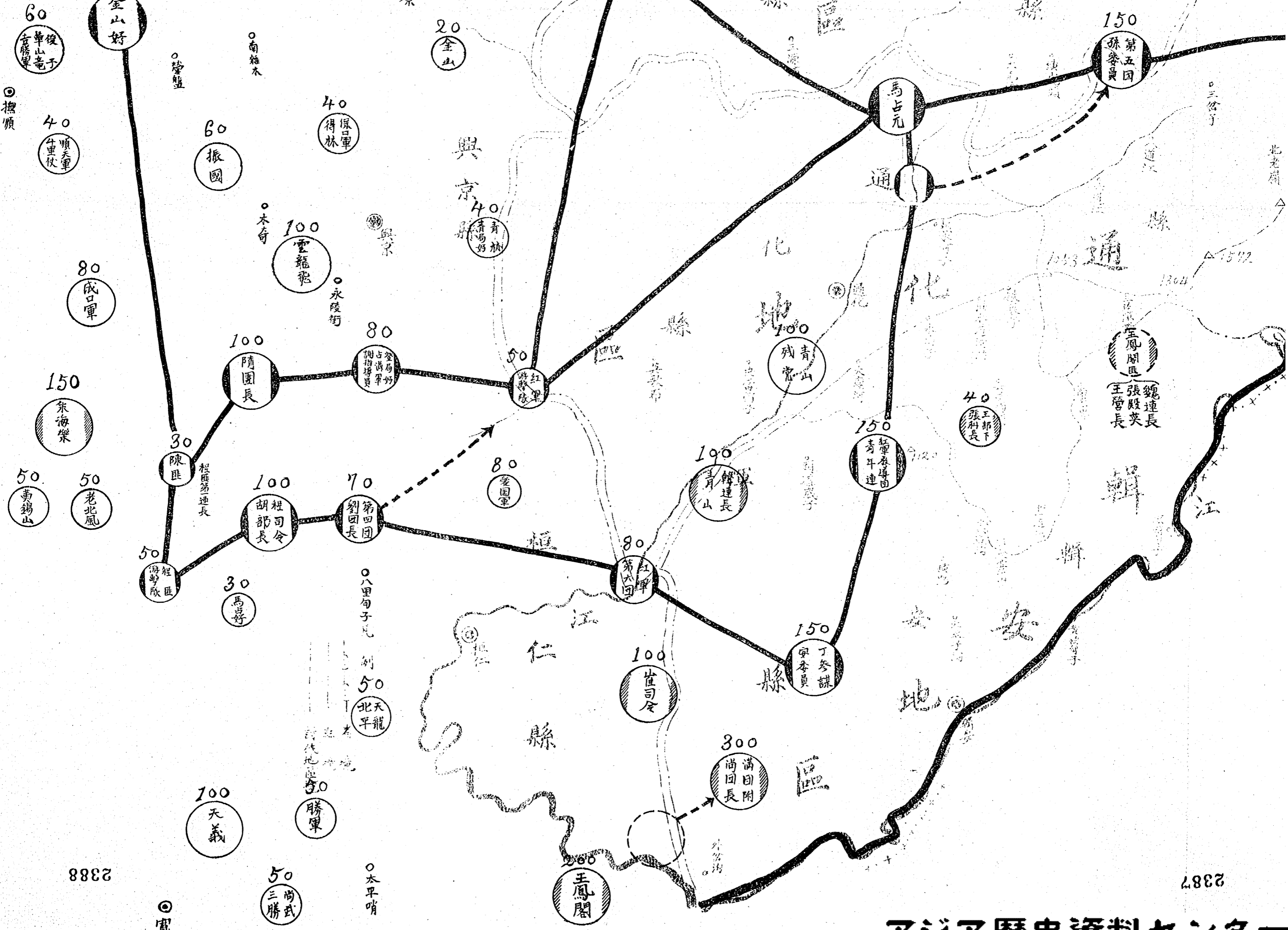


# 方 面 匪 賊 分 布 圖

五 月 八 日 下 旬 二 於 於



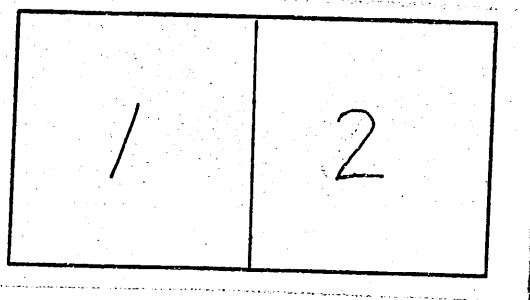





8832

2387

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A 3 判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>8 年 10 月 15 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>	

昭和十一年度第二期肅正工作ニ伴フ滿軍輸送計畫一覽表

昭和十一年八月卅一日  
軍政部顧問部

2882

管軍五第	區管軍三第		第一憲兵隊ノ一連	區		管		軍		一第		步兵第三團	隊	區	分	目的地	到着期日	發着驛	輸送數量	摘要	
	混成第十四旅	混成教導旅		靖司令部	第一教導隊	混成第五旅司令部	第三旅第十七團兵	第十六團兵	騎司令部	第四旅步兵第四團	混成司令部										步兵第三團
索混成旅	混成第十四旅	混成教導旅	第一憲兵隊ノ一連	靖司令部	第一教導隊	混成第五旅司令部	第三旅第十七團兵	第十六團兵	騎司令部	第四旅步兵第四團	混成司令部	步兵第三團	隊	區	分	目的地	到着期日	發着驛	輸送數量	摘要	
九月廿五日	九月廿六日	九月三十日	九月廿四日	九月廿一日	九月廿一日	九月廿一日	九月廿一日	九月廿一日	九月廿一日	九月十六日	九月十六日	九月十一日									
自承州德	自克山	自齊々哈爾	同右	同右	同右	自瀋陽	自昌圖	自新民	自遼源	自營口	自營口	自鳳凰城									
人員 將校 下士以下	人員 將校 下士以下	人員 將校 下士以下	人員 將校 下士以下	人員 將校 下士以下	人員 將校 下士以下	人員 將校 下士以下	人員 將校 下士以下	人員 將校 下士以下	人員 將校 下士以下	人員 將校 下士以下	人員 將校 下士以下	人員 將校 下士以下	人員 將校 下士以下								
馬匹 約二	馬匹 約二	馬匹 約四	馬匹 約三	馬匹 約一	馬匹 約三	馬匹 約一	馬匹 約二	馬匹 約一	馬匹 約二	馬匹 約二	馬匹 約一	馬匹 約二	馬匹 約二								
一、一、一、二、九、〇、〇、〇、五	八、六、一、二、〇、〇	一、五、七、〇、一、五、七、〇、五、九、六、〇	一、三、〇、〇、〇、四、五、〇、〇	一、〇、〇、〇、二、五、〇、〇	一、四、七、〇、〇、三、〇、〇	一、二、五、〇、〇、三、〇、〇	三、〇、〇、〇、八、〇、〇、四	三、〇、〇、〇、五、〇、〇、〇	五、〇、〇、〇、三、〇、〇、〇	五、〇、〇、〇、二、〇、〇、〇	二、〇、〇、〇、三、〇、〇、〇	五、〇、〇、〇、三、〇、〇、〇									
							四平街ニテ全部連結スル如ク取計ハレ度				海城ヨリ司令部ト連結スル如ク取計ハレ度										

考 備	軍 政 部		第 五 軍 管 區		第 三 軍 管 區		第 一 軍 管 區		第 一 軍 管 區		第 一 軍 管 區		第 一 軍 管 區		第 一 軍 管 區		
	國 都 憲 兵 隊	一 連	第 五 憲 兵 隊 一 連	索 混 成 旅	混 成 第 十 四 旅	混 成 教 導 旅	第 一 憲 兵 隊 一 連	軍 步 兵 一 團	靖 司 令 部	第 一 教 導 隊	混 成 第 五 旅	第 三 連	第 十 七 團 兵	第 十 六 團 兵	騎 兵 第 一 旅	騎 兵 第 一 旅	
一、本表ノ輸送數量ハ概數ナルヲ以テ實際輸送時ニハ多少ノ増減ハ免 レス	九月廿六日	九月廿五日	九月廿六日	九月三十日	九月廿四日	九月廿四日	九月廿一日	九月廿一日	九月廿一日	九月廿一日	九月廿一日	九月廿一日	九月廿一日	九月廿一日	九月廿一日	九月廿一日	
	自新 京	自新 京	自承 州 德	自克 山	自齊 哈爾	同 右	同 右	同 右	同 右	同 右	自瀋 陽	至梅 河口	自昌 圖	至梅 河口	自新 民	自遼 源	至朝 陽鎮
	馬 匹 人員 將校 下士 以下	馬 匹 人員 將校 下士 以下	馬 匹 人員 將校 下士 以下	馬 匹 人員 將校 下士 以下	馬 匹 人員 將校 下士 以下	馬 匹 人員 將校 下士 以下	馬 匹 人員 將校 下士 以下	馬 匹 人員 將校 下士 以下	馬 匹 人員 將校 下士 以下	馬 匹 人員 將校 下士 以下	馬 匹 人員 將校 下士 以下	馬 匹 人員 將校 下士 以下	馬 匹 人員 將校 下士 以下	馬 匹 人員 將校 下士 以下	馬 匹 人員 將校 下士 以下	馬 匹 人員 將校 下士 以下	馬 匹 人員 將校 下士 以下
	若干 約五〇三	車輛 二九〇〇	車輛 二二〇〇	車輛 八六一九	車輛 約一五七〇	若干 約五〇三	車輛 一〇〇〇	車輛 一〇〇〇	車輛 一〇〇〇	車輛 一〇〇〇	車輛 一〇〇〇	車輛 一〇〇〇	車輛 一〇〇〇	車輛 一〇〇〇	車輛 一〇〇〇	車輛 一〇〇〇	車輛 一〇〇〇
																	四平街ニテ全部連結 スル如ク取計ハレ度 シ



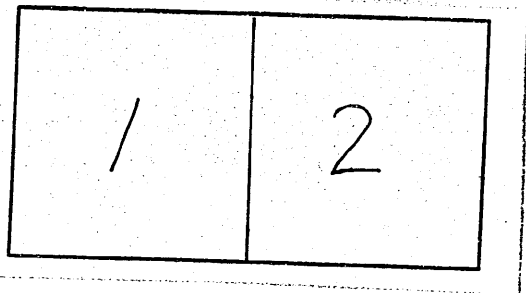

北部東邊道秋季討伐職員表

昭和十一年十月一日調  
改部通化討伐指導部

宣撫 鷲崎 事務官	信井 崎中 校	通福 島中 校	憲兵 古岳 中校	生仲 軍醫 正	衛嘉 悅軍 醫正	理稻 富主 計正	經小 山主 計正	補給 芳賀 少佐	務庶 漆原 中佐	報石 井少 佐	情堤 少佐	戰田 中(信) 中佐	作下 山大 佐	般河 崎大 佐	討伐 指導 部							
協和 會員 一				池田 (兼) 軍醫 少校	村田 (兼) 軍醫 上尉			相良 囑託	麻生 雇員	小田 雇員	星上 雇員	坂元 上尉	渡邊 上尉	三浦 上尉	友保 上尉	石井 上尉						
第一軍管區行營司令部																						
參謀長 于上將																						
傳	宣	衛生	經理	廣	文	屬官	官譯	官副	謀參	謀參	謀參	謀參	謀參	謀參	謀參							
駱白 中殿 士邦	會根 崎雇 員	渡島 雇員	石島 上尉	高島 中尉	池田 軍醫 少校	村田 軍需 上尉	孫奎 九	韓行 遠	吳自 榮	劉萬 育	戴龜 齡	金伯 堅	成福 綠	郭新 元	胡啓 富	張鴻 志	王(專 屬)中 尉	場少 尉	孟上 尉	王上 尉	李少 尉	于上 尉
直轄 部 隊	無 長 通 迫 中 技 正	獨 立 第 一 自 動 車 隊 中 校	憲 兵 第 一 團 中 校	第 一 教 導 騎 兵 第 一 團 中 校	步 兵 第 七 團 少 將	混 成 第 一 旅 少 將	混 成 第 二 旅 少 將	第 三 教 導 混 成 旅 少 將	騎 兵 第 三 旅 少 將	混 成 第 六 旅 少 將	索 成 旅 少 將	第 一 教 導 旅 少 將	靖 安 軍 司 令 官 井 少 將	混 成 第 二 旅 少 將	混 成 第 一 旅 少 將	混 成 第 四 旅 少 將	混 成 第 三 旅 少 將	各 地 區 部 隊				
					佐藤 少 佐	大木 少 佐	永田 中 佐	山田 大 尉	龜山 中 尉	兒玉 中 尉	駒井 中 尉	飯塚 中 尉	秋山 少 中 尉	棍山 少 中 尉	奧島 中 尉	望月 中 尉	高橋 中 尉	下元 中 尉	隊 官			

1132 1135  
 池田軍醫少校  
 村田軍需上尉  
 孫奎九  
 韓行遠  
 吳自榮  
 劉萬育  
 戴龜齡  
 金伯堅  
 成福綠  
 郭新元  
 胡啓富  
 張鴻志  
 王(專屬)中尉  
 場少尉  
 孟上尉  
 王上尉  
 李少尉  
 于上尉

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A 3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>8 年 10 月 15 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>	



北東部邊道秋季討伐軍區分

2682

討伐  
指導部

第一軍管  
區行營  
司令部

臨撫地區  
司令部

輯安地區  
司令部

通化地區  
司令部

金柳地區  
司令部

濛輝地區  
司令部

直轄部隊

混成第三旅

- 步兵第三團
  - 第一營 第一、二、三連機連
  - 第二營 第四、五、六連機連
  - 迫擊砲連

混成第四旅

- 騎兵第六團
  - 第一營 第一、二、三連
- 步兵第四團
  - 第一營 第一、三連機連
  - 第二營 第四、五、六連機連(第五連欠一排)
- 騎兵第七團
  - 第一、二、三連

混成第一旅

- 步兵第一團
  - 第一營 第一、二、三連機連
  - 第二營 第四、五、六連機連
  - 迫擊砲連
- 騎兵第四團
  - 第一、三連機連

混成第二旅

- 步兵第二團
  - 第一營 第一、二、三連機連
  - 第二營 第四、五、六連機連
  - 迫擊砲連
- 騎兵第五團
  - 第一、二、三連

靖安軍

- 步兵第一團
  - 第一營 第一、二連機連
  - 第二營 第四、五連機連
- 步兵第二團
  - 第一營 第一、二連機連
  - 第二營 第四、五連機連
- 騎兵團
  - 第一、二、三連機連

第一教導隊

- 步兵第一團
  - 第一營 第一、二連機連
  - 第二營 第四、五、六連機連
  - 迫擊砲連
- 步兵第三十二團
  - 第一營 第一、二、三連機連
  - 第二營 第四、六連機連
  - 迫擊砲連
- 步兵第三十三團
  - 第一營 第一、二、三連機連
  - 第二營 第四、六連機連
- 教導步兵第五團
  - 第一營 第一、二、三連機連
  - 第二營 第四、五、六連機連
- 教導騎兵隊
  - 第一、二連

混成第六旅

- 步兵第六團
  - 第一營 第一、二、三連機連
  - 第二營 第四、五、六連機連
  - 迫擊砲連
- 騎兵第九團
  - 第一、二、三連
- 騎兵第十六團
  - 第一、三連機(欠一排)連
- 騎兵第十七團
  - 第一、二、三連機連(欠一排)連

第三教導隊

- 教導步兵第三團
  - 第一營 第一、二、三連機連
  - 第二營 第四、五、六連機連
- 步兵第十六團
  - 第一營 第一、二、三連機連
  - 第二營 第四、五、六連機連
- 教導騎兵第三團
  - 第一、二連
  - 第三憲兵連

混成第五旅

- 步兵第五團
  - 第一營 第一、二、三連機連(第一連欠一排)
  - 第二營 第四、五、六連機連
  - 迫擊砲連
- 騎兵第八團
  - 第一營 第一、二、三連
- 步兵第十七團
  - 第一營 第一、二、三連
  - 第二營 第四、五連
- 步兵第十九團
  - 第一營 第一、二、三連機連
  - 騎兵連

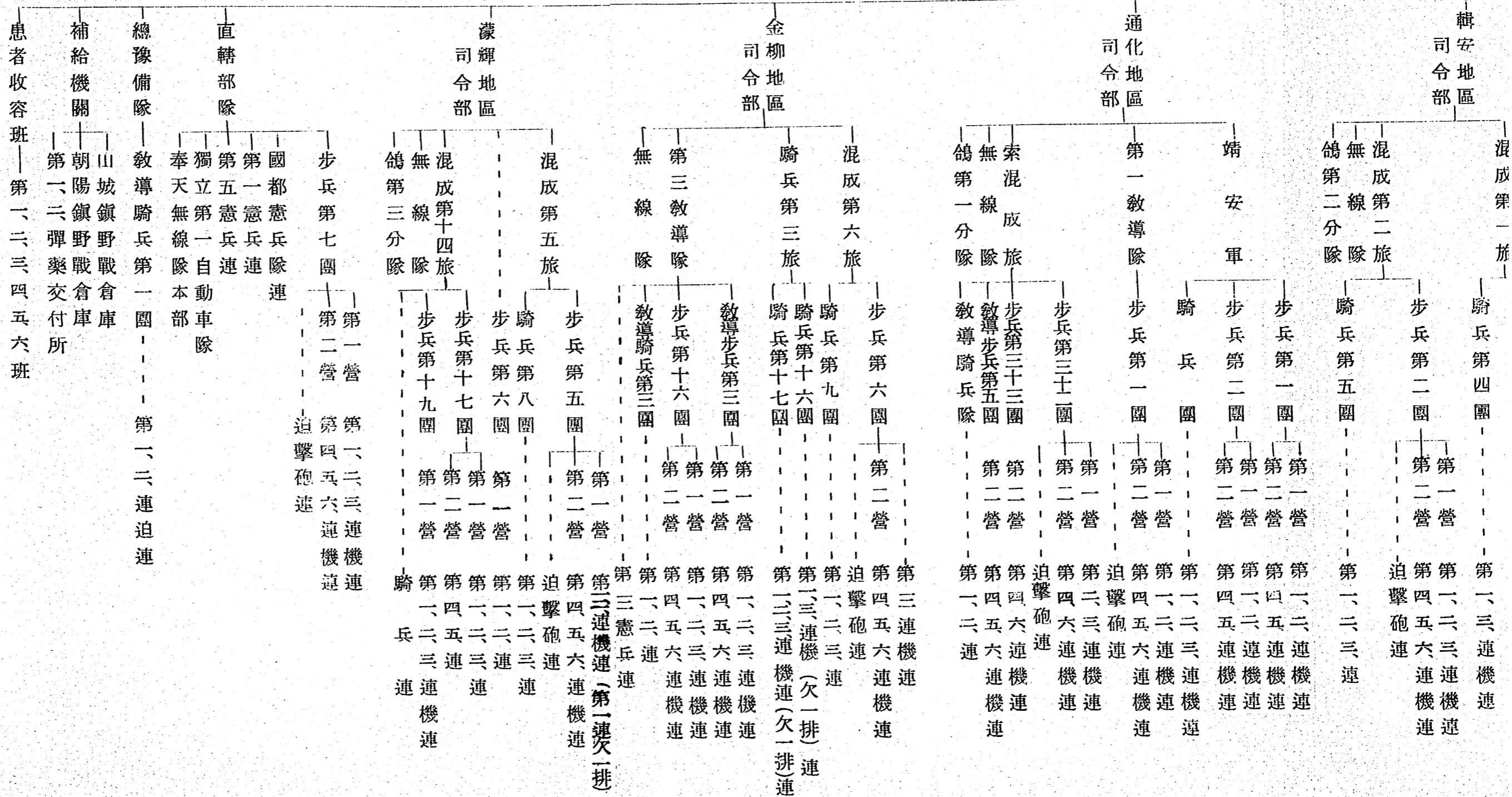
混成第十四旅

- 步兵第七團
  - 第一營 第一、二、三連機連
  - 第二營 第四、五、六連機連
  - 迫擊砲連
- 國都憲兵連
- 第一憲兵連
- 第五憲兵連

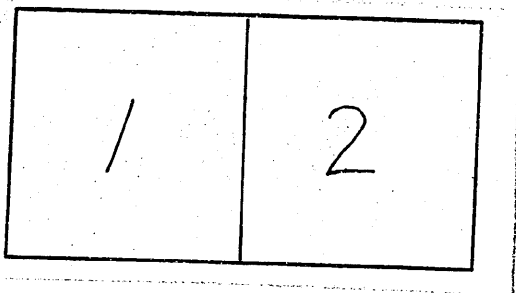

北東邊道秋季討伐軍區分

討伐  
指導部

第一軍管  
區行營  
司令部



# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A 3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>8 年 10 月 15 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>	

北東部邊道 冬季討伐軍區分

2394

第一軍管區  
行營司令部

討伐指導部

臨撫地區

司令部  
李少將  
下元中佐

- 混成第三旅 步兵第三團 第一營 第二營 第四五六連機連
- 李少將 下元中佐 騎兵第六團 第一營 第二營 第四五六連機連
- 駒井中佐 騎兵第七團 第一營 第二營 第四五六連機連
- 混成第四旅 步兵第四團 第一營 第二營 第四五六連機連
- 閻少將 高橋中佐 騎兵第七團 第一營 第二營 第四五六連機連
- 無線隊
- 鳩第四分隊

直轄

- 赤澤部隊 第一營 第二營 第四五六連機連
- 直轄 步兵第一團 第一營 第二營 第四五六連機連
- 直轄 步兵第二團 第一營 第二營 第四五六連機連
- 金澤部隊 第一營 第二營 第四五六連機連

混成第二旅

- 高少將 奧島中佐 步兵第二團 第一營 第二營 第四五六連機連
- 無線隊
- 鳩第二分隊

輯安地區

司令部  
張中將  
望月中佐

索混成旅

- 步兵第卅二團 第一營 第二營 第四五六連機連
- 步兵第卅三團 第二營 第四五六連機連
- 教導步兵五團 第二營 第四五六連機連
- 教導騎兵團 第一、二、三連
- 漆原中佐 第一、二、三連
- 山崎中佐 第一營 第二營 第四五六連機連

無線隊

鳩第一分隊

金柳地區

司令部  
董少將  
兒玉中佐

混成第六旅

- 步兵第六團 第一營 第二營 第四五六連機連
- 騎兵第三旅 趙少將 兒玉中佐 騎兵第十七團 第一、二、三進機欠一排連
- 騎導騎第三團 第一、二連

無線隊

蒙輝地區

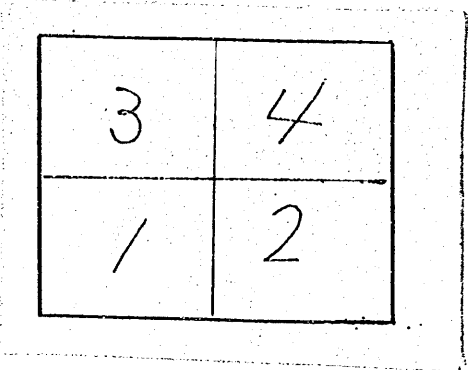

司令部  
廖中將  
永田中佐

混成第五旅

- 步兵第五團 第一營 第二營 第四五六連機連
- 步兵第六團 第一營 第二營 第四五六連機連
- 步兵第十七團 第一營 第二營 第四五六連機連
- 朱少將 大木少將 騎兵連

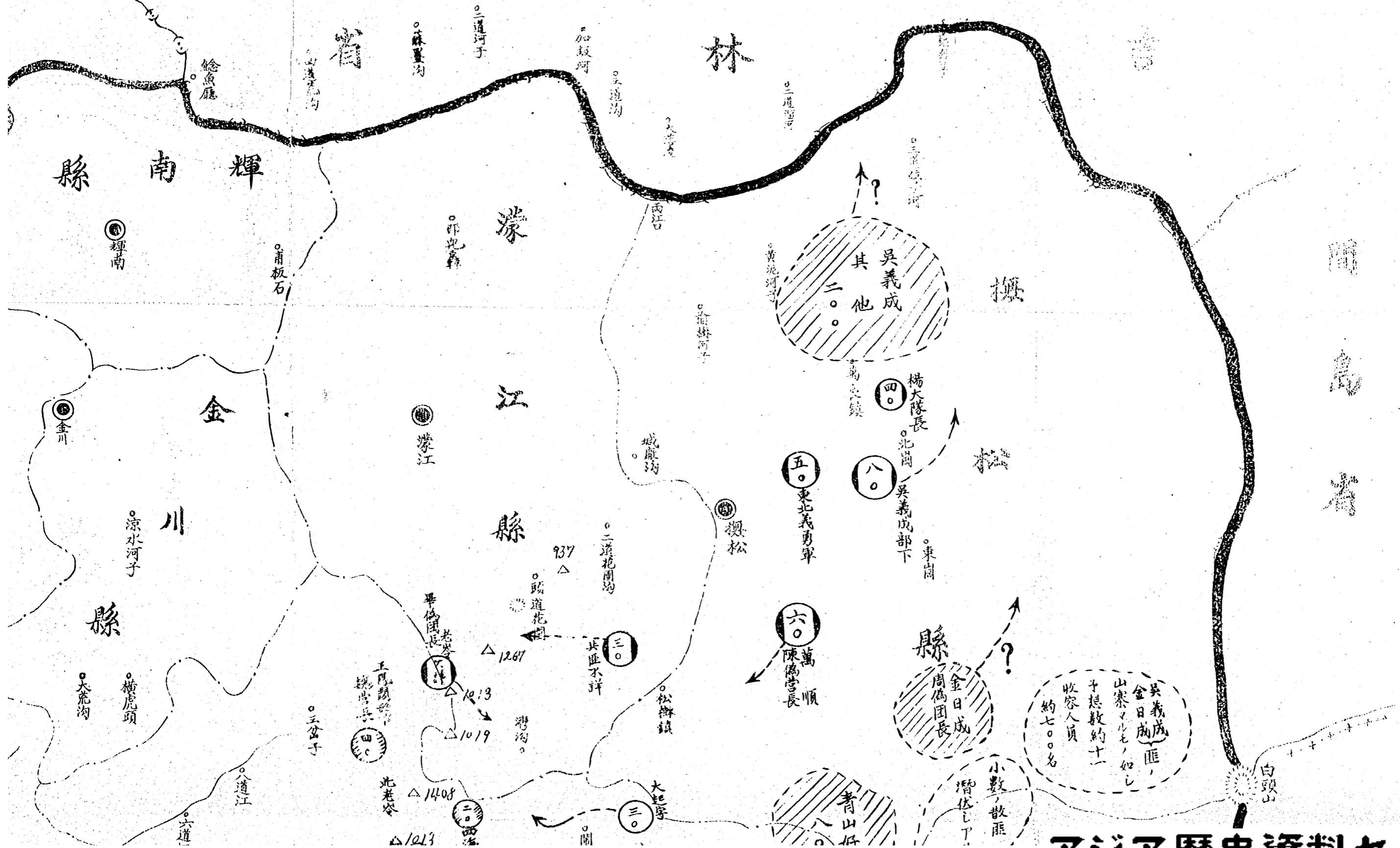


# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A 3判以上のため
上記のとおり分割撮影したことを 証明する  8 年 10 月 15 日  主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 	

# 北東部邊道匪賊分布

(於康德四年三月下旬)



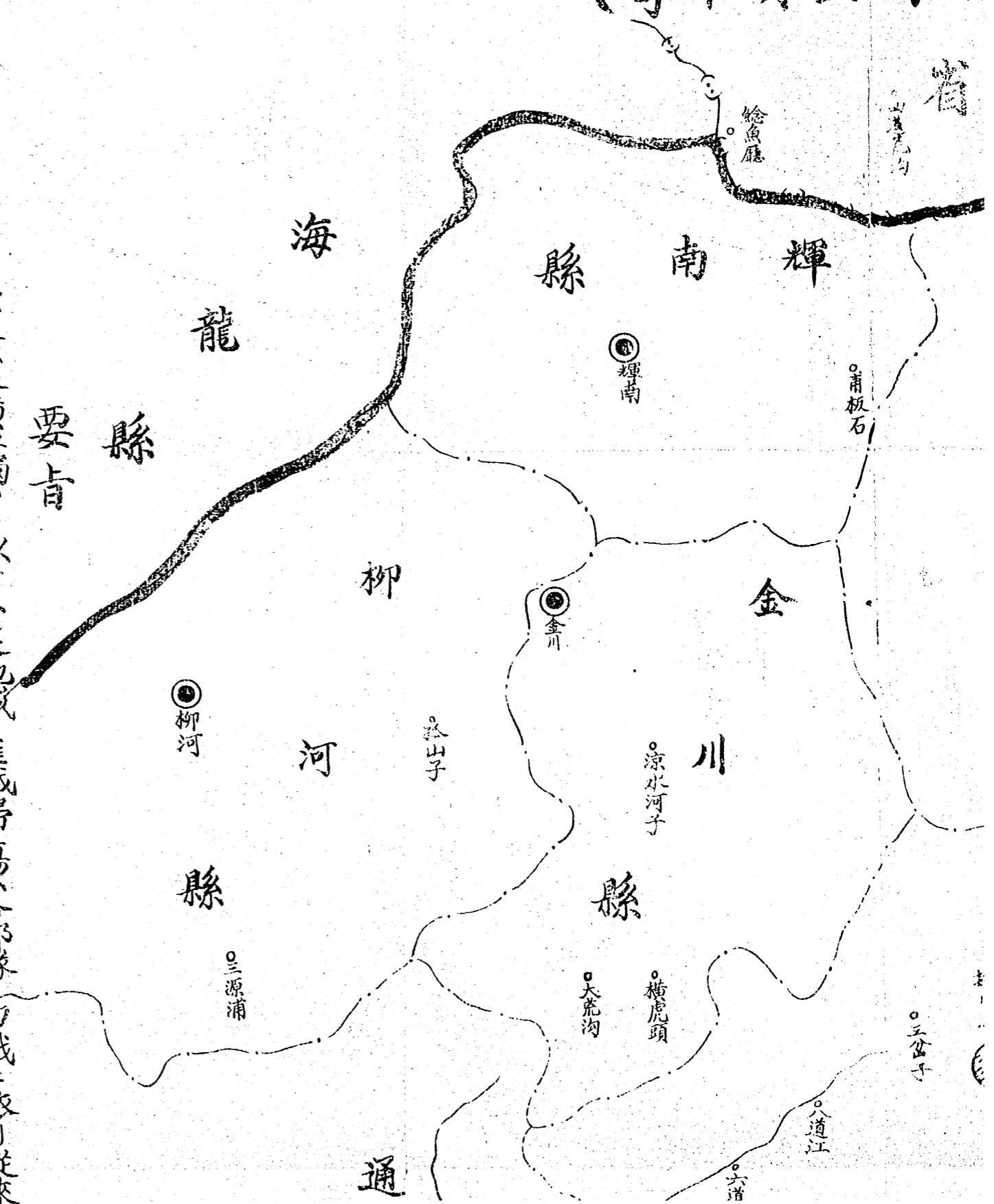
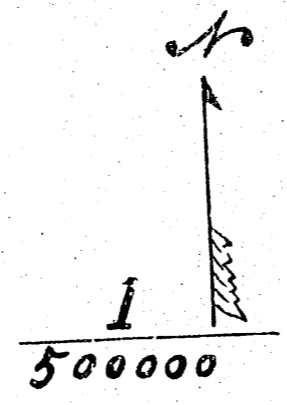
附錄第七



# 匪賊分佈要圖

(四年三月下旬)

省



昨秋以來滿軍獨力ヲ以テスル本地域ノ匪賊掃蕩ハ各部隊ノ力戰ニ依リ從來東邊道ニ於ケル治安ノ最不良地帯ト自サレシ本地域モ劃期的肅清ヲ齎スニ到レリ

即チ先ツ通化東北方龍崗山脈地帯、共匪根據地ヲ一掃シ逐次全地域主要匪團、大半ヲ擊殺遂ニ三月下旬反滿擁日匪巨魁王鳳閣及其部下ヲ殲滅ス之ニ依リ通化ヲ中心トスル中部縣邊道ニ肅正明朗化ヲ現出セリ然レトモ輯安縣西南部ニ少數、共匪殘党アリ尚ホ撫松縣下ニ於ケル共匪ハ窟穴ヲ經ニシテ、遼寧省ニ逃竄之レ努ムル吳義成及金日成匪、執拗ナルモノアリ討伐隊ニ對シテ續々ニ肅滅ヲ期シ果敢ナル游撃ヲ續行中

考 備	計	共匪 擁日匪	匪首數	匪數
ハ分散潛伏セルモノヲ示ス	二五	二一	四	八九〇
	九九〇	一〇〇		

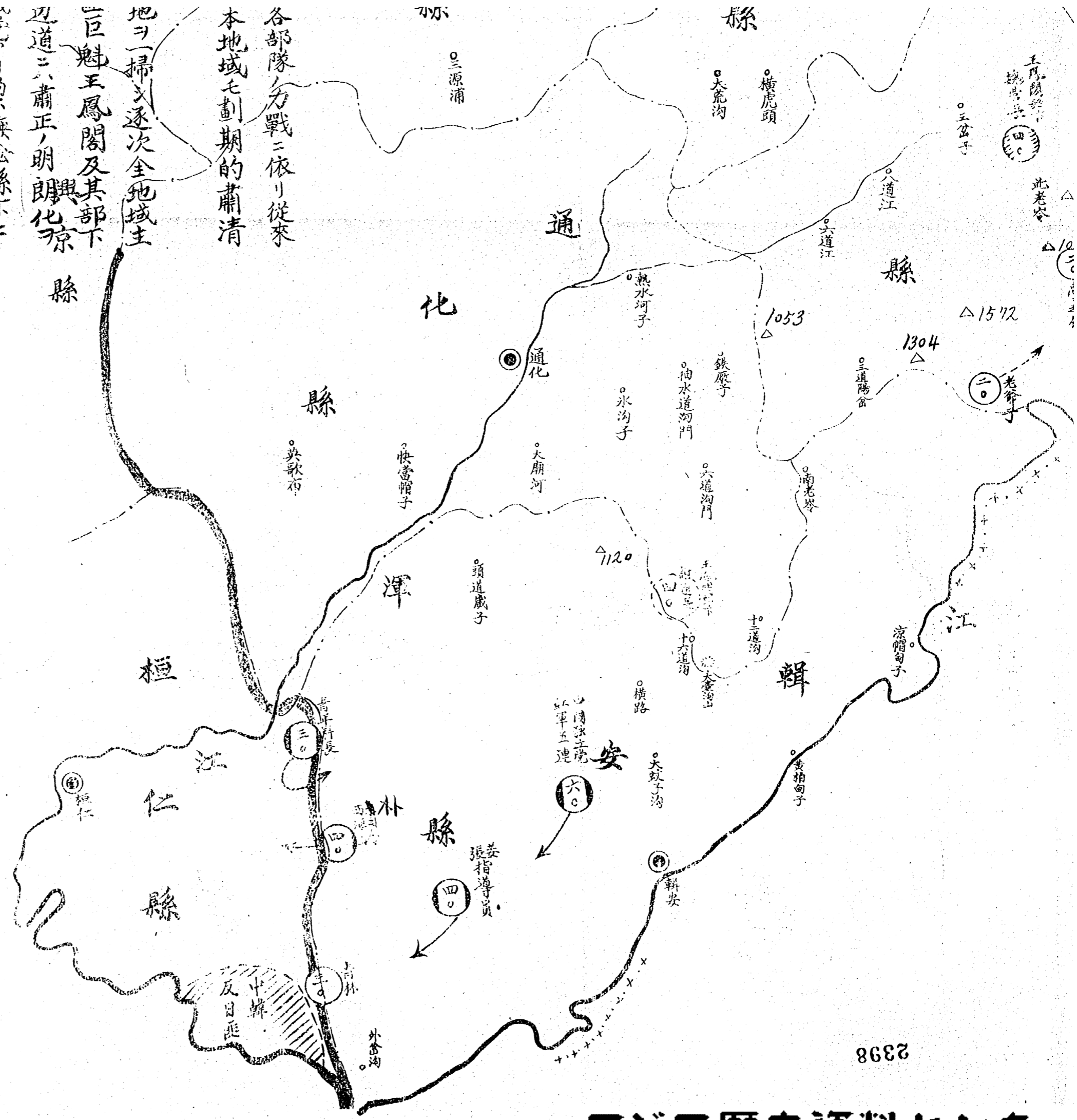




示六

匪	數
八	九
〇	〇
九	九

各部隊方戰ニ依リ從來  
本地域七劃期の肅清  
地ヲ一掃シ逐次全地域主  
巨魁王鳳閣及其部下  
刃道三肅正、明朗化涼  
党アリ尚ホ撫松縣下ニ  
莫義成及金日成匪ヲ執  
不敵ナル游撃ヲ續行中



2399

2398

考 備	計	他 其	隊 部 轄 直	區 地 柳 金	區 地 輝 蒙	區 地 撫 臨	區 地 化 通	區 地 安 靖	別 區 地		
									數 回 關 戰	計 累 數 匪 伐 討	死
四、我負傷	563	15	115	78	15	136	104	100	傷	獲	匪
三、我死	20,808	697	1,774	965	540	10,865	1,889	4,078	獲	捕	之
二、捕獲首及	1,243	60	99	201	37	453	104	217	降	投	損
一、鹵獲品	448	28	21	81	36	184	21	77	回	贖	害
尉那團長	499	14	218	46		56	64	103	滅	寨	山
尉中排長	526		160	155	2		199	80	銃	小	
尉長申奉	203	2	20	38	10	71	38	24	彈	銃	拳
尉軍醫	646	81	169	51	21	88	80	156	砲	洋	
尉一上排	553	40	100	90	13	100	51	159	匹	馬	
尉長藤連	363	9	138	71	2	46	41	56	行李	14	
尉一上排	26,804	53	11,207	1,865	481	5,642	3,106	4,150	軍	服	多
尉長王澤	3,151	6	771	1,467	24	235	345	303	被	服	機
尉中附	466	2	150	273	1	5	4	31	麵	601	裝
尉工藤	222	12	19	10	8	57	61	55	糧	食	石
尉部連	行李		被服						麵	601	裝
尉中長	14	多數	27	多數					糧	食	石
尉田酒	6		2						麵	601	裝
尉本中	56		2						糧	食	石
尉治中	麵								糧	食	石
尉連	601	多數	糧食	石	糧食	3石	麵	601	糧	食	石
尉長川	649.5		186.6	6石			麵	601	糧	食	石
尉本中	牛肉						麵	601	糧	食	石
尉木中	4630斤						麵	601	糧	食	石
尉中尉	199	11	137	10			麵	601	糧	食	石
尉胡少	11		1				麵	601	糧	食	石
尉其他	111	7	6	3			麵	601	糧	食	石
尉董中	23	2	1				麵	601	糧	食	石
	195	29	7	2			麵	601	糧	食	石

北部東邊道討伐效果一覽表

自康德三年十月一日  
至同四年三月末日

附錄第八

2-0072

2400

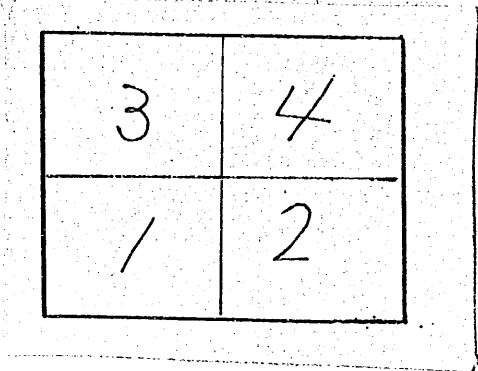

考	備	計	他	其	隊部轄直	區地柳金	區地輝蒙	區地撫臨	區地化通	區地安靖	別區地			
											數	回	戰	
四我負傷	三我死	563	15	115	78	15	136	104	100	4078	死	傷	獲捕	匪之損害
尉副團長	尉中排長	20808	697	1774	965	540	10865	1889	4078	217	77	103	80	同擄質人
尉副團長	尉中排長	2243	60	99	201	37	453	104	217	77	103	80	同擄質人	匪之損害
尉副團長	尉中排長	448	28	21	81	36	184	21	77	103	80	80	同擄質人	匪之損害
尉副團長	尉中排長	499	14	218	46		56	64	103	80	80	80	同擄質人	匪之損害
尉副團長	尉中排長	526		160	155	2		199	80	80	80	80	同擄質人	匪之損害
尉副團長	尉中排長	203	2	20	38	10	71	38	24	24	24	24	同擄質人	匪之損害
尉副團長	尉中排長	646	81	169	51	21	88	80	155	155	155	155	同擄質人	匪之損害
尉副團長	尉中排長	553	40	100	90	13	100	51	159	159	159	159	同擄質人	匪之損害
尉副團長	尉中排長	363	9	138	71	2	46	41	56	56	56	56	同擄質人	匪之損害
尉副團長	尉中排長	26804	53	11207	1865	481	5642	3106	4150	4150	4150	4150	同擄質人	匪之損害
尉副團長	尉中排長	3151	6	771	1467	24	235	345	303	303	303	303	同擄質人	匪之損害
尉副團長	尉中排長	466	2	150	273	1	5	4	31	31	31	31	同擄質人	匪之損害
尉副團長	尉中排長	222	12	19	10	8	57	61	55	55	55	55	同擄質人	匪之損害
尉副團長	尉中排長	行李 14		被服 27			防寒靴 80組	靴 10組	行李 14				獲	
尉副團長	尉中排長	シン機 6	多數	被服 2	多數		煙草 184箱	被服 39	軍服 多數				獲	
尉副團長	尉中排長	被服 56		被服 2					被服 2				獲	
尉副團長	尉中排長	麵 601		糧食 186.6	糧食 6石		麵 601	糧食 101石	糧食 145.5				獲	
尉副團長	尉中排長	糧食 649.5	多數	糧食 186.6	糧食 6石		麵 601	糧食 101石	糧食 145.5				獲	
尉副團長	尉中排長	牛肉 4630斤		糧食 186.6	糧食 6石		麵 601	糧食 101石	糧食 145.5				獲	
尉副團長	尉中排長	199	11	137	10		麵 601	糧食 101石	糧食 145.5				獲	
尉副團長	尉中排長	11		1			麵 601	糧食 101石	糧食 145.5				獲	
尉副團長	尉中排長	111	7	6	3		麵 601	糧食 101石	糧食 145.5				獲	
尉副團長	尉中排長	23	2	1			麵 601	糧食 101石	糧食 145.5				獲	
尉副團長	尉中排長	195	29	7	2		麵 601	糧食 101石	糧食 145.5				獲	

附錄第八

北部東邊道討伐效果一覽表

自康德三年十月一日  
至同 四年三月末日

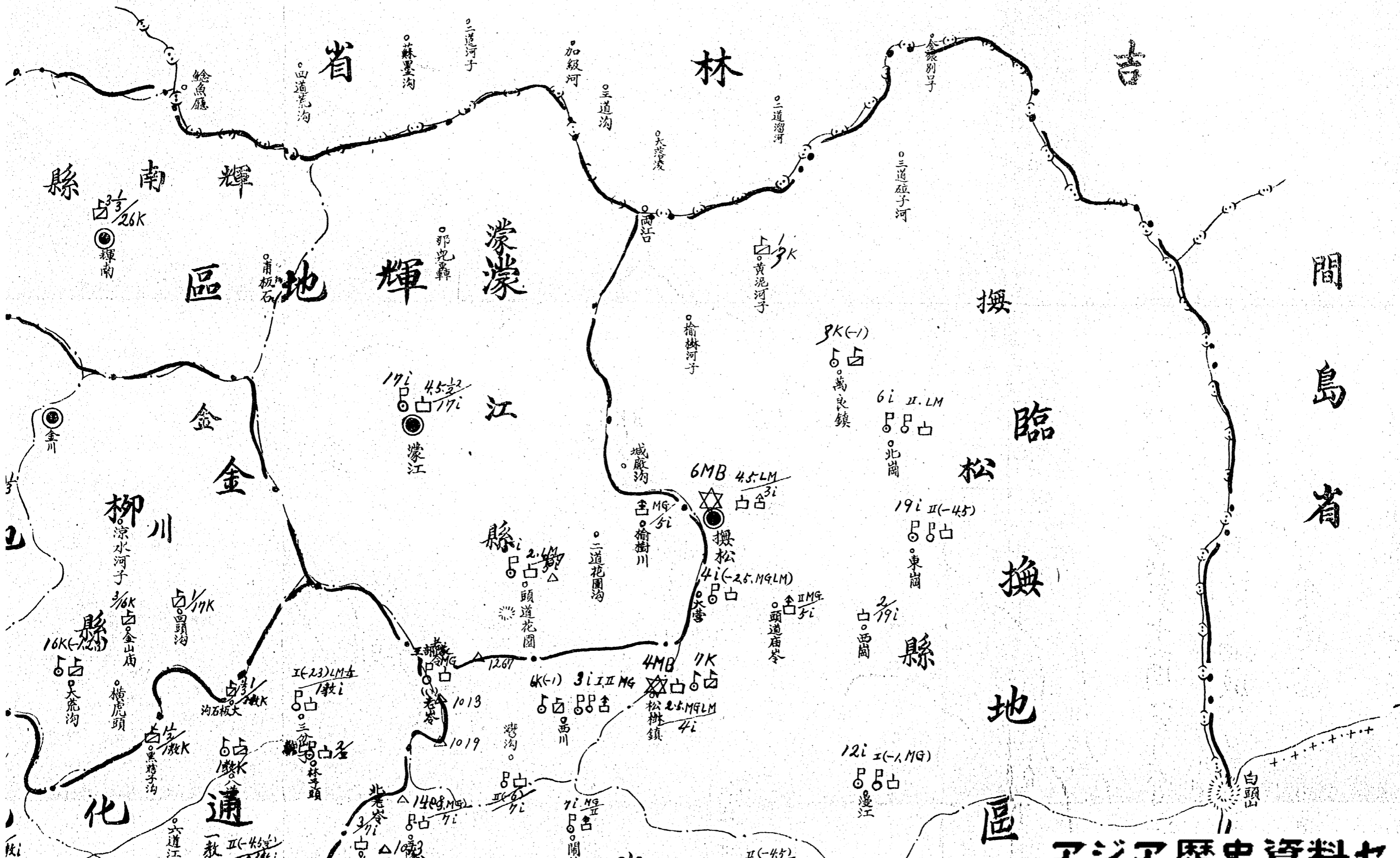
# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A 3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>8 年 10 月 15 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>	

# 北東邊道討伐滿軍部隊配置圖

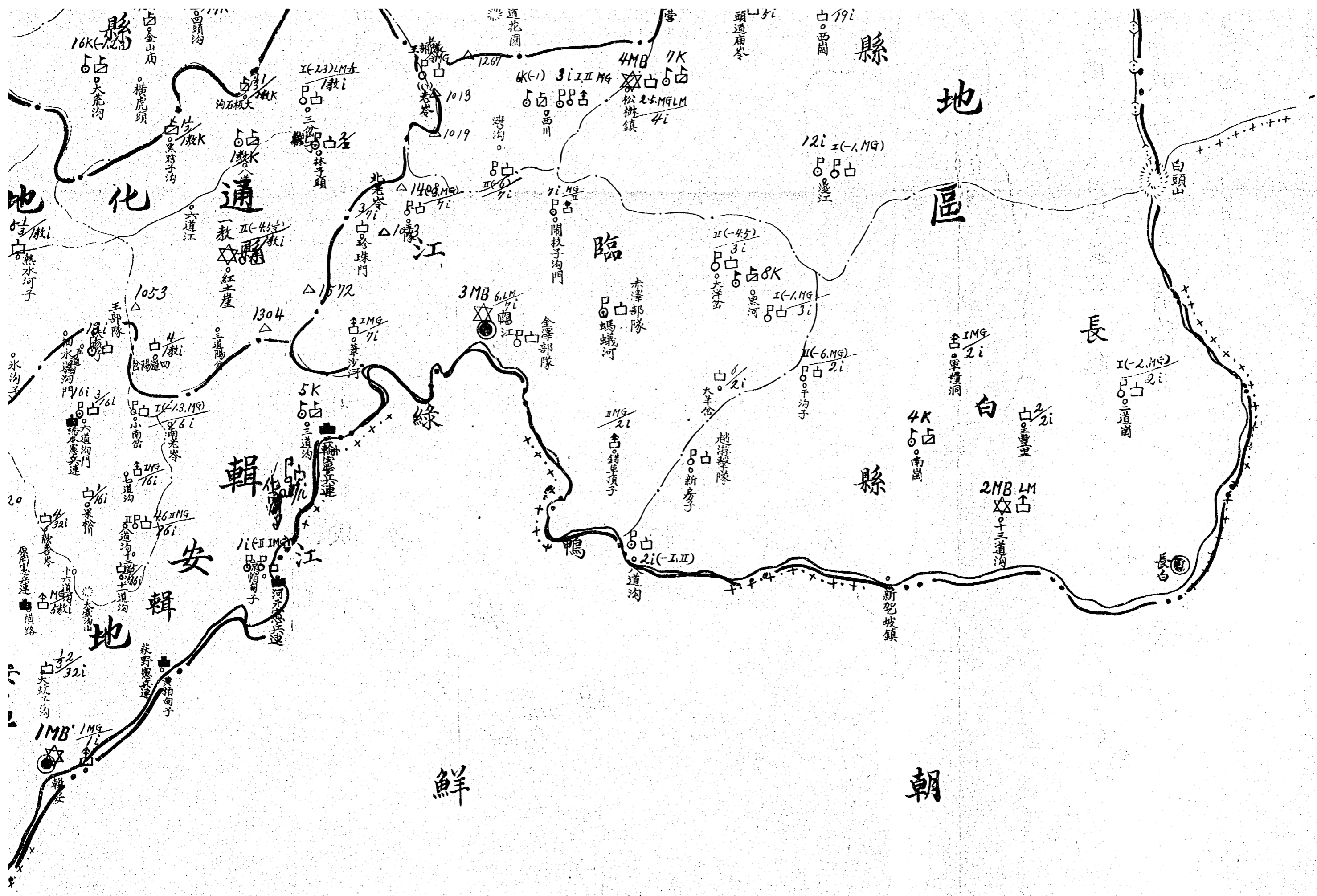
(於康德四年三月下旬)

附錄第九









2403



